特 記 仕 様 書

工事名称　　旭町住宅1号棟耐震改修等工事（建築主体工事）

工事場所　　三原市旭町一丁目

建物概要　　(1) 1号棟（東棟）
・構造　鉄筋コンクリート造5階建て，床面積
・床面積　742㎡（屋外倉庫含む）
・建設年　昭和47年
(2) 1号棟（中棟）
・構造　鉄筋コンクリート造5階建て
・床面積　2,159㎡（平成30年EV棟（96㎡）増築含む）
・建設年　昭和46年
(3) 1号棟（西棟）
・構造　鉄筋コンクリート造4階建て
・床面積　348㎡（屋外倉庫含む）
・建設年　昭和47年

工事内容　　次のとおり，旭町住宅1号棟について改修工事を行う。
(1) 1号棟（東棟）改修工事
・耐震改修工事（耐力壁新設，耐震スリット新設，エキスパンションジョイント拡幅）
・外壁改修工事
・屋上防水工事
・機械設備改修工事
(2) 1号棟（中棟）改修工事
・屋上防水改修工事
(3) 1号棟（西棟）改修工事
・外壁改修工事
・屋上防水工事
(4) 外構改修工事
・屋外倉庫改修工事
・付属棟（駐輪場，ごみ置場）改修工事

準　則　　公共建築工事標準仕様書（平成31年版），公共建築改修工事標準仕様書（平成31年版），建築物解体工事共通仕様書（平成24年版）に基づき施工する。

関係法令等　　本工事については，次の関係法令その他の規定等に基づき施工すること。
・建築基準法，同施行令，同施行規則
・消防法，同施行令
・建設業法，同施行令，同施行規則
・廃棄物の処理及び清掃に関する法律，同法施行令，同法施行規則
・労働安全衛生法，同法施行令，同法施行規則
・建設工事公衆災害防止対策要綱
・大気汚染防止法，石綿障害予防規則
・振動規制法
・土壌汚染対策法
・その他関係法令

疑義変更　　本設計図書は，設計の大要を示すものであり，詳細部等について技術的必要事項は明記なくとも完全に施工すること。

施工に際して疑義を生じた場合，または軽微な変更を必要とする場合には，速やかに監理者と協議し，監督員の指示により施工すること。ただし，これらに於いて請負金額の増減はなきものとする。

提出書類　　施工に先立ち，工事工程表，仮設計画図及び監督員の指示する書類を提出し，監督員の承認を受けること。商品名及び製造者名が記載された材料については，当該商品又は同等品を使用するものとし，同等品を使用する場合は，監督員の承諾を受けるものとする。また，設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料を提出して監督員の承諾を受けるものとする。

工　期　　本工事は請負契約締結の後，令和4年3月24日をもって工期とする。このうち検査期間として13日間を見込んでいる。

留 意 点

・入札に先立ち現地調査を十分に行ない，質疑がある場合は入札前に確認すること。
・本工事は居ながら工事を基本とし，必要に応じて住人等の通路の制限を行う。ただし，事前に施設管理者及び住民等へ説明を行い，承諾を得るものとする。
・住人の所有物に養生や移動を行う場合は，事前に所有者に連絡すること。
・騒音，振動及び粉塵等については，騒音計，振動計，デジタル粉塵計を設置し，十分な管理及び対策に努め，また施工方法も配慮すること。
・解体工事及びアンカー工事等の騒音，振動及び粉塵等の発生が予想される工種については，施工時間及び施工方法等，住民へ最大限配慮した計画のもと行うこと。
・外壁改修工事について，養生等によりバルコニー側窓の開閉を制限するため，比較的気温の低い時期（10月頃）から着手すること。ただし，クラック等の調査数量については，9月中に報告すること。
・施工箇所周囲の備品，機器等については，粉塵対策として養生及び清掃等を確実に行うこと。
・配筋検査は，受注者による自主検査を行ったうえ，監督員による検査を受検すること。なお，これらの検査は，種類，径及び数量については全数検査を行うこと。
・工事期間中は付近の交通の安全を図ると共に，工事用出入り口には誘導員を常時配置し，危険防止に努めること。
・本工事で見込む交通誘導員について，実施数量が設計数量に満たない場合は設計変更（減額）の対象とする。
・近接する古浜北公園において，仮駐車場整備及び整地を含む復旧費を本工事にて行う。
・仮駐車場について，出入り口付近道路を含め，維持管理及び清掃（週1回程度）を行うこと。
・工事中に粉じんの発生が予想される工種については，粉じん抑制等，周辺の環境対策のため散水を確実に行うこと。
・第三者災害防止及び飛散防止対策のため，必要に応じて監督員の指示する範囲に，バリケード等を設置すること。
・工事に支障となる雨水，湧水，洗浄水等の排水については，ノッチタンクにより汚泥等の処理を行ったうえ，適切に排水すること。
・石綿含有建材の調査について，工事着手前までに書面及び目視調査を，一般建築物石綿含有建材調査者，特定建築物石綿含有建材調査者，またはこれらの者と同等以上の能力を有すると認められる者が行うこと。
・また，含有建材の調査結果を工事着手前までに発注者に対し説明を行うこと。
・その他石綿の飛散防止等については，改正大気汚染防止法及び施行令（令和3年4月1日施行）に基づくこと。
・施工面積（外構工事含む）が3,000㎡以上の場合，土壌汚染対策法第4条第1項に規定する届け出を工事着手30日前までに所轄官庁へ提出すること。
・本敷地内の別途工事及び近隣で行われる工事について，取り合い工事及び工程等の調整を行うこと。
・仮設内部足場は本工事に見込んでおり，別途工事業者は無償で使用できるものとする。
（維持管理上必要な費用は各業者で協議の上分担すること。）

・足場，交通誘導員，工事関係者駐車場用地は，建築主体工事に見込んでいるが，別途工事受注者も使用できるものとする。
・仮使用申請，道路使用，道路改築申請等の手続きについては，受注者の負担により遅滞なく行うこと。
・工事に伴い各種申請手数料等が発生した場合は受注者の負担とする。
・工事場所が鉄道と近接しているため，鉄道管理者と協議のうえ，必要となる手続きを行うこと。
・周辺道路については常時，監視を行い，工事車両等により汚損させた場合は，速やかに清掃及び補修を行なうこと。
・台風や豪雨など自然災害の発生が予測される場合は，事前に足場等の養生シートを折りたたむ等の対策を施すこと。また，現場巡視と災害防止対策を必要に応じて行うこと。
・図面に明示されていない事項であっても，工事上必要とされる事は工事範囲とする。
・受注者事務所，休憩所及び便所等は関係法令に従って設けること。
・工事に係る電気，水道及び下水道料金等は受注者の負担とする。
・本工事の外注資材，労務等の調達については，極力，市内に主たる営業所を有する業者に発注すること。困難な場合は，あらかじめ，理由を添えて発注者の承認を受けること。
・本耐震改修計画については，一般社団法人 広島県建築士事務所協会より，建築物耐震診断等評価を受けている。
・行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）に定める行政機関の休日に工事の施工を行わない。ただし，あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は，この限りではない。
・工事完了後，完成図として製本図面（二つ折り・A3縮小版）を3部提出すること。

旭町住宅１号棟耐震改修等工事（建築主体工事）

番　号	図面名（意匠）	縮　尺	番　号	図面名（意匠）	縮　尺	番　号	図面名（構造）	縮　尺	番　号	図面名（設備）	縮　尺
A-00	表紙、図面ﾘｽﾄ	―――	A-30	改修後　平面図－１（東棟）	1/100	S-01	建築改修工事特記仕様書（8）	―――			
A-01	建築工事特記仕様書（１）	―――	A-31	改修前　平面図－２（東棟）	1/100	S-02	建築改修工事特記仕様書（9）	―――			
A-02	建築工事特記仕様書（２）	―――	A-32	改修後　平面図－２（東棟）	1/100	S-03	改修前　基礎伏図・1階柱壁2階床梁伏図	1/100			
A-03	建築工事特記仕様書（３）	―――	A-33	改修前　平面図－3（東棟）	1/100	S-04	改修後　基礎伏図・1階柱壁2階床梁伏図	1/100			
A-04	建築工事特記仕様書（４）	―――	A-34	改修後　平面図－3（東棟）	1/100	S-05	改修前　2,3階柱壁3,4階梁床伏図	1/100			
A-05	建築工事特記仕様書（５）	―――	A-35	改修前立面図（東棟）	1/200	S-06	改修後　2,3階柱壁3,4階梁床伏図	1/100			
A-06	建築工事特記仕様書（６）	―――	A-36	改修後立面図（東棟）	1/200	S-07	改修前　4,5階柱壁5,R階梁床伏図	1/100			
A-07	建築工事特記仕様書（７）	―――	A-37	改修前矩計図（東棟）	1/50	S-08	改修後　4,5階柱壁5,R階梁床伏図	1/100			
A-08	外壁改修工事特記仕様書（１）	―――	A-38	改修後矩計図（東棟）	1/50	S-09	改修前　軸組図	1/100			
A-09	外壁改修工事特記仕様書（２）	―――	A-39	改修前　矩計図（東棟）	1/50	S-10	改修後　軸組図	1/100			
A-10	外壁改修工事特記仕様書（３）	―――	A-40	改修後　矩計図（東棟）	1/50	S-11	ディスクシアキー工法特記仕様書1	―――			
A-11	配置図	1/200	A-41	改修前後　平面詳細図－１（東棟）	1/50	S-12	ディスクシアキー工法特記仕様書2	―――			
A-12	仕上表（西棟）	―――	A-42	改修前後　平面詳細図－2（東棟）	1/50	S-13	増設壁詳細図1	1/20,30			
A-13	改修前平面図-1（西棟）	1/100	A-43	改修前　天井伏図－１（東棟）	1/100	S-14	増設壁詳細図2	1/20,30			
A-14	改修後平面図-1（西棟）	1/100	A-44	改修後　天井伏図－１（東棟）	1/100	S-15	既存　部材リスト	1/50			
A-15	改修前平面図-2（西棟）	1/100	A-45	改修前　天井伏図－２（東棟）	1/100						
A-16	改修後平面図-2（西棟）	1/100	A-46	改修後　天井伏図－２（東棟）	1/100						
A-17	改修前　立面図（西棟）	1/100	A-47	改修前後　天井伏図－3（東棟）	1/100						
A-18	改修後　立面図（西棟）	1/100	A-48	撤去建具表	1/100						
A-19	改修前矩計図（西棟）	1/100	A-49	新設・塗装替建具表	1/100						
A-20	改修後矩計図（西棟）	1/100	A-50	倉庫改修図-1	1/100						
A-21	建具表（西棟）	1/100	A-51	倉庫改修図-2	1/100						
A-22	部分詳細図（西棟）	1/10,20	A-52	部分詳細図-1（東棟）	1/10						
A-23	仕上表（中棟）	―――	A-53	部分詳細図-2（東棟）	1/10						
A-24	改修前　平面図(中棟)	1/100	A-54	部分詳細図-3（東棟）	1/10,20						
A-25	改修後　平面図(中棟)	1/100	A-55	部分詳細図-4（東棟）	1/20,30						
A-26	改修前　立面図（中棟）	1/200	A-56	部分詳細図-5（東棟）	1/30						
A-27	改修後　立面図（中棟）	1/200	A-57	部分詳細図-6（東棟）	1/30						
A-28	改修前後　矩計図(中棟)	1/50	A-58	仮設計画図(参考図)	1/200						
A-29	改修前　平面図－１（東棟）	1/100									

設計に緑を

図面縮小率　A2版 100%
図面縮小率　A3版 71%

記事		株式会社　車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所　登録　17（1）第0587号 管理建築士　1級建築士　登録　第248825号 1級建築士　車　田　誠	設計年月日	御承認 所長　設計　製図	工事名 旭町住宅１号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 表紙、図面ﾘｽﾄ	設　計　No 縮　尺 －	図　面　No A／00

仕 様 書

Ⅰ.工 事 概 要

1. 工事名称： 旭町住宅１号棟耐震改修等工事(建築主体工事)
2. 工事場所： 広島県三原市旭町一丁目
3. 敷地面積： 2,877.38㎡ (870.40坪)
4. 構造規模： 中棟:鉄筋コンクリート造（5階建て）
 西棟:鉄筋コンクリート造（4階建て）
5. 工事種目： 屋上防水改修、外壁改修
6. 別途工事：
7. 調査協力について

本工事は工事中及び竣工後，次の調査を行うため，発注者より連絡があれば対応すること。
（１）公共事業労務費調査…工事中に実施（調査票等の記入提出，発注者の調査実施への協力等）
（２）完成施設事後調査（第１次調査）…引渡後概ね６ヶ月後
（３）完成施設事後調査（第２次調査）…引渡後概ね１年目頃
（４）かし担保調査…建設工事請負契約約款第４１条に定める期間内

8. 公衆災害防止措置

（１）工事に際し，工事関係者以外の第三者の生命，身体及び財産の危機，並びに迷惑を防止するために必要な措置をとること
（２）上記について，「建設工事公衆災害防止対策要綱（平成５年１月１２日付　建設事務次官通達）」に基づき実施すること

9. 現状復旧

工事に際し，隣接建物等に損傷を与えた場合は，速やかに現状復旧を行うこと

10. 主要資材等

（１）主要資材を購入しようとする場合は，極力三原市内に営業所・本店を有する業者に発注するものとし，予め購入先の名称所在地及び資材名等を発注者に通知するものとする
（２）当該工事に使用する砂については，海砂（県外産を含む）を使用しないこと
（３）この工事の施工に際し，やむを得ず工事の一部（主体的部分を除く）を第三者に請け負わせようとする場合は，原則として三原市内に主たる営業所・本店を有する業者に発注するものとする

Ⅱ.建築改修工事仕様

1. 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成３１年版）」（以下、「改修標準仕様書」という。）による。
 図面，本特記仕様書及び改修標準仕様書に記載されていない事項は，国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築工事標準仕様書（建築工事編（平成３１年版）」以下、「標準仕様書」という。）による。
2. 特記仕様
 （１）項目は番号に○印のついたものを適用する
 （２）特記事項は○印のついたものを適用する
 ○印のつかない場合は、※印のついたものを適用する
 ○印と ⊗ 印のついた場合は共に適用する
 （３）項目に記載［　　］の内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
 （　　）の内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
 （４）工事施工上必要な官公署その他への諸手続き及び届出は，全て受注者の負担において遅滞無く行うこと
 （５）関係法令の改正等により（条例を含む）、工事内容が法令等に抵触する恐れがあることを認識した場合には、その対応等について、監督職員と協議すること。
 （６）材料及び製造所等の記載は順不同である

章		項　　目	特　記　事　項
(1) 一般共通事項	(1)	適用基準等	⊙公共建築工事標準仕様書（建築工事編）　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（最新版） ⊙建築工事標準詳細図　国土交通省官房官庁営繕部監修（最新版） ⊙建築工事公衆災害防止対策要綱 ⊙建築工事安全施工技術指針 ⊙建築工事監理指針　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（最新版） ⊙建築改修工事監理指針　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（最新版） ⊙建築物解体工事共通仕様書　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（最新版）
	2	電気保安技術者［1. 3. 3］	※適用する
	(3)	工事実績情報の登録［1. 1. 4］	受注者は，受注時又は変更時において請負金額が５００万円以上の工事について，工事実績情報サービス（ＣＯＲＩＮＳ）に基づき，受注，変更，竣工，訂正時に工事実績情報として「工事実績データ」を作成し，監督職員の確認を受けた後に登録機関に登録申請し，登録機関発行の「登録内容確認書」を監督職員に提出しなければならない。また，途中変更時の登録が必要な場合とは，工期の変更，技術者の変更があった場合とする。
	(4)	施工条件［1. 3. 5］	下記以外は現場説明書による。 ⊙施工時間帯　（※指定あり 監督職員と協議の上決定） ⊙部位別の施工順序　（※図示 ⊙ 監督職員と協議の上決定） ⊙工事車両の駐車場所　（※図示 ⊙ 監督職員と協議の上決定） ⊙資機材置場　（※図示 ⊙ 監督職員と協議の上決定） ⊙建設発生土仮置場　（※図示 ⊙ 監督職員と協議の上決定）
	(5)	工事安全計画書	建築工事安全施工技術指針及び建設工事公衆災害防止対策要綱（建築工事編）を参考に、工事の施工に先立ち工事現場の安全対策に関する具体的な工事安全計画書を監督職員に提出する
	(6)	発生材の処理等［1. 3. 12］	・引渡しを要するもの（　　） ・特別管理産業廃棄物（　　） 処理方法（　　） ・現場において再利用を図るもの（　　） ⊙再生資源化を図るもの ⊙コンクリート塊　⊙アスファルトコンクリート塊　⊙建設発生木材 ⊙PCB含有シーリング材の処理 ・第一次判定 現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及び分析の要否を判定する。 採取箇所数　計　箇所 採取箇所　※図示 ・第二次判定 専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う。 分析個数　計 1 箇所 ・除去処理工事 除去範囲　※図示 ⊙せっこうボードの処理 ・石綿含有せっこうボード　改修特記仕様書第８章環境配慮改修工による ・ひ素・カドミウム含有せっこうボード ・製造業者に回収委託 ・埋立処分（管理型最終処分場） ⊙石綿含有、ひ素・カドミウム含有以外のせっこうボード ⊙再生資源化（再資源化施設）　・最終処分（管理型最終処分場） （１）本工事で発生した建設廃棄物は，広島県（環境県民局）及び保健所設置政令市等（広島市，呉市，福山市）が廃棄物処理法に基づき許可した適正な施設（許可対象とならない中間処理施設にあっては，廃棄物処理法に定められた基準に従った適正な施設）で処理すること ただし，建設廃棄物が破砕等（選別を含む）により有用物となった場合，その用途に応じて適切に処理すること（原則，県内処分） （２）本工事における再資源化に要する費用（運搬費を含む処分費）は，前記（１）に掲げる施設のうち受入れ条件が合うものの中から，運搬費と受入れ費（平日の受入れ費用）の合計が最も経済的になるものを見込んでいる。従って，正当な理由がある場合を除き，再資源化に要する費用（単価）は変更しない （３）本工事で発生する建設廃棄物のうち，広島県内の最終処分場に搬入する建設廃棄物については，広島県産業廃棄物埋立税が課税されるので適正に処理すること。なお，広島県産業廃棄物埋立税は見込んでいる

設計に緑を

章		項　　目	特　記　事　項
(1) 一般共通事項	(7)	建設発生土	※場外指示の場所に処分　⊙場外搬出適切処理　・場内指示の場所に敷き均し ・場内指示の場所に堆積 ・当該工事により発生する建設発生土は，次の公の関与する埋立地に搬出するものとする 搬出場所 ※当該工事により発生する建設発生土は，「建設発生土処分先一覧表」に掲載されている施設のいずれかに搬出するものとする。また搬出先として，運搬費と受入費（平日の受入費用）の合計が最も経済的になる建設発生土リサイクルプラント又は建設発生土受入地（一時堆積を含む）を見込んでいる。したがって，正当な理由がある場合を除き残土処分に要する費用は変更しない。なお，工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により，上記の仕様に拠り難い場合は，監督職員と協議するものとする
	(8)	環境への配慮［1. 4. 1］	化学物質を放散させる建築材料等 本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する品質及び性能を有すると共に、次の（１）から（４）を満たすものとする （１）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する （２）接着剤及び塗料にトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する （３）接着剤は、可塑剤（フタル酸ジーｎーブチル及びフタル酸ジー２ーエチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する （４）（１）の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」 とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。 ①建築基準法施行令第２０条の第７第１項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ②建築基準法施行令第２０条の第７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③建築基準法施行令第２０条の第７第１項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ④建築基準法施行令第２０条の第７第３項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成１２年法律第１００号）に基づき制定された「広島県グリーン購入方針」に掲載されている品目については，他の特記事項及び図面表記の範囲内で，環境負荷を低減できる材料を優先的に選定するよう努めるものとする
	(9)	材料の品質等［1. 4. 2～5］	材料・機材等の品質及び性能 （１）本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする （２）備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。 （３）標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする （４）本工事に使用する材料のうち、（５）に指定する材料の製造業者等は、次の①～⑥の事項を満たすものとし、その証明となる資料（外部機関が発行する証明書の写し）を監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない ①品質及び性能に関する試験データを整備していること ②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること ③安定的な供給が可能であること ④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること ⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。 （５）製造業者等に関する資料の提出を定める材料

床型枠用鋼製デッキプレート	オーバーヘッドドア
鉄骨柱下無収縮モルタル	防水剤
無収縮グラウト材	現場発泡断熱材
乾式保護材	フリーアクセスフロア
既成調合モルタル	可動間仕切
ルーフドレン	移動間仕切
吸水調整材	トイレブース
アルミニウム製建具	煙突用成形ライニング材
鋼製建具	天井点検口
鋼製軽量建具	床点検口
ステンレス製建具	グレーチング
錠前類	屋上緑化システム
クローザ類	トップライト
自動扉機構	エポキシ樹脂
自閉式上吊り引戸機構	ポリマーセメントモルタル
重量シャッター	既成調合目地材
軽量シャッター	鋳鉄製ふた

	項　　目	特　記　事　項
(10)	特別な材料の工法	標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品等の指定工法による
(11)	施工数量調査［1. 5. 2］	調査範囲　※外壁（庇，笠木共）　・屋根　・図示 調査方法　※テストハンマーによる打診及び目視　・図示 外壁調査は、外壁改修フローに対応する外壁面のひび割れ、浮き、欠損部、内部まで貫通したひび割れ及び雨漏りの有無についての位置及び数量（幅、長さ、面積）の調査を行う 屋根調査は既存の防水層、シーリング材充填部、とい、笠木等及び下地の劣化状況を確認する。 また、その報告書は、結果を立面図等に記載し集計表を添えて監督職員に２部提出する（必要に応じ写真等を添付する）
(12)	調査のための破壊部分の補修［1. 5. 3］	補修方法　※図示 補修範囲　※図示
(13)	技能士［1. 6. 2］	

工事種目	技能検定職種	技能検定作業
仮設工事	とび	・とび作業
防水改修工事	防水施工	・アスファルト防水工事作業 ⊙ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業 ・ＦＲＰ防水工事作業
外壁改修工事	樹脂接着剤注入施工	・樹脂接着剤注入工事作業
	左官	⊙左官作業
	タイル張り	・タイル張り作業
建具改修工事	サッシ施工	・ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	・ガラス工事作業
	自動ドア施工	・自動ドア施工作業
	ガラス用フィルム施工	・建築フィルム作業
塗装改修工事	塗装	⊙建築塗装作業
内装改修工事	タイル張り	・タイル張り作業
	建築大工	・大工工事作業
	建築板金	・鋼製下地工事作業 ・内外装板金作業
	左官	・左官作業
	内装仕上施工	・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ工事作業 ・ボード仕上げ工事作業
	表装	・壁装作業
耐震改修工事	とび	・とび作業
	鉄筋施工	・鉄筋組立作業
	型枠施工	・型枠工事作業
	コンクリート圧送施工	・コンクリート圧送工事作業
	鉄工	・構造物鉄工作業

環境配慮改修工事	配管	・建築配管作業
	路面表示施工	・溶融ペイントハンドマーカー工事作業
		・加熱ペイントマシンマーカー工事作業
	造園	・造園工事作業

章		項　　目	特　記　事　項
(1) 一般共通事項	14	化学物質の濃度測定［1. 6. 9］	（１）図示した室のホルムアルデヒド・トルエン・キシレン・スチレン・エチルベンゼンの室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、監督職員に報告する 測定箇所は仕上表により、施工方法は施工条件明示による パッシブ型採取機器を用いて測定を行う場合には、次の要領で測定及び分析を行う ①３０分間換気 測定対象室のすべての窓及び扉（造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉を含む）を開放し、３０分間換気する ②５時間閉鎖 ①の後、測定対象室のすべての窓及び扉を５時間閉鎖する ただし、造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉は開放したままとする ③測定 イ　②の状態のままで測定する ロ　測定時間は、原則として２４時間とする。ただし工程等の都合により、２４時間測定が行えない場合は、８時間測定とする。なお、８時間測定の場合は、午後２時～３時が測定時間帯の中央となるよう、１０時３０分～１８時３０分までの時間帯で測定する ハ　測定回数は１回とし、複数回の測定は不要とする ④分析 測定対象化学物質を採取したパッシブ型採取機器を分析機関に送付し、濃度を分析する ⑤その他 監督職員から測定方法に関する注意事項等の指示を受けること （２）木材の防腐・防蟻処理剤は，クロルピリホス，ダイアノジン及びフェノブカルブを含有しない薬剤とし，加圧式防腐・防蟻処理等は工場で行い十分乾燥させた後現場に搬入する （３）保温材，断熱材，緩衝材については，ホルムアルデヒドを発散しないか発散が極めて少ないF☆☆☆☆等級のものとする （４）塗料，壁紙，仕上塗材，合板，接着剤等で屋内に面するものについては，ホルムアルデヒドを発散しないか，発散が極めて少ないF☆☆☆☆等級のものとする （５）屋内に面して用いる材料は，上記（２）～（４）に適合した上で，揮発性有機化合物の発散が無い若しくは極めて少ないものを選択するように努め，（１）の規定を満たすこと
	(15)	中間技術検査［1. 7. 2］	※行う（回数及び時期については監督職員の指示による）　・行わない
	(16)	工事写真等	下記のものを監督職員に提出する。工事中写真及び完成写真の作成は「営繕工事写真作成要領」によるものとする　⊙ 現場説明書による。 （１）工程写真 工事の進捗に伴い工事全体状況及び主要工程の写真（カラー・サービス版）を期間別工事工程報告書に添付するものとする （２）工事中写真 水中又は地下に埋設される部分，その他完成後外部から検査・確認する事が出来なくなる部分，及びその他監督職員が指示する箇所は，Ａ４版写真台帳にまとめて完成検査日までに提出するものとする 【提出部数】：１部 （３）完成写真 【撮影箇所】建物外観各方向，主要箇所，主要室内その他監督職員が指示する箇所 【規格・提出部数】※Ａ４版クリアファイル　部　・Ａ４版写真台帳 1 部 【完成写真の撮影業者】・監督職員の承諾する撮影業者 （４）その他の写真 隣接建物等に損傷のおそれがある場合は，施工前・施工後の写真（カラー・キャビネ版）を監督職員の指示により提出するものとする （５）保管 工事写真のネガ・データは，受注者において工事完成後２年間保管すること
	(17)	完成時の提出図書	※提出を要する　完成図書：１部　⊙ 現場説明書による。 完成図の種類（※全て　・　　） 完成図の作成方法　CAD（ＣＡＤデータの提出（※要　⊙不要）） 原図　.・普通紙　※ トレーシングペーパー　・ 不要 完成図　二つ折製本（・ A1版　部　・A2版　部　・ A3版 2 部） 完成図は原則として原図にて修正を行い，施工図・保全に関する資料で必要なものの提出は監督職員の指示による なお，１８　電子納品で対象工事である場合は，加えて電子成果品を　２部提出すること ・型式台帳 型式台帳は，監督職員が指定する様式で作成する。建物で使用する部材，機器を記入し提出すること。
	18	電子納品	※電子納品対象工事とする　・ 現場説明書による。 電子納品とは，「調査，設計，工事などの各業務段階の最終結果を電子データで納品すること」をいう。ここでいう電子データとは，「営繕工事電子納品要領（以下，要領という）」に基づいて作成されたものを指す 成果品については，「要領」に基づいて作成した電子成果品を電子媒体で提出する。「要領」で特に記載がない項目については，原則として電子データを提出する義務はないが，「要領」の解釈に疑義がある場合は監督職員と協議の上，電子化の是非を決定する また，成果品提出の際には，ウイルス対策を実施したうえで提出すること
	19	工事中情報共有システム	（１）本工事は，受発注者間の情報を電子的に交換・共有することにより，業務の効率化を図る情報共有システムの対象である。なお，運用にあたっては「広島県工事中情報共有システム運用ガイドライン」に基づき実施すること （２）本工事で使用する情報共有システムは次とする 広島県工事中情報共有システム（http://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/asp/index.html） （３）監督職員及び受注者が使用する情報共有システムのサービス提供者（以下「サービス提供者」という）との契約は，受注者が行い，利用料を支払うものとする （４）受注者は，監督職員又はサービス提供者から技術上の問題点の把握，利用にあたっての評価を行うためのアンケート等が求められた場合，協力しなければならない
	(20)	施工図及び施工計画書	提出した施工図及び施工計画書の著作に係る当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする
	(21)	設備工事との取合い	設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける
	(22)	撤去部分	コンクリート、モルタル等の撤去部分の境目は、原則としてダイヤモンドカッター切りとする
	(23)	適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる 基準風速　Ｖｏ＝　３２ ｍ／ｓ 地表面粗度区分　・Ⅰ　・Ⅱ　⊙Ⅲ　・Ⅳ 積雪区分　平成12年5月31日建設省告示第１４５５号　別表（　　）
	(24)	騒音・振動の防止	「低騒音型・低振動型建設機械指定要領」に基づき指定された建設機械を使用する
	(25)	施工中の安全確保	・同一場所で別契約の関連工事が行われる場合は，労働安全衛生法第３０条第２項に基づき，当該工事について，同条第１項に規定する措置を講ずべき者として本工事現場代理人を指名する ・労働安全衛生法第１５条に基づく統括安全衛生責任者を選任したときは，本契約後直ちに「統括安全衛生責任者選任届出書」（任意様式）を提出すること
	(26)	実施工程表［1. 2. 1］	工事期間は建築設備を含んだ期間とし，工事全体を把握して作成し，監督職員の承諾を受ける
	(27)	工程報告	別紙様式による期間別工事工程報告書を毎月（ １ ）回（ １ ）部提出すること
	(28)	保証書	次の工事について保証書を提出すること。 保証書は、元請け会社、防水工事施工会社、防水材料メーカーの３社連盟保証とすること。

工事区分	材　料　名	保証年数	備　　考
⊙防水改修工事	・アスファルト防水	年	
	・改質アスファルトシート防水	年	
	・合成高分子ルーフィング防水	年	
	⊙ウレタン塗膜防水	１０　年	
・外壁改修工事	・下地補修	年	
	・塗装	年	
		年	

章		項　　目	特　記　事　項
(2) 仮設工事	(1)	足場その他［2. 2. 1］［表2. 2. 1］	「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては，同ガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における２の⑵手すり据置き方式又は⑶手すり先行専用足場方式により行う。 ⊙内部足場の種別　⊙ 設置する（※脚立、足場板等　・　　）・ 設置しない ・ＥＶ内部足場の種別　・ 設置する（※枠組足場　・　　）・ 設置しない ⊙外部足場の種別　⊙ 設置する（※枠組足場　・　　）・ 設置しない ⊙外部足場の防護シート　⊙ 設置する（※メッシュシート　・防音シート）　・ 設置しない 材料、撤去材等の運搬方法　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種 ・Ｃ種のエレベーター（　　） ・Ｄ種の階段（　　）
	(2)	既存部分の養生［2. 3. 1］	養生方法　※ビニルシート，合板等による ・固定された家具等（備品，机，ロッカー等）の移動　※行う（図示） ・既存部分における既存家具等の養生　※ビニルシート等による ・既存ブラインド、カーテン等の養生　養生方法　※取外し再取付　・ 保管場所　※構内既存施設内　・ 既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。また、万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。
	(3)	仮設間仕切り［2. 3. 2］	仮設間仕切り及び仮設扉の設置個所　⊙図示 仮設間仕切りの種別と材質等 ・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・図示 Ａ、Ｂ種の表面材　⊗石こうボード　・合板 Ａ、Ｂ種の片面への塗装等　・行う　⊗行わない Ａ種のグラスウール等の充填材 ⊗行う（ＪＩＳ　Ａ　６３０１グラスウール吸音材２号３２Ｋ厚５０mm） ・行わない 仮設扉　（⊙木製　・　　）
		監督職員事務所［2. 4. 1］	・ 設ける　㎡程度　※設けない ※現場に常備する備品等は現場説明書によるほか、監督職員の指示により設置する ・既存建物内の一部を使用する（場所　　） ・構内に新設する　規模（　㎡ ）
	(5)	工事用水	構内既存の施設　・利用できる（・有償　・無償　※協議による） ⊗利用できない
	(6)	工事用電力	構内既存の施設　・利用できる（・有償　・無償　※協議による） ⊗利用できない
	(7)	工事現場の表示	現場の見やすい位置に監督職員が指示する次の表示板を設置する ※工事名等の表示板（900mm×600mm）　・工事概要等の説明看板（900mm×600mm）
	(8)	出入口養生	※行う（ベニヤ等）　・行わない
	9	セキュリティー設備	既設設備の取り外し，取り付けを行う
	(10)	交通誘導員	※配置する　・配置しない 配置計画 ※大型車両進入時　（　　）人／日 ⊙常時配置　（ １ ）人／日 ・（　　）作業期間　（　　）人／日
(3) 防水改修工事	(1)	降雨等に対する養生方法	※改修標準仕様書3.1.3(e)(1)～(5)による。 ・
	(2)	既存防水の処理	既存保護層の撤去　・行う（範囲　・図示　・　　） ・行わない 既存防水層の撤去　⊙行う（範囲　⊙図示　・　　） ・行わない 露出防水層表面の仕上塗装除去　・行う（・M4AS　・M4ASI　・M4C　・M4DI　・L4X） ・行わない
	(3)	既存防水層の下地補修	既存下地の補修箇所の形状、長さ、数量等　・図示 POS工法及びPOSI工法（機械式固定工法）の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の補修及び処置　※改修標準仕様書3.2.6(d)(3)(ⅶ)①～③による　・
	4	アスファルト防水［3. 1. 4］［3. 2. 6］［3. 3. 2～5］	屋根保護防水 防水層の種別

工　法		施工箇所	断熱材	絶縁用シート	立上り部の保護
・Ｐ２Ａ	・Ａ－１ ※Ａ－２ ・Ａ－３			※ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ厚さ0.15mm以上	・乾式保護材 ・ｺﾝｸﾘｰﾄ押え ・レンガ押え
・Ｐ１Ｂ	・Ｂ－１ ※Ｂ－２ ・Ｂ－３				
・Ｐ２ＡＩ	・ＡＩ－１ ※ＡＩ－２ ・ＡＩ－３		（材質） ※JIS A 9511による押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材3種bA(ｽｷﾝ層付き)又はJIS A 9511によるA種押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板3種b(ｽｷﾝあり) 厚さ　※25mm　・50mm	※ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ等を平織りしたﾌﾗｯﾄﾔｰﾝｸﾛｽ(70g/㎡程度)	
・Ｐ１ＢＩ ・ＴＡＢＩ	・ＢＩ－１ ※ＢＩ－２ ・ＢＩ－３				

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.9による
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.9による
平場の保護コンクリートの厚さこて仕上げ
こて仕上げ　※水下　80mm以上
床タイル張り　※水下　60mm以上
・乾式保護材
窯業系パネル：無石綿の繊維質原材料等を主原料として，板状に押出成形しオートクレーブ養生したもの
金属複合板：金属板と樹脂を積層一体化したもの。

（品質・性能）

分類・規格		・窯業系パネルⅠ類（寒冷地仕様）	・窯業系パネルⅡ類（一般地仕様）	・金属複合板
寸法(mm)	厚さ(mm)			
	幅(mm)			
寸法の許容差		厚さ：+10%、-5%、幅：±1%		
出荷時の含水率		出荷時において10%以下		－
曲げ強さ・曲げﾓｰﾒﾝﾄ(N・cm)(ｽﾊﾟﾝ50cmにおける単位幅1cmあたりの曲げﾓｰﾒﾝﾄ)	標準時	550以上	450以上	300以上
	凍結融解完了時(試験サイクル数)	400以上(300)	320以上(200)	250以上(300)
吸水率（%）		20以下	20以下	1以下
吸水による長さ変化率(%)		0.07以下	0.07以下	0.01以下
難燃性		不燃	不燃	表面材は不燃
耐凍結融解性能		曲げ強さ、モーメント凍結融解完了時の試験サイクル後、著しい割れや剥離がなく、外観上異常がないこと		
耐衝撃性能		質量500g（窯業系パネルⅠ類は1,000g）のおもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと		質量500g（窯業系パネルⅠ類は1,000g）のおもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと 残留変形量1/100以下 かつ加圧時の最大変形量4/100以下
剛性(E×I)スパン40cm幅30cmの中央曲げ時に、荷重720Nの時、たわみ4mm以下となる剛性		－	－	80000N･c㎡以上

図面縮小率　A2版　100%
図面縮小率　A3版　71%

記事	株式会社　車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所　登録　１７（１）第０５８７号 管理建築士　1級建築士　登録　第２４８８２５号 1級建築士　車　田　誠	設計年月日	御承認 所長　設計　製図	工事名：旭町住宅１号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名：建築改修工事特記仕様書（１）	設計 No 縮尺 －	図面 No A／01

③ 防水改修工事

（試験方法）
（１）寸法の測定方法
（厚さ）供試体の周辺から20mm以上内側の四隅を0.05mmmmまで測定できる測定器で測り、4点の平均値を求めてパネルの厚さとする
（２）曲げ強度試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」による。試験体は3号試験体とする。測定項目については、凍結融解試験前，同試験100，200，300サイクル完了後の合計4項目に亘って測定する（窯業系パネルⅡ類は200サイクルまでとする）
（３）吸水率試験は、JIS A 5430「繊維強化セメント板」に準じて行う
（４）難燃性試験は、JIS A 1321「建築物の内装材料及び工法の難燃性試験方法」に準じて行う
（５）吸水による長さ変化率試験は、試験体(幅40 mm×長さ160 mm×素材厚さ)を乾燥機に入れ、その温度を60±3℃に保ち24時間経過した後取り出してJIS K 8123「塩化カルシウム（試薬）」に規定する塩化カルシウム又は JISK 1464「工業用乾燥剤」に規定する品質に適合するシリカゲルで調湿したデシケータに入れ、常温まで冷却する。次に、試験片の標線間隔が140 mmになるように標線を刻む。 その後、1/150 mm以上の精度をもつコンパレータを用いて標線間の長さを測定し、それを基準（L1）とする。次に試験片の長さ方向を水平にこば立てし、その上端が水平下約30mmとなるように保持して、常温の水中に浸せきする。24時間経過した後、試験片を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り、再び標線間の長さ（L2）を測る
吸水による長さ変化率（ΔL)は、次式によって求める
（ΔL）＝ （L2 － L1）／ L1 ×100　　ΔL ：吸水による長さ変化率（%）
L1：乾燥時の標線間の長さ（mm）　　L2 ：吸水時の標線間の長さ（mm）
（６）耐凍結融解性能試験は、JIS A 5422「窯業系サイディング」の気中凍結水中融解法によって行う。100，200，300各サイクル完了時の曲げ強度測定及び外観の状態を観察する（窯業系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。）－20±3℃の気中で約2時間の凍結、20±3℃の水中で約1時間の融解を行う約3時間を1サイクルとする
（７）耐衝撃性能試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃性試 験に準じて行う。試験体の支持装置は、記号S２対辺単純支持方法による
試験体の大きさは、4号（長さ400 mm，幅300 mm）とする。おもりは記号（W１－1000又はW2－500）とする。金属複合板の残留変形量は、最大くぼみ深さを測定する

屋根露出防水　防水層の種類

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率の防水の適用	備考
・M4C	・C-1 ※C-2 ・C-3 ・C-4			・製造所の指定による	・製造所の指定による		
・M3D ・P0D	・D-1 ※D-2 ・D-3 ・D-4			・製造所の指定による	・製造所の指定による		脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
・PODI ・M3DI ・M4DI	・DI-1 ※DI-2		（材質） ※JIS A 9521による硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱材2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規格に適合するもの又は JIS A 9511によるA種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規定に適合するもの （厚さ）・25mm	・製造所の指定による	・製造所の指定による		脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない

脱気装置の種類及び設置数量
※アスファルトルーフィング類製造所の指定による
屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置
※ 図 示

屋内防水

工法	種別	施工場所	備考
・P１E ・P２E	・E－１ ※E－２		保護層　・設ける ・設けない

押え金物の材質及び形状寸法
※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度 ・
屋上排水溝 ・図示 ・

5 改質アスファルトシート防水
［3．1．4］
［3．2．6］
［3．4．2、3］

防水層の種別

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用	備考
・MA4S	・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-J2			・製造所の指定による	・製造所の指定による		
・M3AS	・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J1 ・AS-J3			・製造所の指定による	・製造所の指定による		脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
・P0AS	・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J1 ・AS-J3			・製造所の指定による	・製造所の指定による		脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
・M3ASI ・M4ASI ・P0ASI	・ASI-T1 ・ASI-J1		（材質） ※JIS A 9521による硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱材2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規定に適合するもの又はJIS A 9511によるA種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規定に適合するもの （厚さ） ※25mm ・50mm	・製造所の指定による	・製造所の指定による		脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない 防水層 ・設ける ・設けない

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による ・
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による ・
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による ・
脱気装置の種類及び設置数量
※改質アスファルトシート製造所の指定による ・
押え金物
※改質アスファルト製造所の仕様による

設計に緑を

③ 防水改修工事

6 合成高分子系ルーフィングシート防水
［3．1．4］
［3．2．6］
［3．5．2～4］
［表3．5．1～3］

防水層の種別

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用	備考
・P0S ・S4S	・S-F1 ・S-F2 ・S-M1 ・S-M2 ・S-M3			・製造所の指定による	・製造所の指定による		脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
・S3S	・S-F1 ・S-F2			・製造所の指定による	・製造所の指定による		脱気装置 ・設ける ・設けない
・M4S	・S-M1 ・S-M2 ・S-M3			・製造所の指定による	・製造所の指定による		脱気装置 ・設ける ・設けない
・P0SI ・S3SI ・S4SI ・M4SI	・SI-F1 ・SI-F2		（材質） ※改修標準仕様書3.5.2(c)(3)(Ⅱ)による （厚さ） ※25mm ・50mm	・製造所の指定による	・製造所の指定による		脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
	・SI-M1 ・SI-M2		（材質） ※改修標準仕様書3.5.2(c)(3)(Ⅰ)による （厚さ） ※25mm ・50mm				

屋内防水
防水層の種別

種別	施工箇所	保護層 平場のモルタル塗り 塗り厚さ	保護層 平場のモルタル塗り ・床塗り工法	保護層 平場のモルタル塗り ・下地ﾓﾙﾀﾙ塗り	保護層 立ち上り部の保護モルタル塗り厚さ
・S3S			※改修標準仕様書6.15.6 (b)(2)及び(3)に準ずる	※改修標準仕様書6.15.6 (c)(1)に準ずる	※7mm以下

S－M２及びSＩ－M２の立上り部の工法： ・接着工法 ・ 機械的固定工法
屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ
ルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.5.1から表3.5.3による
絶縁用シートの材質 ※発泡ポリエチレンシート
固定金具の材質及び寸法形状
※厚さ0.4mm以上で防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板及びそれらの片面又は両面に樹脂を積層加工した鋼板
脱気装置の種類及び設置数量
※ルーフィングシート製造所の指定による
・脱気装置の種類： 、設置数量： 個/㎡
既存防水下地がPCコンクリート部材及びALCパネル下地で種別S-C1の場合の目地処理
・行う（・図示 ・ ） ・行わない
PCコンクリート部材の入隅部の増張り（種別S-F1、SI-F1、S-C1の場合）
・行う（・図示 ・ ） ・行わない
ALCパネル下地の入隅部の増張り（種別S-C1の場合）
・行う（・図示 ・ ） ・行わない
機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法

⑦ 塗膜防水
［3．1．4］
［3．2．6］
［3．6．2、3］

工法	種別	施工箇所	仕上塗量 種類	仕上塗量 使用量	高日射反射率防水の適用	備考
・P0X	※X－１ ・X－２		・製造所の指定による	・製造所の指定による		脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドレン ・設ける ・設けない
・L４X	・X－１ ※X－２		・製造所の指定による	・製造所の指定による		脱気装置 ・設ける ・設けない
・P１Y	※Y－２					保護層 ・設ける ・設けない
・P２Y	※Y－２					保護層 ・設ける ・設けない
⊙既存防水層撤去の上改修	⊙X－１ ⊗X－２					脱気装置 ⊙設ける ・設けない 改修用ドレン ⊙設ける ・設けない

脱気装置の種類及び設置数量 ※主材製造所の指定による

8 ケイ酸質系塗布防水
（9．6．1～4）
（表9．6．1～2）

種別	施工箇所	種別	施工箇所
※C-UI		※C-UP	

⑨ シーリング
［3．1．4］
［3．7．2］
［3．7．4～7］

シーリング改修工法の種類　［表3．1．2］
⊙シーリング充填工法
・シーリング再充填工法
・拡幅シーリング再充填工法
・ブリッジ工法
ボンドブレーカー張り　・適用する ・適用しない
エッジング材張り　・適用する ・適用しない

シーリング材の種類､施工箇所
下表以外は、改修標準仕様書 表3.7.1による

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
アルミサッシ	MS－２

シーリング材の目地寸法 ※改修標準仕様書３．７．３による

③ 防水改修工事

⑩ とい
［3．8．2、3］

といの材種 ⊙硬質ポリ塩化ビニル管 カラー ・
ルーフドレン（改修用２重ドレン）

種別	施工箇所
⊙ろく屋根用（⊙ 縦型 ⊙ 横型）	図示による
⊙バルコニー用	図示による
・バルコニー中継用	

ロックウール保温筒及びビーズ法ポリスチレンフォーム保温筒のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外 ・
既存のといその他の撤去及び降雨等に対する養生方法 ※図示
鋼管製といの防露巻き ※改修標準仕様書表3.8.5による
たてどい受金物の取付け ※図示
ルーフドレンの取付け ※水はけがよく、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填

11 アルミニウム製笠木
［3．9．2～3］

種類 ・オープン形式（・押出250形 ・押出300形 ・押出350形）　［表3．9．1］
・板材折曲げ形（・オープン形式 ・シール形式）
本体幅（ ）mm 板厚（※2.0mm ・ mm）
表面処理 種別（ ）種 皮膜等の種類（※改修標準仕様書表５．２．２による ・ ）
着色（・アンバー ・ブロンズ ・ブラック系 ・ステンカラー）
既存笠木等の撤去 ・行う（範囲 ・図示 ・ ）
・行わない
下地補修の工法 ※図示 ・
板材折曲げ形の笠木の取付方法 ※図示 ・
笠木の固定金具の工法等
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法

(4－1) 外壁改修工事（共通事項）

① 可とう性エポキシ樹脂
［4．2．2］

品質性能等
比重：表示値±０．１０、押出し性：６０秒以下
スランプ：３mm以下、加熱減量：５%以下
引張強さ：
常温物性１．０N／㎟ 以上、低温性１．０N／㎟ 以上、加熱劣化１．０N／㎟ 以上
伸び：常温物性３０%以上、低温性３０%以上、加熱劣化３０%以上
引張接着性 最大引張応力：常温物性１．０N／㎟ 以上
破断時の伸び：常温物性１０%以上
(1)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
(2)対象とする被着体を浸さず、かつ周囲を汚損しないこと。
(3)常温・常湿（温度5～35℃、湿度45～85%）において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月保存した後であっても、上記品質性能等の規定に適合していること。
（試験方法）
1）試験室の状態：試験室は、特に指定のない限り、標準状態とする。
標準状態とは、JIS K 7100「プラスチック-状態調節及び試験のための標準雰囲気」の5（標準雰囲気の級別）に規定する標準雰囲気2級[温度23±2℃ 湿度(50±10) %]をいう。
2）押出し性 ：JIS A 6024(2015)「建築補修用及び建築補強用エポキシ樹脂」の5.12押し出し性試験）による。
3）スランプ ：JIS A 6024の5.10（スランプ試験B法）による。
4）引張接着性：JIS A 6024の5.15（引張接着性試験）による。
5）引張特性 ：JIS A 6024の5.19（引張特性試験C法）による。
6）加熱減量 ：JIS A 6024の5.27（加熱減量試験B法）による。
7）密度 ：JIS A 6024の5.29（密度）による。

2 ポリマーセメントモルタル
［4．2．2］

品質性能等
だれ 下がり量：５mm以内、表面状態：ひび割れの発生が無いこと。
曲げ強さ：６．０N／mm^2 以上、圧縮強さ：２０．０N／mm^2 以上
接着性 標準時：１．０N／mm^2 以上、湿潤時：０．８N／mm^2 以上、低温時０．５N／mm^2 以上
透水性：裏面ぬれ、水滴の付着がないこと
(1)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
(2)ポリマーセメントモルタルに用いる高分子エマルションは、常温常湿において製造後6ヶ月保存しても変質がないこと。

3 パテ状エポキシ樹脂
［4．2．2］

品質性能等
初期硬化性（標準）：２．０N／mm^2 以上、接着強さ（標準）6.0N/mm^2 以上
圧縮強さ：50.0N/mm^2 以上、曲げ強さ：30N/mm^2 以上、硬化収縮率：3.0%以下
(1)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
(2)対象とする被着体を浸さず、かつ周囲を汚損しないこと。
(3)常温・常湿（温度5～35℃、湿度45～85%）において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月保存した後であっても、上記品質性能等の規定に適合していること。
（試験方法）
1）試験室の状態 ：試験室は、特に指定のない限り、標準状態とする。
標準状態とは、JIS K 7100「プラスチック-状態調節及び試験のための標準雰囲気」の5（標準 雰囲気の級別）に規定する標準雰囲気2級[温度23±2℃、湿度(50±10) %] をいう。
2）接着強さ ：JIS A 6024(2015)「建築補修用及び建築補強用エポキシ樹脂」の5.13（接着強さ試験A法）による。
3）曲げ強さ ：JIS A 6024の5.21（曲げ強さ試験B法）による。
4）圧縮強さ ：JIS A 6024の5.22（圧縮強さ試験A法）による。
5）硬化収縮率：JIS A 6024の5.25（硬化収縮率試験）による。
6）初期硬化性：JIS A 6024の5.28（初期硬化性試験）による。

4 エポキシ樹脂モルタル
［4．2．2］

品質性能等
接着強さ：1.0N/mm^2 以上　圧縮強さ：20.0N/mm^2 以上
曲げ強さ：３日後の値 １０N／mm^2 以上
(1)こて塗りが容易で、かつ、硬化後の仕上がりが良好であること。
(2)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
(3)「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。
(4)形状に異常がなく、だれが生じないこと。
(5)常温・常湿（温度5～35℃、湿度45～85%）において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月保存した後であっても、上記品質性能等の規定に適合していること。
（試験方法）
1）試験室の状態 ：試験室は、特に指定のない限り、標準状態とする。
標準状態とは、JIS K 7100()「プラスチック-状態調節及び試験のための標準雰囲気」の5（標準雰囲気の級別）に規定する標準雰囲気2級[温度23±2℃、湿度(50±10) %]をいう。
2）だれ ：JIS A 6024(2015)「建築補修用及び建築補強用エポキシ樹脂」の5.11（だれ試験）による。
3）接着強さ：JIS A 6024の5.14（接着強さ試験B法）による。
4）曲げ強さ：JIS A 6024の5.20（曲げ強さ試験A法）による。
5）圧縮強さ：JIS A 6024の5.23（圧縮強さ試験B法）による。

(4－1) 外壁改修工事（共通事項）

5 ポリマーセメントスラリー
［4．2．2］

品質性能等
注入試験：拡がり速さ３㎝／ｓ以上、粘調係数０．５～１．０
保水試験：保水係数０．３５～０．５５
長さ変化試験：長さ変化率３%以下（収縮）
引張接着強さ：０．５N／mm²以上（２８日材齢）
曲げ強度：５．０N／mm²以上（２８日材齢）
吸水率：１５%以下（７２時間）
劣化曲げ強さ：５．０N／mm²以上

6 吸水調整材
［4．2．2］

標準仕様書４．２、表４．２．２による

7 既製調合モルタル
［4．2．2］

モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
品質性能等
保水率：７０%以上
単位容積質量：1.8kg/L以上
接着強さ：標準時 0.6N/mm^2 以上、温冷繰り返し後 0.4N/mm^2 以上
長さ変化率：0.2%以下
曲げ強さ：4.0N/mm^2 以上
試験方法
イ）試料の調製
製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算し、所定量の試料とする。
練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の9.1に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。
ロ）保水率
JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定するみがき板ガラス（ 縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 A ろ紙（直径11cm）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ３mm）を設置し、（１）で調製した試料を平滑に詰込む。
その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。 60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、１mmの単位まで測定する。
試験は３回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率＝50／平均値×100　（注） 50：リング型わくの内径 mm
ハ）単位容積質量
JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。
ニ）標準時の接着強さ
１．適用タイルが「モザイクタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B(規定)及び推奨仕様B-１に規定する普通平板N－300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（１）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形のⅠ類（施ゆう）「50角ユニットタイル（外のり寸法約300mm×300mm）」を圧着する。
その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.9付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。（全てが0.6N/mm^2 以上）
２．適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B(規定)及び推奨仕様B-１に規定する普通平板N－300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（１）で 調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」 に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形のⅠ類（施ゆう）「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。
その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。
ホ）温冷繰返し後の接着強さ
（試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々（４）接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。
（温冷繰返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10温冷繰返し試験に準じて行う。
試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに－20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±2℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を１サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって調べる。
（温冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てが0.4N/mm^2 以上）
ヘ）長さ変化率
JIS A6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂」9.9 長さ変化率に準ずる。
ト）曲げ強さ
JIS A6916「建築用下地調整塗材」7.11 曲げ強さ試験に準ずる。

図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

4－2 外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁）

① ひび割れ部改修工法 ［4．1．4］［4．2．2］［4．3．4～6］

※樹脂注入工法

工法の種類		ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL／m）
※A	自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	０．２以上０．３未満	２００～３００	※４０　・
		０．３以上０．５未満		※４０　・
		０．５以上１．０未満		※７０　・
・B	・手動式エポキシ樹脂注入工法	０．２以上０．３未満	５０～１００	※４０　・
・C	・機械式エポキシ樹脂注入工法	０．３以上０．５未満	１００～２００	※７０　・
・D	・機械式エポキシ樹脂注入工法	０．５以上１．０未満	１５０～２５０	※１３０・

コア抜取り検査　・行う　※行わない　　補修方法（ポリマーセメントモルタル充填）
注入材料
※建築補修用注入エポキシ樹脂（ＪＩＳ　Ａ６０２４）による（※低粘度形　・中粘度形）
・軟質形エポキシ樹脂の中粘度型又は低粘度型
・Ｕカットシール材充填工法
カット部充填材
※可とう性エポキシ樹脂
・シーリング用材料　（※１成分形又は２成分形ポリウレタン系　・　　　　）
シーリング材のうえにポリマーセメントモルタル充填　※行う　・行わない
・シール工法
ひび割れ部シール材
※パテ状エポキシ樹脂　・可とう性エポキシ樹脂

② 欠損部改修工法 ［4．1．4］［4．2．2］［4．3．7］

※充填工法
欠損部充填材
※ポリマーセメントモルタル　・エポキシ樹脂モルタル

4－3 外壁改修工事（モルタル塗仕上げ外壁）

① ひび割れ部改修工法 ［4．1．4］［4．2．2］［4．4．5～7］

（下記以外は４－１コンクリート打放し仕上げ外壁による）
※モルタルを撤去して改修　（撤去後の補修は充てん工法［４．４．８］による）
※樹脂注入工法　・シール工法　・Ｕカットシール材充てん工法
・モルタルを撤去しないで改修
※樹脂注入工法　・シール工法・Ｕカットシール材充てん工法

② 欠損部改修工法 ［4．1．4］［4．2．2］［4．4．8、9］

※充てん工法（欠損部の面積が０．２５㎡／箇所程度以下の場合）
充てん材の種類　※ポリマーセメントモルタル　・エポキシ樹脂モルタル
・モルタル塗替え工法
既製目地材　・使用する（形状　　　　　）
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置　※図示

③ 浮き部改修工法 ［4．1．4］［4．2．2］［4．4．10～15］

※モルタルを撤去しないで改修
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法
・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法
※注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法

アンカーピン　※ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの

注入口付アンカーピン　※ステンレス鋼(SUS304)呼び径外径6mm

・モルタルを撤去して改修
・充填工法　・エポキシ樹脂モルタル　・ポリマーセメントモルタル
・モルタル塗替え工法　既製目地材　・使用する（形状　　　　　）
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置　※図示　・

④ 外壁複合改修構工法

平成７年度建設省告示第１８６０号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする

4－4 外壁改修工事（タイル張仕上げ外壁）

1 タイル張替え工法用材料 ［4．2．2］

（下記以外は４－２コンクリート打放し仕上げ外壁、及び４－３モルタル塗り仕上げ外壁による）
タイル部分張替え工法及びタイル張替え工法用接着剤の種類
・ポリマーセメントモルタル
・JIS A 5557による一液反応硬化形変成シリコーン樹脂系
・JIS A 5557による一液反応硬化形ウレタン樹脂系
タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状寸法	再生材料の適用	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 あり	なし	色 標準	特注	耐凍害性 あり	なし	耐滑り性	備考

当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、あらかじめ監督員の承諾を受けること
耐滑り性：JIS A 1509-12（セラミックタイル試験方法-第12部：耐滑り性試験方法）で規程するC.S.R値は0.4～1.0とする。
役物の使用箇所

内　装	出隅　天端
外　装	出隅、窓台、マグサ（標準一体成型品以外は接着成型品とする）

・タイル張替え工法（下地モルタルを撤去する場合）
既製調合モルタル（張り付け用に使用する場合）

2 ひび割れ部改修工法 ［4．1．4］［4．2．2］［4．5．5、6］

※タイルを撤去して改修　（撤去後の補修はタイル部分張替え工法による）
※樹脂注入工法　・Ｕカットシール材充てん工法
・タイルを撤去しないで改修
※樹脂注入工法

3 欠損部改修工法 ［4．1．4］［4．2．2］［4．5．5、6］

・タイル部分張替え工法
（欠損部の面積が０．２５ｍ／箇所以下の場合及び下地モルタルがある場合）
接着材の種類　※ポリマーセメントモルタル　・エポキシ樹脂
・タイル張替え工法（下地モルタルを撤去する場合）
既製調合モルタル（張り付け用に使用する場合）
伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地　位置　※改修標準仕様書表4.5.1による
タイル張り下地等の下地モルタルの接着力試験　・行う　・行わない
・セメントモルタルによる陶磁器質タイル（セラミックタイル）張り
タイル張りの工法　外装タイル　・密着張り　・改良圧着張り　・改良積上げ張り
外装ユニットタイル　・マスク張り　・モザイクタイル張り
・有機系接着剤による陶磁器質タイル（セラミックタイル）張り
シーリング材の種類　打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地　※ポリウレタン系
伸縮調整目地その他の目地　※変成シリコーン系　・

4 浮き部改修工法 ［4．1．4］［4．2．2］［4．5．5、6］

・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法（・注入口付　・　　　）
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法（・注入口付　・　　　）
・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法（・注入口付　・　　　）
・注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法
注入口付アンカーピン本数　・
アンカーピン　※ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの

注入口付アンカーピン　※ステンレス鋼(SUS304)呼び径外径6mm
・タイル部分張替え工法
・タイル張替え工法（下地モルタルを撤去する場合）
伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地　位置　※改修標準仕様書表4.5.1による
タイル張り下地等の下地モルタルの接着力試験　・行う　・行わない
・セメントモルタルによる陶磁器質タイル（セラミックタイル）張り
タイル張りの工法　外装タイル　・密着張り　・改良圧着張り　・改良積上げ張り
外装ユニットタイル　・マスク張り　・モザイクタイル張り
・有機系接着剤による陶磁器質タイル（セラミックタイル）張り
シーリング材の種類　打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地　※ポリウレタン系
伸縮調整目地その他の目地　※変成シリコーン系　・

設計に緑を

5 目地改修工法 ［4．1．4］［4．5．16］

・目地ひび割れ部改修工法
・伸縮調整目地改修工法　位置及び寸法　※図示

6 外壁複合改修構工法

平成７年度建設省告示第１８６０号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする

4－5 外壁改修工事（塗仕上げ外壁）

① 仕上塗材仕上げ ［4．1．5］［4．2．2］［4．6．5］

建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・
仕上塗材の種類

種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Ｓｉ	・	・砂壁状
	・可とう形外装薄塗材Ｓｉ	・	・ゆず肌状（・吹付け　・ローラー塗り）
	・外装薄塗材Ｅ	・	・さざ波状
	・可とう形外装薄塗材Ｅ	・	・平たん状
	・防水形外装薄塗材Ｅ	・	・凹凸状（・吹付け　・こて塗り）
	・外装薄塗材Ｓ	・	・着色骨材砂壁状（・吹付け　・こて塗り）
			・砂壁状じゅらく
			・京壁状じゅらく
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材Ｃ	・	・吹放し　・凸部処理　・平たん状
	・外装厚塗材Ｓｉ	・	・凹凸状　・ひき起こし　・かき落とし
	・外装厚塗材Ｅ	・	吸放湿性　・適用する　・適用しない
		・	上塗材　・適用する　・適用しない
⊙複層仕上塗材	・複層塗材ＣＥ	・	・ゆず肌状　⊙凸部処理　・凹凸状
	・可とう形複層塗材ＣＥ	・	耐候性　※耐侯形３種　・
	・複層塗材Ｓｉ	・	上塗材
	⊙複層塗材Ｅ	・	溶媒　※水系　・溶剤系　・弱溶剤系
	・複層塗材ＲＥ	・	樹脂　※アクリル系　・
	・防水形複層塗材ＣＥ	・	外観　※つやあり　・つやなし
	・防水形複層塗材Ｅ	・	・メタリック
	・防水形複層塗材ＲＥ	・	
	・防水形複層塗材ＲＳ	・	
・可とう形改修用仕上塗材	・可とう形改修塗材Ｅ	・	・平たん状　・さざ波状　・ゆず肌状
	・可とう形改修塗材ＲＥ	・	耐候性　※耐侯形３種　・
	・可とう形改修塗材ＣＥ	・	上塗材
			溶媒　※水系　・溶剤系　・弱溶剤系
			樹脂　※アクリル系　・
			外観　※つやあり　・つやなし
			・メタリック

② 所要量の確認 ［4．6．2］

工程ごとの所要量の確認　※改修標準仕様書表４．６．１による
・

③ 既存塗膜等の除去及び下地処理 ［4．6．3］

塗膜はく離材　製造所（　　　　　　　　）
防火材料の指定箇所　（　　　　　　　　）

既存塗膜の劣化部の除去及び下地の処理の工法
※サンダー工法　処理範囲　・既存仕上げ面全体　※図示の範囲
・高圧水洗工法　処理範囲　・既存仕上げ面全体　※図示の範囲
・３０ＭＰａ以上
・５０ＭＰａ以上
・１００ＭＰａ以上
・（　　）ＭＰａ以上
・塗膜はく離剤工法　処理範囲　・既存仕上げ面全体　※図示の範囲
・水洗い工法　処理範囲　※上記処理範囲以外の既存仕上げ面全体
・図示の範囲
下地面の補修　外壁改修フロー及び数量による
下地調整材料　※下地調整塗材
・ポリマーセメントモルタル
・防水形仕上塗材主材

4 マスチック塗材塗り ［4．6．6］［4．7．2］

マスチック塗材塗り
種別　・Ａ種　・Ｂ種

⑤ 建具改修工事

① 改修工法 ［5．1．3］

※かぶせ工法（・カバー工法　・持出工法　）
⊙撤去工法　（⊙はつり工法　・引抜工法　）

2 防火戸 ［5．1．4］

・適用する　図示（・建具表　・平面図　・　　　）

③ 建具見本の製作 ［5．1．5］

※製作しない　・製作する

4 防犯建物部品 ［5．1．7］

5 アルミニウム製建具 ［5．2．2～5］［表5．2．2］

性能等級
外部に面する建具　・Ａ種（建具符号：※建具表による　・　　　）
・Ｂ種（建具符号：※建具表による　・　　　）
・Ｃ種（建具符号：※建具表による　・　　　）
防音ドアセット，防音サッシ　遮音性の等級（・　　　）
（建具符号：・建具表による　・　　　）
⊙適用しない
断熱ドアセット，断熱サッシ　断熱性の等級（・　　　）
（建具符号：・建具表による　・　　　）
⊙適用しない
耐震ドアセット　面内変形追随性の等級（・　　　）
（建具符号：・建具表による　・　　　）
⊙適用しない
枠の見込み寸法　※建具表による　・
表面処理
外部に面する建具　・B-1種　・B-2種　・
皮膜等の種類（※標準仕様書表5.2.2による　・　　）
着色（・アンバー　・ブロンズ　・ブラック系　・ステンカラー）
仕上げ色決めの際は、色見本サンプル提出のうえ監督員との協議により決定すること。
屋内の建具　・C-1種　・C-2種　・
皮膜等の種類（※改修標準仕様書５．２．２による。）
着色（・アンバー　・ブロンズ　・ブラック系　・ステンカラー）
結露水の処理方法　※図示　・
水切り板、ぜん板　※図示　・

6 網戸等 （5．2．3）

種類	材種	線径	網目
・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス(SUS316)製	※0.25mm以上 ・	※16～18メッシュ ・
・防鳥網	ステンレス(SUS304)線材	1.5mm	網目寸法15mm

7 樹脂製建具 ［5.2.2］［5.3.2～5］

性能等級（建具符号：・建具表による　・　　　）
外部に面する面する建具の耐風圧性の等級　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種
防音ドアセット、防音サッシの遮音性の等級　（等級　・Ｔ－１　・Ｔ－２）
断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性の等級
断熱性の等級　・Ｈ－４　・Ｈ－５　・Ｈ－６　・　　）

⑧ 建具用金物 ［5．7．2，3］

金物の種類・見え掛り部の材質等　※改修標準仕様書 表5．7．1及び適用は建具表による
樹脂製建具に使用する丁番　※改修標準仕様書 表5．7．3による
握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置　・建具表による
・錠前類（シリンダー箱錠及びシリンダー本締り錠）
（品質）
デッドボルトの出寸法は17mm以上とする。 鍵付きのものはマスターキー、グランドマスターキー、コンストラクションキーなどのキーシステムが構築できるものとする。
（性能）
使用頻度による 性能
1)（シリンダ箱錠のみ）ラッチボルトの開閉繰り返し試験（40万回）を行った後、ハンドルでの開閉操作力及びラッチングカが試験前の2倍未満であり、動作に支障がない。
2)キーによるデッドボルトの施解錠繰り返し試験（10万回）を行った後、 試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。（シリ ンダ本締り錠のみ）シリンダ単体の施解錠繰り返しの評価は、シリンダ だけの回転トルクが10N·cm以下とする。
3)キーによる施錠機構の施解錠繰り返し試験（10万回）を行なった後、 試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。
4)キーの抜き差し繰り返し試験（10万回）を行なった後、キーの抜き差 しに要する荷重は10 N以下である。また、未使用の合鍵でシリンダが回 転でき、かつ、1箇所1段差浅い刻みをもつ異なるキーでは、シリンダが 回転しないこと。
（キーに加えるトルクは、150N·cmとする）
外力に 対する 性能
1) デッドボルトの押込み強度試験（10 KN）を行なった後、荷重を除い ときのデッドボルトの出寸法は8 mm 以上 であること。
2) デッドボルトの側圧強度試験（10 KN）を行なった際、加圧板がデッドボルトを通過しない。
3) デッドボルトの押込み強度（衝撃荷重）試験（58.8 J）の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態(デッドボルトの突出量が8 mm未満）にならないこと。
4)デッドボルトの側圧強度（衝撃荷重）試験(58.8J)の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態（加圧板過した状態）にならないこと。
5)（シリンダ本締り錠はグレード3以上の彫込錠の場合）ストライクプレートの厚さ1.5 mm 以上のステンレス鋼製としトロヨケは厚さ1.6mm以上の鋼製の一体絞りとする。またはストライクの強度と同等以上の強度を持つものとする。
使用扉の質量に対する性能（シリンダ箱錠のみ）
1) ラッチボルトの側圧強度試験（4 KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドル操作及びラッチングに支障がない。
2) レバーハンドルのねじり強度試験（3.5 KN・cm）を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
3) 握り玉のねじり強度試験（3 KN・cm）を行なった後、トルクを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、施錠時握り玉が固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
4) ハンドルの引張強度試験（2 KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
5) ハンドルの垂直荷重強度試験（2 KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
鍵
1) かぎ（鍵）数は、1.5万以上とする。ただし、異なるキーウェイ形状　であっても、共通のキーセクションが存在する場合は、有効かぎ（鍵）　違い数とみなさないものとする。
2) 同一タンブラーの使用数は、60 % 以下とする。また、6 本タンブ　ラーにおいては、キーの同一刻みは、最大2連続までとしていること。

試験方法は、JIS A 1541-1（建築金物－錠－第１部：試験方法）による。

・錠前類（レバーハンドル）
（性能）
ねじり 強度
レバーハンドルのねじり強度試験（3.5 KN・cm）を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。

引張り 強度
ハンドルの引張強度試験（2 KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドル が正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、 施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。

垂直荷重強度
ハンドルの垂直荷重強度試験（2 KN）を行い、荷重を除いたとき、ハン ドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠 は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。

試験方法は、JIS A 1541-1（建築金物－錠－第１部：試験方法）による。

⑨ 鋼製建具 ［5．2．2］［5．4．2～4］［表5．4．2］

性能等級（建具符号：⊙建具表による　・　　　）
簡易気密型ドアセット　・適用する
⊙適用しない
外部に面する面する建具の耐風圧性の等級　⊙Ｓ－４　・Ｓ－５　・Ｓ－６
防音ドアセット、防音サッシの遮音性の等級　（等級　・　　　）
・適用しない
断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性の等級　（等級　・　　　）
・適用しない
耐震ドアセットの面内変形追従性の等級　（等級　・　　　）
・適用しない

鋼板

材料	めっき付着量	厚さ
⊙JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板）	※Z12又はF12	⊙ 改修標準仕様書表５．４．２による
・JIS G 3317（溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板）	※Y08　・	

10 鋼製軽量建具 ［5．2．2］［5．5．2～4］

性能等級（建具符号：・建具表による　・　　　）
簡易気密型ドアセット　・適用する
・適用しない
防音ドアセット、防音サッシの遮音性の等級　（等級　・　　　）
・適用しない
断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性の等級　（等級　・　　　）
耐震ドアセットの面内変形追従性の等級　（等級　・　　　）
・適用しない
鋼板の厚さ　・改修標準仕様書 表５．５．１による

鋼板

区　分	材　質
鋼板	※亜鉛めっき鋼板　・ビニル被覆鋼板　・カラー鋼板 ・ステンレス鋼板
召合わせ、縦小口包み板、押縁	※鋼板　・

11 ステンレス製建具 ［5．2．2）［5．4．2］［5．6．2～4］

性能等級（建具符号：・建具表による　・　　　）
簡易気密型ドアセット　・適用する
・適用しない
外部に面する面する建具の耐風圧性の等級　・Ｓ－４　・Ｓ－５　・Ｓ－６
防音ドアセット、防音サッシの遮音性の等級　（等級　・Ｔ－１　・Ｔ－２）
・適用しない
断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性の等級　（等級　・Ｈ－４　・Ｈ－５　・　　）
・適用しない
耐震ドアセットの面内変形追従性の等級　（等級　・　　）
・適用しない

鋼板（屋外）　※SUS430JIL、SUS443J1、SUS304　・
鋼板（屋内）　※SUS430、SUS430JIL、SUS443J1、SUS304　・
表面仕上げ　※ＨＬ仕上げ　・鏡面仕上げ　・
ステンレス鋼板の曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ（・a角　・b角　・c角）

5 建具改修工事

・クローザー類
（品質・性能）

区分 / 性能試験項目				① ドアクローザ		② ヒンジクローザ		③ フロアヒンジ	
初期値	閉じ力及び効率による区分（注1）	Grade2	番手	閉じモーメント（N・m）	効率（%）	閉じモーメント（N・m）	効率（%）	閉じモーメント（N・m）	効率（%）
			1	5以上	30以上	5以上	30以上	5以上	30以上
			2	10以上	30以上	10以上	30以上	10以上	30以上
			3	15以上	35以上	15以上	35以上	15以上	35以上
			4	25以上	40以上	25以上	40以上	25以上	40以上
			5	35以上	45以上	35以上	45以上	35以上	45以上
			6	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上
	閉じ速度（秒）			常温（5～35℃）無風状態において、開扉（70¥U+00B0）から全閉（0¥U+00B0）までの時間を5～8秒に調整できること。					
	温度依存性（℃）			緩衝油の流動点は、JIS K 2269(原油及び石油製品の流動点並びに石油製品曇り点試験方法）により測定し、－15℃以下であること。					
	ストップ力（注2）	ストップ入力		60 N·m以下 但し、ｺﾝｼｰﾙﾄﾞ型は200 N·m以下		100 N·m以下		100 N·m以下	
		ストップ解除力		8 N·m以上		3 N·m以上		10 N·m以上	
	バックチェック性能（秒）（バックチェック機能を有する機種のみ適用）			ドア開扉方向に荷重60 N／m2を開扉50°から負荷する。バックチェック開始角度（70～85°)から更に20°まで開く間の時間は0.8秒以上としていること。		－		－	
	ディレードアクション性能（秒）ディレードアクション解除角度（60～75°）（ディレードアクション機能を有する機種のみ適用）			開扉90°の位置からディレードアクション解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。		－		－	
	戸の閉鎖位置（中心吊り込み両自由のみに適用）			－		－		±3mm以内	
耐久性	繰返し開閉後の閉じモーメント（N·m）	Grade2		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	
	繰返し開閉後の効率（%）	Grade2		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	
	繰返し開閉後の閉じ速度（秒）			耐久試験後も上記初期値を満足していること。					
	繰返し開閉後のバックチェック性能（秒）			耐久試験後も上記初期値を満足していること。		－		－	
	繰返し開閉後のディレードアクション性能（秒）			耐久試験後も上記初期値を満足していること。		－		－	
	繰り返し開閉後の戸閉鎖位置（mm）			－		－		耐久試験後±6mm以内	
耐久性の試験回数（繰り返し開閉回数）		Grade2		20万回		10万回		30万回	

注１.ﾊﾟﾗﾚﾙ取付けは、右記の閉じﾓｰﾒﾝﾄの70%程度までとする。
注２.ｺﾝｼｰﾙﾄﾞ型は右記の閉じﾓｰﾒﾝﾄの50%程度までとする。
Grade1を選定する場合は、図示による。

（試験方法）
1）性能試験は、JIS A 1510-3（建築用ドア金物の試験方法－第３部：フロアヒンジ、ドアクローザ及びヒンジクローザ）に規定する試験方法による。
2）試験ドアの質量は、1番手は25kg、2番手は40kg、3番手は60kg、4番手は80kg、5番手は100kg、6番手は120kgとする。

⑫ 鍵 ［5．7．4］

マスターキー　・製作する（　　組）　・製作しない　⊙既存に組込む
鍵箱　・設ける（　　個用　　組）・設けない

13 自動ドア開閉装置 ［5．8．2、3］

自動ドア	性能	防錆	センサーの種類	凍結防止
・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSLD-1 ・DSLD-2	※改修標準仕様書表５．８．１による	・適用する ・適用しない	・マッドスイッチ ・光線（反射）スイッチ ・熱線スイッチ ・音波スイッチ ・電光スイッチ ・電波スイッチ ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・ペダルスイッチ ・多目的トイレスイッチ	・行う （適用箇所は建具表による） ・行わない
・SWD-1 ・SWD-2	※改修標準仕様書表５．８．２による			
・図示				

（品質・性能）
駆動装置・制御装置

項目	品質・性能
作動電圧	定格電圧に対し90%～110%の電圧で作動に異常がない
適用使用周囲温度（℃）	-10℃～40℃
電動機の焼損防止措置	電動機にサーマルプロテクターを内蔵、又は制御装置に保護回路を設置

検出装置（本体センサー、補助センサー）

項目	品質・性能			
作動電圧範囲	定格電圧90 % ～110 % で作動させた時に異常がないこと。			
出力接点容量	有接点		無接点	
	電動機にサーマルプロテクターを内蔵、又は制御装置に保護回路を設置			
	AC 100V	0.3A以上（抵抗負荷）	DC 50V	0.1A以上（抵抗負荷）
	DC 30V	0.3A以上（抵抗負荷）	－	－
	DC 50V	0.1A以上（抵抗負荷）	－	－
応答時間（秒）	0.3以下			
適用使用周囲温度（℃）	－10℃～40℃			

図面縮小率　A2版　100%
図面縮小率　A3版　71%

記事	株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所　登録　１７（１）第０５８７号 管理建築士　1級建築士　登録　第２４８８２５号 1級建築士　車　田　誠	設計年月日　．． ．．	御承認 所長　設計　製図
工事名	旭町住宅１号棟耐震改修等工事(建築主体工事)	設　計　Ｎｏ	図　面　Ｎｏ　A／０３	
図面名	建築改修工事特記仕様書（３）	縮　尺　－		

⑤ 建具改修工事

（試験方法）
（1）応答時間 0.3m／secの早さで移動している標準被試験体が検出範囲に入ってから、ON信号を出力するまでの時間を測定する。
（2）検出範囲
a．ゴムマットスイッチは、直径100mmの鋼製円柱（質量10kg）を不感部を除く全面に静かに置いたとき、確実に作動すること。
b．上部取り付け形の動体検出形は、0.15m／secの速度で、検出範囲に近づけたとき確実に作動すること。
c．上部取り付け形の静止体検出形は、0.05m／secの速度で、検出範囲に近づけたとき、確実に作動すること。
注）取り付け位置などにより、上記によりがたい場合は、当該センサーに適した 方法の試験を行い確実に作動することを確認する。
<試験条件>
（1）無目付センサー又は天井付センサーの検出体及び検出範囲試験は、JIS A 1551の7.6による。
（2）熱線スイッチ・・・被検出体表面温度、33±12℃とし、周辺温度は、被検出体 表面温度より5℃¥U+00B12℃低い値とする。
（3）超音波スイッチ・・・温度－10℃、湿度75%、風速10m／secとする。
（4）試験室の状態は、JIS Z 8703「試験場所の標準状態」の常温、常湿による。
（3）耐放射ノイズ

14 自閉式上吊り引戸装置［5．9．3］

性能 ※改修標準仕様書表５．９．１による
（試験）
（1）耐久性（開閉繰り返し）試験 閉については外力によらず、試験体の自閉装置及び制御装置のみにより戸を開端位置から閉端位置までの作動を確認できる試験を行う。
同試験に用いる試験体は片引戸とし、開口内法有効高さ2,000mm、幅は最大寸法とする。
適用戸総質量の区分毎に試験を行う。自閉装置、制御装置は10万回以上の時点で1回のみ調整を行えるものとし、また、その他の制御装置についてはメーカーの耐久性能試験成績書において2万回以上の耐久性能を確認することで、試験に代えることができるものとする。
（2）耐衝撃性試験 落下高さ17cmにて、ドアの中央部にドアが外れる方向に衝撃を与える。
耐衝撃性試験に用 いる試験体は片引戸、開口内法有効寸法は高さ2,000mm、幅900mmとする。
適用戸総質量の区分毎に試験を行う。
（3）気密性能試験 JIS A 1516「建具の気密性試験方法」による。

15 重量シャッター［5．10．2,3］

シャッターの種類 ・ 管理用シャッター 耐風圧強度（ ）N/㎡
・ 外壁用防火シャッター 耐風圧強度（ ）N/㎡
・ 屋内用防火シャッター
・ 防煙シャッター
防火又は、防煙シャッターは、自動閉鎖装置及び随時閉鎖装置付とし、連動制御盤及び煙感は別途とする
開閉機能による種類 ※上部電動式（手動併用） ・上部手動式
屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構
※改修標準仕様書5.10.2(d)(4)(ⅰ)かつ(ⅲ) ・ 改修標準仕様書5.10.2(d)(4)(ⅱ)かつ(ⅲ)
管理用シャッターのシャッターケース（防火、防煙以外） ※設ける ・設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類 ・ JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板）
・ JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板）
めっきの付着量 ※Z12 又は F12

16 軽量シャッター［5．11．2～4］

開閉形式 ※手動式 ・上部電動式（手動併用）
耐風圧強度 （ ）N／㎡
スラットの材質 ※ＪＩＳＧ３３１２（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）又は、
ＪＩＳＧ３３１８（塗装溶融亜鉛－５%アルミニウム合金鋼板及び鋼帯）
スラットの形状 ※インターロッキング形 ・オーバーラッピング形
シャッターケース ※設ける ・設けない
ガイドレールの材質 ※ステンレス製（ＳＵＳ３０４）厚さ１．０mm（※中柱共 ・ ）
座板（屋外の場合） ※ステンレス製既製品m ・

17 オーバーヘッドドア［5．12．2、3］

セクション材料による区分 ※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ
耐風圧性能 ・５００Ｐａ ・７５０Ｐａ ・１０００Ｐａ ・１２５０Ｐａ ・１７００Ｐａ
開閉形式による区分 ※バランス式 ・チェーン式 ・電動式
収納形式による区分 ・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形
ガイドレールの材質 ※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

18 木製建具（16．7．2～4）

建具材の加工、組立時の含水率 ※Ｂ種 ・
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外 ・
・フラッシュ戸
表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
⊙普通合板	表面の樹種 生地、透明塗料塗り （※ﾗﾜﾝ程度 ・ ） 不透明塗料塗り （※しな程度 ・ ） 板面の品質（ ） 接着の程度（・1類 ・2類）	
・天然木化粧合板	樹種名（ ） 接着の程度（・1類 ・2類）	
・特殊加工 化粧合板	化粧加工の方法 （・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ ・ﾌﾟﾘﾝﾄ ・塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（・1類 ・2類）	

表面板の厚さ ※表16.7.6による ・

・かまち戸
かまち樹種（ ） 鏡板樹種（ ）
見込み寸法 ※36mm ・建具表による ・
・ふすま
張りの種別（・Ⅰ型 ・Ⅱ型）
上張り ・鳥の子 ・新鳥の子又はビニル紙程度 押入等の裏側は雲花紙程度
縁仕上 ・塗り縁 ・生地縁（素地） ・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
見込み寸法 ※19.5mm ・建具表による ・

・戸ぶすま
見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・
・紙張り障子
見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・
枠、くつずりの材料 ・建具表による ・

19 ガラス［3．7］［5．13．2～4］［表5．13．1］

・合わせガラス

材料板ガラスの種類、組合せ	特性による種類
・フロート板合わせガラス ・熱線吸収、フロート板合わせガラス	・Ⅰ類 ・Ⅱ－１類 ・Ⅱ－２類 ・Ⅲ類
・網入磨き、フロート板合わせガラス ・網入磨き、熱線吸収板合わせガラス	・Ⅰ類 ・Ⅱ－１類 ・Ⅱ－２類

・強化ガラス

材料板ガラスによる種類による名称	材料板ガラス	特性による種類
・フロート強化ガラス	・フロート板ガラス	・Ⅰ類 ・Ⅲ類
・型板強化ガラス	型板ガラス	
・熱線反射強化ガラス	熱線反射ガラス	

・熱線吸収板ガラス

材料板ガラスによる種類	性能による種類	色 調
・熱線吸収フロート板ガラス	・１種 ・２種	・グリーン
・熱線吸収網入り磨き板ガラス		

・複層ガラス

種類		記号
・断熱複層ガラス	・１種	Ｕ１
	・２種	Ｕ２
	・３種	・Ｕ３－１ ・Ｕ３－２
・日射熱遮へい複層ガラス	・４種	Ｅ４
	・５種	Ｅ５

・熱線反射ガラス

材料板ガラスによる種類	日射熱遮へい性	耐久性
※熱線反射ガラス 色調（・ブルー ・グレー）	・１種	Ａ類
	・２種	・Ａ類 ・Ｂ類
・高性能熱線反射ガラス 色調（・ブロンズ ・シルバー）	・３種	Ｂ類

反射皮膜面 ・内面 ・外面
映像調整 ・行わない ・行う

・倍強度ガラス

材料板ガラスの種類による名称	材料板ガラス	色 調
・フロート倍強度ガラス	・フロート板ガラス	－
・熱線反射倍強度ガラス		

⑳ ガラス留め材［3．7］［5．13．2］

［表3．7．1］

建具の種類	材 種
鋼製及び構成軽量	※ シーリング材
アルミニウム製	※ シーリング材 ・ ガスケット（グレイジングチャンネル形）
ステンレス製	※ シーリング材
木製	※ シーリング材

防火戸のガラス留め材は、建築基準法に基づく防火性能の認定を受けた条件による

21 ガラスブロック積み［5．13．5］

表面形状	呼び寸法(mm)	厚さ(mm)	色調 クリア	色調 乳白	目地幅(mm) 平積み	目地幅(mm) 曲面積み	伸縮調整目地(mm)	防火性能
・正方形	・125×125	80			※8～15 ・15～25	外側 ※15以下 内側 ※6以上	※6mm以下ごとに幅10～15 ・図示	※無し ・有り
	・160×160	・95 ・125						
	・200×200	・95 ・125						
	・320×320	95						
・長方形	・250×125	80						
	・320×160	95						

曲面積みの曲率半径は、ガラスブロックの幅寸法の10倍以上とする。
壁用金属枠及び補強剤 ・設ける（形状 ※図示 ・ ） ・設けない
力骨 材質 ※ステンレス鋼（SUS304）
寸法 ※径5.5mm
形状 ※はしご形状複筋及び単筋
化粧目地モルタルの色（ ）
金属製化粧カバー 材質 ・ステンレス製 ・アルミニウム製
寸法 ・図示
形状 ・図示
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・１ ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
目地部の力骨補強方法
※ガラスブロック製造所の仕様による ・図示

22 ガラス用フィルム

種 類	記号	張り面	性能による区分	備考
・日射調整フィルム	ＳＣ	※内張り ・外張り	・Ａ ・Ｂ ・Ｃ	遮蔽性能
・ガラス飛散防止フィルム	ＧＳ	※内張り ・外張り	・Ａ ・Ｂ	飛散防止性能
・ガラス貫通防止フィルム	ＳＦ	※内張り ・外張り	・Ａ ・Ｂ	貫通防止性能

品質 ＪＩＳ Ａ５７５９による

23 付属電気設備

自動扉、電動シャッター、電動オーバーヘッドドアの電動機が三相電動機０．４ＫＷ以上の場合は、機器付属の操作盤内に電動機保護用遮断機及び進相用コンデンサーを設置する。

6 内装改修工事

1 他の部位との取り合い等［6．1．3］

・既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁面及び床の改修範囲
※壁厚程度とし、既存に準じた仕上げとする ⊙図示
天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲
※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示

2 既存床仕上げ材の除去等［6．2．2］

・天井の撤去に伴う取り合い部の壁面の改修
※既存のまま ・図示
ビニル床シート等の撤去 ※仕上材のみ（接着剤とも）
・下地モルタルとも（・図示の範囲 ・撤去範囲全て）
合成樹脂塗床材の除去工法 ・機械的除去工法 ・目荒し工法
コンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、4章外壁改修工事による。
改修後の床の清掃範囲
※改修部の端部より１ｍ程度 ・図示

3 表面仕上げ［6．5．1］

表面仕上げの種別	施工箇所
・Ａ種	
・Ｂ種	
・Ｃ種	

4 製 材［6．5．2］

・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材

施工箇所	樹 種	寸法（mm）	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
			※２級 ・		※Ａ種・Ｂ種	

・「製材の日本農林規格」による造作材針葉樹製材

施工箇所	樹 種	寸法（mm）	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
見え掛り面			※上小節		※Ａ種・Ｂ種	
見え掛り面以外			※上小節以上		※Ａ種・Ｂ種	
					※Ａ種・Ｂ種	

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	樹 種	寸法（mm）	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
			※１等 ・		※10%以下 ・Ａ種・Ｂ種	

・「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	樹 種	寸法（mm）	材面の品質	防虫処理	難燃処理	含水率	間伐材等の適用
			（ ） 造作材の場合 （※Ａ種 ・Ｂ種）	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	※Ａ種 ・Ｂ種	

・代用樹脂を使用できない箇所（ ）

5 造作用集成材［6．5．2］

ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の品質	間伐材等の適用
			※１等	・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：			※１等 ・２等	・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：			・

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
				※15%以下	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の品質	化粧薄板の厚さ(mm)	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下	・

6 造作用単板積層材［6．5．2］

ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・
「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

施工箇所	厚さ(mm)	表面の化粧加工	防虫処理	間伐材等の適用
		・有り（加工 ・天然木化粧加工・塗装加工） ・無し（等級： ）	・適用する ・適用しない	・

「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

施工箇所	厚さ(mm)	表面の品質	防虫処理	含水率※14%以下	間伐材等の適用
		・有り （加工・天然木化粧加工・塗装加工） ・無し（ ）	・適用する ・適用しない		・

7 床張り用合板等［6．5．2］

ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・
・普通合板

施工箇所	厚さ(mm)	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	難燃処理	防炎処理	間伐材等の適用
	※5.5		※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上 ・1等 針葉樹 ※C-D以上	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	・

・構造用合板

施工箇所	厚さ(mm)	等級	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	有効断面係数比	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用
	※12	※2級以上 ・1級		※１類 ・特類	※C-D以上		・適用する ・適用しない	・適用する （ ） ・適用しない	・

・パーティクルボード

施工箇所	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分
・図示による	※15 ・12		※13タイプ	※P又はM	

・構造用パネル

施工箇所	厚さ(mm)	等級
		・１級 ・２級 ・３級 ・４級

8 防腐防蟻処理［6．5．5］

・防腐防蟻処理が不要な樹種による製材
適用部位：（ ）

・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部位	保存処理性能区分
	・Ｋ２ ・Ｋ３ ・Ｋ４

・薬剤の塗布等による防腐防蟻処理

適用部位	処理の方法
	※改修標準仕様書6.5.5(a)(ⅲ)②ｱ～ｴによる
	※改修標準仕様書6.5.5(a)(ⅲ)②ｱ～ｴによる
	※改修標準仕様書6.5.5(a)(ⅲ)②ｱ～ｴによる

・ボード原料接着剤への薬剤混入による防腐防蟻処理
適用部位（ ）

9 ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル［6．8．2、3］

ビニル樹脂系材料の原材料
再生ビニル樹脂系材料の合計重量が製品の総重量比で１５%以上使用されていること。
（ＪＩＳ Ａ ５７０５（ビニル系床材）に規定されるビニル系床材の種類で記号ＰＦに該当するものを除く）
⊙ビニル床シート

種類	記号	色柄	厚さ（mm）	工法
※発泡層のないもの	※ＦＳ	※プレーン ・マーブル ・特殊柄	・２．０ ※２．５	・突付け ※熱溶接
⊙発泡層のあるもの		・プレーン ・柄物		

・ビニル床タイル

種類	記号	厚さ（mm）	柄
・複層ビニル床タイル	ＦＴ	※２．０	※プレーン ・マーブル ・特殊柄
・置敷きビニル床タイル	ＦＯＡ	※４．０以上	
・コンポジション	ＫＴ	※２．０	

・特殊機能床材（帯電防止）

種類	記号	厚さ（mm）	備考
・帯電防止床シート	ＦＳ	※２．０ マーブル	帯電防止性能評価値（ＪＩＳ Ａ１４５５） １．２以上～３．２未満
・帯電防止床タイル （置敷きビニル床タイル）	ＦＯＡ	※４．０以上 マーブル	又は体積電気抵抗値（ＪＩＳ Ａ１４５４） $1 \times 10^{7} \sim 10^{10}$Ω程度

・特殊機能床材（帯電防止以外）

種類	厚さ（mm）	寸法（mm）	材料	色柄
・誘導用床材、注意喚起用床材 （表面形状 ＪＩＳ Ｔ９２５１）	２．０	・３００ｘ３００	※塩ビ ・合成ゴム	黄色
		・４００ｘ４００	合成ゴム	

ビニル巾木の高さ（mm） ※６０ ・７５ ・１００
厚さ（mm） ※１．５ ・２．０ ・
材質 ※軟質 ・硬質

10 ゴム床タイル

色柄 （ ）
厚さ(mm) ・3.0 ・4.5 ・6.0 ・9.0
寸法(mm)（ ）

11 接 着 剤

接着剤は可塑剤（難揮発性の可塑剤を除く）が添付されていないものとする。
接着剤のホルムアルデヒド放散量
※ 規制対象外 ・
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別
・ 図示

12 カーペット敷き［6．9．3～4］［表6．9．1］

・織じゅうたん

種別	パイル形状	織り方	色柄等	帯電性	備考
・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種	・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ ・ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ ・ｶｯﾄ、ﾙｰﾌﾟ併用	・ｳｨﾙﾄﾝ ｶｰﾍﾟｯﾄ ・ﾀﾞﾌﾞﾙﾌｪｰｽｶｰﾍﾟｯﾄ ・ｱｷｽﾐﾝｽﾀｰ ｶｰﾍﾟｯﾄ	・無地 ・柄物 （標準品）	・適用する （性能： ※人体帯電圧 3kv以下 ・ ） ・適用しない	

・ タフテッドカーペット

パイル形状	ﾊﾟｲﾙ長さ（mm）	工法	帯電性	備考
・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ	・5～7 ・	※全面接着工法 ・ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ 工法	・適用する （性能： ※人体帯電圧 3kv以下 ・ ） ・適用しない	
・ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ	・4～6 ・			
・ﾚﾍﾞﾙﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ	・4 ・			
・ｶｯﾄ、ﾙｰﾌﾟ併用	・			

下敷き材(グリッパー工法の場合)
※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号 呼び厚さ 8mm ・
・ニードルパンチカーペット
厚さ（mm）（ ）帯電性 ・適用する（性能：※人体帯電圧3kv 以下 ・ ）・適用しない
備考（ ）
・タイルカーペット

パイル形状	種別	施工箇所	寸法	総厚さ（mm）	備 考
※ ループパイル	※ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500	※ 6.5	
・ カットパイル	・ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500	※ 6.5	
・ カット・ループ併用	・ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500	※ 6.5	

タイルカーペットの敷き方 平 場 ※市松敷き ・模様流し ・
階段部分 ※模様流し ・市松敷き ・
見切り、押え金物 ・適用する（材質、形状等 ※図示 ・ ）・適用しない

13 合成樹脂塗床

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ウレタン樹脂系塗床			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 エポキシ樹脂系塗床		・薄膜流し展べ 工法 ・厚膜流し展べ工法 ・樹脂モルタル工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材			
・アクリル樹脂塗床 （JIS K 5970）			工程 塗布量（ｋｇ/m2） 塗布回数（回） ・ （ｋｇ/m2） （回） 表面仕上げ ・平滑 ・防滑 溶剤 ・水性色・溶剤系・無溶剤系 仕上げ色 ・標準色・

塗料のホルムルデヒド放散量 ※規制対象外

14 フローリング張り［6．11．2～6］［表 6．11．1～5］

単層フローリング

種類	工法	樹種	厚さ(mm)	大きさ	仕上塗装	間伐材等の適用
・ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ1等	・釘留め工法 （根太張り）	※ なら ・	15	板幅75 板長さ500以上	・ 塗装品 ・ 無塗装品	
	・釘留め工法 （直張り）	※ なら ・	・12以上 ・	板幅75 板長さ300以上		
	・接着工法	※ なら ・	・12以上 ・	板幅75 板長さ300以上		
・ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ1等	・接着工法	※ なら ・	15	303×303	・ 塗装品 ・ 無塗装品	
	・モルタル埋込 工法	※ なら ・	※15 ・	※303×303 ・	・ 塗装品 ・ 無塗装品	
・ ﾓｻﾞｲｸﾊﾟｰｹｯﾄ1等	接着工法	・	・	・	・ 塗装品 ・ 無塗装品	

複合フローリング

種類	工法	樹種	厚さ/大きさ(mm)	種別	防湿処理	塗装仕上げ	間伐材等の適用
⊙天然木化粧複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	⊙釘留め工法 （根太張り） ・釘留め工法 （直張り）	※なら ・		・A種 ・B種 ※C種	・適用する ⊙適用しない	⊙塗装品 ・無塗装品	
	・接着工法	※なら ・	板厚 ・8以上・ 板幅 ・75以上・ 板長さ 900以上				

フローリング及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※ 規制対象外
接着工法の場合の裏面緩衝材 ※合成樹脂発泡シート
現場塗装仕上げ ・行う（施工箇所 ）
※ウレタン樹脂ワニス塗り ・オイルステインの上、ﾜｯｸｽ塗り
・生地のままﾜｯｸｽ塗り ・行わない

図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

設計に緑を

記事	株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	１級建築士事務所 登録 １７（１）第０５８７号 管理建築士 1級建築士 登録 第２４８８２５号 １級建築士 車 田 誠	設計年月日 . . / . .
御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅１号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 建築改修工事特記仕様書（４）	設 計 Ｎｏ 縮 尺 －	図 面 Ｎｏ Ａ／０４

⑥ 内装改修工事

15 畳敷き
［6．12．2］
［表 6．12．1］

種別　・A種　・B種　・C種　・D種（畳床：・KT-Ⅰ・KT-Ⅱ・KT-Ⅲ・KT-K・KT-N）
下地の種類　・標準仕様書　表12.6.1による床組
・ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン）
・
畳表及び畳床にはホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

16 モルタル塗り

既製目地材　・設ける　施工場所（　図示　）　形状（※図示　・　）
・設けない

床目地材　・設ける　工法（※押し目地　・　）
・設けない
（品質・性能）

項目	品質・性能
防水剤の種別	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤
混合割合	セメント重量の5%以下
凝結及び安定性	（凝結）JIS R 5201「セメントの物理試験方法」の8の規定によって行う。 凝結時間　始発：1時間以上　終結：10時間以内 （安定性）JIS R 5201「セメントの物理試験方法」の9の規定によって行い、収縮性、膨張性のひび割れ及びそりについて観察する。 70%以上 95%以下 80%以下
曲げ及び圧縮強度比	70%以上
吸水比	95%以下
透水比	80%以下

17 既製調合モルタル
［6．15．4］

モルタル下地とたたいたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
品質性能等
保水率：７０%以上
単位容積質量：1.8kg/L以上
接着強さ：標準時　0.6N/mm^2 以上、温冷繰り返し後　0.4N/mm^2 以上
長さ変化率：0.2%以下
曲げ強さ：4.0N/mm^2 以上
試験方法
イ）試料の調製
製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算し、所定量の試料とする。
練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の9.1に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。
ロ）保水率
JIS R 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定するみがき板ガラス（ 縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P 3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 A ろ紙（直径11cm）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、（1）で調製した試料を平滑に詰込む。
その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。 60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。
試験は３回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率=50／平均値×100　　（注）　50：リング型わくの内径　mm
ハ）単位容積質量
JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。

ニ）標準時の接着強さ
1．適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B（規定）及び推奨仕様B-1に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形のⅠ類（施ゆう）「50角ユニットタイル（外のりサ法約300mm×300mm）」を圧着する。
その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.9付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。（全てが0.6N/mm2以上）
2．適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B（規定）及び推奨仕様B-1に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（1）で 調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形のⅠ類（施ゆう）「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。
その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。
ホ）温冷繰返し後の接着強さ
（試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々（4）接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。
（温冷繰返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10温冷繰返し試験に準じて行う。
試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に188時間浸せきした後、直ちに－20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±2℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を１サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び剥れの有無を目視によって調べる。
（温冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てが0.4N/mm^2 以上）
ヘ）長さ変化率
JIS A 6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂」9.9 長さ変化率に準ずる。
ト）曲げ強さ
JIS A 6916「建築用下地調整塗材」7.11 曲げ強さ試験に準ずる。

18 既製調合目地材
［6．15．4］

（品質・性能）

項目	
保水率	30.0%以上
長さ変化率	0.2%以下（収縮）
吸水量	50g以下
単位容積質量	1.0kg/L以上

（試験方法）
（1）試験の条件 試験室は、温度20±2℃、湿度65±5% RHの標準状態とする。また、試験に使用する材料、器具などを、予め24時間以上標準状態に置いた後使用する。
（2）試料の調整 正味質量と標準練り上がり量より、1.0～1.2倍の試料を練り上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準加水量より用意した材料に相当する量の練り混ぜ水を計算して用意する。 練り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」10.1に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し3分間練り混ぜて試料とする。
（3）保水性（ろ紙法） JIS R 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦200mm、横200mm、厚さ5mm）の上にJIS P 3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 A ろ紙（直径18.5ｃｍ）をのせ、その中央部に真鍮製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、２）で練り混ぜた試料を金ベらで平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当て上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。10分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて１mmまで測定する。 試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率（%）＝50／平均値×100 注）50：リング型わくの内径（mm）
（4）単位容積質量 （2）で練り混ぜた試料を、JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の6.3に規定する方法で求める。
（5）長さ変化率 （2）で調整した試料を用いてJIS A 1171の7.6長さ変化率試験に従って行う。
（6）吸水量 （3）で調整した試料を用いてJIS A 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」10.に規定する方法で24時間の吸水量を求める。試験体数は3個とし、その平均値とする。

設計に緑を

⑥ 内装改修工事

19 タイル張り
［6．16．2～4］

伸縮調整目地の位置　床タイル　（※縦、横とも4m以内ごと　・図示　・　）
床タイル以外　（・図示　・　）
・セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り
タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状/寸法(mm)	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	再生材の適用	耐凍害性 有	無	耐滑り性	備考

耐滑り性：JIS A 1509-12(セラミックタイル試験方法-第12部：耐滑り性試験方法)で規程する
C.S.R値は0.4～1.0とする。
標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り　・行う　○行わない
見本焼き　・行う　○行わない
・既製調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
（品質・性能・試験方法）
6章 既製調合モルタルによる
・既製調合目地材
（品質・性能・試験方法）
6章 既製調合目地材による
・接着剤による陶磁器質タイル張り
タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状/寸法(mm)	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	再生材の適用	耐凍害性 有	無	耐滑り性	備考

耐滑り性：JIS A 1509-12(セラミックタイル試験方法-第12部：耐滑り性試験方法)で規程する
C.S.R値は0.4～1.0とする。
標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り　・行う　・行わない
見本焼き　・行う　・行わない
内装壁タイル接着材張りに使用する有機質接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・
20 セルフレベリング材塗り
［6．17．2、3］
21 床用防塵塗料塗り
22 壁紙張り
［6．14．2、3］

施工箇所	壁紙の種類 紙	織維	ﾌﾞﾗｽﾁｯｸ	無機質	その他	防火性能 ※不燃	・準不燃	・難燃	備考

モルタル・プラスター面の下地調整　※RB種
コンクリート・ALC面の下地調整　※RB種
せっこうボード面の下地調整　※RB種

23 断熱材打ち込み工法
（フロンを使用しないもの）
（19．9．2）

材種		
※押出法ポリスチレンフォーム保温材	2種b	※25　・20
※押出法ポリスチレンフォーム保温材（接地部分）	3種b	※25　・20
・硬質ウレタンフォーム保温材A種	1種2号	・25　※20
・フェノールフォーム保温材A種	1種2号	・25　※20

断熱材補修材　・断熱材と同材
・吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材（次項による）
上記保温材はフロンを含まないものとする
24 断熱材現場発泡工法
（19．9．3）
吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材　種類　※A種１　・B種１　厚さ　mm　難燃性　※3級
上記保温材はフロンを含まないものとする
25 軽量鉄骨天井下地
野縁等の種類　屋外　※２５型　・
屋内　※１９型　・２５型
屋外の軒天井、ピロティ天井等は、建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法とする
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔　・図示　・
周辺部の端からの間隔　・図示　・
野縁の間隔　・図示　・
既存の埋込みインサート　・使用する　○使用しない
あと施工アンカーの引抜き試験　・行う（・屋外の試験荷重：　）・行わない
・吊りボルトの間隔が900mmを超える場合
補強方法　※図示　・
・天井のふところが1.5m以上3.0m以下の場合
補強方法 ※標準仕様書14.4.4(h)(1)～(2)による　・図示
・天井のふところが3.0mを超える場合
補強方法　※図示　・
・天井下地材における耐震性を考慮した補強
補強箇所　・図示　・
補強方法　※図示　・
26 軽量鉄骨壁下地
形状及び寸法
※標準仕様書表６．７．１のスタッドの高さによる区分　・
27 せっこうボードその他ボード及び合板張り
［6．13．2、3］

種類	JIS記号	厚さ（mm），規格等
・硬質木毛セメント板	HW	・15　・20　・25　・
・中質木毛セメント板	MW	・15　・20　・25　・
・普通木毛セメント板	NW	・15　・20　・25　・
・硬質木片セメント板	HF	・12　・15　・18　・21　・
・普通木片セメント板	NF	
・けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ2（無石綿）　・6　・8
・化粧けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ2（無石綿）　※6
・ロックウール化粧吸音板	DR	・フラットタイプ（・9(不燃)○12(不燃)　・　） ・凹凸タイプ（・12(不燃)・15(不燃)　・　）
・ロックウール吸音ボード1号	RW-B	・25　・
・グラスウール吸音ボード号32K	GW-B	・25（ガラスクロス包）　・15(不燃)
・せっこうボード	GB-R	※12.5(不燃)　・15(不燃)
・不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5(不燃)　・化粧無(下地張り用) ・化粧有(ﾄﾗﾊﾞｰﾝ模様)
・シージングせっこうボード	GB-S	12.5　(※不燃　・準不燃)
・強化せっこうボード	GB-F	・12.5(不燃)　・15(不燃)
・せっこうラスボード	GB-L	9.5
・化粧せっこうボード（木目）	GB-D	12.5(不燃)幅440mm程度 模様（・柾目　・板目）専用下地材有り
・化粧せっこうボード（ﾄﾗﾊﾞｰﾝ模様）	GB-D	9.5(準不燃)
・普通合板		表面の樹種 生地、透明塗料塗り（※ラワン程度　・　） 不透明塗料塗り（※しな程度　・　） 板面の品質（　）　厚さ(mm)　（　） 接着の程度（・1類　・2類　） ・防虫処理

⑥ 内装改修工事

・天然木化粧合板		化粧板の樹種名（　） 接着の程度（・1類　・2類） 厚さ(mm)　（　） ・防虫処理	
・特殊加工化粧合板		化粧加工の方法（・オーバーレイ・プリント・塗装） 表面性能（　）タイプ 接着の程度（・1類　・2類） 厚さ(mm)　（　） ・防虫処理	
・メラミン樹脂化粧板		JIS K 6903による（※1.2　・　）	
・ポリエステル樹脂化粧板			
・ミディアムデンシティファイバーボード	MDF	・3　・7　・9　・12　・	
・単板張りパーティクルボード		・無研磨板ＶＮ　・研磨板ＶＳ ・10　・12　・15　・18　・	
・化粧パーティクルボード		・単板オーバーレイＤＶ　・塗装ＤＣ ・プラスチックオーバーレイＤＯ ・10（難燃）・12（難燃）	
・ハードボード（素地）	ＨＢ	・未研磨板（・スタンダード・テンパード）ＲＮ ・研磨板（・スタンダード・テンパード）ＲＳ	
・ハードボード（化粧）	ＨＢ	・内装用ＤＩ　・外装用ＤＥ ・2.5　・3.5　・5　・7　・	
・インシュレーションボード	ＩＢ	Ａ級（・天井仕上・内装仕上　・　） ・9　・12　・15　・18　・	

せっこうボード等の下地は図示による。
軽量鉄骨下地ボード遮音壁に用いる遮音シール材
※シーリング材　・ジョイントコンパウンド
合板類、ＭＤＦ及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・
合板類の張付け　※B種　・A種
せっこうボードの目地工法　・仕上げ表による
ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外

28 メラミン樹脂化粧板　JIS K 6903規格品
厚さ　・1．0　※1．2　・1．6
29 浴室天井材　準不燃認定品
製造所
見切縁、水切りは特記製造所の仕様による

⑦ 塗装改修工事

1 材料
［7．1．3］
屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外
防火材料　※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする
・次の箇所を除き防火材料とする（・　）

2 既存塗膜の除去
［7．2．1］
塗替え種別がＲＢ種の場合の既存塗膜の除去範囲
※塗替え面積の３０%

3 下地調整
［7．2．1～7］

	塗替え	新設	ひび割れ部の補修
木部	（※ＲＢ種　・　）	（・ＲＡ種　・ＲＢ種）	
鉄鋼面	（※ＲＢ種　・　）	（※ＲＡ種　・　）	
亜鉛めっき鋼面	（※ＲＢ種　・　）	（※ＲＡ種　・　）	
亜鉛めっき鋼面（鋼製建具）	（※ＲＢ種　・　）	（※ＲＣ種　・　）	
モルタル面、プラスター面	（※ＲＢ種　・　）	（・ＲＡ種　○RB種）	（・行う　・行わない）
コンクリート面（DP以外） ALCパネル面	（※ＲＢ種　・　）	（※ＲＡ種　・　）	（・行う　・行わない）
コンクリート面（ＤＰ）、押出成型セメント板面	（・　）	（※ＲＡ種　・　）	（・行う　・行わない）
せっこうボード面、その他ボード面	（※ＲＢ種　・　）	（○ＲＡ種　・RB種）	

4 錆止め塗料塗り
［7．3．2～3］

塗装面		塗料	工程
鉄鋼面	EP-G以外	塗替え	※A種　・
		新規鉄鋼面見え掛り	※A種
		新規見え隠れ	※A種
	EP-G	塗替え	※B種
		新規鉄鋼面見え掛り	※B種
		新規見え隠れ	※B種
亜鉛めっき鋼面	EP-G以外	塗替え	※A種　・
		新規鉄鋼面	※A種　・
	EP-G	塗替え	※C種
		新規鉄鋼面	※C種

⑤ 仕上げ塗料塗り
［7.4.2～7.15.2］

塗装の種類	塗装面	工程 塗替え	新規
・合成樹脂調合ペイント塗り（ＳＯＰ） 塗料の種別　※1種　・2種	木部外部	※B種　・	※A種　・
	木部内部	※B種　・	※B種　・
	鉄鋼面	※B種　・	・A種　※B種
	亜鉛めっき鋼面（鋼製建具以外）	※B種　・	※B種　・
	亜鉛めっき鋼面（鋼製建具）	※A種　・	※B種　・
・クリアラッカー塗り　（ＣＬ）	木部	・A種　※B種	・A種　※B種
・フタル酸樹脂エナメル塗り（ＦＥ）	屋内木部	表7．6．1	
	鉄鋼面	表7．6．2	
	亜鉛めっき鋼面	表7．6．3	
・アクリル樹脂系非水分散系塗料塗り（ＮＡＤ）	屋内のｺﾝｸﾘｰﾄ面・モルタル面	・A種　※B種	・A種　※B種
○耐候性塗料塗り　（ＤＰ） 上塗り等級 ・1級 ・2級 ・3級	鉄鋼面 上塗り ・１級 ・２級 ○３級	・A種　○B種 ・C種	※A種
	亜鉛めっき鋼面 上塗り ・１級 ・２級 ・３級	・A種　・B種 ・C種	※A種
	コンクリート面	・A－１種 ・B－１種 ・C－１種	・A－２種 ・B－２種 ・C－２種
	押出成形セメント板面	・A－１種 ・B－１種 ・C－１種	・A－２種 ・B－２種 ・C－２種
・つや有り合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ－Ｇ）	屋内木部	※B種　・	※A種
	屋内鉄鋼面	※B種　・	・A種　・B種
	屋内亜鉛めっき面	※B種　・	・A種　・B種
	コンクリート面	※B種　・	・A種　・B種
	モルタル面	※B種　・	・A種　・B種
	プラスター面	※B種　・	・A種　・B種
	せっこうボード面	※B種　・	・A種　○B種
・合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ）	塗装面	※B種　・	・A種　※B種
	コンクリート面	※B種　・	・A種　※B種
	モルタル面	※B種　・	・A種　※B種
	プラスター面	※B種　・	・A種　※B種
	せっこうボード面	※B種　・	・A種　※B種

⑦ 塗装改修工事

・合成樹脂エマルション模様塗料塗り（ＥＰ－Ｔ）	屋内ｺﾝｸﾘｰﾄ面 モルタル面 プラスター面 せっこうボード面	・A種　※B種 ・C種	・A種　※B種
・ウレタン樹脂ワニス塗り　（ＵＣ）	木部	・A種　※B種	・A種　※B種
・ラッカーエナメル塗り　（ＬＥ）	木部	・A種　※B種	・A種　※B種
・オイルステイン塗り　（ＯＳ）	木部		
・木材保護塗料塗り　（ＷＰ）	木部	・A種　※B種	・A種　※B種

合成樹脂調合ペイント塗りの塗料の種別　※１種　・
つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面、その他ボード面）の塗替えの場合のしみ止め
※改修標準仕様書表7.9.1の工程１の下塗りをしみ止めシーラーとする　・
合成樹脂エマルションペイント塗りの塗替えの場合のしみ止め
※改修標準仕様書表7.10.1の工程１の下塗りをしみ止めシーラーとする　・
・高日射反射率塗料塗り
下地調整（改修標準仕様書表7.2.2）　・ＲＡ種　・ＲＢ種　・ＲＣ種
塗料その他　JIS K5675（屋根用高日射反射用塗料）２種　等級　・１種　・２種　・３種
塗付け量は、塗料製造所の仕様による

⑧ 環境配慮改修工事

1 アスベスト含有建材の除去工事
［9．1．1．3～5］

施工調査
・アスベスト含有建材の事前調査
工事着手に先立ち、目視及び貸与する設計図書等によりアスベストを含有している吹付け材、成形板、建築材料等の使用の有無について調査する。
調査範囲（・改修に係る箇所　・図示　）　貸与資料（　）
・分析によるアスベスト含有建材の調査
分析対象
アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トレモライト
分析方法
※ＪＩＳ　Ａ１４８１「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による
・
分析結果については、監督職員に報告すること

材料名	定性分析（JIS A 1481-2）	定量分析（JIS A 1481-3）
	・（箇所数：　）	・（箇所数：　）
	・（箇所数：　）	・（箇所数：　）
	・（箇所数：　）	・（箇所数：　）

サンプル数　１箇所あたり３サンプル　採取箇所　・図示　・

アスベスト粉じん濃度測定
測定時期、場所及び測定点

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点（各施工箇所ごと）
	測定１	処理作業前	処理作業室内	・各１点　・各２点　・各３点
	測定２		調査対象室外部の付近	・各１点　・各２点
	測定３	処理作業中	処理作業室内	・各１点　・各２点　・各３点
	測定４		負圧・除塵装置の排出	出口吹出し風速１ｍ／ｓｅｃ以下
			吹出し口	の位置　・各１点　・各２点
	測定５		処理作業室外（敷地境界）	・計１点　・４方向各１点
	測定６	処理作業後（シート養生中）	処理作業室内	・各１点　・各２点
	測定７	処理作業後	処理作業室内	・各１点　・各２点　・各３点
	測定８	（シート撤去後１週間以降）	調査対象室外部の付近	・各１点　・各２点

測定方法

	測定３	測定１，２，４，６，７，８	測定５
メンブレンフィルタ直径（mm）	２５	２５	４７
試料の吸引流量（Ｌ／ｍｉｎ）	・１　・	・５　・	・１０　・
試料の吸引時間（ｍｉｎ）	・５　・	・１２０　・	・２４０　・

採取箇所は図示
アスベスト含有建材の処理
・アスベスト含有吹付け材の除去
除去対象範囲　※図示
除去工法　※改修標準仕様書９．１．３（ｂ）（１）による
・
除去したアスベスト含有吹付け材等の飛散防止　※密封処理（※湿潤化　・セメント固化）
除去したアスベスト含有吹付け材等の処分
当該工事により発生する石綿を含む廃棄物は、下記の処分先を見込んでいる。
処分場所（　）　運搬距離（　）
受入条件（※平日受入　・　）
・埋立処分（管理型最終処分場）　・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）
なお、工事発注後に明らかになったやむをえない事情により、上記の指定によりがたい場合は、監督職員と協議すること。
・アスベスト含有保温材等の除去
除去対象範囲　※図示
作業場の隔離　・行う
除去したアスベスト含有保温剤の処分
除去したアスベスト含有吹付け材等の処分による
・アスベスト含有成形板の除去
除去対象範囲　※図示
除去したアスベスト含有成形板の処分
当該工事により発生する石綿を含む廃棄物は、下記の処分先を見込んでいる。
処分場所（　）　運搬距離（　）
受入条件（※平日受入　・　）
・アスベスト含有石こうボード
※埋立処分（管理型最終処分場）
・アスベスト含有せっこうボードを除くアスベスト含有成形板
・埋立処分（安定型最終処分場）　・　中間処理（溶融施設）
なお、工事発注後に明らかになったやむをえない事情により、上記の指定によりがたい場合は、監督職員と協議すること。

・アスベスト含有仕上塗材等（下地調整塗材も含む）の除去
除去対象範囲　※図示
作業場の隔離　※行わない　・行う
試験施工　※行わない　・行う
除去工法　※石綿障害予防規則（平成十七年二月二十四日厚生労働省令第二十一号）第６条による措置と同等以上の効果を有する措置とされる工法
除去工法　・（　）
除去したアスベスト含有仕上塗材等の処分
当該工事により発生する石綿を含む廃棄物は、下記の処分先を見込んでいる。
処分場所（　）　運搬距離（　）
受入条件（※平日受入　・　）
・埋立処分（・安定型最終処分場・管理型最終処分）
・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）
なお、工事発注後に明らかになったやむをえない事情により、上記の指定によりがたい場合は、監督職員と協議すること。

2 外断熱改修工事
［9．3．2～4］

断熱材

種類		厚さ（mm）
・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材		
・押出法ポリスチレンフォーム保温材（スキンなし）	・保温板（2種b）	
	・保温板（3種b）	
・A種硬質ウレタンフォーム保温材		
・フェノールフォーム保温材（３種２号を除く）		
・ロックウール		
・グラスウール		

断熱材の種類　（　）　断熱材の厚さ　（　mm）
施工箇所　・図示　・
ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・

図面縮小率　A2版　100%
図面縮小率　A3版　71%

記事	株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 １７（１）第０５８７号 管理建築士 1級建築士 登録 第２４８８２５号 1級建築士 車田 誠	設計年月日 ．． ．．	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅１号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 建築改修工事特記仕様書（５）	設計 No 縮 尺 －	図 面 No A／０５

8 環境配慮改修工事

外装材

種類	防火性能	備考

既存外壁の措置
既存外壁仕上げ材の撤去　・あり　・なし
下地面の清掃　・行う　・行わない
欠損部の改修工法　・改修標仕4.1.4による　・
工法
通気層の有無　・あり（　mm）　・なし
断熱材の施工　※断熱材製造所の仕様による　・
外装材の施工　・外装材製造所の仕様による　・
建築基準法に基づき定まる風圧力（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法

3 ガラス改修工事［9．4．2］

複層ガラス

品類	断熱性	日射熱遮へい性	厚さ
・断熱複層ガラス	・１種	Ｕ１	・図示
	・２種	Ｕ２	・
	・３種	・Ｕ３－１　・Ｕ３－２	

4 断熱・防露改修工事材［9．5．2～3］

断熱材のホルムアルデヒト放散量　※規制対象外　・第三種
・断熱材打込み工法

種類	種類	厚さ（mm）	施工箇所
・ビーズ法			
ポリスチレンフォーム断熱材			
・押出法	・保温板（２種ｂ）	・２５　・	
ポリスチレンフォーム断熱材	・保温板（３種ｂ）	・２５　・	土間
（スキン層なし）	・		接地部分
・硬質ウレタンフォーム断熱材			
・フェノールフォーム断熱材			

・断熱材現場発泡工法
断熱材の種類　※Ａ種１　・Ｂ種１
厚さ（mm）　・２５　・３０
施工箇所　※窓回り等の断熱材補修部分、ルーフドレン回りの床版下等、部分的に後張りとしなければならない箇所
・図示
・

・現場発泡断熱材
品質性能等
難燃性　下記のいずれかによっていること
1）JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。
2）法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験（コーンカロリー試験）に適合していること。
発熱性　準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の１）～３）に適合していること。
1）総発熱量が8ＭＪ／㎡以下であること。
2）防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。
3）最高発熱速度が、10秒以上継続して200ＫＷ／㎡を超えないこと。
（試験方法）
イ．原液試験（原液粘土試験）
JIS K 7117-1「プラスチック－液状、乳濁状又は分散状の樹脂－ブルックフィールド形回転粘度計による見掛け粘度の測定方法」による。
ロ．発砲品試験
1）試料の作成は、JIS A 9526「建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム」の6.2.1による。
2）試料の状態調節は、JIS A 9526の6.2.2による。また、試験片の作成はJIS A 9526の6.2.3による。
3）試験片の状態調節及び試験場所は、JIS A 9526の6.2.4による。
ハ．圧縮強さ試験
JIS A 9526の6.2.5により、測定はJIS K 7220「硬質発泡プラスチック－圧縮特性の求め方」による。
ニ．熱伝導率試験
JIS A 9526の6.2.6により、JIS A 1412-1「熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法－第１部：保護熱板法（GHP法）」又はJIS A 1412-2「熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法－第２部：熱流計法（HFM法）」によって、平均温度（23±2）℃、高温板と低温板の温度差（25±5）℃で熱伝導を測定する。
ホ．接着強さ試験
JIS A 9526の6.2.7による。
ヘ．透湿率試験
JIS A 9526の6.2.8により、測定はJIS A 1324「建築材料の透湿性測定方法」又はJIS K 7225「硬質発泡プラスチック－水蒸気透過性の求め方」による。
ト．難燃性の表面加熱試験
JIS A 1321に規定する試験方法に準じる。
チ．発熱性試験
建築基準法に基づく指定性能評価機関が準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している試験方法に準じる。
・断熱材後張り工法
断熱材の種類　（　）
断熱材の厚さ　（　mm）

5 屋上緑化改修工事［9．6．2、3］

植栽基盤及び材料
・屋上緑化軽量システム
芝及び地被類の樹種並びに種類等　※図示　・
見切材、舗装材、水抜穴、マルチング材等　※図示　・

品質性能等
透水、排水層等構成材の主要材質は、合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。（保水層を有する場合は、保水層共）
透水層は、目詰まりにより植物の生育に支障を生じることがなく、植え込み用土を流出させない構造であること。
排水層は、植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び植込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。
排水層の鉛直方向の排水性能：240Ｌ／㎡/h以上
耐荷重性能（排水層の許容圧縮強度）は、3×10^4 Ｎ／㎡以上の載荷重で破損・有害なひずみなど異常のないこと。（保水層を有する場合は保水層共）また、一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。
耐根層は、重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して３年以上の耐根性能を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。
耐根層保護層の材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護するものであること。ただし耐根層を保護コンクリート（絶縁シートも含む）の下に設ける場合は省略することができるものとする。
（試験方法）
イ．排水基盤の耐荷重性能
1）3×10^4 Ｎ／㎡の等分布荷重による加圧試験を行ない、排水層及び耐根層等に有害な変形・破壊の起きないことを確認する。又その時の圧縮応力に対する歪み（%）を測定する。（保水層を有する場合は保水層も対象とする。）
2）試験体は耐根層から透水層までを通常使用状態にセットした3体とする。
加圧速度は10mm／min以下とする。
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力及び
※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法）

かん水装置　・設置する（種類　・　・　）
既存保護層の撤去　・行う　・行わない

設計に緑を

⑨ その他

1 フリーアクセスフロア（20．2．2）

施工箇所		
構法	・置敷式	・支柱調整式
所定荷重	※３０００Ｎ　・５０００Ｎ	・３０００Ｎ　・５０００Ｎ
耐震性能	・１．０Ｇ　・０．６Ｇ	・１．０Ｇ　・０．６Ｇ
パネル寸法		
高さ（mm）		
床表面仕上材の材質	※タイルカーペット ・帯電防止ビニル床タイル	※タイルカーペット ・帯電防止ビニル床タイル
ボーダー部及びスロープ	※メーカー仕様　・図示	

寸法精度
※標準仕様書20.2.2(b)(5)(Ⅰ)～(Ⅲ)による
厚さ　±0.5mm
平坦度　パネル周辺部　1.0mm 以下
図心と各頂点を結ぶ線上部　2.0mm 以下
表面仕上材の品質、性能は、標準仕様書 19章による。
構成材の材質 ・アルミニウム製 ・鋼製(仕上げ:　)
スロープ及びボーダー ・製造所の仕様による ・図示
配線用取り出しパネル
フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合　・20～30パーセント
配線取り出し開口　・パネル 1枚につき、40mm×80mm 程度の開口1箇所以上
空調吹き出し(吸込み)パネル　・なし　・あり(形式、施工箇所：図示)
（性能）
（1）耐荷重性能　変形5.0mm以下　残留変形3.0mm以下
（2）耐衝撃性能　残留変形3.0mm以下及び損傷がないこと
（3）ローリングロード性能（3,000Nの場合の試験の適用は任意）
所定荷重1,000Nによる繰り返し試験後、残留変形3.0mm以下
（4）耐震性能
イ）固定台試験による耐震性能

項目		性能
① ベースプレート又はアンカーが耐力に達したとき又はコンクリート接着面が剥離したとき		水平荷重の1/2が下記の<適用地震時水平力>以上
② 上記①以外の部分が耐力に達したとき		水平荷重の1/1.5が下記の<適用地震時水平力>以上
③ 適用地震時水平力を加力した時の支柱頂部の変位	設計床高さ≦250mm	5mm以下かつ、適用地震時水平力を除荷した状態での変位がほぼ弾性範囲内
	設計床高さ＞250mm	構造床面からの高さの1/50以下

<適用地震時水平力>
3,000N 0.6Gタイプ 支柱一本が負担する床加重{(㎡当り自重+3,000N)/㎡当りの支柱本数}×0.6
3,000N 1.0Gタイプ 支柱一本が負担する床加重{(㎡当り自重+3,000N)/㎡当りの支柱本数}×1.0
5,000N 0.6Gタイプ 支柱一本が負担する床加重{(㎡当り自重+5,000N)/㎡当りの支柱本数}×0.6
5,000N 1.0Gタイプ 支柱一本が負担する床加重{(㎡当り自重+5,000N)/㎡当りの支柱本数}×1.0
ロ）振動台試験による耐震性能（設計床高さ≦300mmの場合のみ）
振動台試験において、パネルの脱落や使用上支障をきたす損傷、せり上がり、隙間及び水平移動がない。
（5）耐燃焼性能
建築基準法第２条第９号の規定に基づく不燃材料又は燃焼終了後の残炎時間が0秒
（6）帯電防止性能評価値(U)
0.6以上
（7）感電防止性能
漏えい抵抗(R)≧1×10^6 Ω
（8）歩行感
通常の歩行において空洞音やがたつきがなく、歩行感に違和感がない
（9）メンテナンス性
交換が必要な部品については交換できるよう設計されている。
（試験方法）
（1）耐震性能
1）設計床高さ≦300mmの場合
試験体ユニット1000mm×2500mm程度
所定の重りの質量　3000N：200kg　5000N：350kg
加振　0.6G：所定加速度600cm／S2　1.0G：所定加速度1000cm／S2
2）300mm＜設計床高さ≦600mmの場合
① 固定台による耐震性能試験
イ、支柱調整式－支柱分離型・支柱固定タイプの全てのタイプ共、下記の試験方法－１又は、試験方法－２による。
ロ、原則として、試験方法－１はパネル単体設置（Ａタイプ）に適用し、試験方法－２はパネル連結設置（Ｂタイプ）に適用するものとする。
②試験方法－１
イ、試験は、コンクリート(JIS A 5371プレキャスト無筋コンクリート製品 種類：N300)に接着した支柱の頂部に対し、水平方向に適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。
ロ、加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。試験体数は、3個とする。
③試験方法－２
イ、試験は、コンクリート(JIS A 5371プレキャスト無筋コンクリート製品　種類：N300)に接着した数ユニットの支柱の頂部に対し、水平方向に数ユニット分相当の、適用地震時 水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。
ロ、最終的に水平力を支持する支柱の本数で除した値を、支柱１本当たりの水平力とする。又、800mm×800mmに荷重板3,200 N（5,000 N／１㎡ 相当）を１箇所設ける。試験体数は、１セットとする。④零点補正及び測定記録試験体と試験機の隙間等を除去するため、始めに適用地震時水平力の1／2程度の 水平力を加力した後、速やかに除荷して“0”にした状態を零点とする。
又、水平力による各測定点の荷重及び変形曲線を測定し記録する。
3）共通事項
試験に使用する表面仕上げ材
種類：タイルカーペット
繊維素材：ナイロン100 %
パイル携帯：ループパイル
パイル長：3.0mm～4.0mm
パッキング素材：塩化ビニル樹脂
全厚：6.0mm～7.0mm
単位質量：4.0kg/㎡～64.0kg/㎡
人体耐電圧：２KV以下

2 表示（20．2．10）

・案内板　・庁舎案内板（※標準詳細図による　・図示による　）
・各階案内板（※標準詳細図による　・図示による　）
・視覚障害者用案内板（※共通詳細図による　・図示による　）
・室名札　※標準詳細図による　・図示による
・ピクトグラフ　標準案内図記号　※ＪＩＳＺ８２１０による
形状　その他　※図示による
・庁名文字　※標準詳細図による　・図示による
・切抜文字（・ステンレス製・黄銅製）・箱文字（・ステンレス製・黄銅製）
字数（　）文字の大きさ（　×　）
・対人衝突防止表示　図示による
・非常用進入口　図示による
案内用図記号はJIS Z 8210による

3 ブラインド（20．2．12）

形式	操作方法	種類	スラットの材質	スラット幅（mm）	ボックスレールの材種	寸法取付箇所
・横型	・手動	※ギア式 ・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金製	※25	※鋼製	・図示
	・電動	―				
・縦型	・手動	※２本操作コード式 ・１本操作コード式	※アルミスラット ・クロススラット	・80 ・100	アルミニウム合金製	・図示
	・電動	―				

アルミスラット　焼付塗装仕上げ
クロススラット　消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合はGとする。

5 カーテン及びカーテンレール（20．2．14）

カーテン

形式	開閉操作	ひだの種類	きれ地の種別、品質、特殊加工等	取付箇所	備考
・シングル　・片引き ・ダブル　・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・フランスひだ ・箱ひだ、つまひだ ・プレーンひだ、片ひだ		・図示	
					（暗幕）

ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合はGとする。
暗幕カーテンの両端、上部及び召合わせの重なり　※300mm以上
カーテンレール
材種　※アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材
・ステンレス
形式　・シングル　・ダブル
・片引き　・引分け
強さによる区分　※　10-90
仕上げ　※アルマイト
形状　※角形

7 ブラインドボックス及びカーテンボックス

溝型×深さ（mm）　・90×150　・120×80　・120×150　・150×80　⊙図示
材質　・集成材（仕上げ：　）
・アルミニウム製　押出し型材（市販品）
表面処理　・C-1　）
・C-2（　・アンバー　・ブロンズ　・ブラック系　・ステンカラー）
皮膜等の種類　※標準仕様書表14.2.1による　・
・鋼製（仕上げ：　）

6 点検口

天井　材種　アルミニウム製　寸法（mm）　・４５０×４５０　・６００×６００
形式　一般型　外枠　・額縁タイプ　・目地タイプ
内枠　・額縁タイプ　・目地タイプ

（品質・性能）
内外枠の材質　アルミニウム製
JIS H 4100 A6063S又は同等の性能を有するもの
表面処理　陽極酸化皮膜JIS H 8601(AA6)又は同等の性能を有するもの
（外部に用いる場合は、JIS H 8602のB種又は同等以上の性能を有するもの）
内枠及び外枠のコーナーピース
鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの
外枠の取付け金物
鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの
内枠の仕上げ材留付金物
アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材、亜鉛めっき鋼板又は同等の性能を有するもの
耐久性能（繰り返し開閉試験）
（1）50回、100回、300回の内蓋の垂れ下がりが0.5mm以内。
（2）開閉試験後、使用上支障をきたす異常がないこと。
枠の寸法許容差　±0.5mm以内
外枠と内枠のクリアランス　片側2.0mm以内

（試験方法）
内蓋（内枠）の繰り返し開閉試験
（1）試験体は、枠見込み40mm程度のものとする。
吊り金物は、外枠を天井下地取付け用チャンネルに直接留付ける方式（天井ボードなどの仕上げ材を挟んで固定しない方式）とする。標準仕様書14章4節により製作した試験体固定用天井下地開口補強に試験体の天井点検口450mm×450mmを吊り金具4箇所にて各メーカー仕様に従い取付ける。なお、野縁の種類は、19形とし仕上げ材は、せっこうボード厚さ9.5mm（JIS A 6901「せっこうボード製品」のGB－Rの難燃2級又は発熱性2級以上）二重張りとする。
（2）試験は、内蓋を閉じた状態から自由開放状態にする動作を繰り返し行う。
（3）測定は、上記繰り返し試験において、各50回、100回、300回毎に内蓋の垂れ下がり状態を測定する。

床　材種　アルミニウム製　寸法（mm）　・４５０×４５０　※６００×６００
形式　※屋内用一般型　・　密閉型
鍵　・鍵付　・鍵無

（品質・性能）
以下のもの又は同等のものとする

部材名	材質	屋内外用	屋内用
受枠材 蓋枠材	アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材	JIS H 4100のA6063S-T5 （表面処理）JIS H 8602のB種又はJIS H 8601のAA15	
	ステンレス鋼製	JIS G 4305のSUS304, SUS430J1L, SUS443J1 （表面処理）HL又は2B仕上げ程度	JIS G 4305のSUS430 （表面処理）HL又は2B仕上げ程度
	鋼製	―	標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの
二重蓋の中蓋	鋳鉄	JIS G 5501のFC150, FC200	
	その他	塩化ビニル樹脂製等	
目地材	黄銅	JIS H 3100　C2600、C2720、C2801 JIS H 3250　C3602、C3604	
	ステンレス	JIS G 4305のSUS304, SUS430J1L又はSUS443J1 JIS G 4308のSUS304	
底板材 コーナーピース	ステンレス鋼板	JIS G 4305のSUS304, SUS430J1L, SUS443J1　JIS G 4308のSUS304	JIS G 4305　SUS430
底板補強材	アルミニウム板	JIS H 4000(A1100P H24) 表面処理：陽極酸化塗装複合被膜 JIS H 8601(AA15) JIS H 8602(B)	―
	鋼材	―	鋼製又はJIS G 3313の類にメラミン樹脂焼付塗装若しくは標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの
パッキン材		塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジラバー、エチレンプロピレン等 枠の材質、形状に適した弾力性、密着性、気密性を有するもの	
アンカー材		鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗料を行ったもの	
取手		黄銅鋳鉄製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金鋳鉄製、ステンレス鋳鋼品、ステンレス製等 ステンレス鋼材、アルミニウム押出形材などで被覆した、合製樹脂製のものは、衝撃による変形・割れが生じないものとする	
鍵		黄銅製、ステンレス製、亜鉛合金製とする 施錠・開錠は、鍵又は開閉用ハンドル式とする	
蓋の耐荷重性能		蓋中央部が荷重値Pn=1,000Nにおいて残留たわみが点検口の有効径の0.08%以内であること。 受け枠、蓋その他の使用上支障がないこと。 破壊荷重は、荷重値のPnの2倍以上であること	

受け枠寸法の許容差　±0.5mm以下
蓋付寸法の許容差　±0.5mm以下
受け枠と蓋枠のクリアランス　片側2.0mm以内

（試験方法）
耐荷重試験
試験体は、張物用とし、600mm角程度、枠見込みは、40mm以下とする。
試験は、蓋枠の四周を支持させ、蓋の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。
本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。
本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰り返し行った後、その後試験体が破壊する(終局荷重)まで加圧する。
測定は、蓋中央部にかかる加圧を200N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の異常について1,000Nまで3回繰り返す。

7 階段手すり笠木

材質	表面仕上げ	直径（mm）	取付箇所
※集成材	※クリアラッカー	・60　・45　・40　・	図示
・ステンレスパイプ	・ＨＬ	・60　・45　・40　・	
・鋼製パイプ	・ＳＯＰ　・ＥＰ－Ｇ	・60　・45　・40　・	
・ビニル製			

8 天井見切り縁
材種　⊗アルミニウム既製品　・ビニル既製品

9 視覚障害者用床タイル（視覚障害者誘導用ブロック）

施工箇所		種類	寸法（mm）	厚さ（mm）
屋内		・塩化ビニル製	・300×300　・	・7.0　・
		・セラミックタイル	・300×300　・	
		・レジンコンクリート製 ・コンクリート製	・300×300　・	
屋外		・セラミックタイル	・300×300　・	
		・レジンコンクリート製 ・コンクリート製	・300×300　・	

構造特記仕様書による。
ブロックパターンは JIS T 9251による

⑩ 鉄筋（5．2．1）

表5．2．1

種類の記号	径
※ＳＤ２９５Ａ	Ｄ１０、Ｄ１３、Ｄ１６
※ＳＤ３４５	Ｄ１９以上

８章耐震改修工事にかかる部分は除く

11 溶接金網（5．2．2）
寸法　※6．0φ×100×100　・（　）
施工箇所　（　）
８章耐震改修工事にかかる部分は除く

⑫ 継手（5．3．4）（5．4．1）（5．5．2）
鉄筋の継手の重ね長さ
※４０ｄと標準仕様書表５．３．２の重ね継手の長さのうち大きい値とする
・４０ｄ
継手方法等

部位	継手方法	呼び名（mm）
柱、梁の主筋	※ガス圧接　・機械式継手	
その他	※重ね継手	

鉄筋の定着長さ
鉄筋の定着長さは建築基準法施工令第73条による。令の定めによらないものは特記による
※４０ｄと標準仕様書表５．３．４の定着長さのうち大きい値とする
８章耐震改修工事にかかる部分は除く

⑬ コンクリートの種類と強度（6．1．3～4）（6．2．2）
※普通コンクリート

設計基準強度（Ｆｃ）［Ｎ／mm²］	適用箇所
※２４	

８章耐震改修工事にかかる部分は除く

⑭ 型枠（6．9．3）
せき板の材料　※ 合板（厚さ１２mm）　・ 合板（厚さ１５mm）
・ メッシュ型枠（構造関係共通事項による）
・ 断熱材兼用型枠　２５mm以下かつ熱抵抗値１ｍｈ℃／ｋＣａｌ以上
８章耐震改修工事にかかる部分は除く

⑮ 無筋コンクリート（6．14．1）（6．14．3）

種類	設計基準強度（Ｆｃ）［Ｎ／mm²］	スランプ（mm）	施工箇所
普通コンクリート	※１８	※１５	土間コンクリート

セメントの種類　※普通ポルトランドセメント又は混合セメントＡ種　・高炉セメントＢ種
・フライアッシュセメントＢ種
８章耐震改修工事にかかる部分は除く

⑯ あと施エアンカー（14．1．3）
引抜き耐力の確認試験　※機械的簡易引抜試験機による引張試験　⊙行わない
設計用引張強度
８章耐震改修工事にかかる部分は除く

17 可動間仕切（20．2．3）

構造形式	構成基材の種類 スタッド	パネル	総厚さ（mm）	表面仕上げ剤 材質	厚さ（mm）	パネル表面仕上げ	遮音性（db 500Hz）	防火性能
※スタッド式(内臓) ・スタッド式(露出) ・スタッドパネル式 ・パネル式				※鋼鈑	※0.6 ・0.8	・メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付 ・壁紙張り	・0 ・12 ・20 ・28 ・36	・不燃

パネル内に取付ける建具・あり(※図示・　)・なし
ドアクローザー，丁番，錠前，上げ落としは，標準仕様書16章8節の建具用金物に対応する材料とする。
表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による
パネル材料のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外

18 移動間仕切（20．2．4）

走行方向	操作方法	圧縮装置の操作方法	総厚さ（mm）	表面仕上げ材 材質	パネル表面仕上げ	遮音性（db/500Hz）
・平行方向　移動式 ・二方向　移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・プッシュ式 ・ハンドル式		※鋼鈑	・焼付塗装 ・壁紙張り	・36未満 ・36以上

パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能は標準仕様書19章による。
遮音性能は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする。
ハンガーレールの取付け下地の補強
※取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。
・図示

（品質・性能及び試験方法）
（1）パネル（表面材、心材、フレーム材、幅木、笠木及び補強材）及びハンガーレールは、JIS A 6512「可動間仕切」の表9又はこれらと同等以上の品質性能を有し、かつ、接触腐食をおこさないもの又は防食処理を施したものとする。
（2）外観は、JIS A 6512「可動間仕切」の5.a）～ c）による。
（3）パネルの操作性 パネル操作の初動力は98 N以下とする。
（4）パネル圧接装置の耐久性
パネル圧接装置の固定･解除は、7,500回の繰返し耐久試験実施後、質量50kg衝撃試験で異常のないものとする。
（5）耐衝撃性
パネル圧接装置の耐久性試験後、質量50Kgにおける衝撃試験において構造部材の折れ、曲りの異常がなく表面の、割れ、はがれがないものとする。また、接点・接床部が外れないこと及び多少のずれを生じても圧接装置を復旧し、走行可能なものとする。
（6）レールの耐久性
レールは普通パネルで吊り車2個が通過する部分を1m以上とし、その通過回数が30,000回以上で異常のないものとする。
（7）吊り車の耐久性
吊り車は、走行距離60 Kmで操作性に異常がなく、レールに大きな変形がないものとする。
（8）吊りボルトの引張り強度
一本にかかる荷重の15倍以上の引張り強度があるものとする。
（9）遮音性能
遮音性試験はJIS A　6512「可動間仕切」8.2遮音性試験に準ずる。
（10）化学物質を放散する資材
JIS A　6512「可動間仕切」7材料による。

図面縮小率　A2版　100%
図面縮小率　A3版　71%

記事	株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17（1）第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅１号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 建築改修工事特記仕様書（６）	設計No 縮尺 －	図面No A／06

１９ トイレブース（２０．２．５）

表面材　※メラミン樹脂系化粧板　・ポリエステル樹脂系化粧板
ドアエッジ材質形状　※アルミＲエッジ
幅木材質　※ステンレス幅木

（品質・性能）
（１）パネル

項目	品質・性能
表面材	メラミン樹脂系、ポリエステル樹脂系化粧板又はメラミン樹脂系単一材とする。
裏打材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材料とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。
心材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。
枠材 エッジ材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、亜鉛めっき処理を施した材料とする。
小口	防水処理を施す。

（２）構造金物

項目	品質・性能
笠木	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、耐蝕性のあるものとする。
脚部（脚具、幅木） 壁見切り金物 頭つなぎ等 枠材 エッジ材 小口	頭つなぎ等で使用するビス類の材質はステンレス製とする。

（３）付属金物

項目	品質・性能
ヒンジ	耐蝕性のあるものとする。
ラッチセット	
戸当り	腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施してあるものとする。 戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。

（４）外観は、JIS A 6512「可動間仕切」の5.b）による。

（５）パネル表面材の耐薬品性・耐汚染性・耐ひっかき性・開閉耐久性

項目	耐薬品性及び耐汚染性	耐引っかき性	開閉耐久性
メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系 単一材	JIS K 6903(2008)「熱硬化性樹脂高圧化粧板」の表８品質による耐汚染性（B法）の規定を満足していること。		JIS A 4702「ドアセット」9.4開閉繰り返し試験によるスイングドア（開閉回数10万回）を満足すること及び試験終了時点で構造金物、固定金具等に緩みのないこと。
低圧メラミン樹脂系化粧板	ポリエステル樹脂系加工化粧合板、ポリエステル樹脂系化粧ＭＤＦ、ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボードのいずれかの品質に適合していること。		
ポリエステル樹脂系加工化粧合板	JAS「合板の農林規格」第9条特殊加工化粧合板に示された耐汚染性B試験において、試験片の表面に色が残らないこと。	JAS「合板の農林規格」第9条特殊加工化粧合板に示された耐引っかき性B試験において、きずの深さの平均値が10μm以内であること。	
ポリエステル樹脂系化粧ＭＤＦ	JIS A 5905「繊維板」の表18の規定に適合していること。		
ポリエステル樹脂系化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ	JIS A 5908「パーティクルボード」の表11の規定に適合していること。		

（試験方法）
（１）ヒンジは、JIS A 1510-2「建築用ドア金物の試験方法－第2部：ドア用金物」に規定する試験による。
パネル材料のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外

２０ 排水枡ふた

鋳鉄製ふた(21.2.1)

名称	種類	適用荷重	鍵	備考
鋳鉄製マンホールふた	・水封形 ・簡易密閉形（パッキン式） ・密閉形（テーパ・パッキン式） ・中ふた付き密閉形（テーパ・パッキン式）	・Ｔ－２用 ・Ｔ－６用 ・Ｔ－２０用	・有り ・無し	左記以外の品質等は(公社)空気調和衛生工学会 SHASE-S209による
塩ビ製	・ＲＳ－ＶＵ			

グレーチング(21.2.1)

材質	用途	適用荷重	形式	ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ	亜鉛めっき（付着量）	上面形状
・鋼製マンホールふた	・溝ふた（横断用）	・歩行用	―	・細目	・（　　）	・凹凸形
	・溝ふた（側溝用） ・桝ふた用 ・Ｕ字溝用	・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・受枠付き，ボルト固定	・普通目 ・細目	・（　　）	・平形
・ステンレス製	・溝ふた（横断用）	・歩行用	―	―	―	・凹凸形
	・溝ふた（側溝用） ・桝ふた用 ・Ｕ字溝用	・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用		―	―	・平形

（品質・性能等）
<鋼製グレーチング>以下のもの又は同等のものとする

項目	品質・性能
メインバー、サイドバー及びエンドプレート	IS G 3101　SS400
クロスバー	JIS G 3101 SS400及びJIS G 3505「軟鋼線材」SWRM
受け枠用アングル材	JIS G 3101 SS400及びJIS G 3132「鋼管用熱間圧延炭素鋼鋼帯」SPHT 塗装仕上げとする場合は，樹脂系塗料
溶融亜鉛めっきの付着量	IS H 8641「溶融亜鉛めっき」による試験において溶融亜鉛めっきの付着量がHDZ40以上又は、HDZ 50以上
表面仕上げ	塗装仕上げとする場合は、樹脂系塗料
アンカー	間隔　側溝の場合500mm内外
ふた	幅及び長さの許容差　±3.0mm
荷重性能	設計荷重の1.5倍までの加力に対して、溶接部のはずれ等その他の以上がないものとする

<ステンレス製グレーチング>

項目	品質・性能
メインバー、クロスバー	JIS G 4303, JIS G 4304, JIS G 4305, JIS G 4308, JIS G 4318のSUS304又はJIS G 4303, JIS G 4305のSUS430JIL
エンドバー、サイドバー	JIS G 4303, JIS G 4304, JIS G 4305, JIS G 4308, JIS G 4317, JIS G 4318, のSUS JIS G 4320のSUS304又はJIS G 4304, JIS G 4305のSUS430JIL
受け枠用ｱﾝｸﾞﾙ材	JIS G 4304, JIS G 4305, JIS G 4317, JIS G 4320のSUS304又はJIS G 4304, JIS G 4305のSUS430JIL
アンカー	IS G 3101 SS400 、塩害の多い地区は塩害に対する防錆処理を行う 間隔　側溝の場合500mm内外
表面仕上げ	2B程度
ふた	幅及び長さの許容差　±3.0mm
荷重性能	設計荷重の1.5倍までの加力に対して、溶接部のはずれ等その他の異常がないものとする

（荷重試験方法）
設計荷重は以下の通りとする

歩車道区分	荷重種別	側溝用(KN)	横断溝用(KN)	加圧面積(cm)
車道	T-20	78.5	109.8	20×50
	T-14	54.9	76.9	20×50
	T-6	23.5	33.0	20×24
	T-2	7.8	11.0	20×16
歩道	4,903N/㎡の等分布荷重			

試験体は、下記の種別ごとに強度計算における応力度が最大となる製品について試験を行う。
イ）溝ふた　横断用　T-20～T-2のうち1体
　歩道用　のうち1体
　側溝用　T-20～T-2のうち1体
ロ）Ｕ字溝用　側溝用　T-20～T-2のうち1体
　歩道用　のうち1体
設計荷重を基準として一方向繰り返し加力を行う。加力速度は、4,903N/sとする。繰り返し加力は3回行った後、残留ひずみ等がないか確認する。その後設計荷重の1.5倍まで加力し、溶接部のはずれ等異常の有無について確認する。

２１ 屋外雨水排水（２１．２．１、２）（表２１．２．１、２）

排水管用材料

材種	管の種類	形状	呼び径	備考
・遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管（１種）	・Ｂ形管	※図示	
・硬質ポリ塩化ビニル管	・ＶＰ		※図示	
	・ＶＵ		※図示	
	・ＲＳ－ＶＵ		※図示	

基床の厚さ及び種類　・図示
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料　※接着剤

側塊の形状及び寸法　・図示
排水桝の種類　・図示
砂地業に用いる材料　※標準仕様書　21.2.1(g)(1)による　・図示
砂利地業に用いる材料　※標準仕様書　21.2.1(g)(2)による　・図示
コンクリート基礎等に用いる材料
※標準仕様書　6.14 により、設計基準強度は18N/mm2とする。ただし、コンクリートが簡易な場合の調合（容積比）　セメント１：砂２：砂利４程度とする。
・図示
凍上抑制層に用いる材料
砂の粒度試験　・行う　・行わない
排水桝の種類　・図示
排水桝の種類　・図示
排水桝の種類　・図示

２２ 街きょ、縁石、側溝（２１．３．１、２）（表２１．３．１）

街きょ、縁石、側溝

種類	形状、寸法
⊙縁石	⊙図示　・
・Ｕ字側溝	・図示　・
・Ｕ形側溝ふた	・図示　・
・Ｌ形側溝	・図示　・

地業の材料　※標準仕様書 4.6.2(a)による　・図示
砂利地業の厚さ　※100(mm)　・図示
コンクリート基礎等に用いる材料
※標準仕様書(6.14)
設計基準強度18N/mm2とする。ただし、コンクリートが簡易な場合の調合（容積比）
セメント１：砂２：砂利４程度とする。
・図示
凍上抑制層に用いる材料
砂の粒度試験　・行う　・行わない

２３ 埋戻し土（２１．２．１）

※Ｂ種

２４ 路床（２２．２．２、３、５）表２２．２．１

路床の材料

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種 ・建設汚泥から再生した処理土	・図示
・遮断層	・川砂又は良質な山砂(75μふるい通過量10%以下)	・図示
・凍上抑制層	・再生クラッシャラン　・クラッシャラン　・切込み砂利 ・砂	・図示
・フィルター層	・砂	・図示

路床安定処理
・添加材料による安定処理
種類　・普通ポルトランドセメント　・高炉セメントＢ種
・フライアッシュセメントＢ種
・生石灰（　　　）・消石灰（　　　）
添加量　kg（目標ＣＢＲ　・5以上　・　　）
目標CBRを満足する添加量の確認方法
・安定処理土のCBR試験
・ジオテキスタイル
単位面積質量　・60g/㎡以上　・
厚さ(mm)　・0.5～1.0　・
引張強さ　・98N/5cm(10kgf/5cm)以上　・
透水係数　・1.5×10cm/sec以上　・
試験
砂の粒度試験　・行う　・行わない
路床土の支持力比（ＣＢＲ）試験　・行う　・行わない
路床締固め度の試験　・行う　・行わない
現場ＣＢＲ試験　・行う　・行わない

２５ 路盤（２２．２．２、３、５）

路盤の厚さ　・図示　・
路盤材料

種類	
砕石	・クラッシャラン
	・粒度調整砕石
再生材	・クラッシャラン
	・粒度調整砕石
・クラッシャラン鉄鋼スラグ	
・粒度調整鉄鋼スラグ	
・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ	

路盤締固め度の試験　※行う　・行わない

２６ アスファルト舗装（２２．４．２～６）

アスファルト舗装の構成及び厚さ　※図示　・
材料
アスファルト　・再生アスファルト　・ストレートアスファルト
骨材　・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材
加熱アスファルト混合物等の種類

区分	地域	種類
表層	・一般地域	・密粒度アスファルト混合物(13) ・細粒度アスファルト混合物(13)
	・寒冷地域	・密粒度アスファルト混合物(13Ｆ) ・細粒度アスファルト混合物(13Ｆ)

シールコートの施工　・行う　・行わない
試験
アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない
舗装の平たん性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度　・

２７ コンクリート舗装（２２．５．２～６）

コンクリート舗装の構成及び厚さ

舗装の種類	部位	構成	厚さ(mm)
コンクリート舗装	車路及び駐車場	・図示	・図示
	歩行者用通路	・図示	※７０

縁部立下り寸法等　・図示
材料
コンクリート　・標準仕様書表22.6.3による　・
早強セメント　・使用する　・使用しない
注入目地材料　※低弾性タイプ　・高弾性タイプ
転圧コンクリートの工法　※図示　・
目地
種類、間隔、構造　※標準仕様書表22.5.3及び図22.5.1による　・図示
試験
コンクリート版厚さの試験　・行う　・行わない
舗装の平坦性　※通行の支障となる水たまりを生じさせない程度

２８ カラー舗装（２２．６．２～４）（表２２．６．１）

カラー舗装の構成及び厚さ　(22.6.2～4)

カラー舗装の種類		部位	構成	厚さ(mm)
・加熱系	・アスファルト混合物 ・石油樹脂系混合物	・車路 ・歩行者用通路	・図示	・図示
・常温系				

常温系カラー舗装の着色部の下部　・アスファルト舗装　・コンクリート舗装
材料
添加する材料　・着色骨材（　　　）・自然石（　　　）
配合
結合材に石油樹脂を使用する場合の顔料添加量・
ニート工法及び塗布工法の配合等　・
舗装の平坦性　※通行の支障となる水たまりを生じさせない程度

２９ 透水性アスファルト舗装（２２．７．２～６）

構成　・図示
材料
骨材　・道路用砕石　・アスファルトコンクリート再生骨材
試験
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない
舗装の平坦性　※著しい不陸がないもの

３０ ブロック系舗装（２２．８．２、３）

・コンクリート平板舗装

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考
※普通平板(N) ・透水平板(P)	※300角	※60	※砂 ・モルタル	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し

普通平板は　（再生材料を用いた舗装用ブロック)、透水平板は　(透水性コンクリート）とする。

仕上り面の平坦性　※歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内

・インターロッキングブロック舗装

種類	部位	形状	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm2)	備考
※普通ブロック（Ｎ） ・透水性ブロック（Ｐ）	車路	・図示 ・	※８０ ・	※5.0 ・	色彩、表面加工 ・標準品
※普通ブロック（Ｎ） ・透水性ブロック（Ｐ）	歩行者用通路	・図示 ・	※６０ ・	※3.0 ・	

歩行者用通路に使用する普通ブロックは　（再生材料を用いた舗装用ブロック)とする。

仕上り面の平坦性　※歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm以内

・舗石舗装

種類	形状・寸法(mm)	厚さ(mm)	施工方法	基層	基層の厚さ(mm)
※小舗石（花こう岩）	・図示	・	・うろこ張り	・コンクリート版	※７０
				・アスファルト混合物	※５０

仕上り面の平たん性　※歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm以内
・ジオテキスタイル
単位面積質量　・60ｇ/m2以上　・
厚さ(mm)　・0.5～1.0　・
引張強さ　・98N/5ｃｍ（10ｋｇｆ/5ｃｍ）以上
透水係数　・1.5×10⁻¹ｃｍ/ｓｅｃ以上　・

３１ 砂利敷き（２２．９．２）

種別
・Ａ種　施工範囲(・図示　・通路　・　　　)
・Ｂ種　施工範囲(・図示　・建物周囲　・　　　)

３２ 路面標示塗料

JIS K 5665（路面標示用塗料）による

種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)	適用部位
※３種１号	溶融	粉体状	・白	・150 ・100	・1.0	・白線 ・車椅子駐車場ライン ・視覚障害者用表示
・１種	常温					
・２種	加熱	液状				

低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料

３３ 防火材料［７．１．３］

※屋内の壁及び天井の塗装仕上げは，建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたものとする
・次の箇所を除き，建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたものとする
（　　　　　　　　　　）

３４ 階段滑り止め（２０．２．６）

（１）材種　ステンレス製（・埋込み工法　※接着工法）
（２）フラットエンド　・有（※タイヤ同材　・ステンレス製）　・無
（３）形式　※ビニルタイヤ又は合成ゴムタイヤ入り　・タイヤ無

３５ 黒板及びホワイトボード（２０．２．８）

（１）仕様　・広島県高等学校黒板仕様　・JIS規格品
（２）種類　※研ぎ出し黒板（・木製　※鋼製）　・焼き付け黒板　・ほうろう
　枠　※アルミ合金製　・木製
　色彩　※緑　・黒　・白
（３）製造所

３６ 煙突ライニング（２０．２．１１）

煙突用成形ライニング材　適用安全使用温度　※400℃　・650℃
キャスタブル耐火材　工法　・こて押さえ
　最高温度　・400℃
製造所

３７ ロールスクリーン（２０．２．１３）

材種	操作方式	遮光性能	寸法（mm）	取付箇所	備考
・ポリエステル	・電動式 ・スプリング式 ・チェーン式	・１級 ・２級 ・３級	・図示 ・取付け窓の大きさによる。	・図示	

巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料は製造所の仕様による。

３９ アコーデオンドア

製品は消防法に認定する防炎加工を行ったものとする
製造所

４０ 浴槽

槽　・鉄板ホーロー仕上　・ポリバス　※ステンレス
寸法（mm）　長さ（　　）　幅（　　）　高さ（　　）　保温ふた付

４１ くつふきマット

※ビニール製（受枠ステンレス製）
・硬質アルミニウム製（受枠ステンレス製）
・ステンレス製（受枠ステンレス製）

４２ 旗ざお受金物

材質　・黄銅（ホワイトブロンズめっき仕上）　・ステンレス製（　　）組

４３ 防振ゴム等の製造検査

本工事の施工に当たり，東洋ゴム化工品（株）又はニッタ化工品（株）で製造された製品や材料を用いる場合には，第三者機関による品質を証明する書類を提出すること。

４４ 耐震スリット

方向	タイプ	耐火性能	防水性能
・垂直方向 ・水平方向	※完全（全貫通型）スリット　・	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し

目地

	内壁（幅×深さ）	外壁（幅×深さ）
目地材	シーリング材（見え掛かりのみ）	シーリング材（内外とも）
目地寸法	※20×10　・	※20×10　・

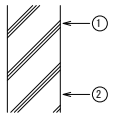
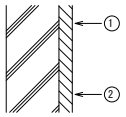
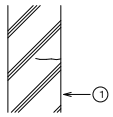
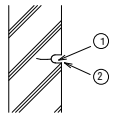
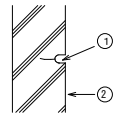
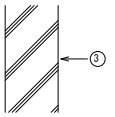
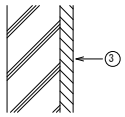
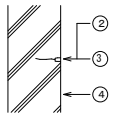
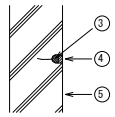
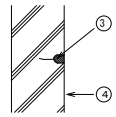
４５ ｴｷｽﾊﾟﾝｼｮﾝ・ｼﾞｮｲﾝﾄ金物

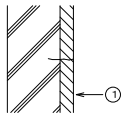
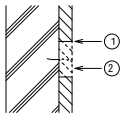
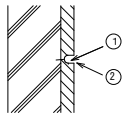
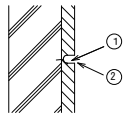
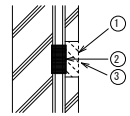
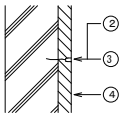
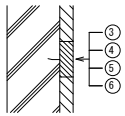
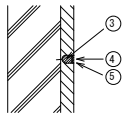
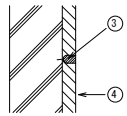
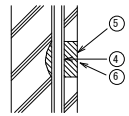
材質　・アルミニウム　・ステンレス
クリアランス　・50　・100　・150　・
耐火性能　・有り（　　）　・無し
防水型　※適用する　・適用しない

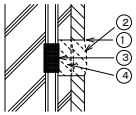
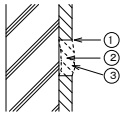
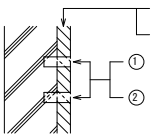
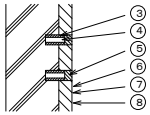
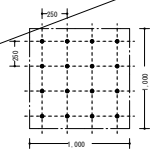
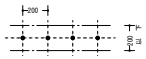
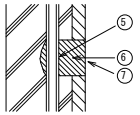
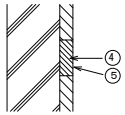
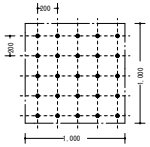
設計に緑を

図面縮小率　A2版　100%
図面縮小率　A3版　71%

記事	
株式会社　車田建築設計事務所　KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	１級建築士事務所　登録　１７（１）第０５８７号 管理建築士　1級建築士　登録　第２４８８２５号 １級建築士　車　田　誠
設計年月日　．．	御承認　所長　設計　製図
工事名　旭町住宅１号棟耐震改修等工事(建築主体工事)	設計Ｎｏ
図面名　建築改修工事特記仕様書（７）	縮尺　－
図面Ｎｏ　Ａ／０７	

名　称	A　表面劣化部処理				B　ひび割れ部処理							
記号・仕様	A－1　打放し面表面劣化部処理［サンダー工法］		A－2　モルタル面表面劣化部処理［サンダー工法］		B－1　打放し面樹脂注入工法［標仕4．3．4］ ひび割れ幅　0．2～1．0mm		B－2　打放し面Uカットシール材充てん工法［標仕4．3．5（1）］ ひび割れ幅　1．0mm以上		B－3　打放し面Uカットシール材充てん工法［標仕4．3．5（1）］ ひび割れ幅　0．2～1．0mm	
改修前										
改修後										
工　程	①既存仕上げ材及び脆弱層サンダーケレン（＊全面　・部分） ②高圧水洗浄（150～200kg／cm²） ③セメント系下地調整材コテ塗り（1．5mm±0．5mm） 参考数量：		①既存仕上げ材及び脆弱層サンダーケレン（＊全面　・部分） ②高圧水洗浄（150～200kg／cm²） ③セメント系下地調整材コテ塗り（1．5mm±0．5mm） 参考数量：		①サンダーケレン ②ひび割れ部シール ③エポキシ樹脂注入 ④セメント系下地調整材コテ塗り（1．5mm±0．5mm） ※A－1工法を行う場合は，①，④の工程はA－1工法に含む。 参考数量：　ひび割れ幅　0．2～0．5mm　（　　） ひび割れ幅　0．5～1．0mm　（　　） （　）内は挙動ひび割れ数量を示す		①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄（150～200kg／cm²） ③シーリング材打設 ④Uカット部埋戻し　（ポリマーセメントモルタル） ⑤セメント系下地調整材コテ塗り（1．5mm±0．5mm） ※A－1工法を行う場合は，②⑤の工程はA－1工法に含む。 参考数量：		①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄（150～200kg／cm²） ③可とう性エポキシ樹脂充てん後けい砂 ④セメント系下地調整材コテ塗り（1．5mm±0．5mm） ※A－1工法を行う場合は，②④の工程はA－1工法に含む。 参考数量：	

名　称	B　ひび割れ部処理								C　錆鉄筋部処理	
記号・仕様	B－4　モルタル面樹脂注入工法［共仕4．4．5］ ひび割れ幅　0．2～1．0mm		B－5　モルタル面躯体部樹脂注入工法［標仕4．4．5］ ひび割れ幅　0．2～1．0mm		B－6　モルタル面Uカットシール材充てん工法 ひび割れ幅　1．0mm以上		B－7　モルタル面Uカットエポキシ樹脂充てん工法 ひび割れ幅　0．2～1．0mm		C－1　打放し面錆鉄筋部処理	
改修前										
改修後										
工　程	①サンダーケレン ②ひび割れ部シール ③エポキシ樹脂注入 ④セメント系下地調整材コテ塗り（1．5mm±0．5mm） ※A－2工法を行う場合は，①，④の工程はA－2工法に含む。 参考数量：　ひび割れ幅　0．2～0．5mm　（285m(東棟),12m(西棟)） ひび割れ幅　0．5～1．0mm（406.5m(東棟),11.9m(西棟)） （　）内は挙動ひび割れ数量を示す		①ひび割れ周囲モルタルカッター切り ②モルタル除去 ③ひび割れ部シール ④エポキシ樹脂注入 ⑤埋戻し ⑥セメント系下地調整材コテ塗り（1．5mm±0．5mm） ※A－2工法を行う場合は，⑥の工程はA－2工法に含む。 参考数量：		①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄（150～200kg／cm²） ③シーリング材打設 ④Uカット部埋戻し　（ポリマーセメントモルタル） ⑤セメント系下地調整材コテ塗り（1．5mm±0．5mm） ※A－2工法を行う場合は，②⑤の工程はA－2工法に含む。 参考数量：		①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄（150～200kg／cm²） ③可とう性エポキシ樹脂充てん後けい砂 ④セメント系下地調整材コテ塗り（1．5mm±0．5mm） ※A－2工法を行う場合は，②④の工程はA－2工法に含む。 参考数量：		①錆鉄筋周辺のはつり ②錆落とし ③高圧水洗浄（150～200kg／cm²） ④防錆処理 ⑤はつり部埋戻し整形 ⑥セメント系下地調整材コテ塗り（1．5mm±0．5mm） ※A－2工法を行う場合は，③⑥の工程はA－2工法に含む。 参考数量：	

名　称	C　錆鉄筋部処理		D　浮き部処理						
記号・仕様	C－2　モルタル面錆鉄筋部処理		D－1　モルタル面はつり		D－2　モルタル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法　［標仕4．4．10］ D－2'　タイル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法　［標仕4．5．9］				
改修前									①一般部分標準グリッド（250×250） （指定部以外の部分）  ③狭幅部 （幅200mm以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所）  ● アンカーピン固定部
改修後									②指定部分標準グリッド（200×200） （見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等） 
工　程	①カッター縁切り ②浮き部はつり ③錆落とし ④高圧水洗浄（150～200kg／cm²） ⑤防錆処理 ⑥はつり部埋戻し整形 ⑦セメント系下地調整材コテ塗り（1．5mm±0．5mm） ※A－2工法を行う場合は，④⑦の工程はA－2工法に含む。 参考数量：		①カッター縁切り ②浮き部はつり ③高圧水洗浄（150～200kg／cm²） ④はつり部埋戻し整形 ⑤セメント系下地調整材コテ塗り（1．5mm±0．5mm） ※A－2工法を行う場合は，③⑤の工程はA－2工法に含む。 参考数量：		①穿孔　一般部　16　ケ所 指定部　25　ケ所 ②孔内エアー清掃　一般部　16　ケ所 指定部　25　ケ所 ③エポキシ樹脂注入　一般部　16　ケ所 指定部　25　ケ所 ④ステンレスピン挿入　一般部　16　ケ所 指定部　25　ケ所		⑤穿孔跡埋戻し［パテ状エポキシ樹脂］一般部　16　ケ所 指定部　25　ケ所 ⑥サンダーケレン ⑦高圧水洗浄（150～200kg／cm²） ⑧セメント系下地調整材コテ塗り（1．5mm±0．5mm） ※A－2工法を行う場合は，⑥，⑦，⑧の工程はA－2工法に含む。 参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③狭幅部：		

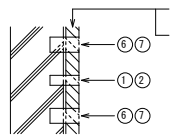
設計に緑を

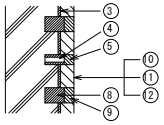
図面縮小率　A2版　100%
図面縮小率　A3版　71%

記事		株式会社　車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所　登録　17（1）第0587号 管理建築士　1級建築士　登録　第248825号 1級建築士　車　田　誠	設計年月日	御承認	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事（建築主体工事）	設　計　No	図　面　No
					所長　設計　製図	図面名 外壁改修工事特記仕様書（1）	縮　尺 －	A／08

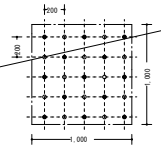
名　称	Ｄ　浮き部処理
記号・仕様	Ｄ－３　モルタル面アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法　［標仕４．４．１１］ Ｄ－３’　タイル面アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法　［標仕４．５．１０］

改修前　改修後

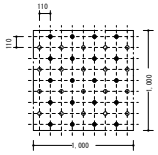




①一般部分標準グリッド（２００×２００）
（指定部以外の部分）



②指定部分標準グリッド（１１０×１１０）
（見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等）



③峡幅部
（幅２００mm以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所）

● アンカーピン固定部
○ 注入口

工　程

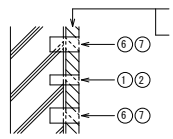
①ﾋﾟﾝ固定部穿孔	一般部	13	ケ所	⑥注入口穿孔	一般部	12	ケ所	⑫セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）			
	指定部	20	ケ所		指定部	20	ケ所				
②孔内ｴｱｰ清掃	一般部	13	ケ所	⑦孔内エアー清掃	一般部	12	ケ所				
	指定部	20	ケ所		指定部	20	ケ所				
③ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入	一般部	13	ケ所	⑧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入	一般部	12	ケ所				
	指定部	20	ケ所		指定部	20	ケ所				
④ｽﾃﾝﾚｽﾋﾟﾝ挿入	一般部	13	ケ所	⑨穿孔跡埋戻し　［ｴﾎﾟｷｼﾊﾟﾃ］	一般部	12	ケ所				
	指定部	20	ケ所		指定部	20	ケ所				
⑤穿孔跡埋戻し　［ｴﾎﾟｷｼﾊﾟﾃ］	一般部	13	ケ所	⑩ｻﾝﾀﾞｰｹﾚﾝ							
	指定部	20	ケ所	⑪高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）							

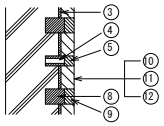
※Ａ－２工法を行う場合は，⑩，⑪，⑫の工程はＡ－２工法に含む。

参考数量：①一般部分：
②指定部分：
③峡幅部：

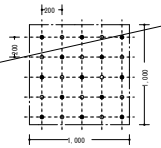
名　称	Ｄ　浮き部処理
記号・仕様	Ｄ－４　モルタル面アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法　［標仕４．４．１２］ Ｄ－４’　タイル面アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法　［標仕４．５．１１］

改修前　改修後

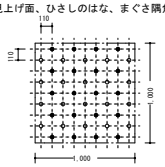




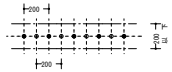
①一般部分標準グリッド（２００×２００）
（指定部以外の部分）



②指定部分標準グリッド（１１０×１１０）
（見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等）



③峡幅部
（幅２００mm以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所）



● ｱﾝｶｰﾋﾟﾝ固定部
○ 注入口

工　程

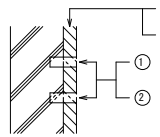
①ピン固定部穿孔	一般部	13	ケ所	⑥注入口穿孔	一般部	12	ケ所	⑫セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）			
	指定部	20	ケ所		指定部	20	ケ所				
②孔内エアー清掃	一般部	13	ケ所	⑦孔内エアー清掃	一般部	12	ケ所				
	指定部	20	ケ所		指定部	20	ケ所				
③ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入	一般部	13	ケ所	⑧ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入	一般部	12	ケ所				
	指定部	20	ケ所		指定部	20	ケ所				
④ｽﾃﾝﾚｽﾋﾟﾝ挿入	一般部	13	ケ所	⑨穿孔跡埋戻し［ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ］	一般部	12	ケ所				
	指定部	20	ケ所		指定部	20	ケ所				
⑤穿孔跡埋戻し［ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ］	一般部	13	ケ所	⑩ｻﾝﾀﾞｰｹﾚﾝ							
	指定部	20	ケ所	⑪高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）							

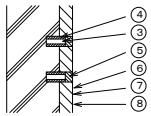
※Ａ－２工法を行う場合は，⑩，⑪，⑫の工程はＡ－２工法に含む。

参考数量：①一般部分：
②指定部分：
③峡幅部：

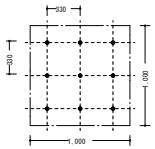
名　称	Ｄ　浮き部処理
記号・仕様	Ｄ－５　モルタル面注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法　［標仕４．４．１３］ Ｄ－５’　タイル面注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法　［標仕４．５．１２］

改修前　改修後

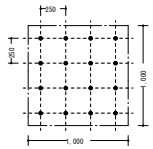




①一般部分標準グリッド（３３０×３３０）
（指定部以外の部分）



②指定部分標準グリッド（２５０×２５０）
（見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等）



③峡幅部
（幅２００mm以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所）

● 注入口付アンカーピン固定部

工　程

①穿孔	一般部	9	ケ所	⑤穿孔跡埋戻し　［エポキシパテ］	一般部	9	ケ所
	指定部	16	ケ所		指定部	16	ケ所
②孔内エアー清掃	一般部	9	ケ所	⑥サンダーケレン			
	指定部	16	ケ所	⑦高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）			
③ステンレスピン（注入口付）挿入	一般部	9	ケ所	⑧セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）			
	指定部	16	ケ所				
④エポキシ樹脂注入	一般部	9	ケ所				
	指定部	16	ケ所				

※Ａ－２工法を行う場合は，⑥，⑦，⑧の工程はＡ－２工法に含む。

参考数量：①一般部分：32.1㎡（東棟）
②指定部分：0.68㎡（西棟）
③峡幅部：

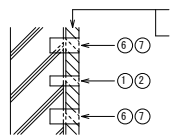
設計に緑を

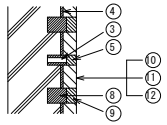
図面縮小率　A2版　100%
図面縮小率　A3版　71%

記事	株式会社　車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所　登録　１７（１）第０５８７号 管理建築士　1級建築士　登録　第２４８８２５号 1級建築士　車　田　誠	設計年月日	御承認 所長　設計　製図	工事名 旭町住宅１号棟耐震改修等工事（建築主体工事）	設　計　No	図　面　No
					図面名 外壁改修工事特記仕様書（２）	縮　尺 －	A／０９

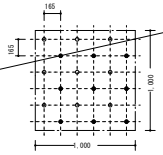
名　称	D　浮き部処理
記号・仕様	D－6　モルタル面注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法　［標仕4．4．14］ D－6'　タイル面注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法　［標仕4．5．13］

改修前　改修後

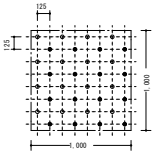




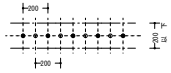
①一般部分標準グリッド（165×165）
（指定部以外の部分）



②指定部分標準グリッド（125×125）
（見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等）



③峡幅部
（幅２００㎜以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所）



● 注入口付アンカーピン固定部
○ 注入口

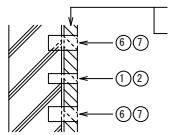
工　程

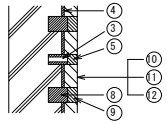
①ピン固定部穿孔	一般部	9	ケ所	⑤穿孔跡埋戻し［エポキシパテ］	一般部	9	ケ所	⑨穿孔跡埋戻し［エポキシパテ］	一般部	9	ケ所
	指定部	16	ケ所		指定部	16	ケ所		指定部	16	ケ所
②孔内エアー清掃	一般部	9	ケ所	⑥注入口穿孔	一般部	9	ケ所	⑩サンダーケレン			
	指定部	16	ケ所		指定部	16	ケ所	⑪高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）			
③ステンレスピン（注入口付）挿入	一般部	9	ケ所	⑦孔内エアー清掃	一般部	9	ケ所	⑫セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）			
	指定部	16	ケ所		指定部	16	ケ所	※Ａ－２工法を行う場合，⑩，⑪，⑫の工程はＡ－２工法に含む			
④エポキシ樹脂注入	一般部	9	ケ所	⑧エポキシ樹脂注入	一般部	9	ケ所	参考数量：①一般部分：			
	指定部	16	ケ所		指定部	16	ケ所	②指定部分：			
								③峡幅部：			

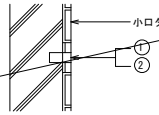
名　称	D　浮き部処理
記号・仕様	D－7　モルタル面注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法　［標仕4．4．15］ D－7'　タイル面注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法　［標仕4．5．14］ ※標準グリッド等は，D－6，D－6'と同じ

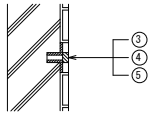
D－8　タイル面注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法（小口タイル以上）［標仕4．5．15］

改修前　改修後









工　程

①ピン固定部穿孔	一般部	9	ケ所	⑥注入口穿孔	一般部	9	ケ所	⑫セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）			
	指定部	16	ケ所		指定部	16	ケ所				
②孔内エアー清掃	一般部	9	ケ所	⑦孔内エアー清掃	一般部	9	ケ所				
	指定部	16	ケ所		指定部	16	ケ所				
③ステンレスピン（注入口付）挿入	一般部	9	ケ所	⑧ポリマーセメントスラリー注入	一般部	9	ケ所				
	指定部	16	ケ所		指定部	16	ケ所	※Ａ－２工法を行う場合，⑩，⑪，⑫の工程はＡ－２工法に含む			
④ポリマーセメントスラリー注入	一般部	9	ケ所	⑨穿孔跡埋戻し［ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ］	一般部	9	ケ所				
	指定部	16	ケ所		指定部	16	ケ所	参考数量：①一般部分：			
⑤穿孔跡埋戻し［ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ］	一般部	9	ケ所	⑩サンダーケレン				②指定部分：			
	指定部	16	ケ所	⑪高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）				③峡幅部：			

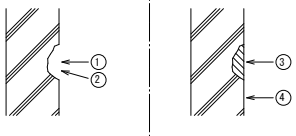
①穿孔
②孔内エアー清掃
③ステンレスピン（注入口付）挿入
④エポキシ樹脂注入
⑤穿孔跡埋戻し　［化粧キャップもしくは調色樹脂パテ］

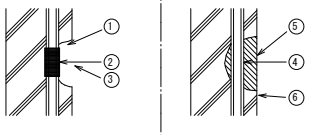
参考数量：

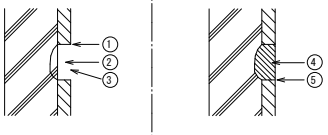
名　称	E　欠損部処理		F　外壁複合改修工法
記号・仕様	E－1　打放し面充填工法［標仕4．3．7］	E－2　打放し面欠損部処理［標仕4．3．3］	E－3　モルタル面欠損部処理［標仕4．4．3］

F　外壁複合改修工法

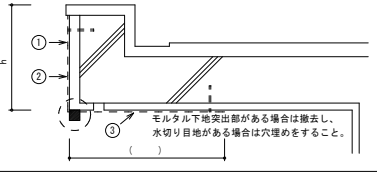
改修前　改修後

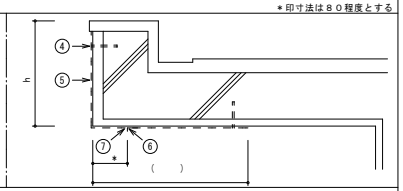






＊印寸法は８０程度とする





工　程

①欠損部はつり等での整形
②高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）
③欠損はつり部埋戻し［※ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ　・エポキシ樹脂モルタル］
④セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）

※Ａ－１工法を行う場合，②，④の工程はＡ－１工法に含む

参考数量：

①欠損部・錆鉄筋周辺はつり等での整形
②錆落とし
③高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）
④防錆処理
⑤欠損はつり部埋戻し［※ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ　・エポキシ樹脂モルタル］
⑥セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）

※Ａ－１工法を行う場合，③，⑥の工程はＡ－１工法に含む

参考数量：

①カッター縁切り
②欠損部はつり等での整形
③高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）
④欠損はつり部埋戻し［※ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ　・エポキシ樹脂モルタル］
⑤セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）
（鉄筋の露出部がある場合はＥ－２による）

※Ａ－２工法を行う場合，③，⑤の工程はＡ－２工法に含む

参考数量：8.16㎡（東棟）

参考数量：7.07㎡（西棟）

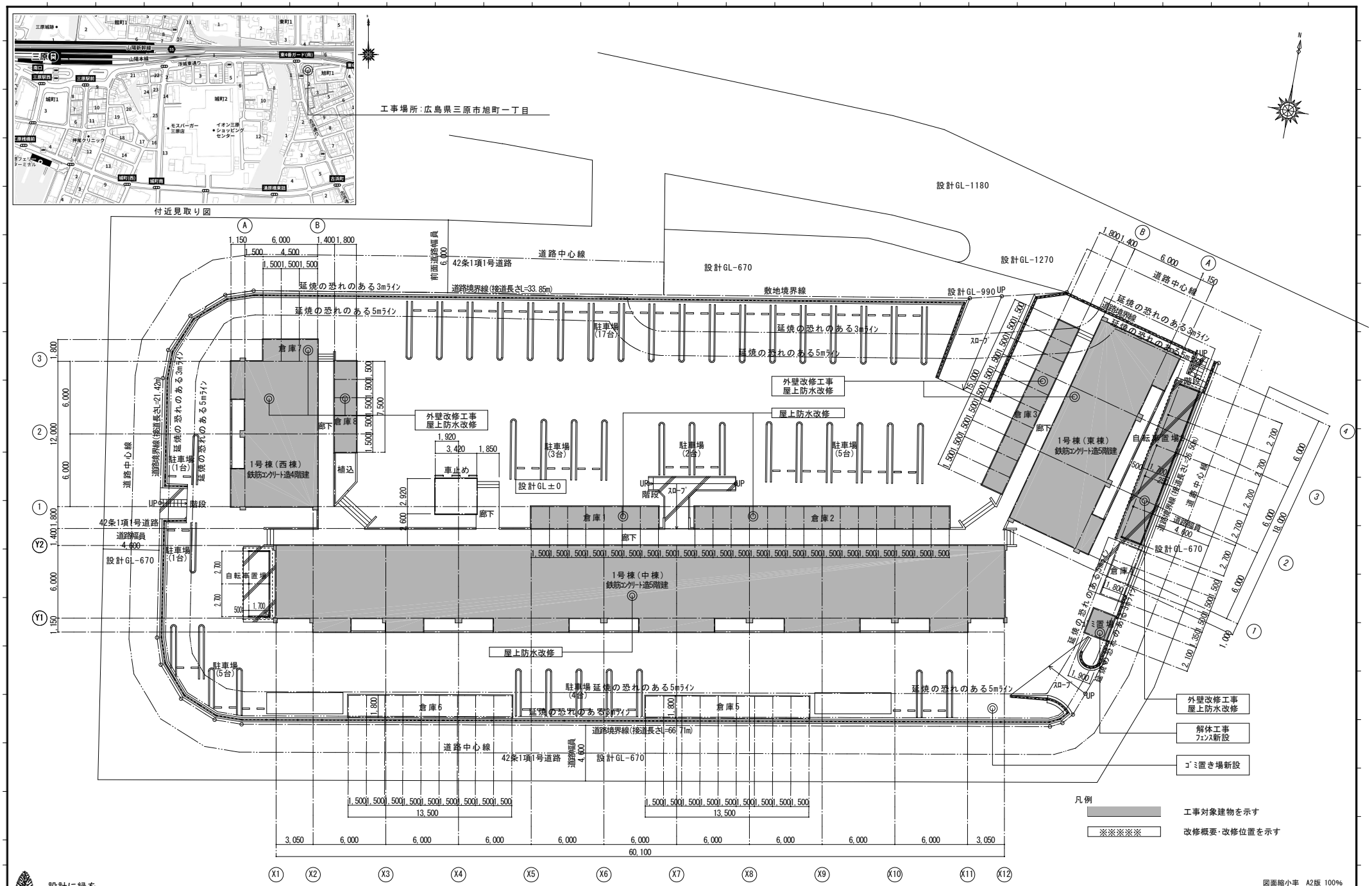
下地補修後
① プライマー下塗り
② ポリマーペースト中塗り
③ 三軸ネット張り
④ ワッシャー付アンカーピン打ち込み
⑤ ポリマーペースト中塗り
⑥ アルミ水切り取付け（L-30×15×2.0　ステンレスビス止@450）
⑦ シーリング打設（ＭＳ－２）

参考数量	ネット張り	㎡
	水切	m

設計に緑を

図面縮小率　A2版 100%
図面縮小率　A3版 71%

記事	株式会社　車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所　登録　17（1）第0587号 管理建築士　1級建築士　登録　第248825号 1級建築士　車　田　誠	設計年月日	御承認 所長　設計　製図	工事名 旭町住宅１号棟耐震改修等工事（建築主体工事）	設　計　No	図　面　No A／10
					図面名 外壁改修工事特記仕様書（３）	縮　尺 －	



設計に線を

図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

記事	株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 配置図	設計No 縮尺 1/200	図面No A/11

外部仕上表

改修前 種別	改修前 仕上名	改修後 種別	改修後 仕上名
屋根	平場部:均しﾓﾙﾀﾙt=16 ｱｽﾌｧﾙﾄ防水D-2 ｼﾙﾊﾞｰ塗装撤去 排水溝部:均しﾓﾙﾀﾙt=16 ｱｽﾌｧﾙﾄ防水D-2 ｼﾙﾊﾞｰ塗装撤去 立上り部:ｱｽﾌｧﾙﾄ防水D-2 ｼﾙﾊﾞｰ塗装撤去	屋根	平場部:下地調整の上ｳﾚﾀﾝ塗膜防水(X-1)新設 ｱﾙﾐ製脱気装置筒設置 (1ヶ所/100㎡) 排水溝部:下地調整の上ｳﾚﾀﾝ塗膜防水(X-2)新設 立上り部:下地調整の上ｳﾚﾀﾝ塗膜防水(X-2)新設
外壁	ﾓﾙﾀﾙ刷毛引き外装薄塗材E吹付	外壁	(ﾓﾙﾀﾙ刷毛引き) 高圧洗浄の上、 防水型複層塗材E吹付
軒裏	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し 外装薄塗材E吹付	軒裏	(ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し) 高圧洗浄の上、 外装薄塗材E吹付
樋	塩ﾋﾞﾊﾟｲﾌﾟ75φ　VP塗撤去	樋	硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ管75φ(ｶﾗｰ)、ｽﾃﾝﾚｽ掴金物共@1,200内外新設
開口部	ｱﾙﾐ製建具 鋼製建具	開口部	(ｱﾙﾐ製建具) (鋼製建具)DP塗替
その他	鋼製物干金物撤去 鋼製ﾊﾞﾙｺﾆｰ隔 鋼製ﾊﾞﾙｺﾆｰ手摺	その他	ｱﾙﾐ製物干金物新設 (鋼製ﾊﾞﾙｺﾆｰ隔)既存鉄部錆落としを行い、錆止め塗装の上DP塗装。 既存ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄt=6.3部分は清掃の上DP塗装 (鋼製ﾊﾞﾙｺﾆｰ手摺)既存鉄部の錆落としを行い、錆止め塗装の上DP塗装

凡例	
C	ｺﾝｸﾘｰﾄ下地
CB	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ下地 厚100
W	木製下地
LGS	軽量鉄骨下地
SUS	ｽﾃﾝﾚｽ
CL	ｸﾘﾔﾗｯｶｰ
NAD	ｱｸﾘﾙ樹脂系非水分散形塗料
VP	塩化ﾋﾞﾆﾙ樹脂塗料
SOP	合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ
EP	合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ
EP-G	つや有 合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ
DP	耐候性塗料
	ｼｰﾘﾝｸﾞ
	仕上区分線

略号	名称	規格番号	防火材料認定番号	
GB	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ GB-R	JIS A6901	ｱ12.5	NM-8619
GB-D	化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	JIS A6901	ｱ12.5	NM-8614
GB-S	ｼｰｼﾞﾝｸﾞ石膏ﾎﾞｰﾄﾞ GB-S	JIS A6901	ｱ 9.5	QM-9826
GB-S	ｼｰｼﾞﾝｸﾞ石膏ﾎﾞｰﾄﾞ GB-S	JIS A6901	15	QM-9826
GB-P	吸音用穴あき石膏ﾎﾞｰﾄﾞGB-P8φ-22	JIS A6901	ｱ 9.5	QM-9825

特記事項

1. 使用建材は、全てF☆☆☆☆材料とする。ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ規制対象外
2. 屋内工事部分の木床は工事により破損しないようにﾍﾞﾆﾔ･ｼｰﾄその他により養生すること。
3. 屋内の備品等はﾍﾞﾆﾔ･ｼｰﾄ･布等により、ほこりや破損のないように養生すること。
4. 火気を使用する工事は消火器を配置する等の防火対策を講じること。
5. 床材、天井材、ﾀｲﾙは割付を考慮して撤去･新設すること。
6. ｺﾝｸﾘｰﾄを打ち継ぎする面は目荒し加工すること。
7. 屋上防水改修については、降雨や既存防水層撤去時の漏水に注意し、施工手順や施工範囲を検討し施工すること

外壁仕上表(西棟)

場所　部位	外壁改修前 下地	外壁改修前 仕上	撤去	在来のまま	外壁劣化改修 コンクリート打放し仕上 クラック部 1 樹脂注入工法	2 充填工法 Uカットシール	3 シール工法	欠損部 4 充填工法	モルタル塗仕上 クラック部 5 樹脂注入工法	6 充填工法 Uカットシール	7 シール工法	欠損部 8 充填工法	浮き部 9 モルタル塗替工法 浮き部改修工法	10 部分樹脂注入工法 アンカーピン工法 浮き部改修工法	タイル張り仕上 クラック部 11 充填工法 Uカットシール 下地コンクリート躯体とする部としタイルは張替え	浮き部 12 タイル張替え工法	下地処理 既存塗膜等の除去 (1) 水洗い工法	(2) サンダー工法	(3) 超高圧水洗機工法	(4) 塗膜剥離材工法	下地調整材 (1) セメント系下地調整塗材	(2) ポリマーセメントモルタル	(3) 防水形主材	仕上	備考
根廻り	C	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ	○	○					○			○		○			○				○			高圧洗浄の上、 防水型複層塗材E吹付	30～50MPa
外壁	C	ﾓﾙﾀﾙ刷毛引き 外装薄塗材E吹付	○						○			○		○			○				○			高圧洗浄の上、 防水型複層塗材E吹付	30～50MPa
軒裏	C	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し 外装薄塗材E吹付	○		○			○									○				○			高圧洗浄の上、 外装薄塗材E吹付	30～50MPa

※注記

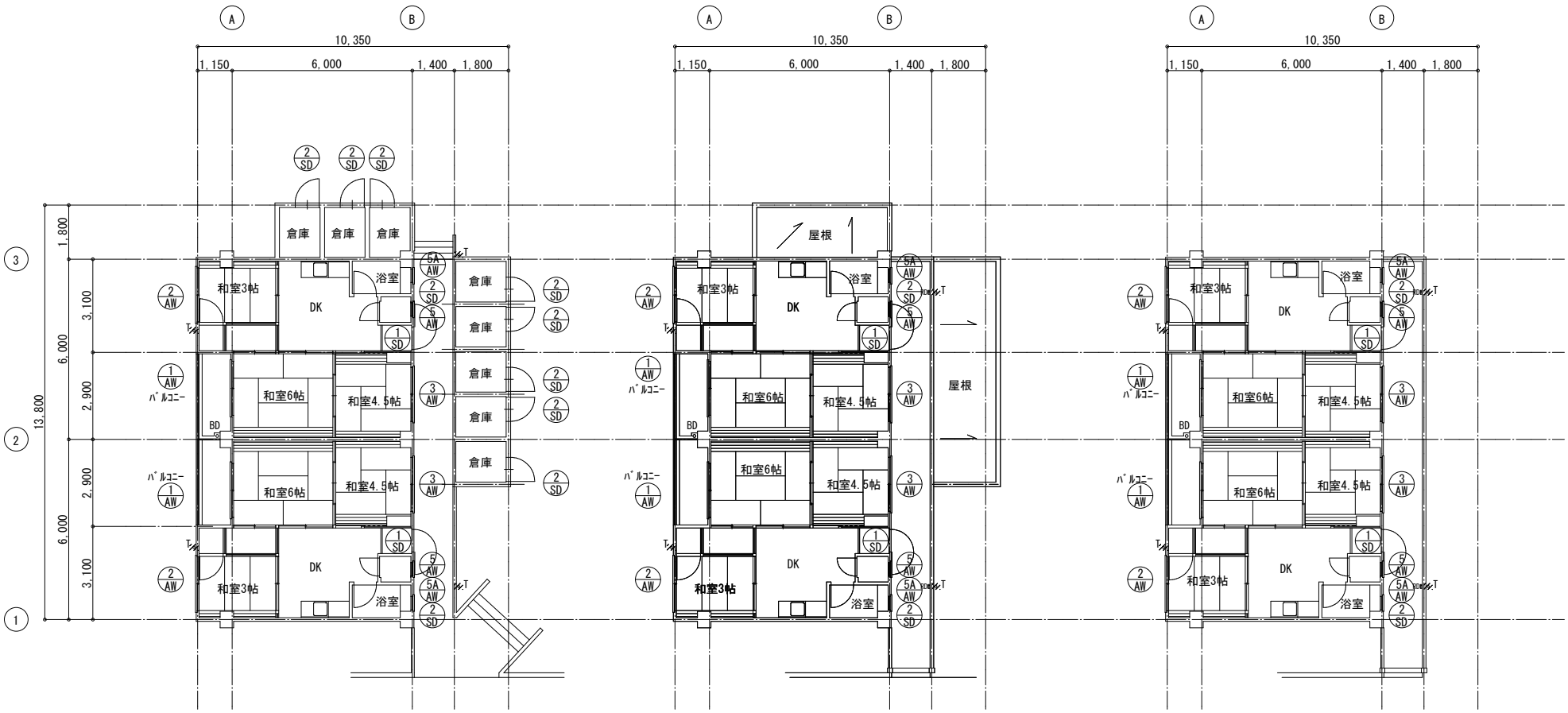
・外壁吹付け材にはアスベストが含有していないことを事前調査により確認済み。

「建築物の改修・解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術指針」
（平成28年4月28日　国立研究開発法人建築研究所　日本建築仕上材工業会）による。

設計に緑を

図面縮小率　A2版 100%
図面縮小率　A3版 71%

記事	株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 仕上表（西棟）	設計 No 縮尺 －	図面 No A/12



改修前 1階平面図(西棟)　1/100

改修前 2階平面図(西棟)　1/100

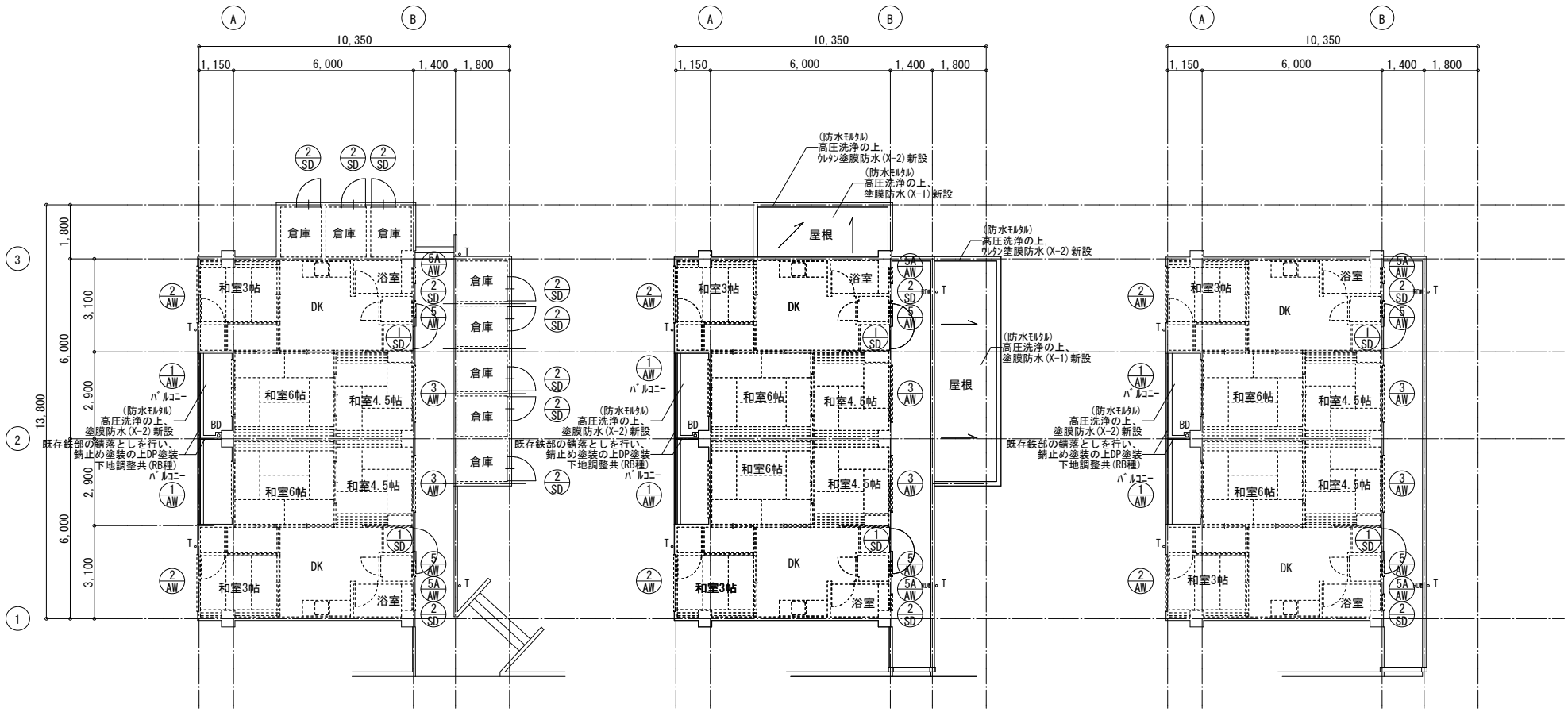
改修前 3階平面図(西棟)　1/100

凡例	
○T	竪樋撤去を示す。
▬RD	ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝを示す。
BD ○	ﾊﾞﾙｺﾆｰﾄﾞﾚﾝを示す。
←——	水勾配を示す。
▨	撤去部分を示す。

設計に緑を

図面縮小率　A2版 100%
図面縮小率　A3版 71%

記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修前平面図-1 (西棟)	設計 No 縮尺 1/100	図面 No A/13



改修後 1階平面図(西棟) 1/100

改修後 2階平面図(西棟) 1/100

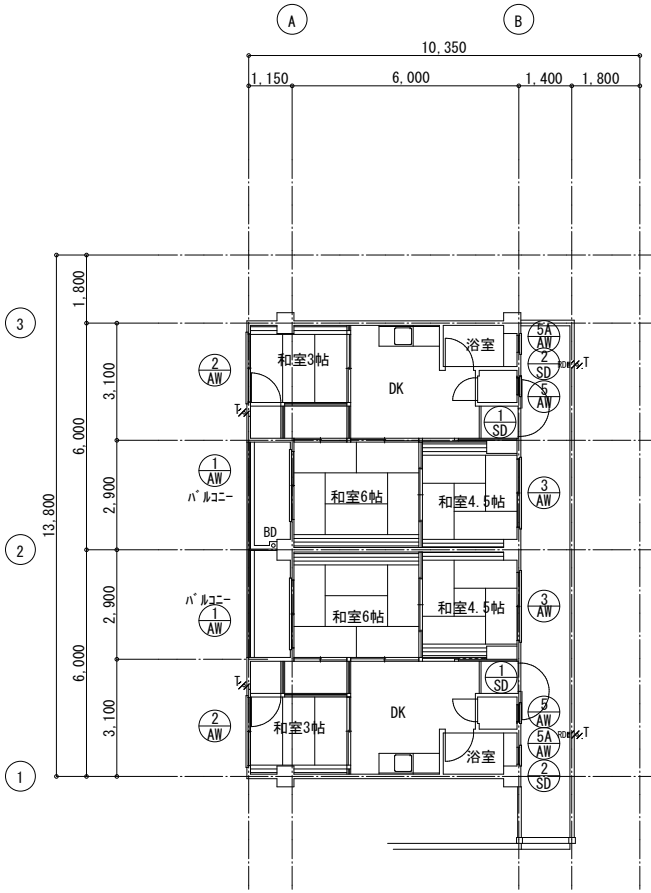
改修後 3階平面図(西棟) 1/100

凡例	
○T	竪樋新設を示す。
▬RD	改修用ルーフドレイン新設を示す。
BD	改修用バルコニードレンを示す。
←	水勾配を示す。
═══	新設部分を示す。
┅┅┅	既存部分を示す。

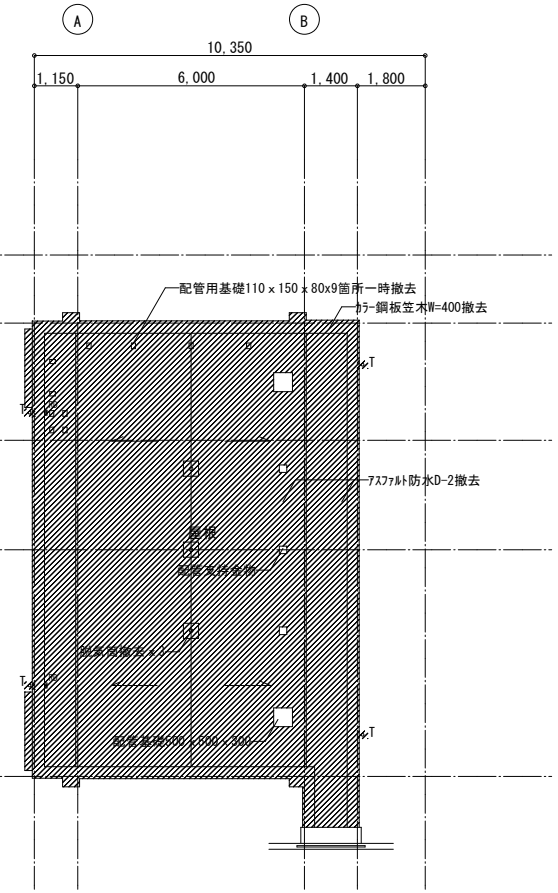
設計に緑を

図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修後平面図-1 (西棟)	設計No 縮尺 1/100	図面No A/14



改修前 4階平面図(西棟)　1/100



改修前 R階平面図(西棟)　1/100

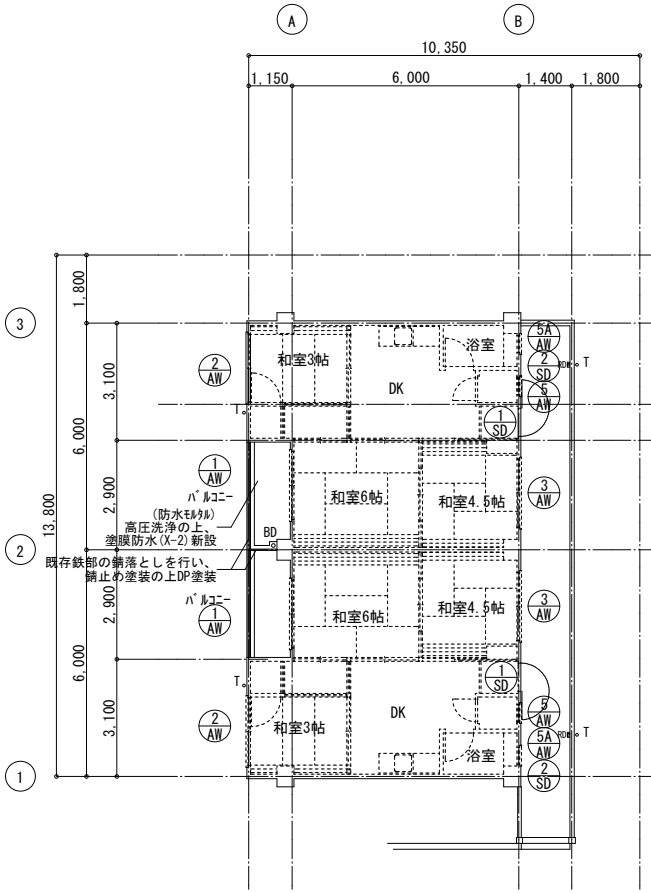
※既存ｱｽﾌｧﾙﾄ防水D-2撤去については新規防水施工中も含め
晴天時に施工を完了するか養生等により降雨対策を確実に行い
降雨時に無防水の状態にしないこと。

凡例	
○T	竪樋撤去を示す。
▬RD	ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝを示す。
BD ○	ﾊﾞﾙｺﾆｰﾄﾞﾚﾝを示す。
←——	水勾配を示す。
//////	撤去部分を示す。

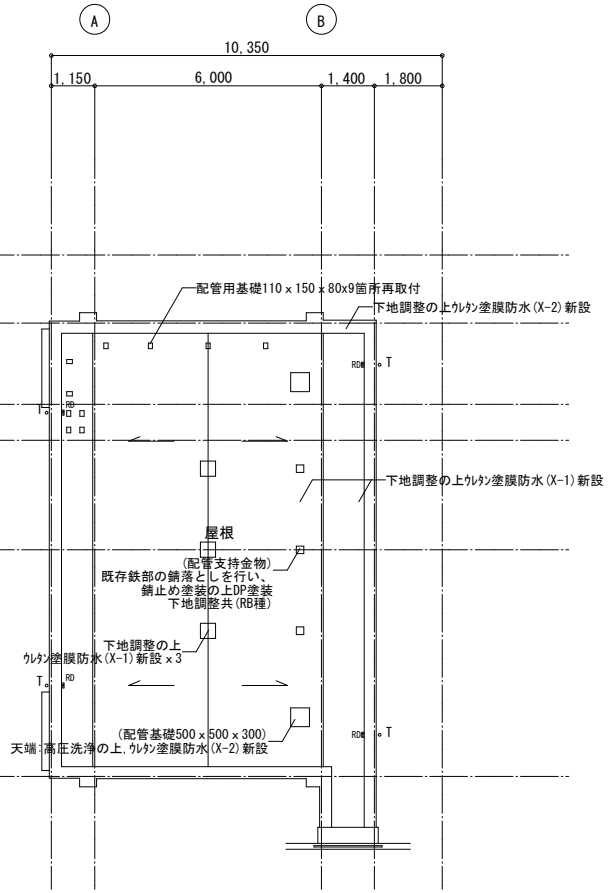
設計に緑を

図面縮小率　A2版 100%
図面縮小率　A3版 71%

記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修前平面図-2 (西棟)	設計 No 縮尺 1/100	図面 No A/15



改修後 4階平面図(西棟) 1/100



改修後 R階平面図(西棟) 1/100

凡例	
○T	竪樋新設を示す。
▬RD	改修用ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ新設を示す
BD ○	改修用ﾊﾞﾙｺﾆｰﾄﾞﾚﾝを示す。
←——	水勾配を示す。
═══	新設部分を示す。
:::::::::	既存部分を示す。

※屋上防水改修に支障のある設備基礎及び配管はｼﾞｬｯｷｱｯﾌﾟ養生とすること。

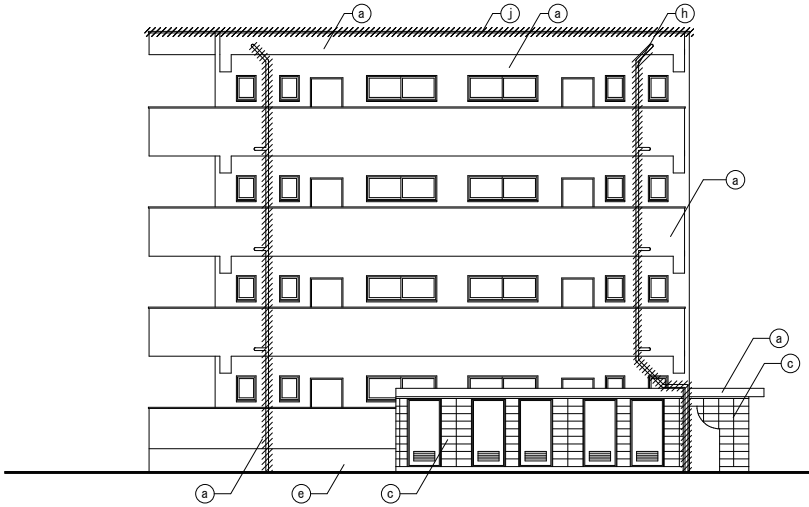
図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

設計に緑を

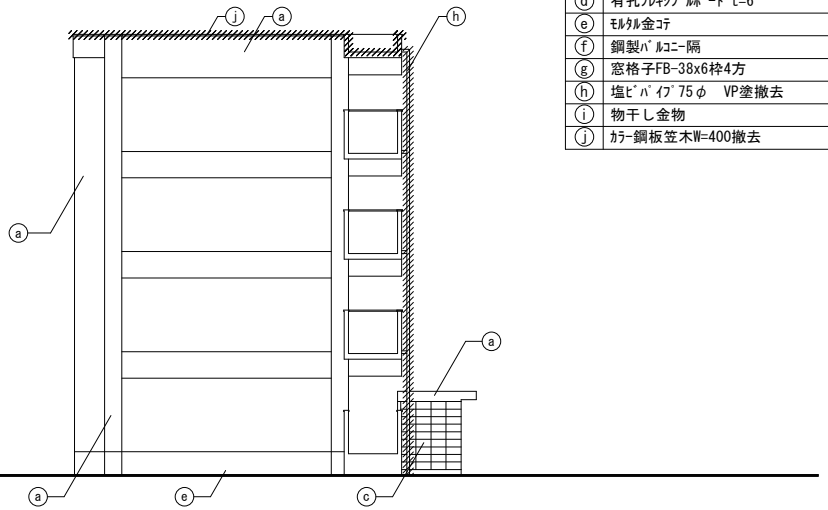
記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修後平面図-2 (西棟)	設計 No 縮尺 1/100	図面 No A/16

改修前立面図凡例

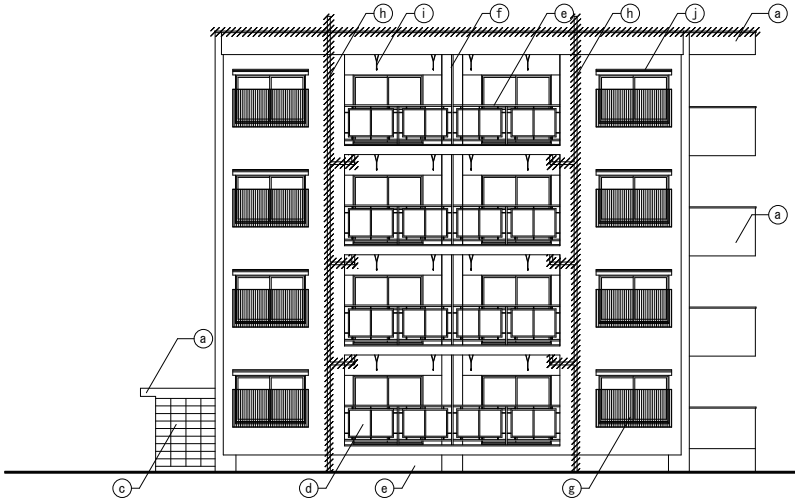
ⓐ	(ﾓﾙﾀﾙ刷毛引き)外装薄塗材E吹付撤去
ⓑ	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ
ⓒ	(化粧積み)外装薄塗材E吹付撤去
ⓓ	有孔ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞt=6
ⓔ	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ
ⓕ	鋼製ﾊﾞﾙｺﾆｰ隔
ⓖ	窓格子FB-38x6枠4方
ⓗ	塩ﾋﾞﾊﾞｲﾌﾟ75φ　VP塗撤去
ⓘ	物干し金物
ⓙ	ｶﾗｰ鋼板笠木W=400撤去



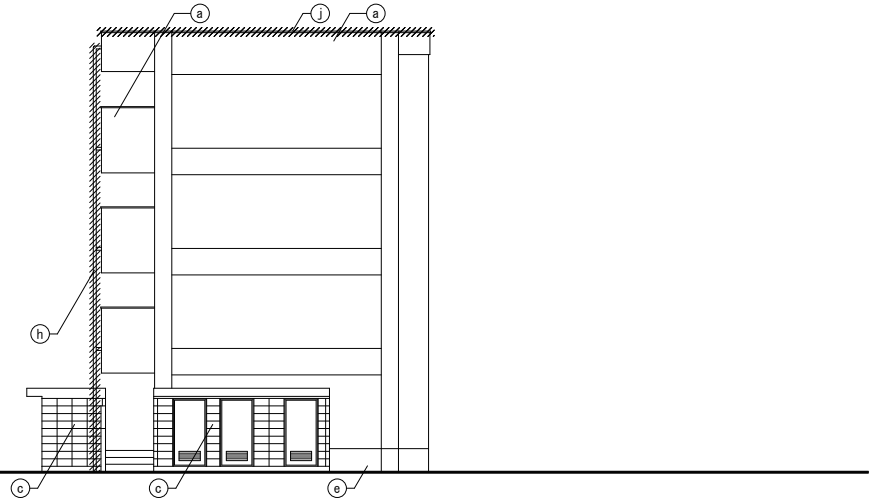
改修前　東側立面図（西棟）　１／１００



改修前　南側立面図（西棟）　１／１００



改修前　西側立面図（西棟）　１／１００



改修前　北側立面図（西棟）　１／１００

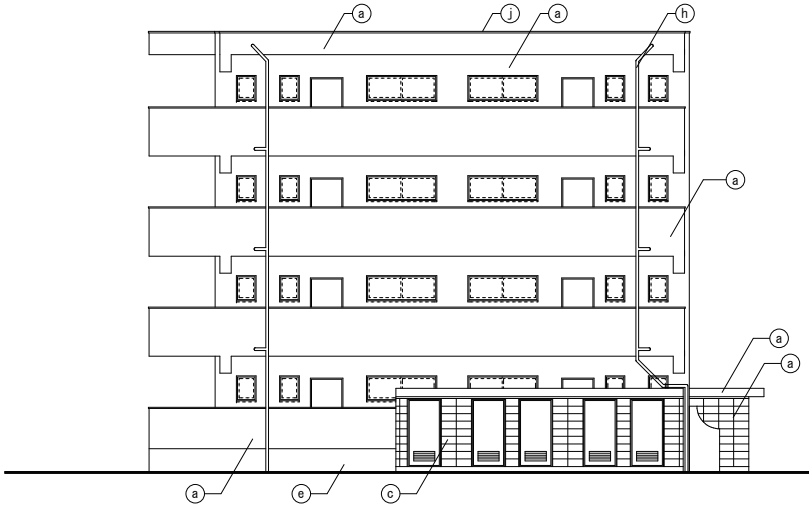
設計に緑を

図面縮小率　A2版 100%
図面縮小率　A3版 71%

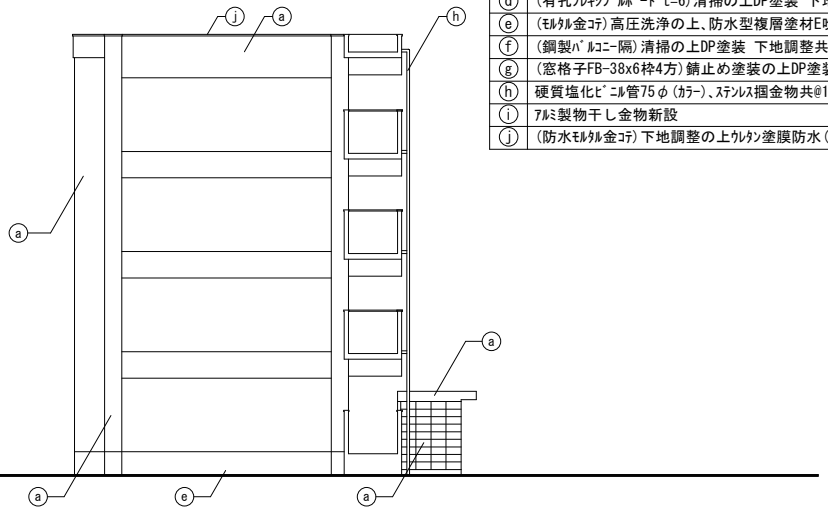
記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所　登録　１７（１）第０５８７号 管理建築士　1級建築士　登録　第２４８８２５号 1級建築士　車　田　誠	設計年月日	御承認 所長　設計　製図	工事名 旭町住宅１号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修前　立面図（西棟）	設　計　No 縮　尺　1/100	図　面　No　A／１７

改修後立面図凡例

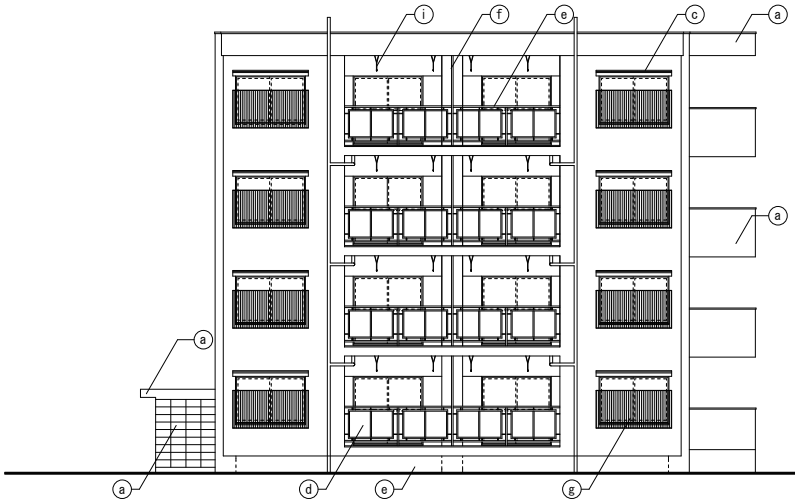
ⓐ	高圧洗浄の上、防水型複層塗材E吹付 下地ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ塗り共
ⓑ	ｼｰﾘﾝｸﾞ打替え
ⓒ	高圧洗浄の上、塗膜防水(X-２)小口共
ⓓ	(有孔ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞt=6)清掃の上DP塗装 下地調整共(RB種)
ⓔ	(ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ)高圧洗浄の上、防水型複層塗材E吹付 下地ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ塗り共
ⓕ	(鋼製ﾊﾞﾙｺﾆｰ隔)清掃の上DP塗装 下地調整共(RB種)
ⓖ	(窓格子FB-38x6枠4方)錆止め塗装の上DP塗装 下地調整共(RB種)
ⓗ	硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ管75φ(ｶﾗｰ)、ｽﾃﾝﾚｽ掴金物共@1,200内外新設
ⓘ	ｱﾙﾐ製物干し金物新設
ⓙ	(防水ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ)下地調整の上ｳﾚﾀﾝ塗膜防水(X-2)新設



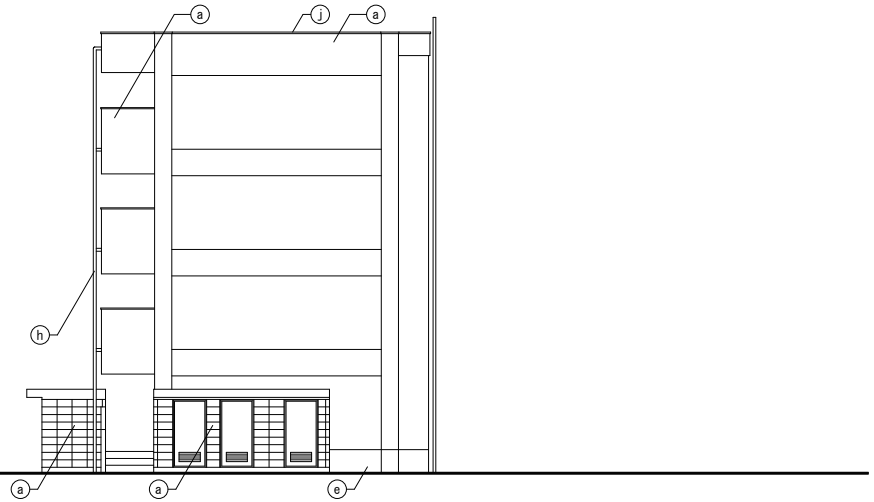
改修後　東側立面図（西棟）　１／１００



改修後　南側立面図（西棟）　１／１００



改修後　西側立面図（西棟）　１／１００

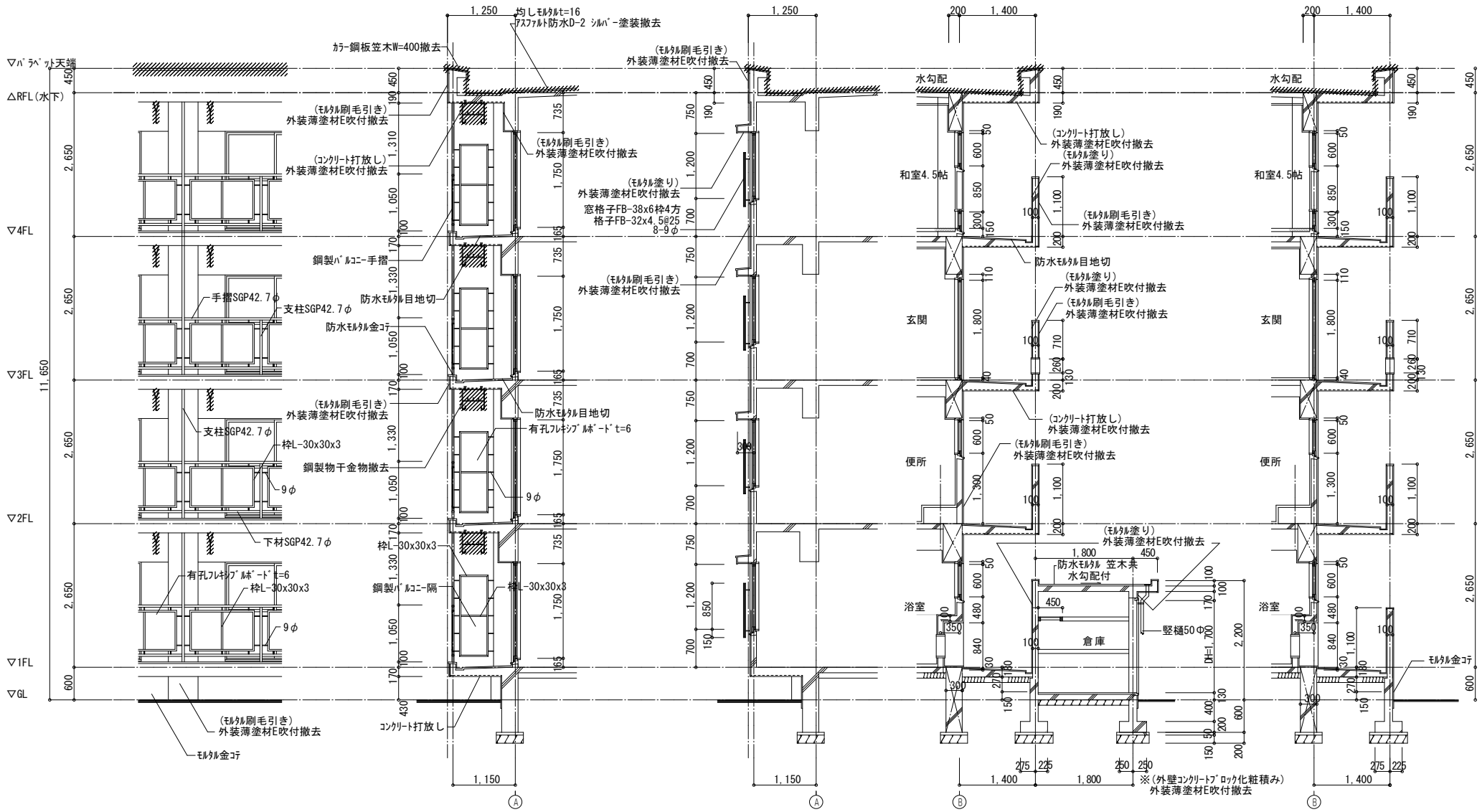


改修後　北側立面図（西棟）　１／１００

設計に緑を

図面縮小率　A2版 100%
図面縮小率　A3版 71%

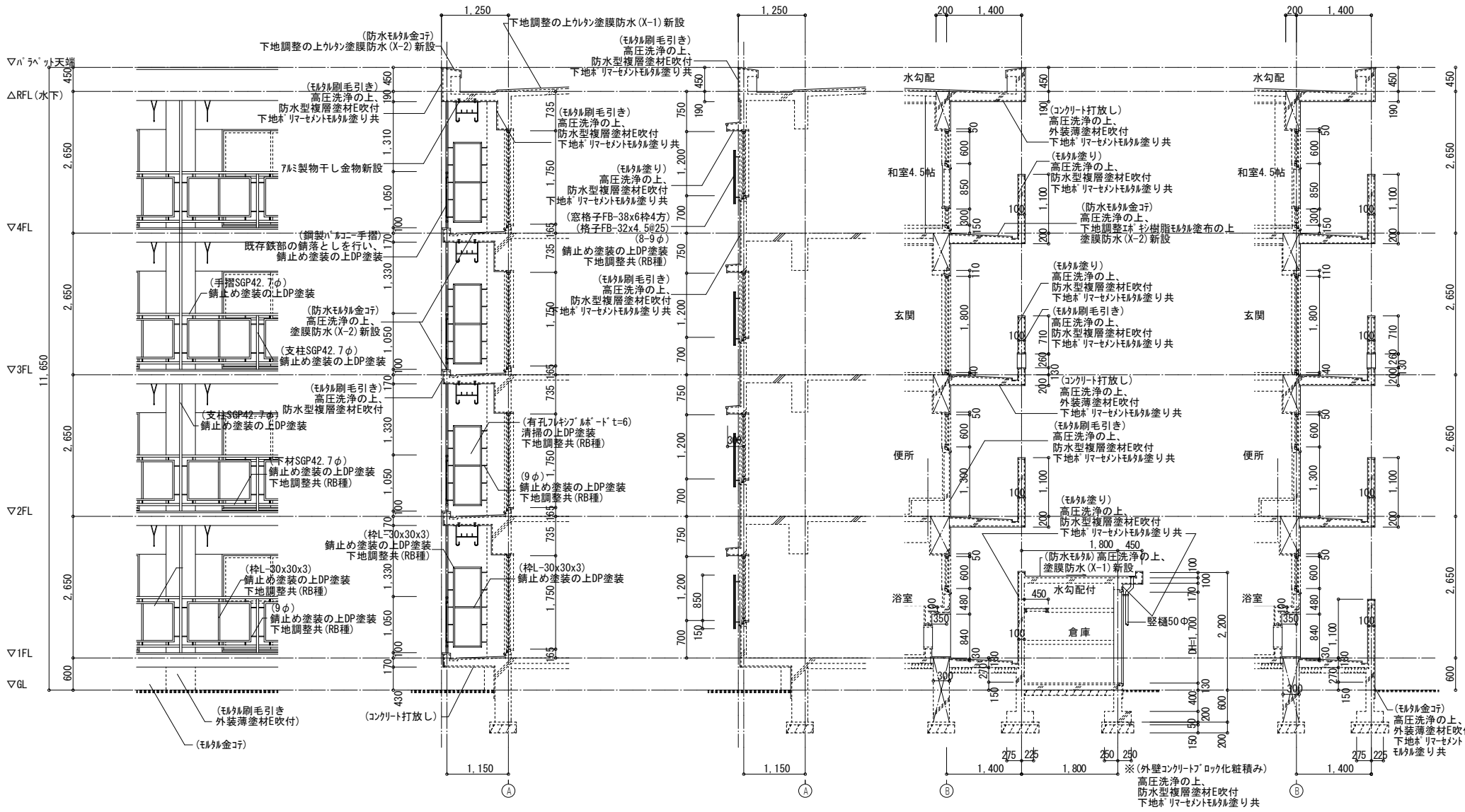
記事	株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅１号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修後 立面図（西棟）	設計 No 縮尺 1/100	図面 No A／18



設計に緑を

図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

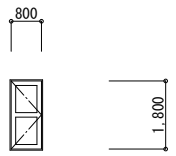
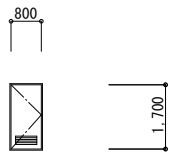
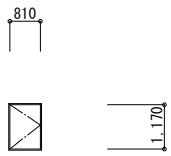
記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修前矩計図(西棟)	設計No 縮尺 1/100	図面No A/19

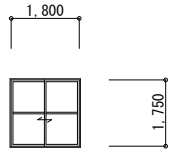
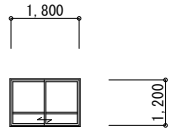
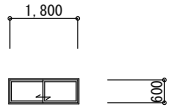
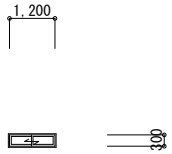


設計に縁を

図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

記事	株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修後矩計図(西棟)	設計No 縮尺 1/50	図面No A/20

記号 種別	1 SD 鋼製片開き扉	2 SD 鋼製片開き扉	3 SD 鋼製片開き扉				
位置 箇所	玄関 8	倉庫 8	MB 8				
姿図							
改修内容	SOP塗替(両面)	SOP塗替 建具調整	SOP塗替				
硝子							
備考							

記号 種別	1 AW ｱﾙﾐ製引違い窓	2 AW ｱﾙﾐ製引違い窓	3 AW ｱﾙﾐ製引違い窓	4 AW ｱﾙﾐ製引違い窓	5 AW ｱﾙﾐ製滑り出し窓	5A AW ｱﾙﾐ製滑り出し窓	
位置 箇所	和室6帖 8	和室3帖 8	和室4.5帖 8	和室4.5帖 8	便所 8	便所 8	
姿図							
改修内容							
硝子	上部：透明t=3　下部：スリt=3	透明t=3	型板網入ｶﾞﾗｽt=6.8	型板網入ｶﾞﾗｽt=6.8	型板網入ｶﾞﾗｽt=6.8	型板網入ｶﾞﾗｽt=6.8	
備考	４周ｼｰﾘﾝｸﾞ打替(MS-2 20x20)	４周ｼｰﾘﾝｸﾞ打替(MS-2 20x20)	４周ｼｰﾘﾝｸﾞ打替(MS-2 20x20)	４周ｼｰﾘﾝｸﾞ打替(MS-2 20x20)	４周ｼｰﾘﾝｸﾞ打替(MS-2 20x20)	４周ｼｰﾘﾝｸﾞ打替(MS-2 20x20)	

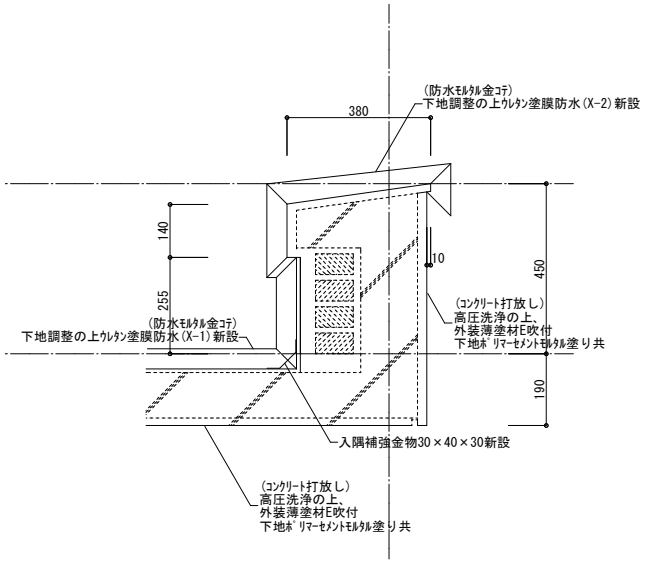
記号 種別							
位置 箇所							
姿図							
塗装 枠巾							
金物							
硝子							
備考							

設計に緑を

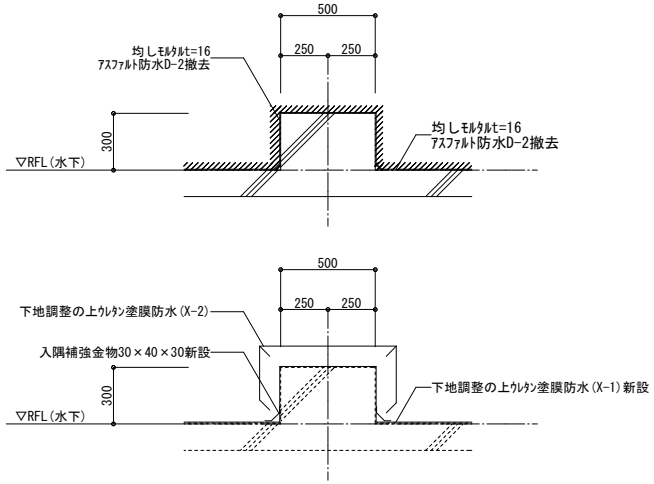
図面縮小率　A2版 100%
図面縮小率　A3版 71%

記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17（1）第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅１号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 建具表（西棟）	設計 No 縮尺 1/50	図面 No A/21

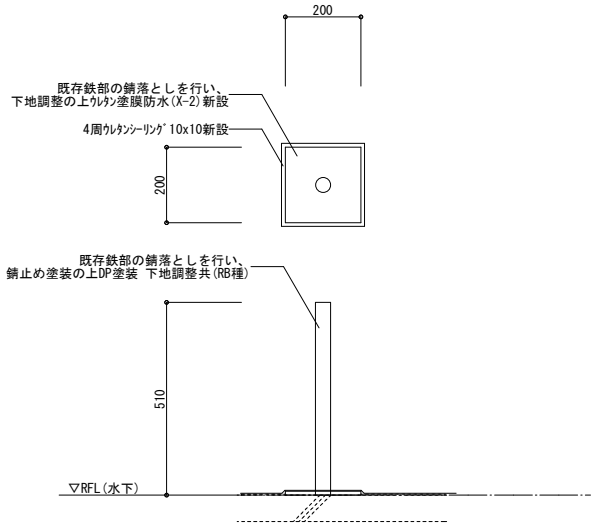
パラペット廻り詳細図 1/10



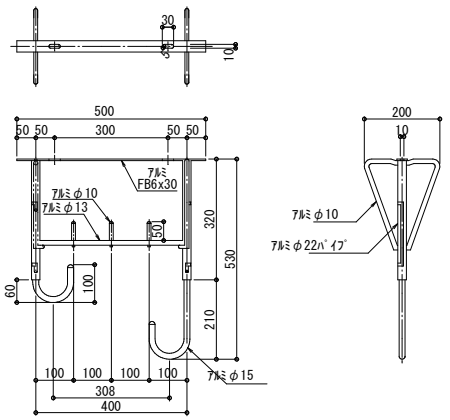
配管基礎詳細図 S=1/20



配管支持金物詳細図 1/10



物干し金物 詳細図 1/10



材質:アルミニウム(A6063押出型材)
仕上:アルマイト処理
色 :シルバー

設計に緑を

図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 部分詳細図(西棟)	設計No 縮尺 1/10,20	図面No A/22

外部仕上表

改修前 種別	改修前 仕上名	改修後 種別	改修後 仕上名
屋根	平場部:均しﾓﾙﾀﾙt=16 ｱｽﾌｧﾙﾄ防水D-2 ｼﾙﾊﾞｰ塗装 排水溝部:均しﾓﾙﾀﾙt=16 ｱｽﾌｧﾙﾄ防水D-2 ｼﾙﾊﾞｰ塗装撤去 立上り部:ｱｽﾌｧﾙﾄ防水D-2 ｼﾙﾊﾞｰ塗装撤去	屋根	平場部:下地調整の上ｳﾚﾀﾝ塗膜防水(X-2)新設 平場・立上り取合い金物設置、ｱﾙﾐ製脱気装置筒設置(1ヶ所/100㎡) 排水溝部:下地調整の上ｳﾚﾀﾝ塗膜防水(X-2)新設 立上り部:下地調整の上ｳﾚﾀﾝ塗膜防水(X-2)新設
外壁	ﾓﾙﾀﾙ刷毛引き外装薄塗材E吹付	外壁	(ﾓﾙﾀﾙ刷毛引き外装薄塗材E)
軒裏	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し 外装薄塗材E吹付	軒裏	(ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し 外装薄塗材E吹付)
樋	硬質ｶﾗｰ塩ﾋﾞﾊﾞｲﾌﾟ75φ	樋	(硬質ｶﾗｰ塩ﾋﾞﾊﾞｲﾌﾟ75φ)
開口部	ｱﾙﾐ製建具 鋼製建具	開口部	(ｱﾙﾐ製建具) (鋼製建具)
その他	-	その他	-

凡例	
C	ｺﾝｸﾘｰﾄ下地
CB	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ下地 厚100
W	木製下地
LGS	軽量鉄骨下地
SUS	ｽﾃﾝﾚｽ
CL	ｸﾘﾔﾗｯｶｰ
NAD	ｱｸﾘﾙ樹脂系非水分散形塗料
VP	塩化ﾋﾞﾆﾙ樹脂塗料
SOP	合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ
EP	合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ
EP-G	つや有 合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ
DP	耐候性塗料
	ｼｰﾘﾝｸﾞ
	仕上区分線

略号	名称	規格番号	防火材料認定番号	
GB	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ GB-R	JIS A6901	712.5	NM-8619
GB-D	化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	JIS A6901	712.5	NM-8614
GB-S	ｼｰｼﾞﾝｸﾞ石膏ﾎﾞｰﾄﾞ GB-S	JIS A6901	7 9.5	QM-9826
GB-S	ｼｰｼﾞﾝｸﾞ石膏ﾎﾞｰﾄﾞ GB-S	JIS A6901	715	QM-9826
GB-P	吸音用穴あき石膏ﾎﾞｰﾄﾞGB-P8φ-22	JIS A6901	7 9.5	QM-9825

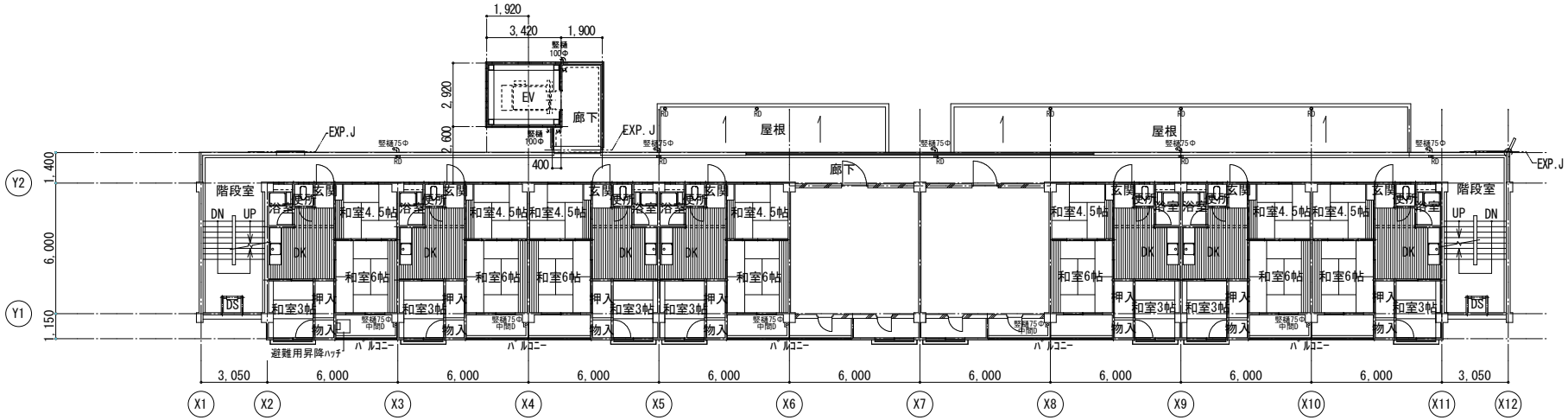
特記事項

1. 使用建材は、全てF☆☆☆☆材料とする。ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ規制対象外
2. 屋内工事部分の木床は工事により破損しないようにﾍﾞﾆﾔ･ｼｰﾄその他により養生すること。
3. 屋内の備品等はﾍﾞﾆﾔ･ｼｰﾄ･布等により、ほこりや破損のないように養生すること。
4. 火気を使用する工事は消火器を配置する等の防火対策を講じること。
5. 床材、天井材、ﾀｲﾙは割付を考慮して撤去・新設すること。
6. ｺﾝｸﾘｰﾄを打ち継ぎする面は目荒し加工すること。
7. 屋上防水改修については、降雨や既存防水層撤去時の漏水に注意し、施工手順や施工範囲を検討し施工すること

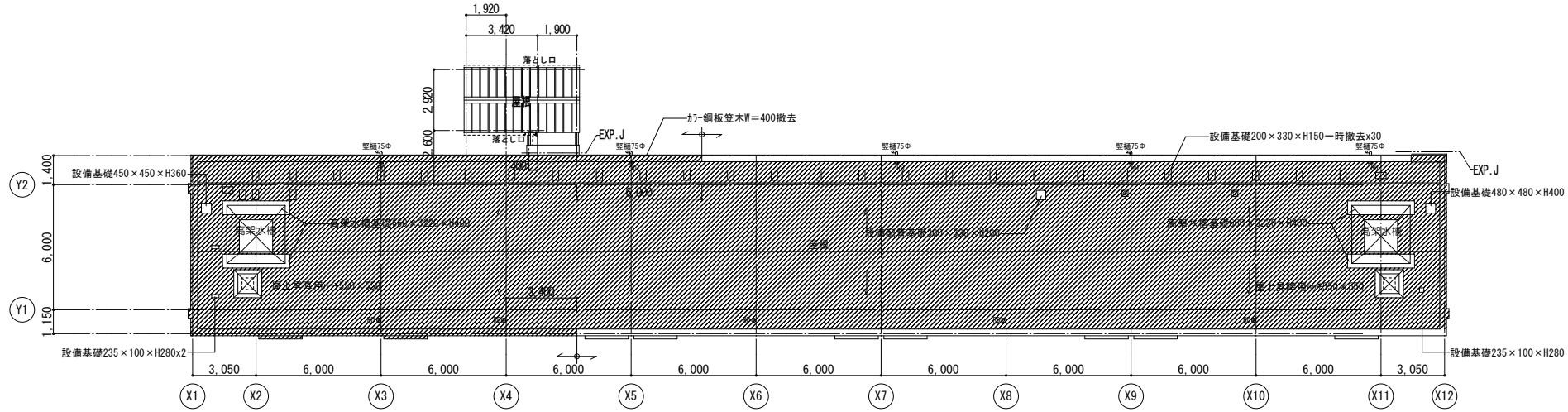
設計に緑を

図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

記事	株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 仕上表(中棟)	設計No 縮尺 -	図面No A/23



改修前　2階平面図 S=1/150



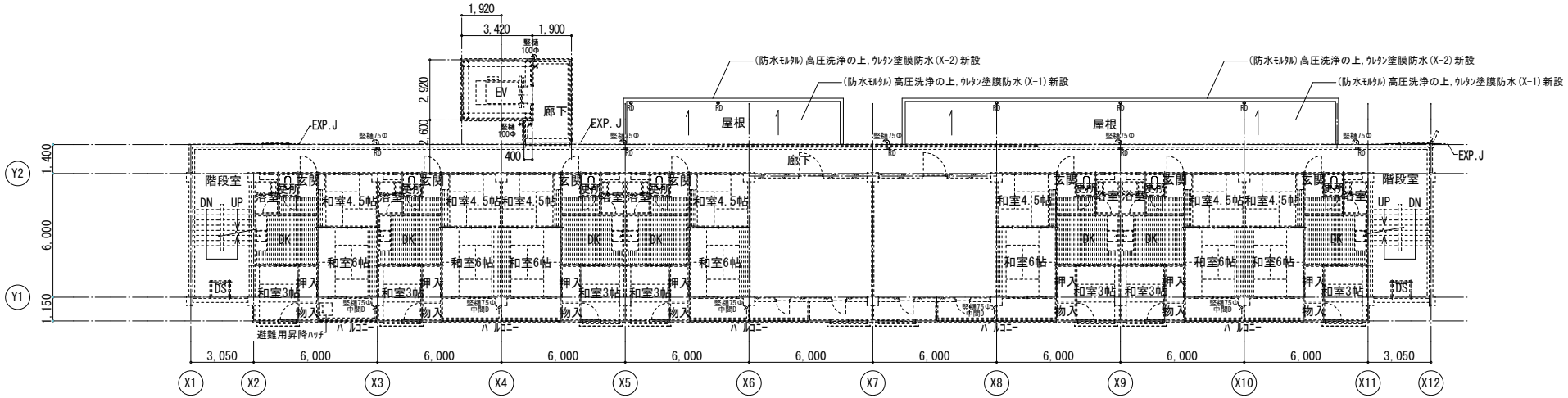
改修前　屋根平面図 S=1/150

凡例	
RD RD	ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ撤去を示す。
	水勾配を示す。
	撤去部分を示す。

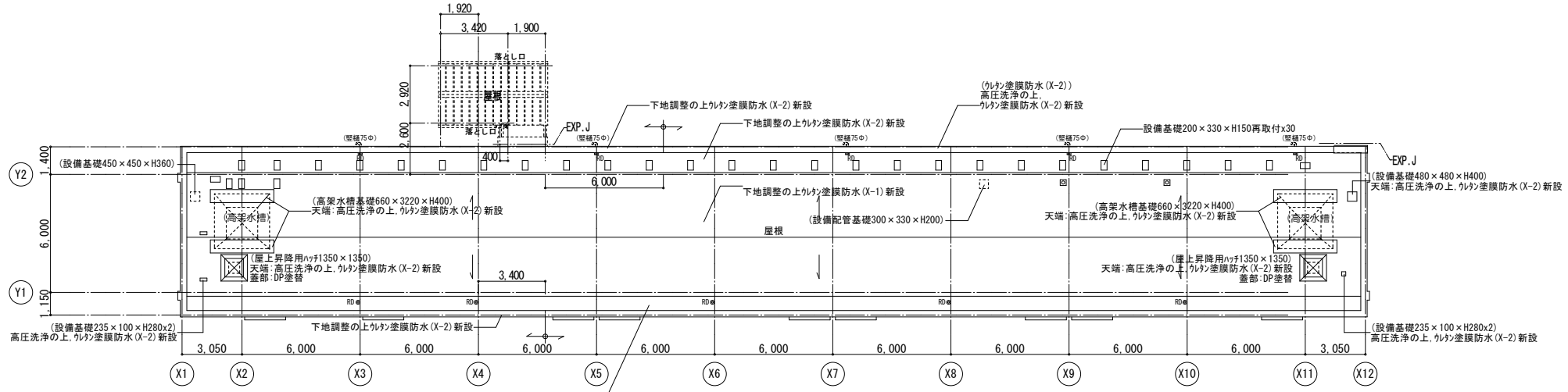
設計に緑を

図面縮小率　A2版 100%
図面縮小率　A3版 71%

記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17（1）第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅１号棟耐震改修等工事（建築主体工事） 図面名 改修前 平面図（中棟）	設計 No 縮尺 1/100	図面 No A／24



改修後　2階平面図 S=1/150



改修後　屋根平面図 S=1/150

※既存ｱｽﾌｧﾙﾄ防水D-2撤去については新規防水施工中も含め
晴天時に施工を完了するか養生等により降雨対策を確実に行い
降雨時に無防水の状態にしないこと。

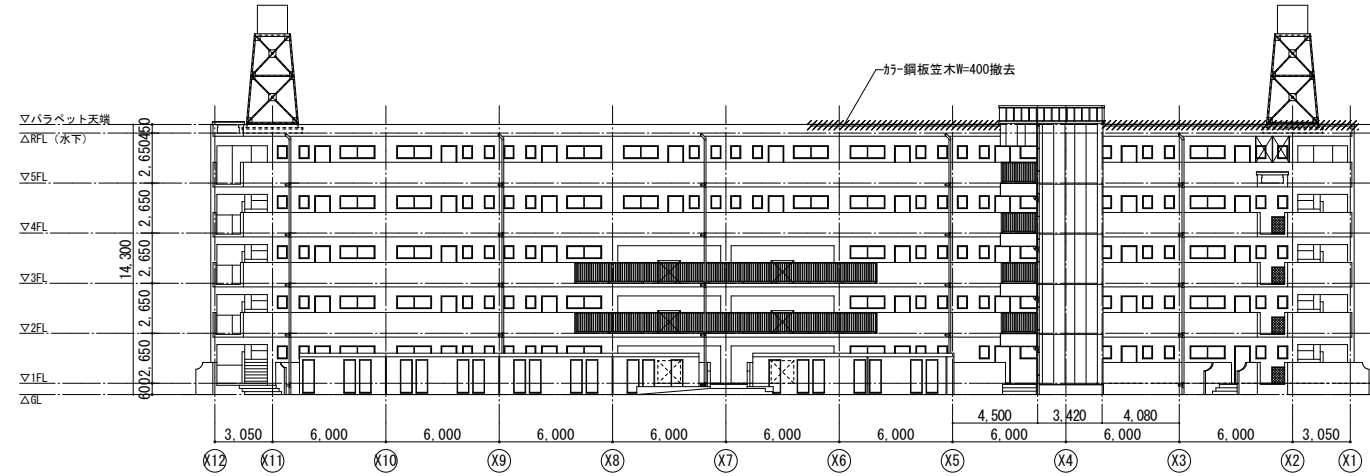
凡例	
○T	竪樋新設を示す。
RD RD	改修用ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ新設を示す。
	水勾配を示す。
	新設部分を示す。
	既存部分を示す。

※屋上防水改修に支障のある設備基礎及び配管はｼﾞｬｯｷｱｯﾌﾟ養生とすること。

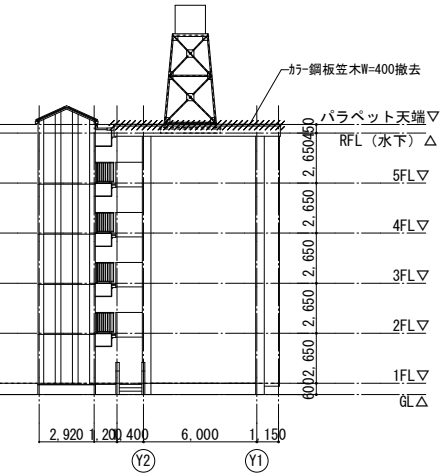
図面縮小率　A2版 100%
図面縮小率　A3版 71%

設計に緑を

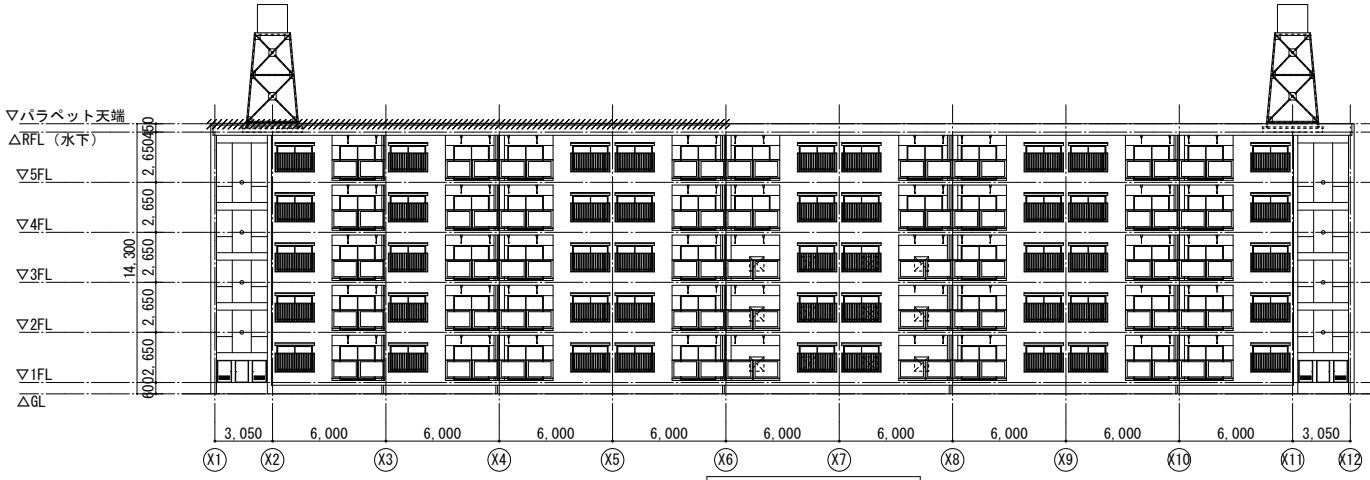
記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修後 平面図(中棟)	設計No 縮尺 1/100	図面No A/25



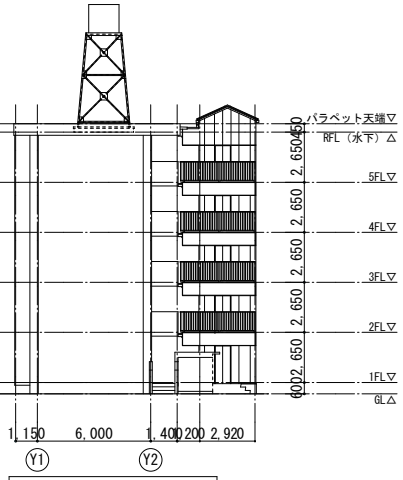
改修前　北面立面図　1/200



改修前　西面立面図　1/200



改修前　南面立面図　1/200

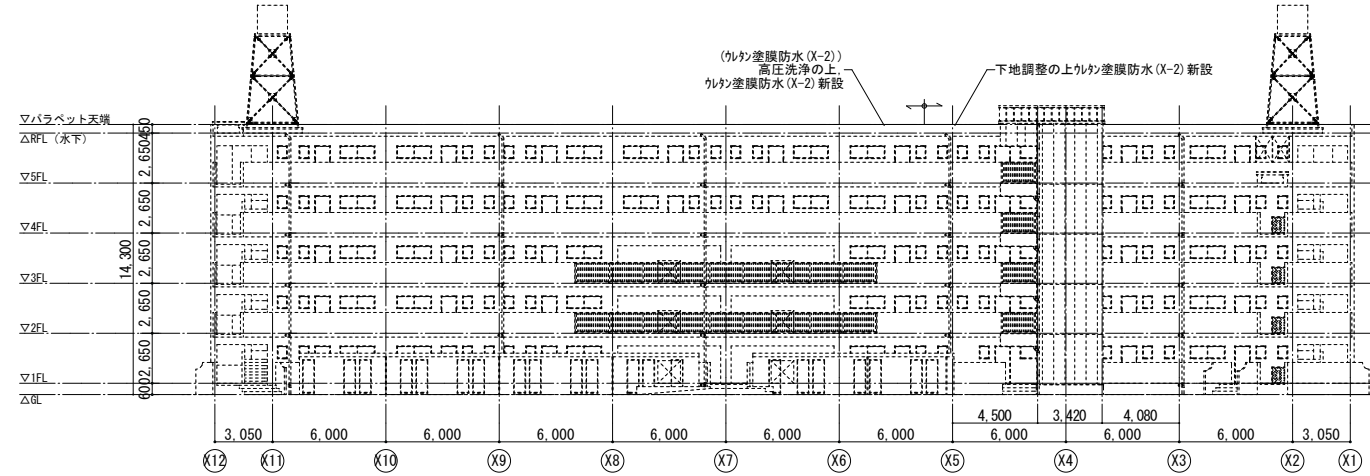


改修前　東面立面図　1/200

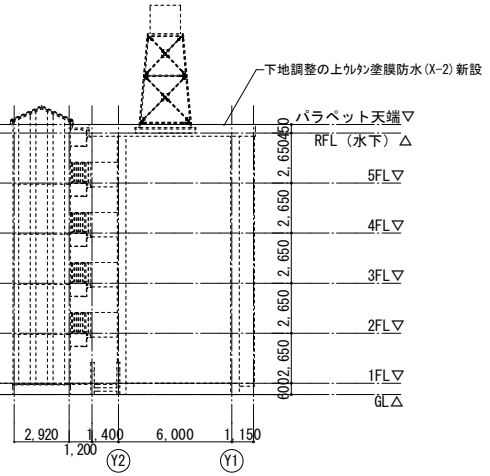
設計に緑を

図面縮小率　A2版 100%
図面縮小率　A3版 71%

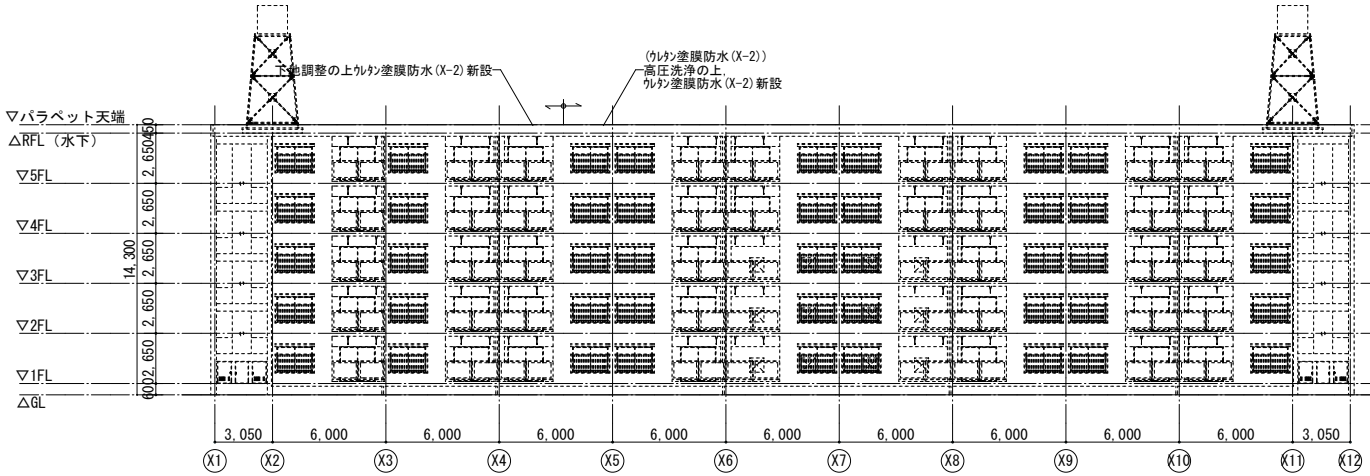
記事		株式会社　車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所　登録　17（1）第0587号 管理建築士　1級建築士　登録　第248825号 1級建築士　車　田　誠	設計年月日	御承認 所長　設計　製図	工事名 旭町住宅１号棟耐震改修等工事（建築主体工事） 図面名 改修前　立面図（中棟）	設　計　No 縮　尺　1/200 図　面　No　A／26



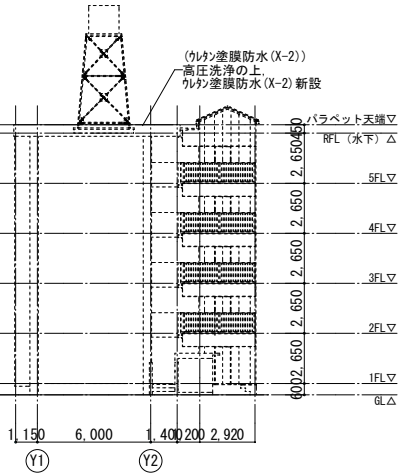
改修後　北面立面図　1/200



改修後　西面立面図　1/200



改修後　南面立面図　1/200

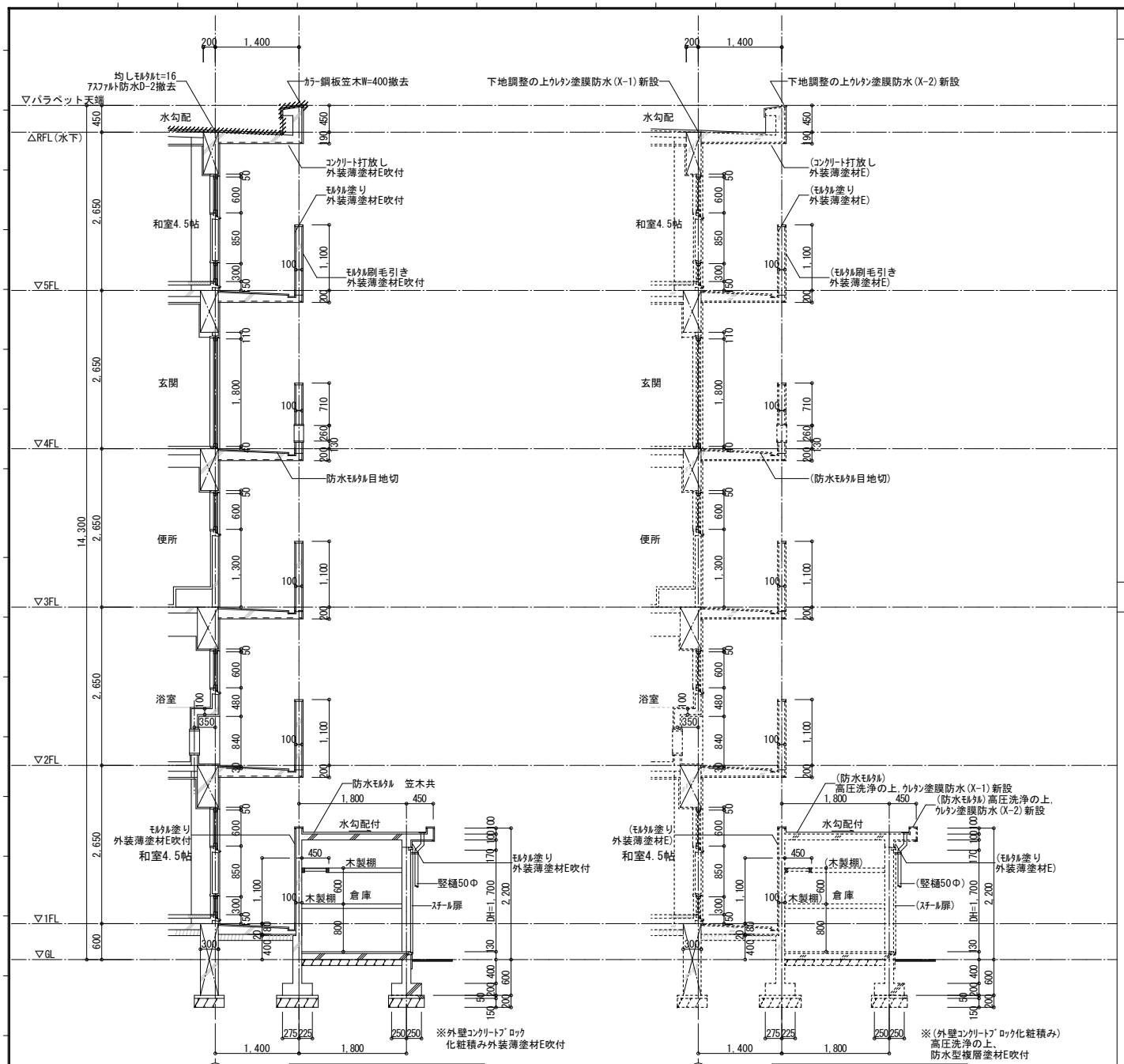


改修後　東面立面図　1/200

設計に緑を

図面縮小率　A2版 100%
図面縮小率　A3版 71%

記事		株式会社　車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所　登録　17（1）第0587号 管理建築士　1級建築士　登録　第248825号 1級建築士　車　田　誠	設計年月日	御承認 所長　設計　製図	工事名 旭町住宅１号棟耐震改修等工事（建築主体工事） 図面名 改修後　立面図（中棟）	設計No 縮尺 1/200	図面No A／27

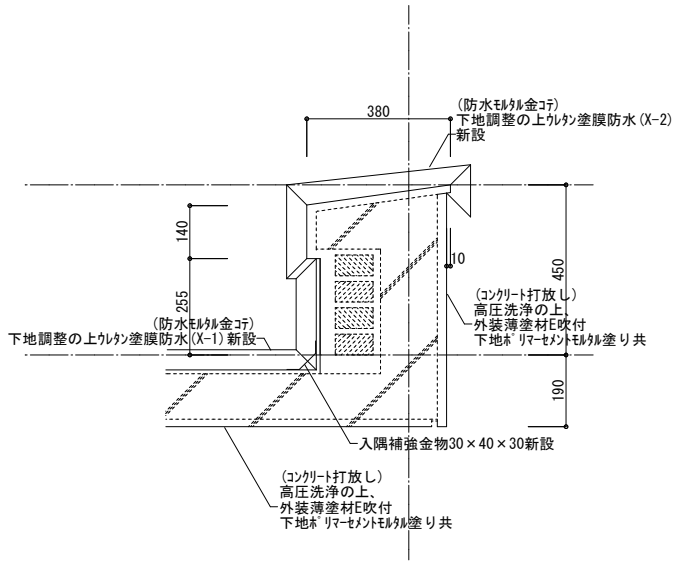


改修前　断面詳細図　1/50

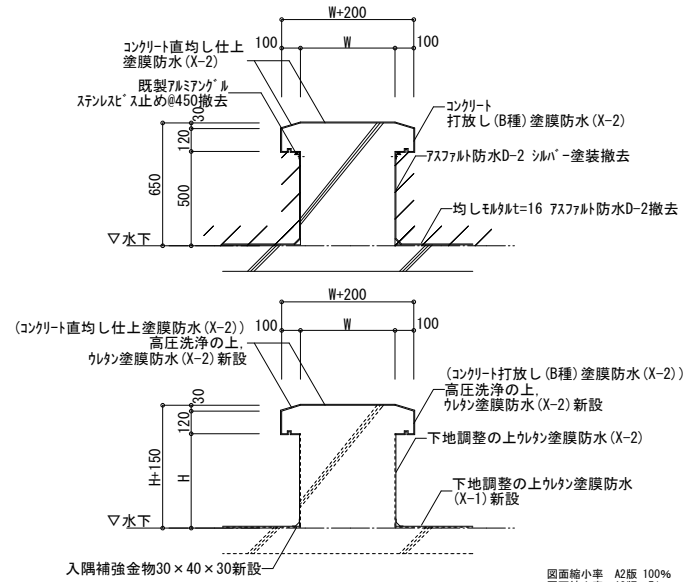
改修後　断面詳細図　1/50

設計に緑を

パラペット廻り詳細図　1/10



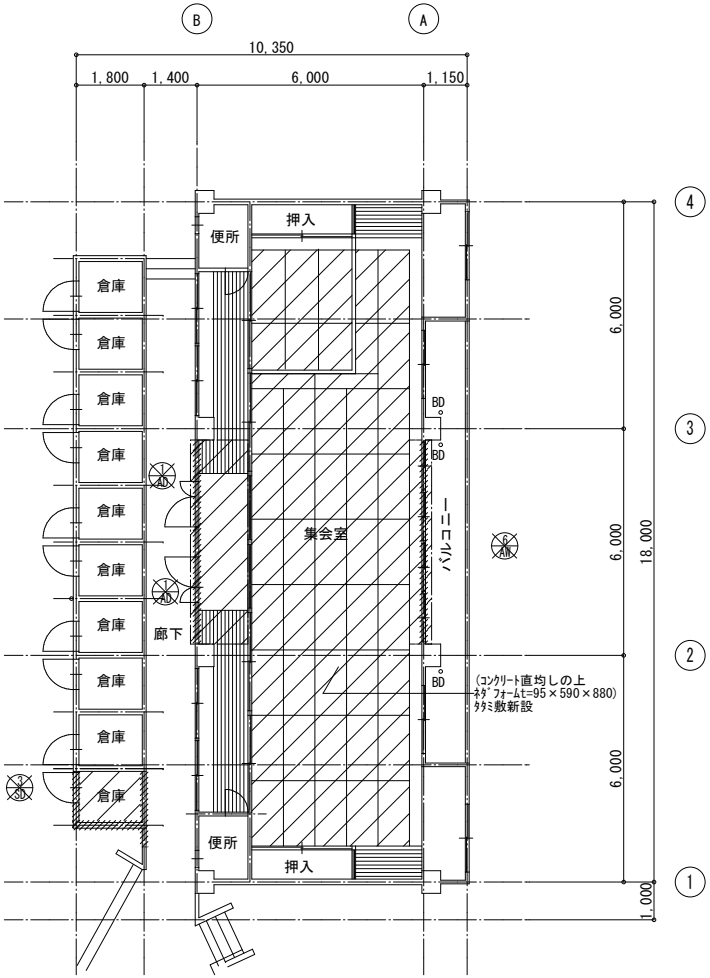
設備基礎詳細図　1/20



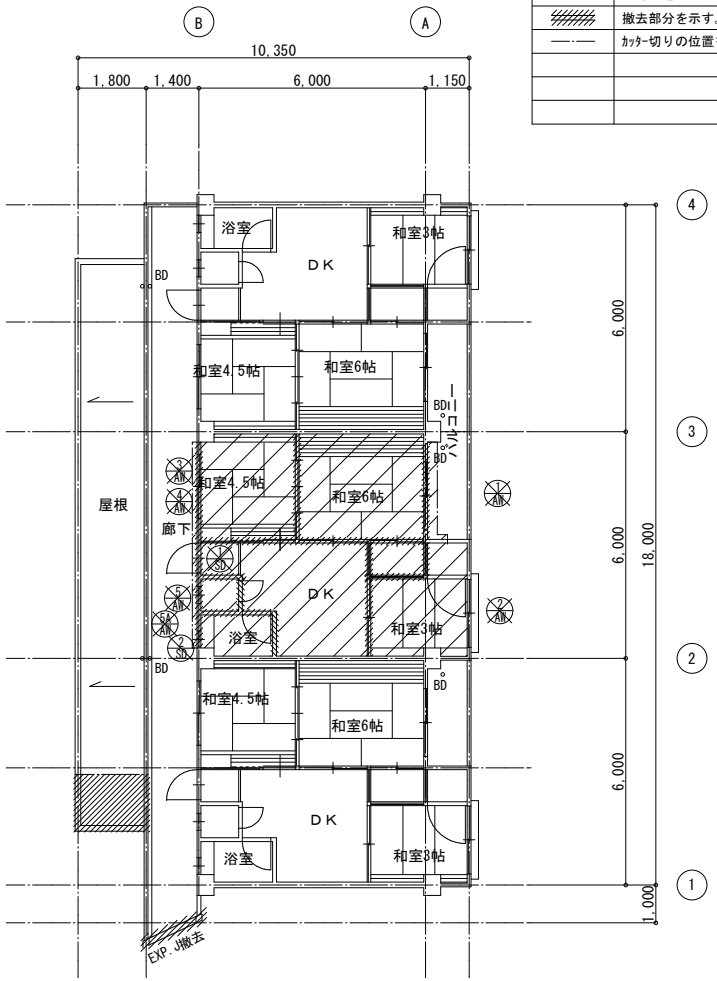
図面縮小率　A2版　100%
図面縮小率　A3版　71%

記事	株式会社　車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所　登録　17(1)第0587号 管理建築士　1級建築士　登録　第248825号 1級建築士　車田　誠	設計年月日	御承認 所長　設計　製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 矩計図(中棟)	設計No 縮尺 1/50	図面No A/28

凡例	
○T	竪樋撤去を示す。
▭RD	ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝを示す。
BD ○	ﾊﾞﾙｺﾆｰﾄﾞﾚｲﾝを示す。
←——	水勾配を示す。
▨	撤去部分を示す。
—·—	ｶｯﾀｰ切りの位置を示す。



改修前1階平面図(東棟)　1/100



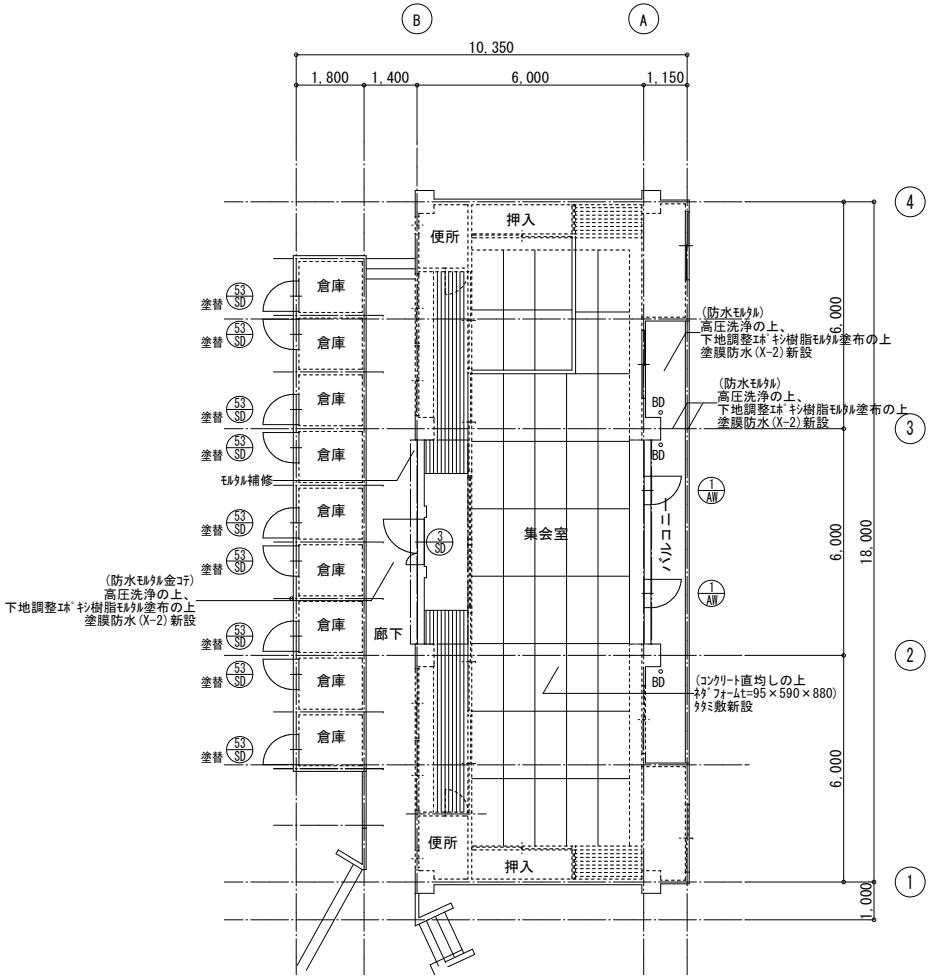
改修前2階平面図(東棟)　1/100

設計に緑を

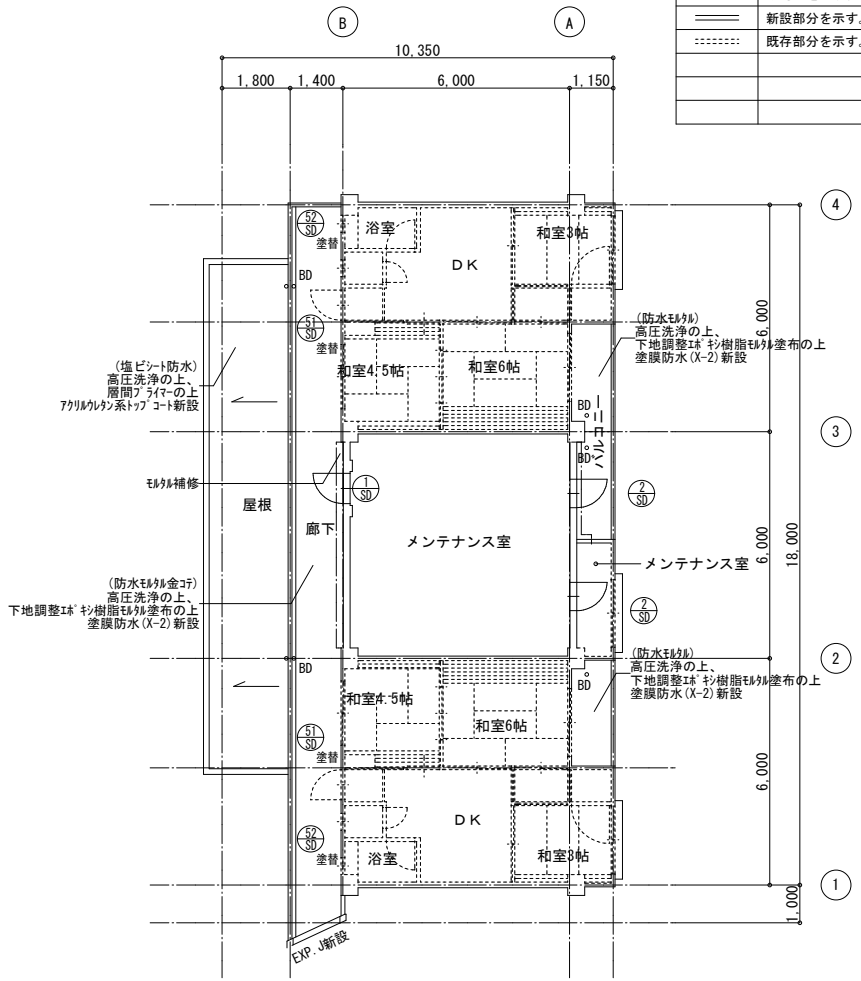
図面縮小率　A2版　100%
図面縮小率　A3版　71%

記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修前 平面図－1 (東棟)	設計 No 縮尺 1/100	図面 No A/29

凡例	
○T	竪樋新設を示す。
▬RD	改修用ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ新設を示す。
BD ○	改修用ﾊﾞﾙｺﾆｰﾄﾞﾚﾝを示す。
←——	水勾配を示す。
═══	新設部分を示す。
┆┆┆┆	既存部分を示す。



改修後1階平面図(東棟)　1/100



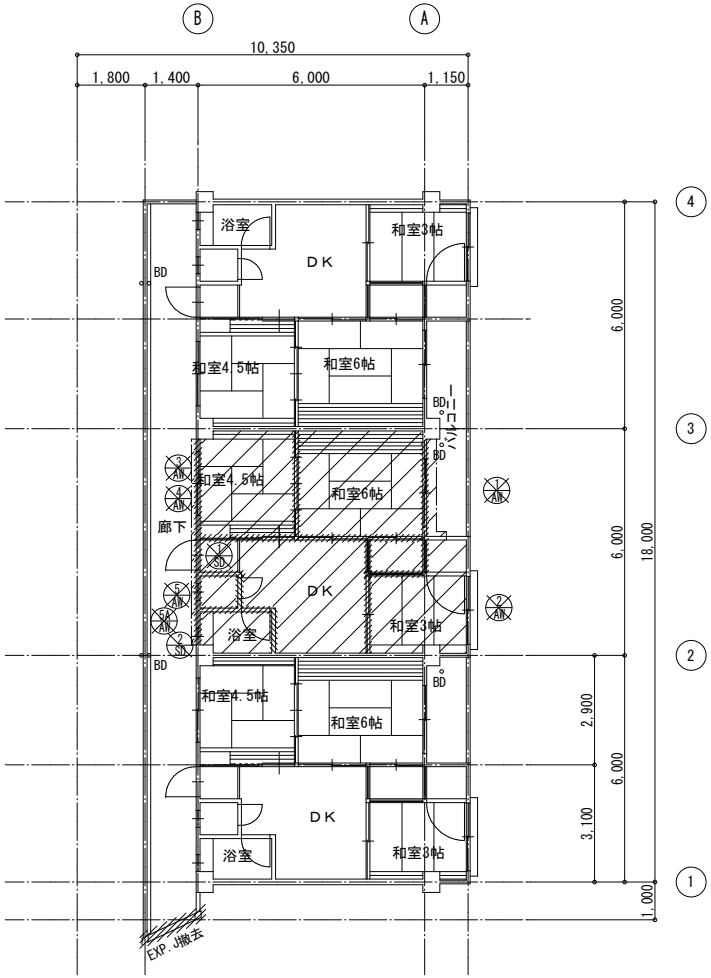
改修後2階平面図(東棟)　1/100

設計に緑を

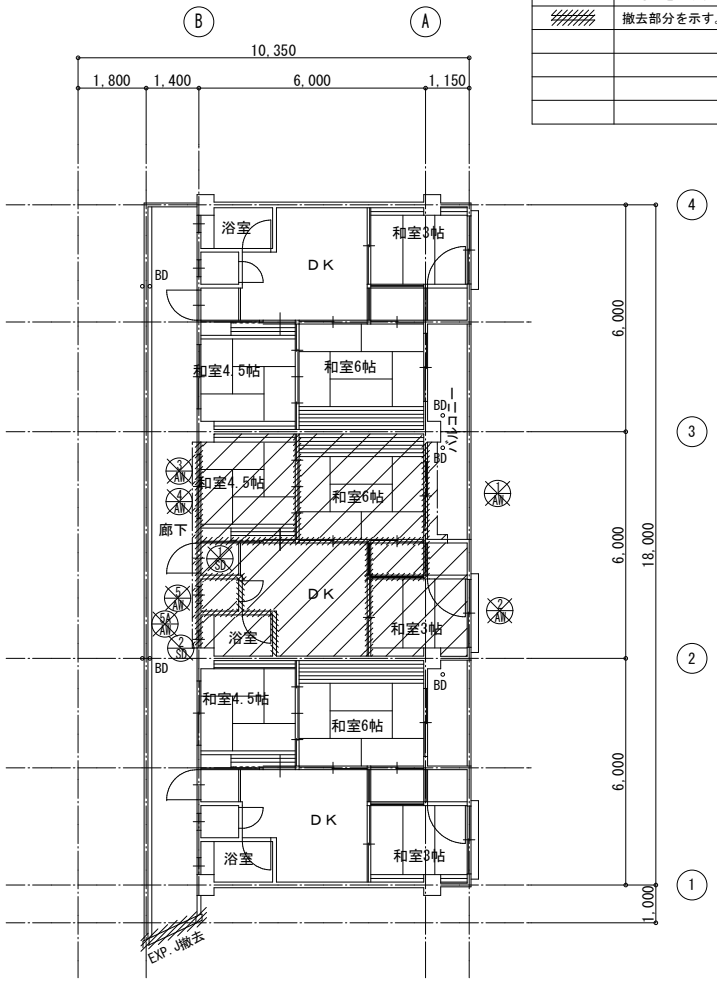
図面縮小率　A2版　100%
図面縮小率　A3版　71%

記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修工事 図面名 改修後 平面図－1(東棟)	設計No 縮尺 1/100	図面No A/30

凡例	
○T	竪樋撤去を示す。
▬RD	ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝを示す。
BD ○	ﾊﾞﾙｺﾆｰﾄﾞﾚｲﾝを示す。
←——	水勾配を示す。
//////	撤去部分を示す。



改修前3階平面図(東棟)　1/100



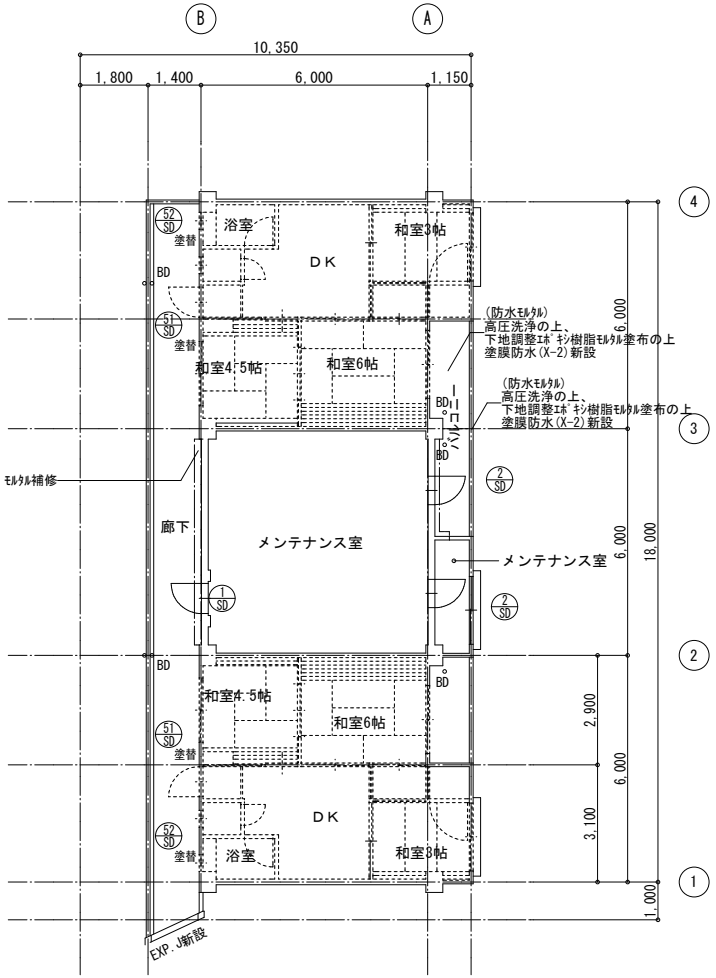
改修前4階平面図(東棟)　1/100

設計に緑を

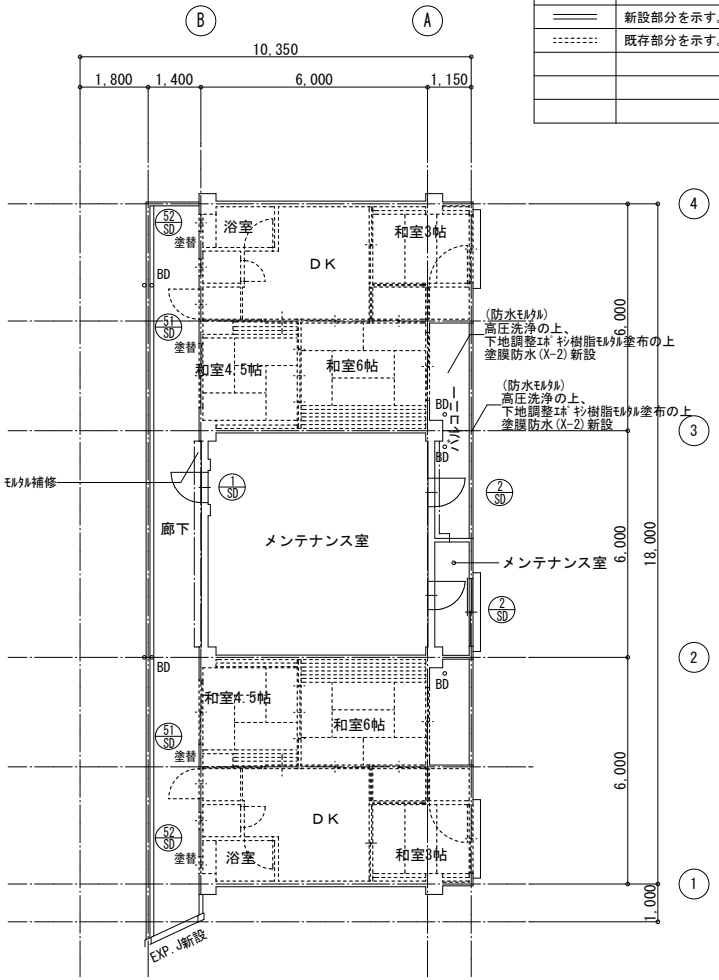
図面縮小率　A2版　100%
図面縮小率　A3版　71%

記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修前 平面図－2(東棟)	設計 No 縮尺 1/100	図面 No A/31

凡例	
○T	竪樋新設を示す。
▬RD	改修用ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ新設を示す。
BD ○	改修用ﾊﾞﾙｺﾆｰﾄﾞﾚﾝを示す。
←——	水勾配を示す。
═══	新設部分を示す。
┆┆┆┆	既存部分を示す。



改修後3階平面図(東棟)　1/100



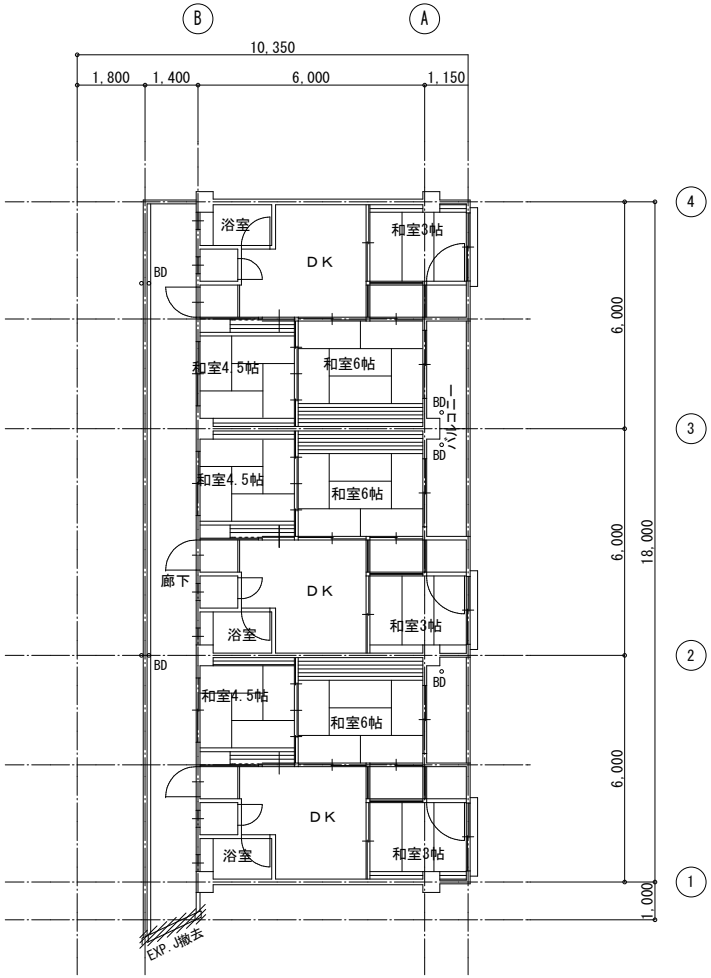
改修後4階平面図(東棟)　1/100

設計に緑を

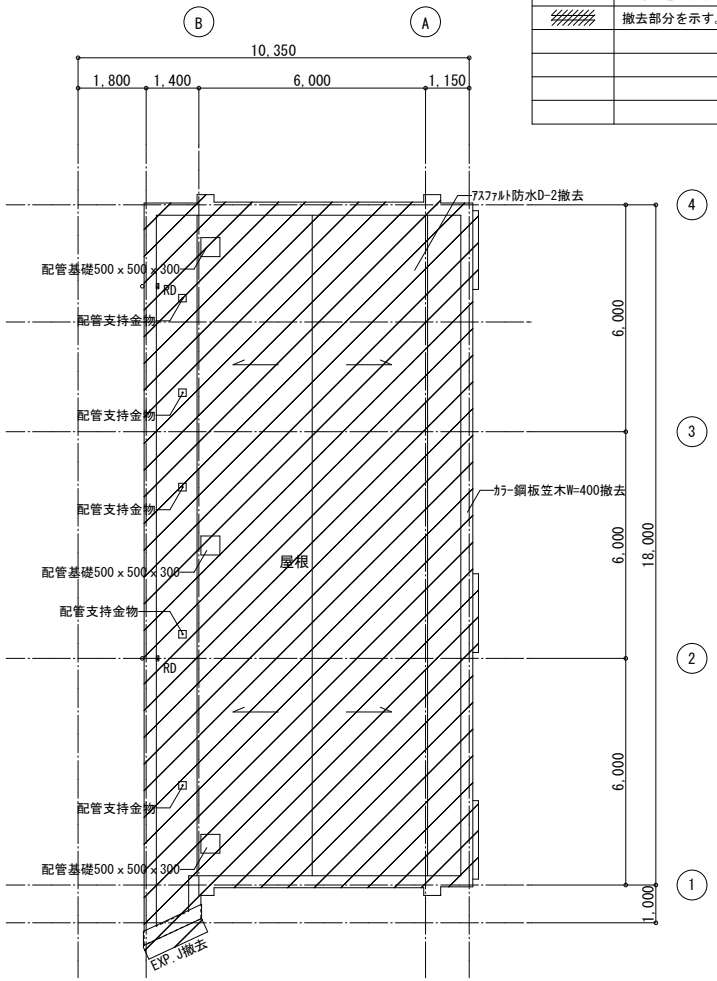
図面縮小率　A2版　100%
図面縮小率　A3版　71%

記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修後 平面図－2(東棟)	設計No 縮尺 1/100	図面No A/32

凡例	
○T	竪樋撤去を示す。
▬RD	ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝを示す。
BD ○	ﾊﾞﾙｺﾆｰﾄﾞﾚﾝを示す。
←——	水勾配を示す。
//////	撤去部分を示す。



改修前5階平面図(東棟)　1/100



改修前R階平面図(東棟)　1/100

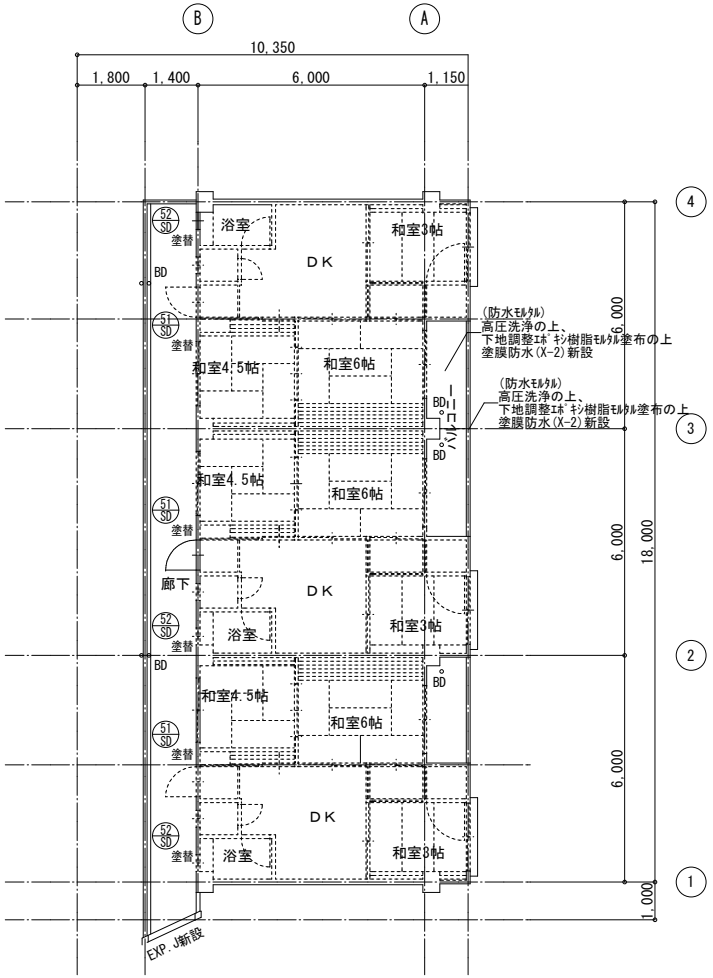
設計に緑を

※既存ｱｽﾌｧﾙﾄ防水D-2撤去については新規防水施工中も含め
晴天時に施工を完了するか養生等により降雨対策を確実に行い
降雨時に無防水の状態にしないこと。

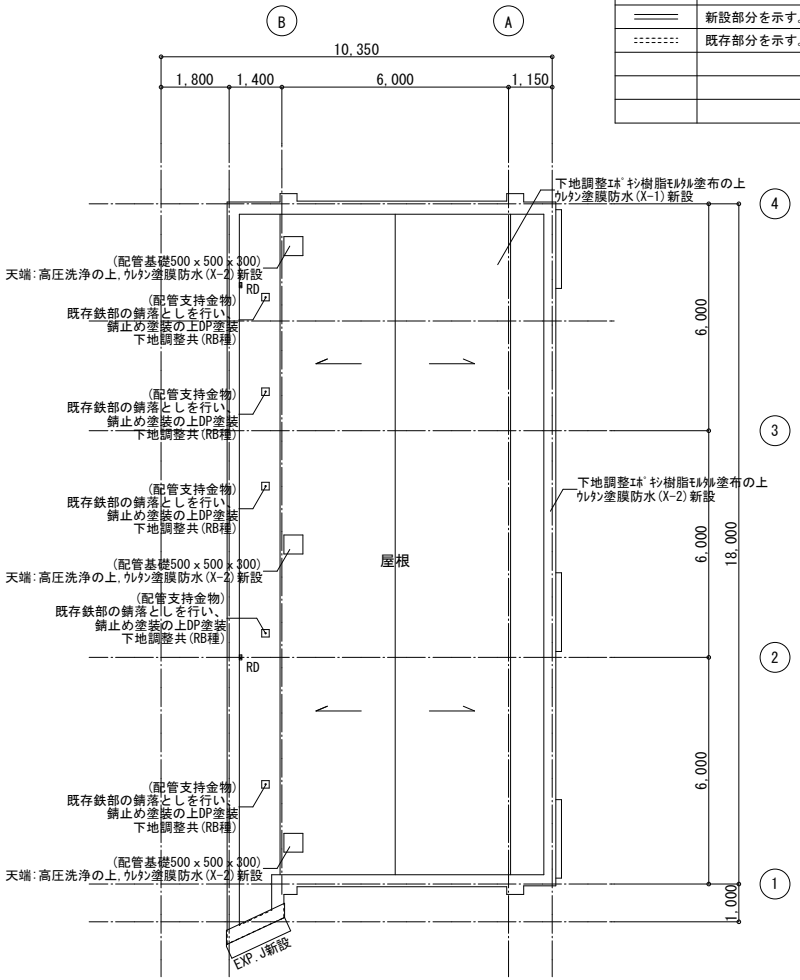
図面縮小率　A2版　100%
図面縮小率　A3版　71%

記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修前 平面図−3(東棟)	設計No 縮尺 1/100	図面No A/33

凡例	
○T	竪樋新設を示す。
▬RD	改修用ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ新設を示す。
BD ○	改修用ﾊﾞﾙｺﾆｰﾄﾞﾚﾝを示す。
←——	水勾配を示す。
═══	新設部分を示す。
:::::::	既存部分を示す。



改修後5階平面図(東棟)　1/100

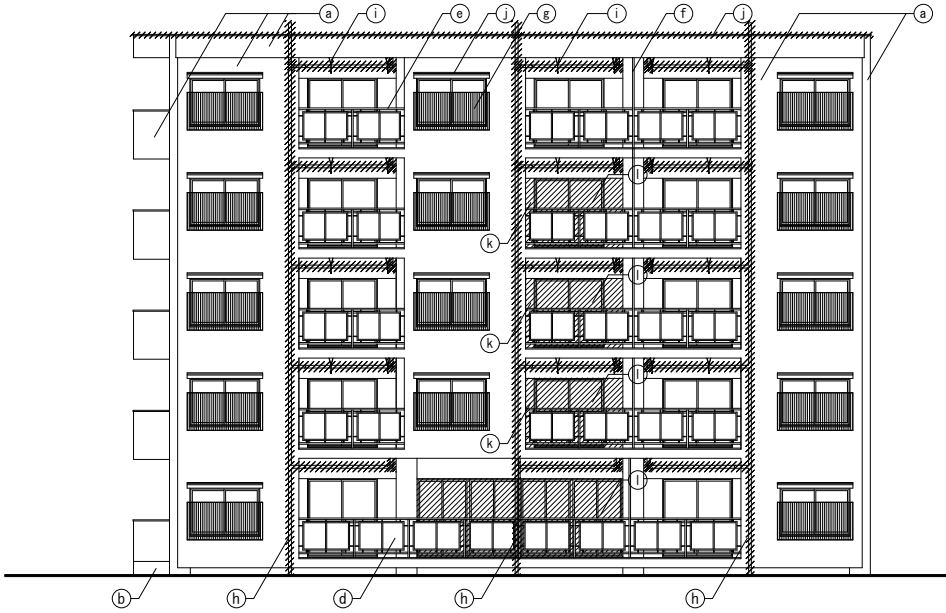


改修後R階平面図(東棟)　1/100

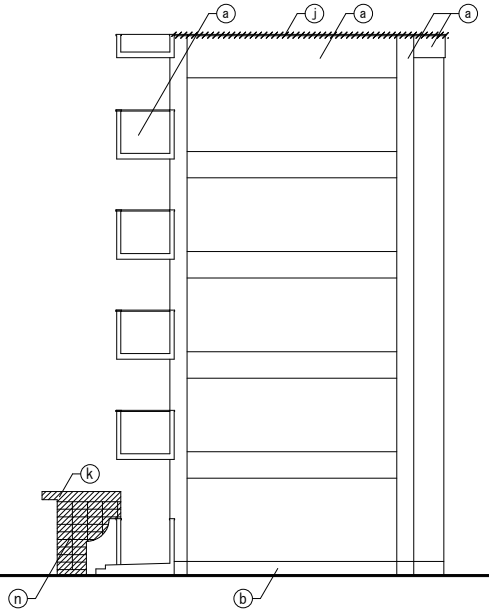
設計に緑を

図面縮小率　A2版　100%
図面縮小率　A3版　71%

記事	株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修後 平面図−3(東棟)	設計No 縮尺 1/100	図面No A/34



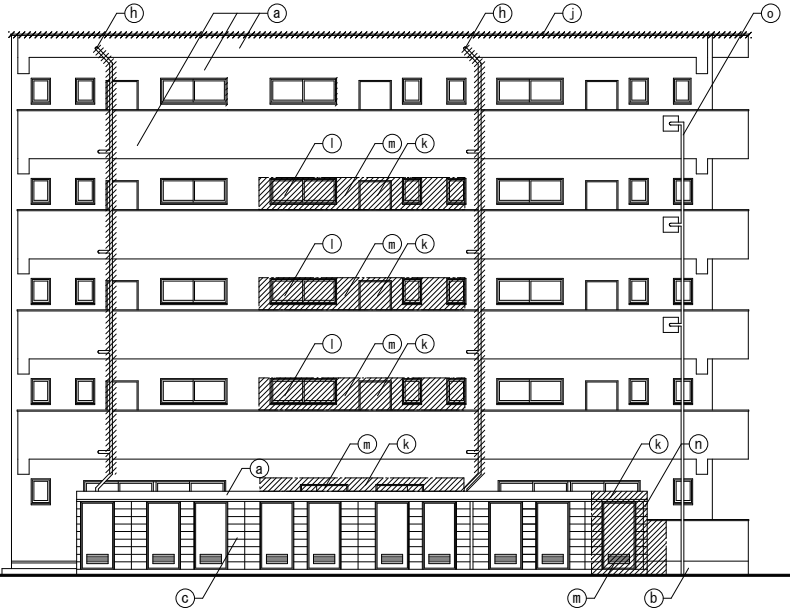
改修前東側立面図（東棟）　１／１００



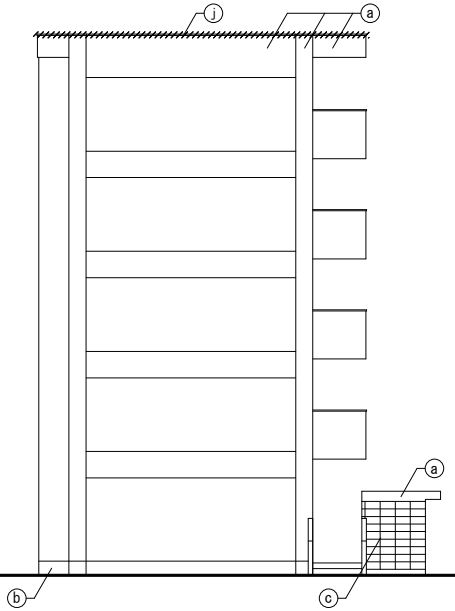
改修前南側立面図（東棟）　１／１００

改修前立面図凡例

ⓐ	(ﾓﾙﾀﾙ刷毛引き)外装薄塗材E吹付撤去
ⓑ	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ
ⓒ	(化粧積み)外装薄塗材E吹付撤去
ⓓ	有孔ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞt=6
ⓔ	鋼製ﾊﾞﾙｺﾆｰ手摺
ⓕ	鋼製ﾊﾞﾙｺﾆｰ隔
ⓖ	窓格子FB-38x6枠4方
ⓗ	竪樋50Φ撤去
ⓘ	物干し金物撤去
ⓙ	ｶﾗｰ鋼板笠木W=400撤去
ⓚ	ｺﾝｸﾘｰﾄ下地ﾓﾙﾀﾙ刷毛引き外装薄塗材E撤去
ⓛ	ｱﾙﾐ製建具撤去
ⓜ	鋼製建具撤去
ⓝ	化粧積み外装薄塗材E撤去
ⓞ	連結送水管



改修前西側立面図（東棟）　１／１００

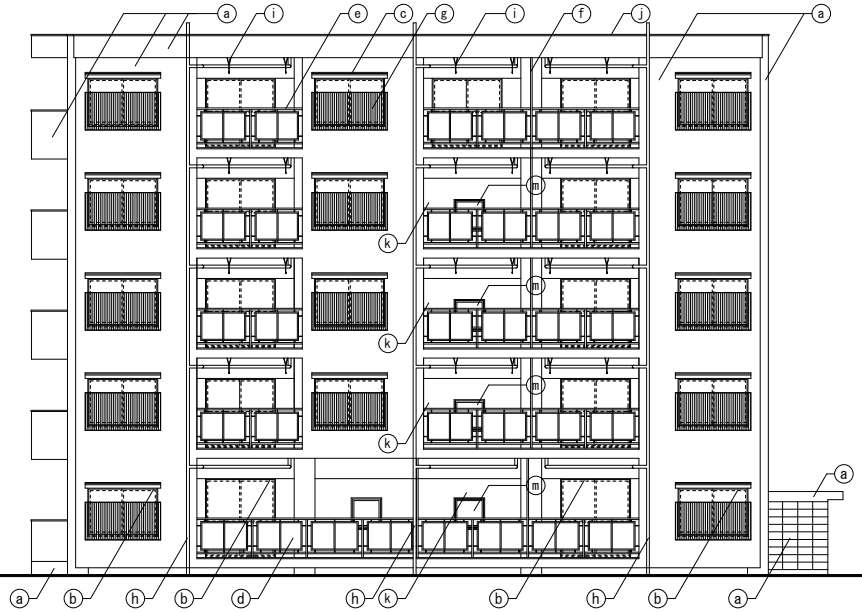


改修前北側立面図（東棟）　１／１００

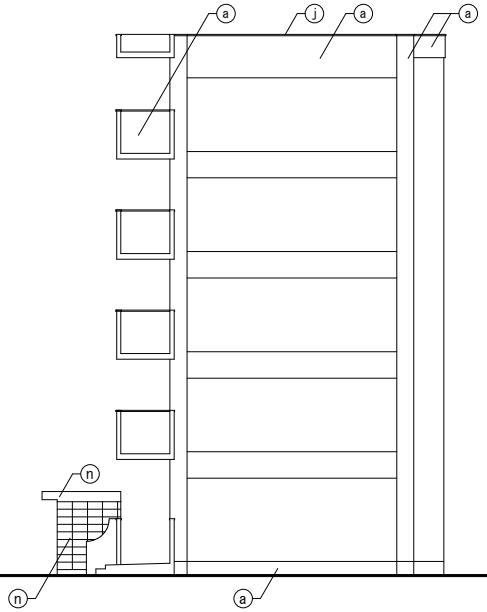
設計に緑を

図面縮小率　A2版　100%
図面縮小率　A3版　71%

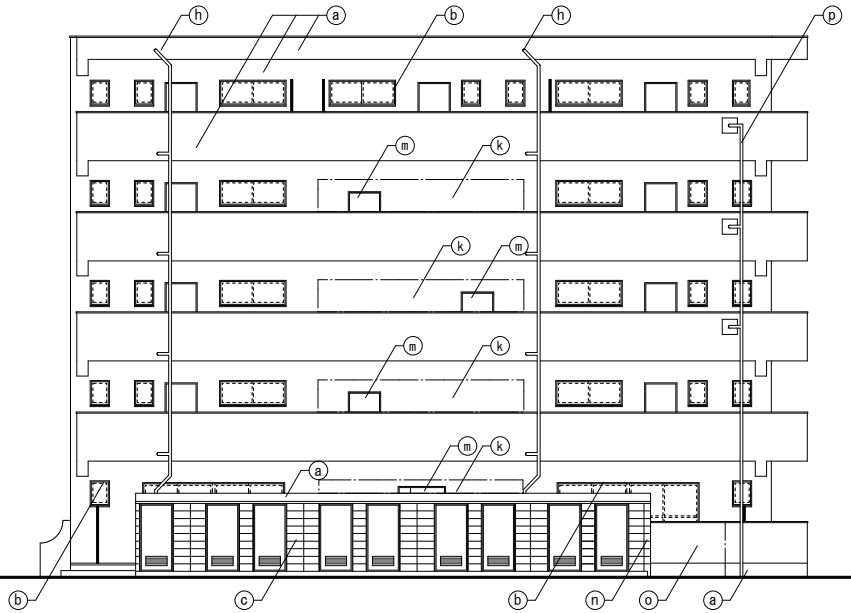
記事	株式会社　車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所　登録　１７（１）第０５８７号 管理建築士　1級建築士　登録　第２４８８２５号 1級建築士　車　田　誠	設計年月日	御承認 所長　設計　製図	工事名 旭町住宅１号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修前立面図（東棟）	設計 No 縮尺 1/100	図面 No A／３５



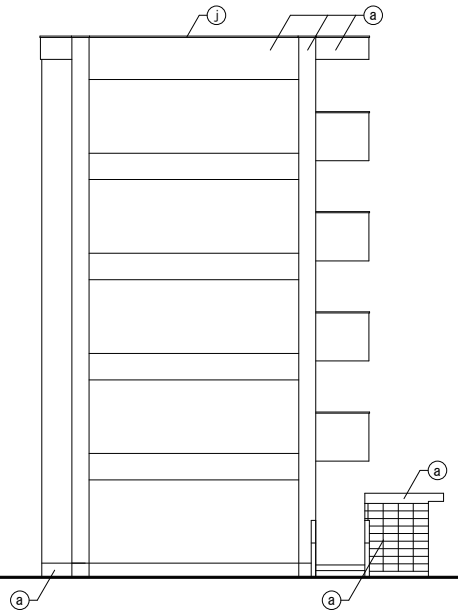
改修後東側立面図（東棟）　1／100



改修後南側立面図（東棟）　1／100



改修後西側立面図（東棟）　1／100



改修後北側立面図（東棟）　1／100

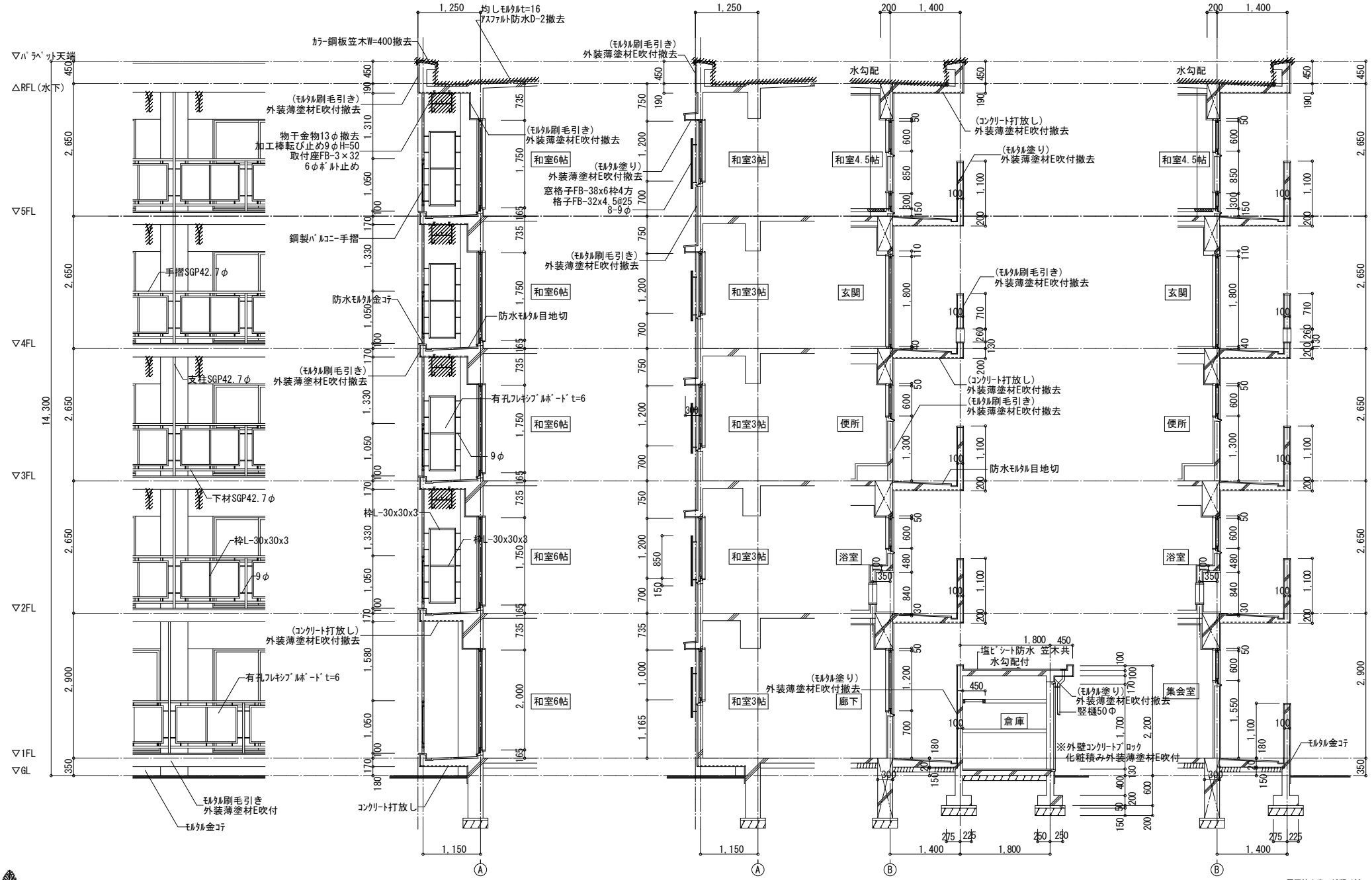
改修後立面図凡例

ⓐ	高圧洗浄の上、防水型複層塗材E吹付　下地ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ塗り共
ⓑ	ｼｰﾘﾝｸﾞ打替え
ⓒ	高圧洗浄の上、塗膜防水(X-２)小口共
ⓓ	(有孔ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞt=6)清掃の上DP塗装　下地調整共(RB種)
ⓔ	(鋼製ﾊﾞﾙｺﾆｰ手摺)錆止め塗装の上DP塗装　下地調整共(RB種)
ⓕ	(鋼製ﾊﾞﾙｺﾆｰ隔)清掃の上DP塗装　下地調整共(RB種)
ⓖ	(窓格子FB-38x6枠4方)錆止め塗装の上DP塗装　下地調整共(RB種)
ⓗ	硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ管50(ｶﾗｰ)、ｽﾃﾝﾚｽ掴金物共@1,200内外
ⓘ	ｱﾙﾐ製物干し金物新設
ⓙ	防水ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ高圧洗浄の上、防水型複層塗材E吹付(ﾄｯﾌﾟｺｰﾄのみ)
ⓚ	耐震壁新設t=180 ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しの上防水型複層塗材E吹付新設
~~ⓛ~~	~~ｱﾙﾐ製建具新設~~
ⓜ	鋼製建具新設
ⓝ	倉庫カット撤去面ﾓﾙﾀﾙ補修の上複層塗材Ｅ吹付
ⓞ	ｺﾝｸﾘｰﾄ手摺t=100 ﾓﾙﾀﾙ刷毛引きの上、防水型複層塗材E吹付
ⓟ	(連結送水管)錆止め塗装の上DP塗装

設計に緑を

図面縮小率　A2版　100%
図面縮小率　A3版　71%

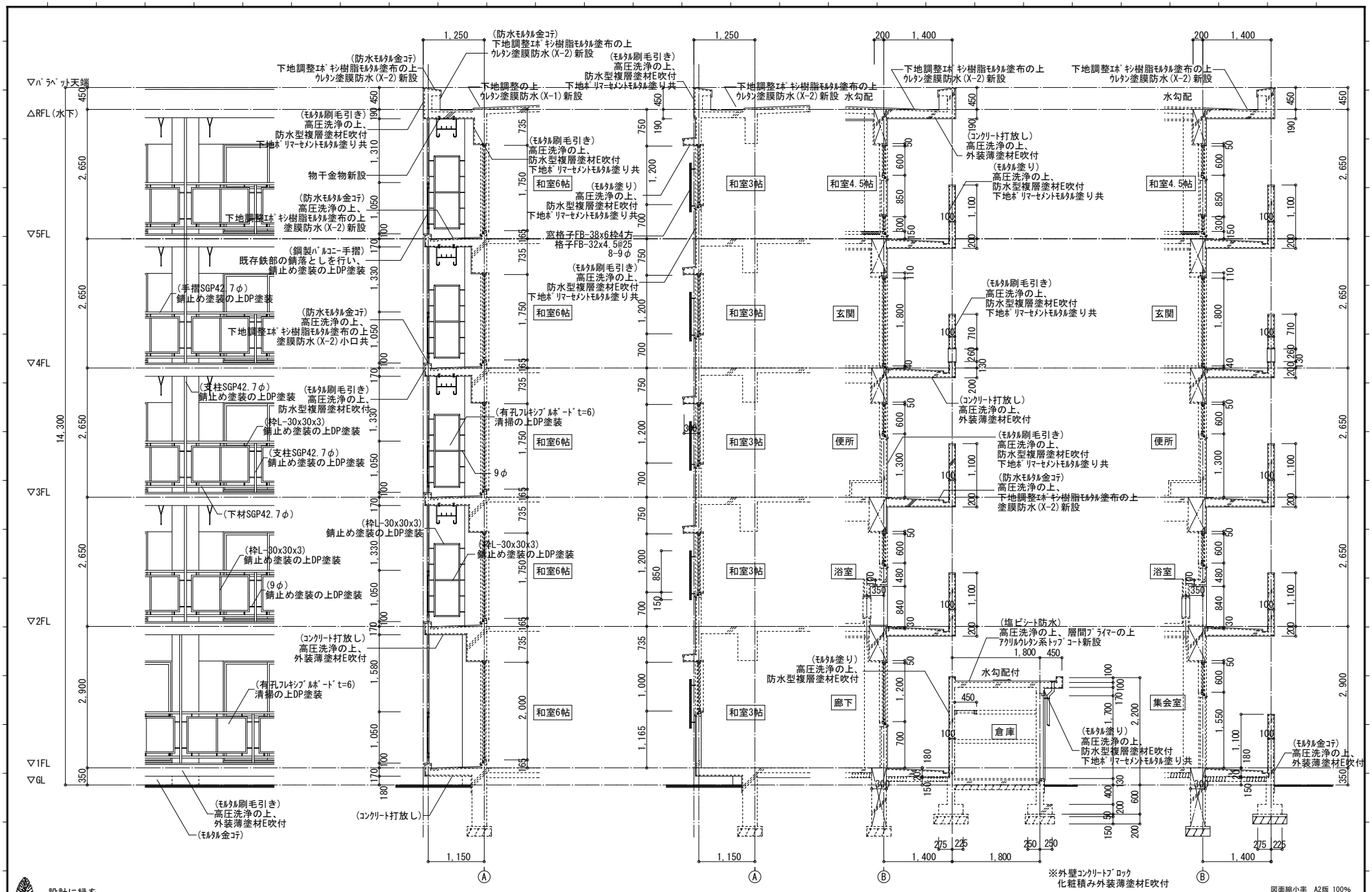
記事		株式会社　車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所　登録　17（1）第0587号 管理建築士　1級建築士　登録　第248825号 1級建築士　車　田　誠	設計年月日	御承認 所長　設計　製図	工事名　旭町住宅１号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名　改修後立面図（東棟）	設計No 縮尺　1/100	図面No　A／36



設計に緑を

図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修前矩計図(東棟)	設計No 縮尺 1/50	図面No A/37



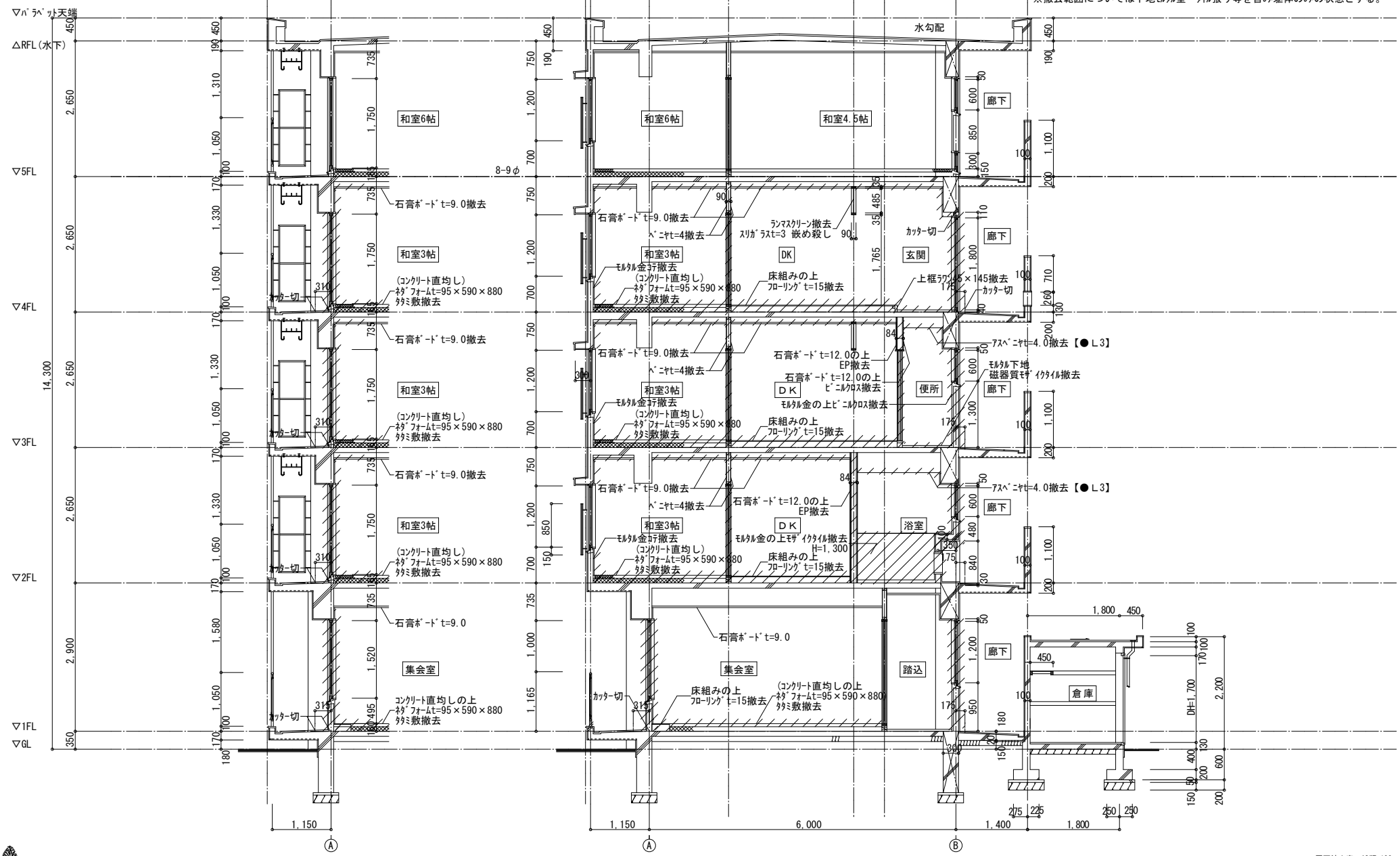
設計に緑を

図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修後矩計図(東棟)	設計No 縮尺 1/50	図面No A/38

※仕上名の後に
【●L1】とあるのは、レベル1による除去が必要なアスベスト含有建材を示す。
【●L2】とあるのは、レベル2による除去が必要なアスベスト含有建材を示す。
【●L3】とあるのは、レベル3による除去が必要なアスベスト含有建材を示す。

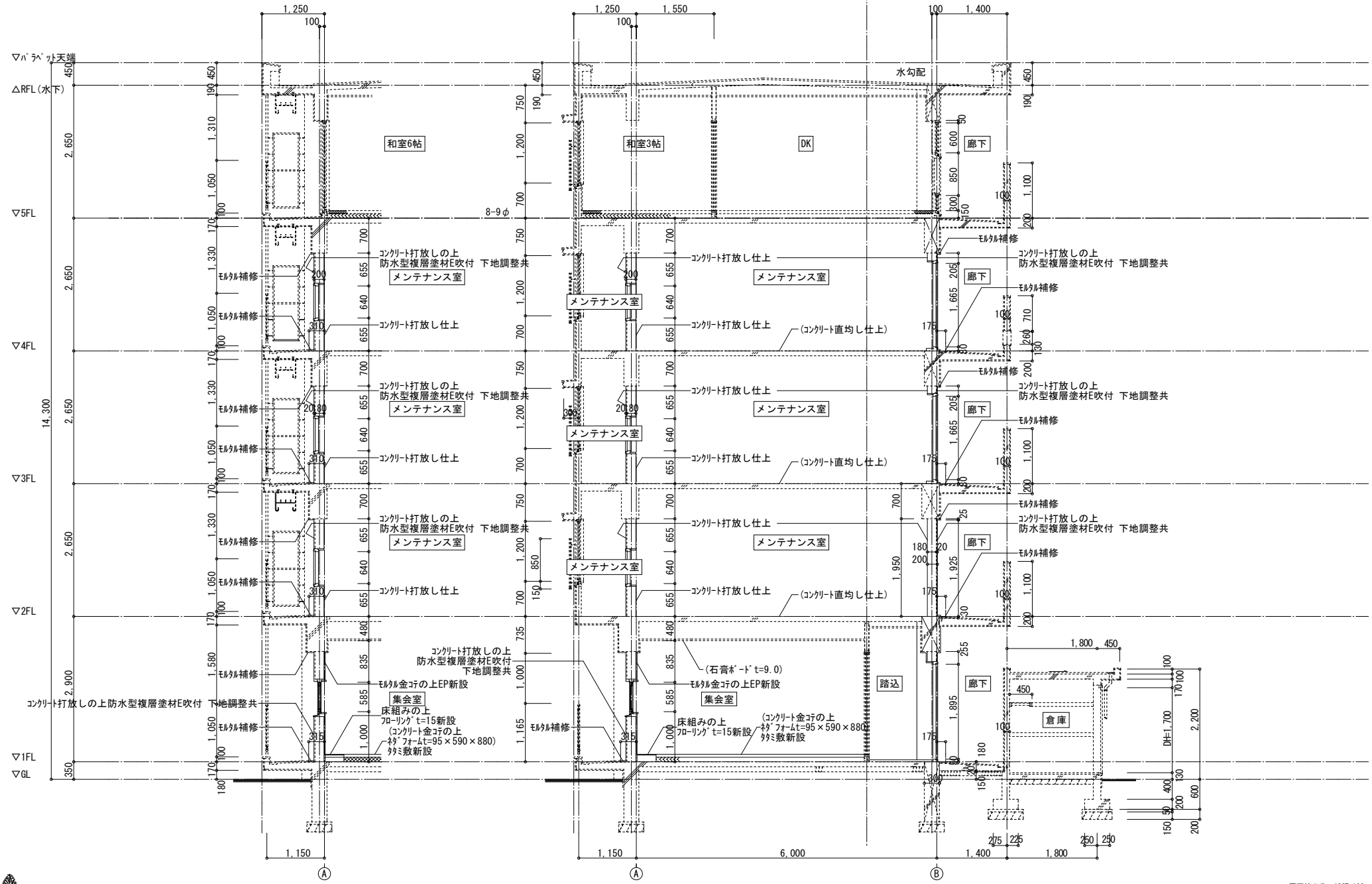
※撤去範囲については下地ﾓﾙﾀﾙ塗・ﾀｲﾙ張り等を含み躯体のみの状態とする。



設計に緑を

図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

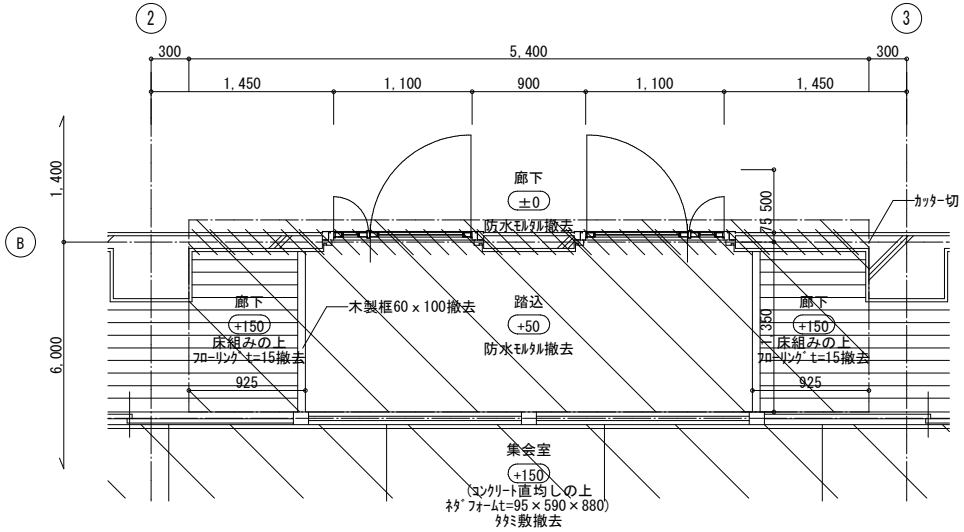
記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修前 矩計図(東棟)	設計No 縮尺 1/50	図面No A/39



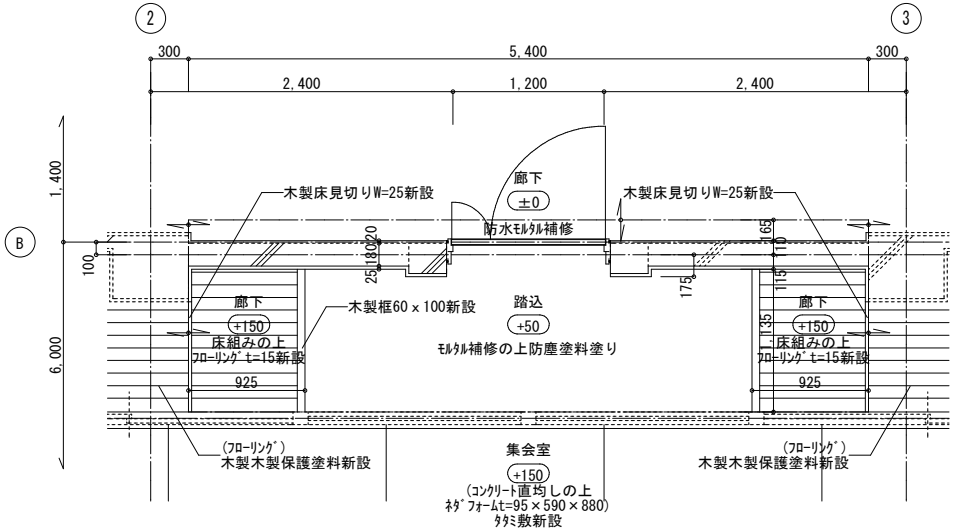
設計に緑を

図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

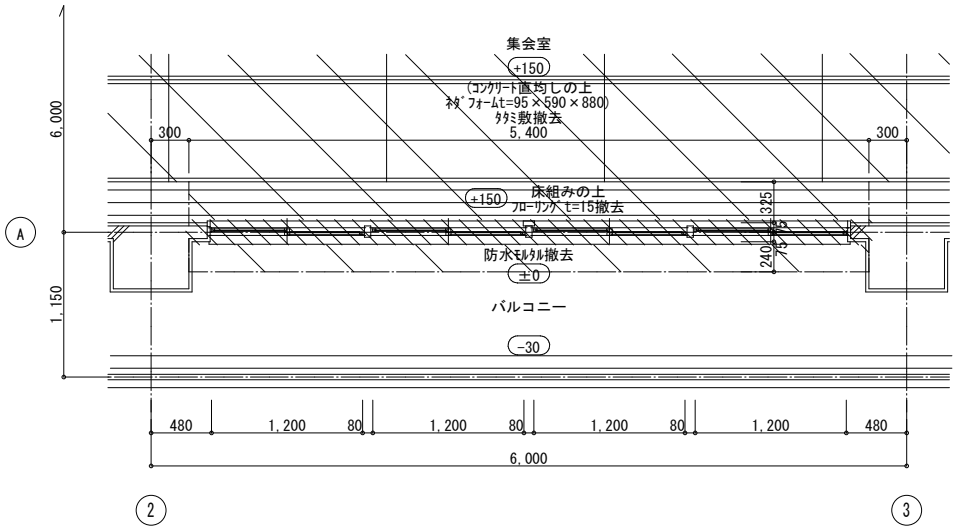
記事	株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修後 矩計図(東棟)	設計No 縮尺 1/50	図面No A/40

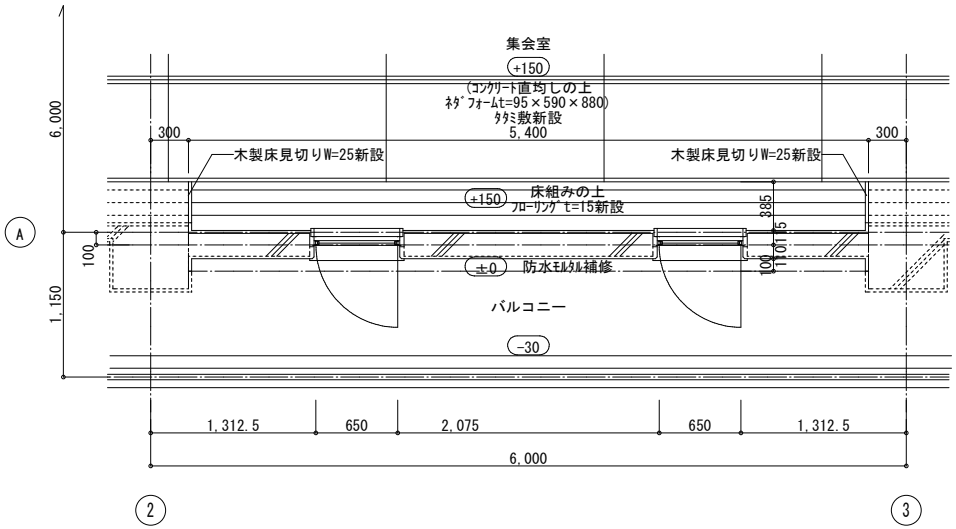


改修前　１階平面詳細図（東棟）　１／30



改修後　１階平面詳細図（東棟）　１／30

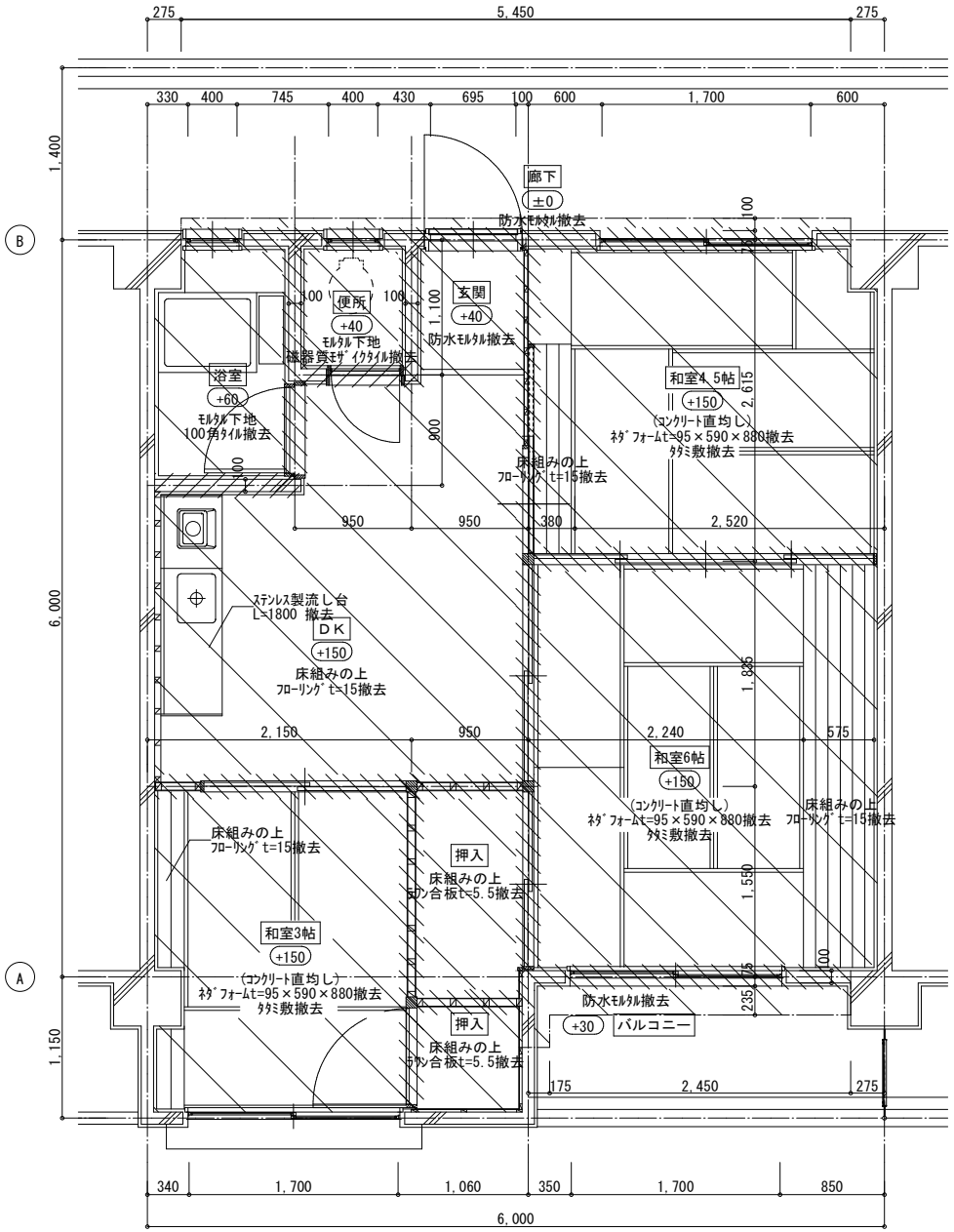




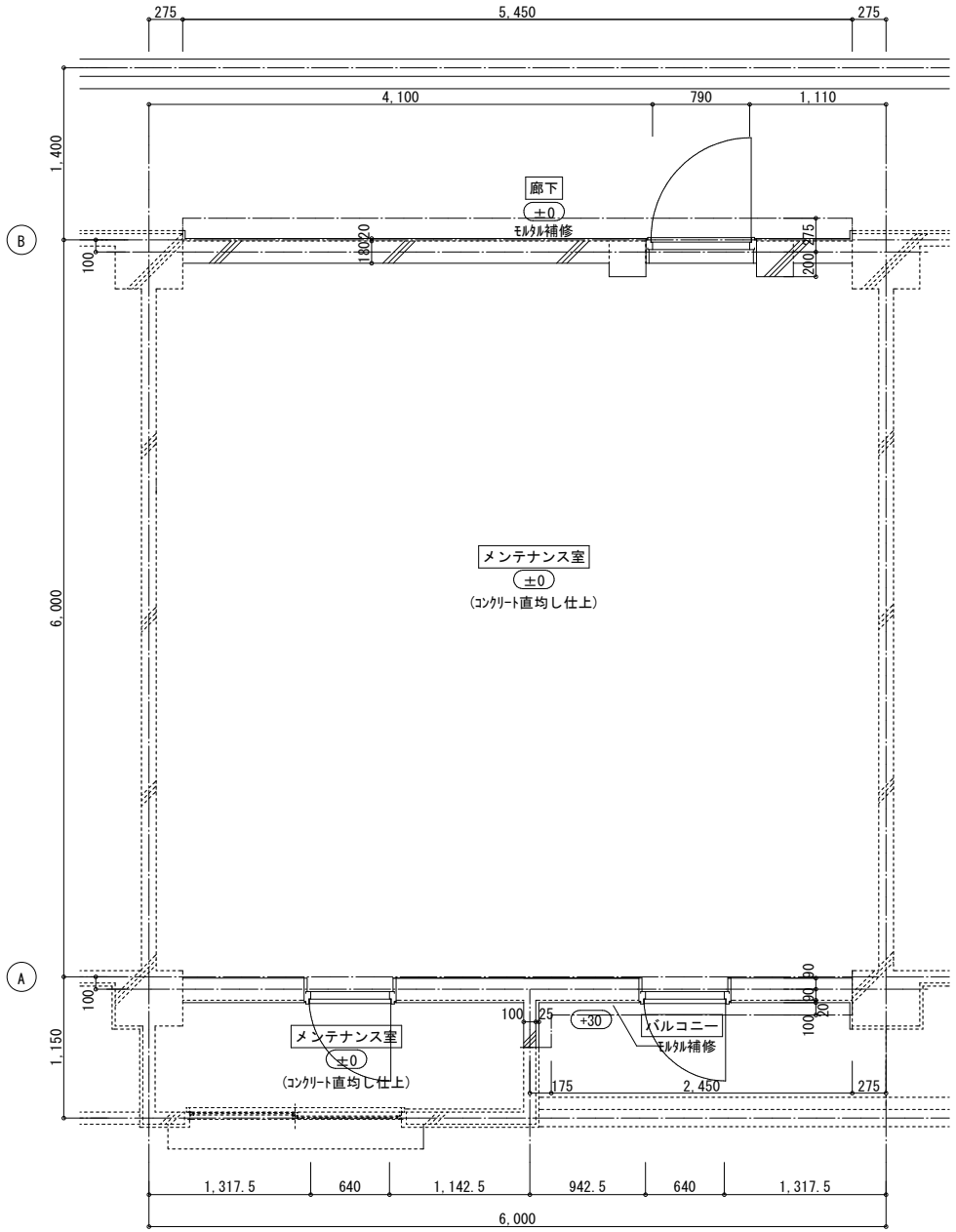
設計に緑を

図面縮小率　A2版　100%
図面縮小率　A3版　71%

記事	株式会社　車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所　登録　17（1）第0587号 管理建築士　1級建築士　登録　第248825号 1級建築士　車　田　誠	設計年月日	御承認 所長　設計　製図	工事名　旭町住宅１号棟耐震改修等工事（建築主体工事） 図面名　改修前後　平面詳細図－１（東棟）	設計No 縮尺　1/30	図面No　A／41



改修前　2～4階平面詳細図（東棟）　1／30



改修後　2～4階平面詳細図（東棟）　1／30

設計に緑を

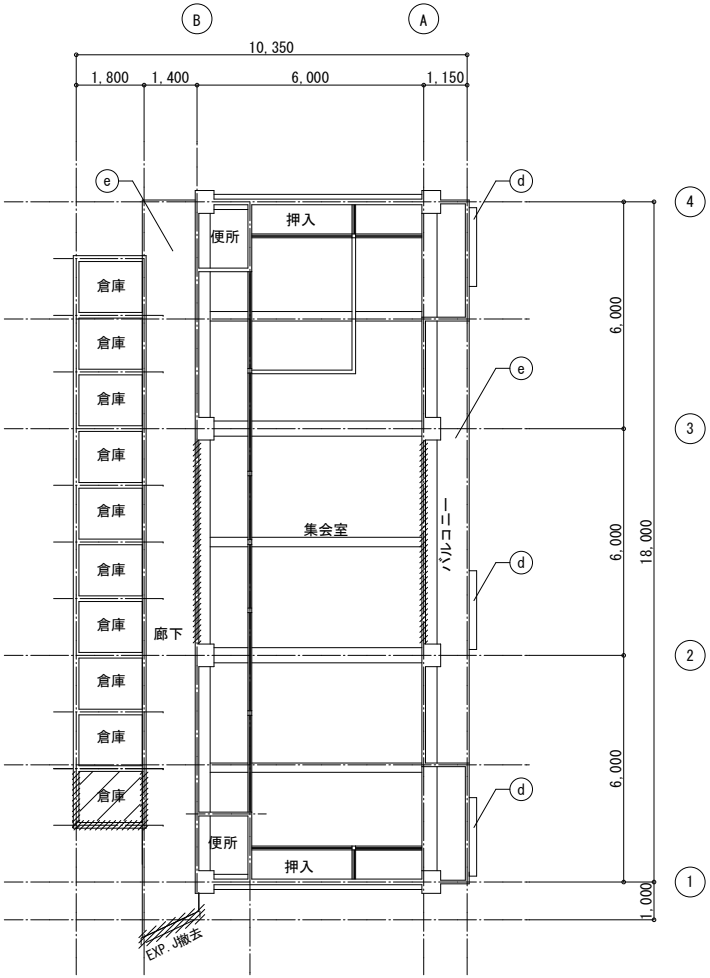
※撤去範囲については下地ﾓﾙﾀﾙ塗・ﾀｲﾙ張り等を含み躯体のみの状態とする。

図面縮小率　A2版　100%
図面縮小率　A3版　71%

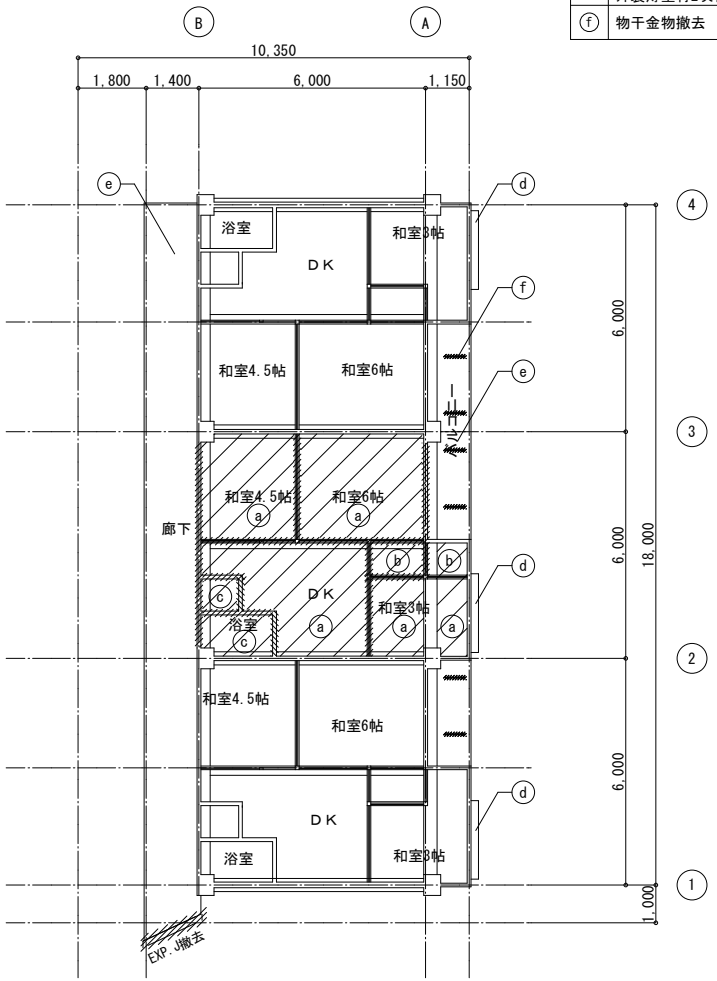
記事	株式会社　車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所　登録　17（1）第0587号 管理建築士　1級建築士　登録　第248825号 1級建築士　車　田　誠	設計年月日	御承認 所長　設計　製図	工事名 旭町住宅１号棟耐震改修等工事（建築主体工事）	設計No 縮尺 1/30	図面No A／42
					図面名 改修前後　平面詳細図ー2（東棟）		

改修前天井伏図凡例

ⓐ	石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=9.0撤去
ⓑ	ﾗﾜﾝ合板t=4.0撤去
ⓒ	ｱｽﾍﾞﾆﾔt=4.0撤去【●L3】
ⓓ	(ﾓﾙﾀﾙ塗り) 外装薄塗材E吹付撤去
ⓔ	(ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し) 外装薄塗材E吹付撤去
ⓕ	物干金物撤去



改修前 1階天井伏図(東棟) 1/100



改修前 2階天井伏図(東棟) 1/100

※仕上名の後に
【●L1】とあるのは、レベル1による除去が必要なアスベスト含有建材を示す。
【●L2】とあるのは、レベル2による除去が必要なアスベスト含有建材を示す。
【●L3】とあるのは、レベル3による除去が必要なアスベスト含有建材を示す。

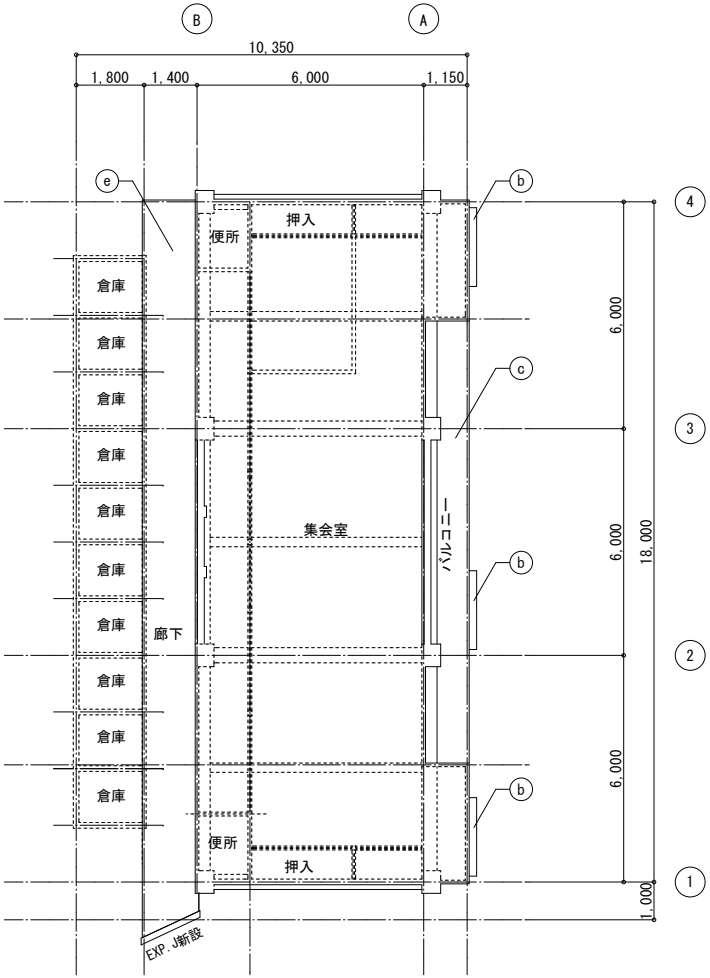
図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

設計に緑を

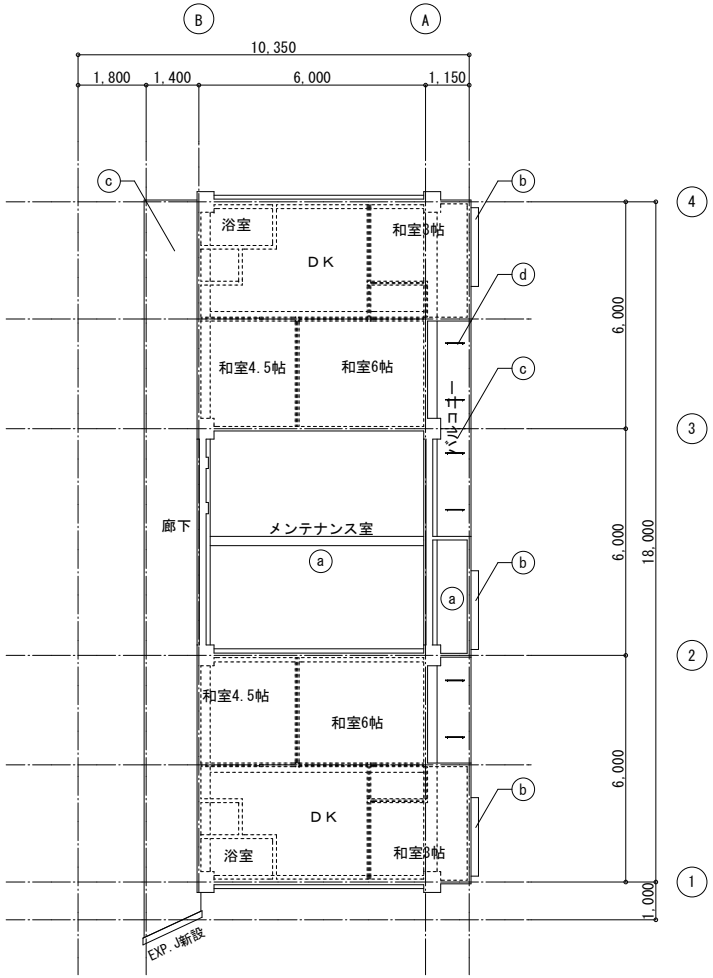
記事	株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修前 天井伏図ー1 (東棟)	設計No 縮尺 1/100	図面No A/43

改修後天井伏図凡例

ⓐ	(ｺﾝｸﾘｰﾄ打ち放し仕上)
ⓑ	(ﾓﾙﾀﾙ塗り)高圧洗浄の上、防水型複層塗材E吹付 下地ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ塗り共
ⓒ	(ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し)高圧洗浄の上、外装薄塗材E吹付 下地ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ塗り共
ⓓ	ｱﾙﾐ製物干金物新設



改修後 1階天井伏図(東棟) 1/100



改修後 2階天井伏図(東棟) 1/100

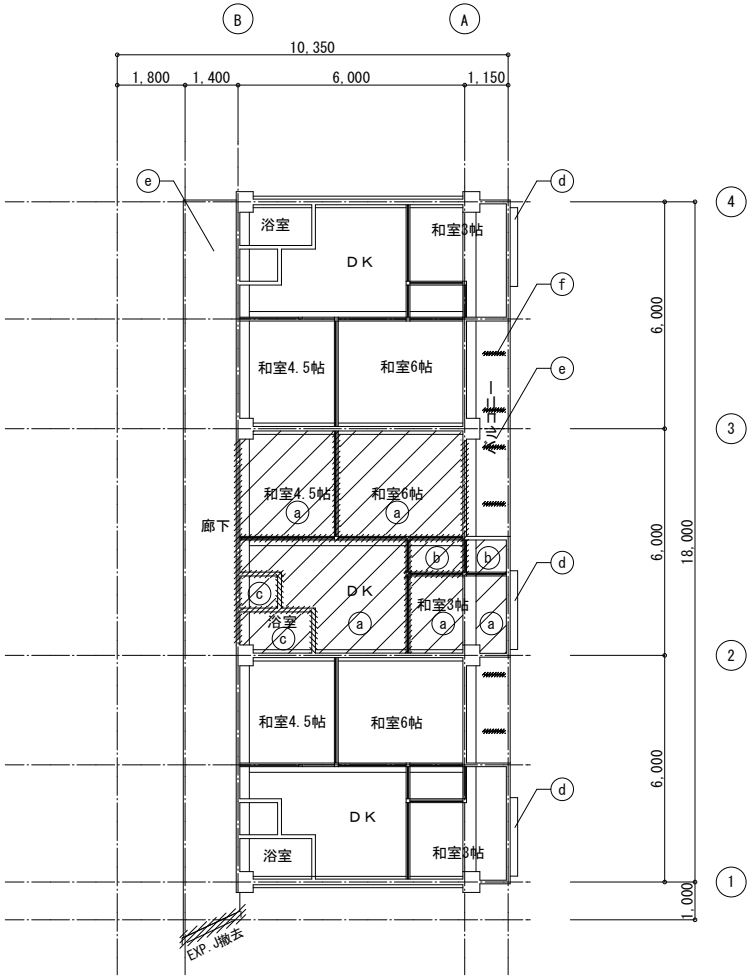
設計に緑を

図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

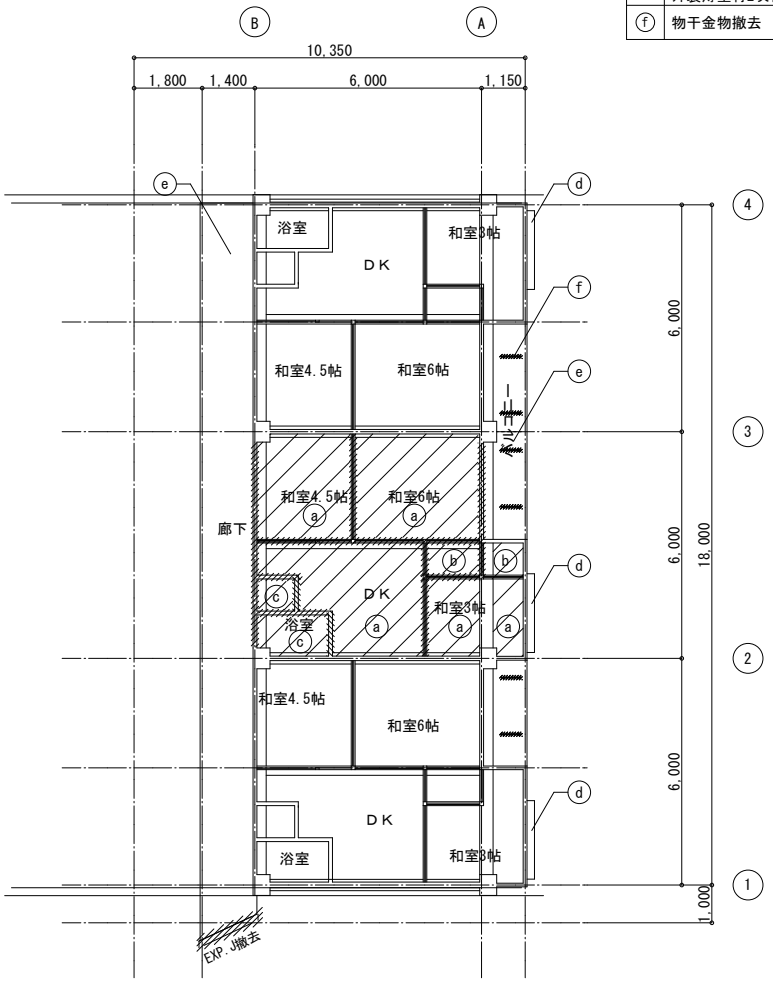
記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修後 天井伏図ー1 (東棟)	設計No 縮尺 1/100	図面No A/44

改修前天井伏図凡例

ⓐ	石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=9.0撤去
ⓑ	ﾗﾜﾝ合板t=4.0撤去
ⓒ	ｱｽﾍﾞﾆﾔt=4.0撤去【●L3】
ⓓ	(ﾓﾙﾀﾙ塗り) 外装薄塗材E吹付撤去
ⓔ	(ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し) 外装薄塗材E吹付撤去
ⓕ	物干金物撤去



改修前 3階天井伏図(東棟) 1/100



改修前 4階天井伏図(東棟) 1/100

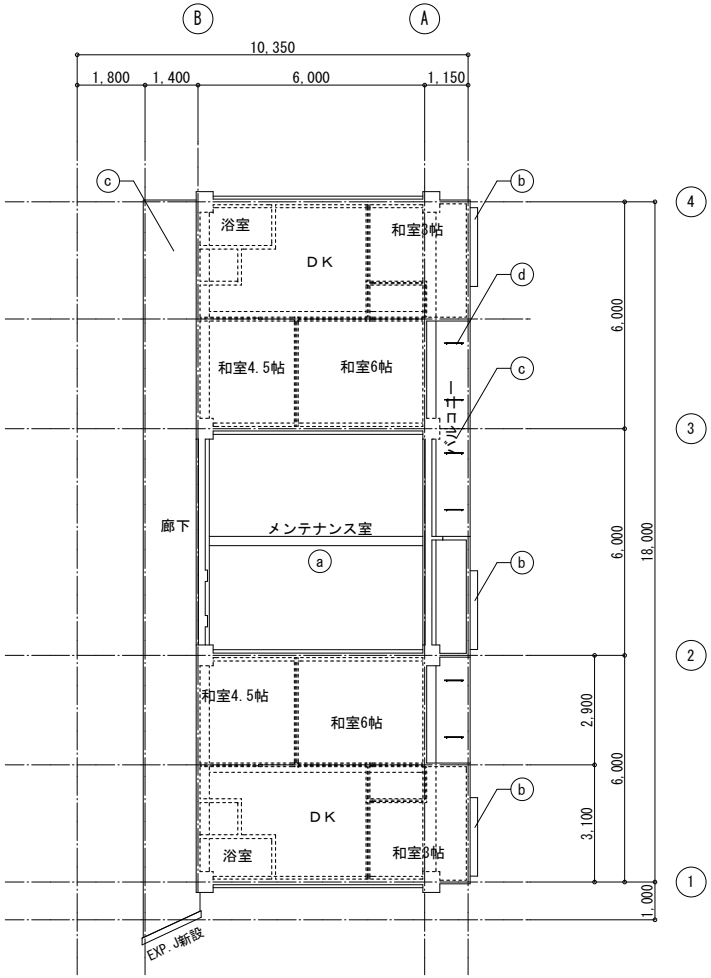
設計に緑を

図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

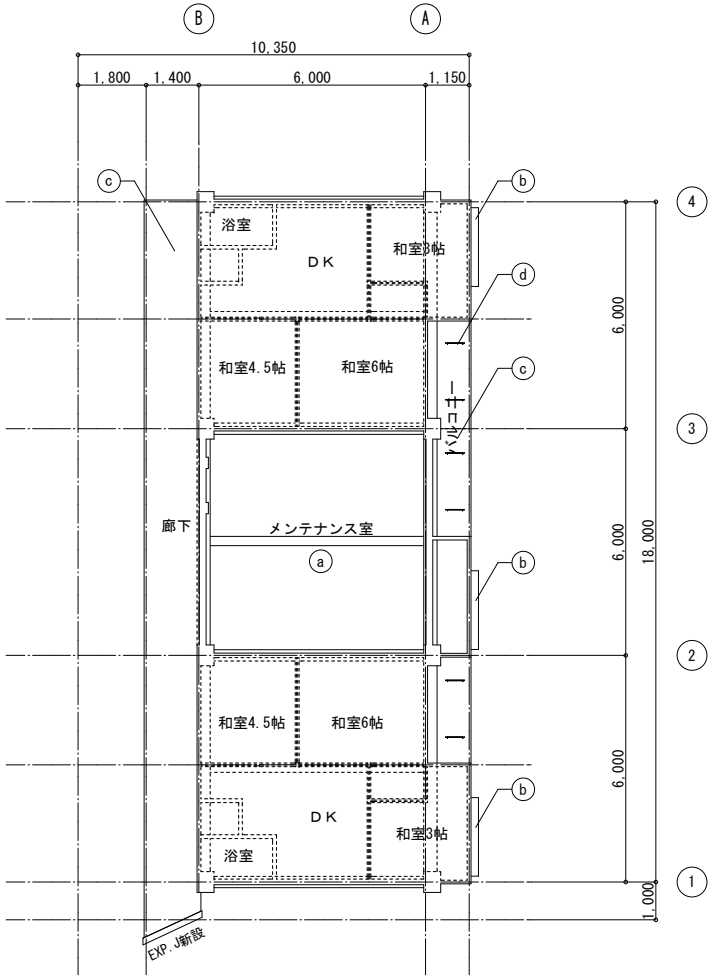
記事	株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修前 天井伏図－2 (東棟)	設計No 縮尺 1/100	図面No A/45

改修後天井伏図凡例

ⓐ	石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=9.0撤去
ⓑ	(ﾓﾙﾀﾙ塗り)高圧洗浄の上、 防水型複層塗材E吹付 下地ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ塗り共
ⓒ	(ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し)高圧洗浄の上、 外装薄塗材E吹付 下地ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ塗り共
ⓓ	ｱﾙﾐ製物干金物新設



改修後 3階天井伏図(東棟) 1/100



改修後 4階天井伏図(東棟) 1/100

設計に緑を

図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

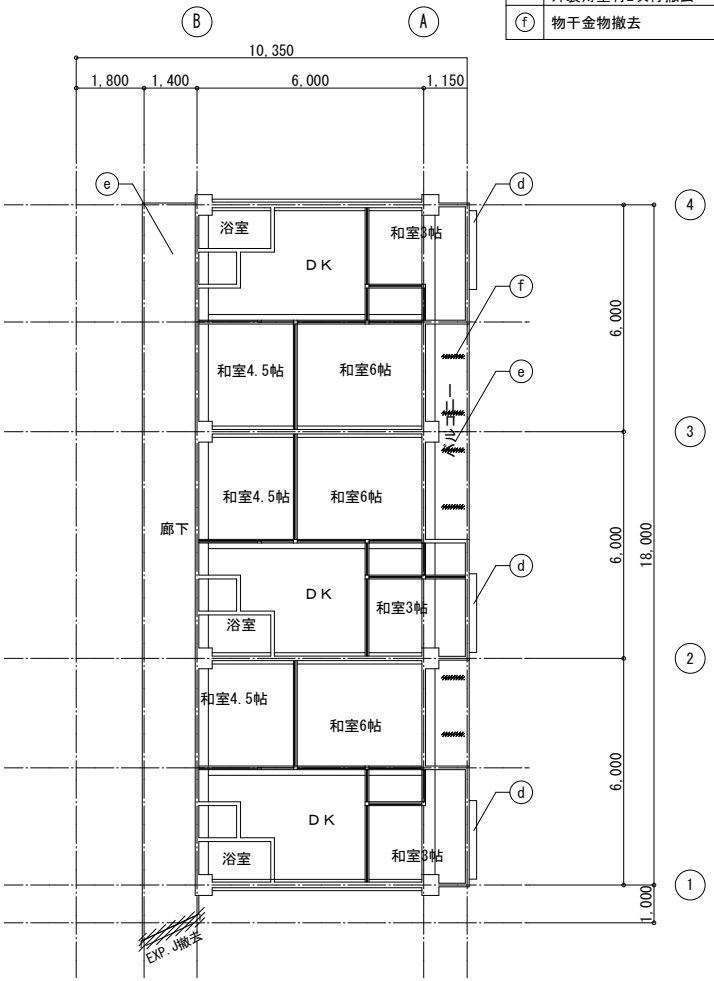
記事	株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修後 天井伏図－2 (東棟)	設計No 縮尺 1/100	図面No A/46

改修前天井伏図凡例

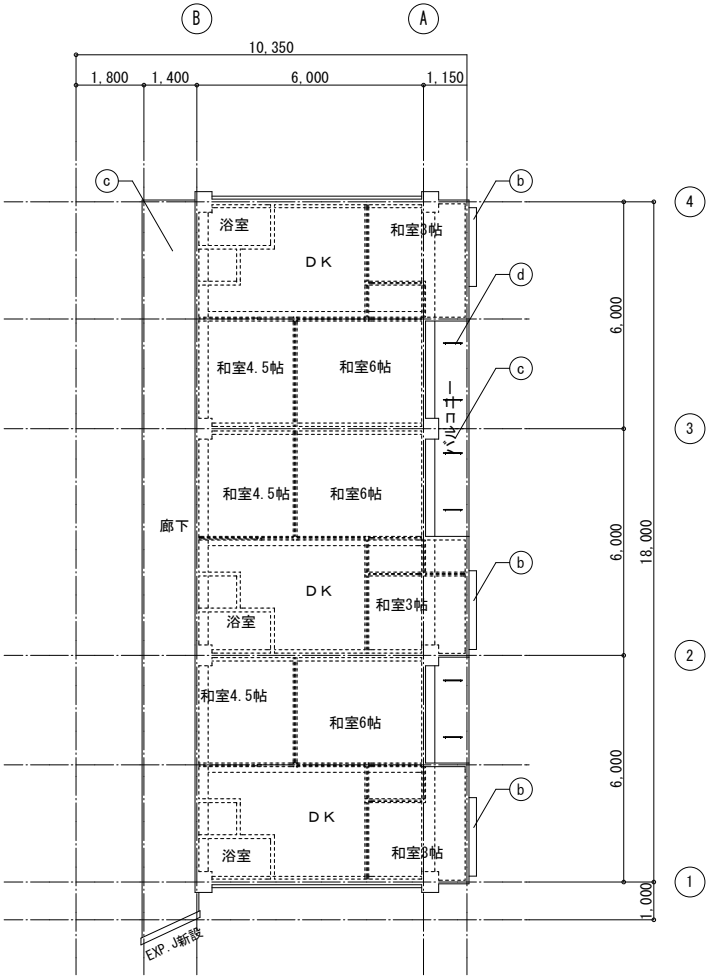
ⓐ	石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=9.0撤去
ⓑ	ﾗﾜﾝ合板t=4.0撤去
ⓒ	ｱｽﾍﾞﾆﾔt=4.0撤去
ⓓ	(ﾓﾙﾀﾙ塗り) 外装薄塗材E吹付撤去
ⓔ	(ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し) 外装薄塗材E吹付撤去
ⓕ	物干金物撤去

改修後天井伏図凡例

ⓐ	石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=9.0撤去
ⓑ	(ﾓﾙﾀﾙ塗り)高圧洗浄の上、 防水型複層塗材E吹付 下地ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ塗り共
ⓒ	(ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し)高圧洗浄の上、 外装薄塗材E吹付 下地ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ塗り共
ⓓ	ｱﾙﾐ製物干金物新設



改修前 5階平面図(東棟) 1/100

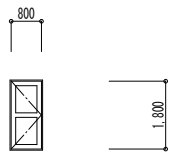
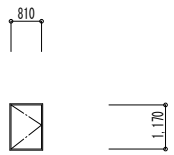
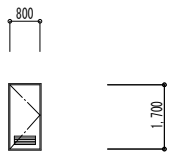
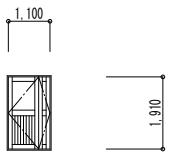


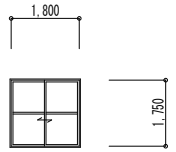
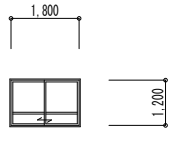
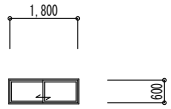
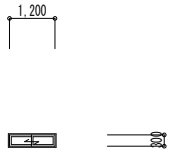
改修後 5階平面図(東棟) 1/100

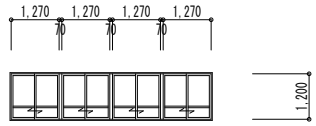
設計に緑を

図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

記事	株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 改修前後 天井伏図−3 (東棟)	設計No 縮尺 1/100	図面No A/47

記号 種別	1 SD 鋼製片開き扉	2 SD 鋼製片開き扉	3 SD 鋼製片開き扉		1 AD アルミ製親子開き扉		
位置 箇所	玄関 3	MB 3	倉庫 1		集会室 2		
姿図							
改修内容							
硝子					型板網入ｶﾞﾗｽt=6.8		
備考	撤去建具表	撤去建具表	撤去建具表		撤去建具表		

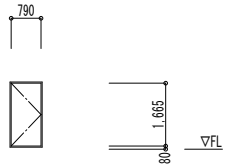
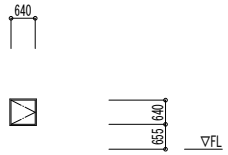
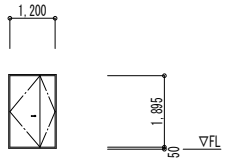
記号 種別	1 AW アルミ製引違い窓	2 AW アルミ製引違い窓	3 AW アルミ製引違い窓	4 AW アルミ製引違い窓	5 AW アルミ製滑り出し窓	5A AW アルミ製滑り出し窓	
位置 箇所	和室6帖 3	和室3帖 3	和室4.5帖 3	和室4.5帖 3	便所 3	浴室 3	
姿図							
改修内容							
硝子	上部：透明t=3 下部：スリt=3	透明t=3	型板網入ｶﾞﾗｽt=6.8	型板網入ｶﾞﾗｽt=6.8	型板網入ｶﾞﾗｽt=6.8	型板網入ｶﾞﾗｽt=6.8	
備考	撤去建具表	撤去建具表	撤去建具表	撤去建具表	撤去建具表	撤去建具表	

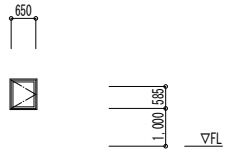
記号 種別	6 AW アルミ製引違い窓						
位置 箇所	集会室 1						
姿図							
塗装 枠巾							
金物							
硝子	上部：透明t=3 下部：スリt=3						
備考	撤去建具表						

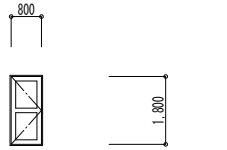
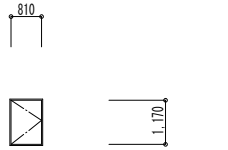
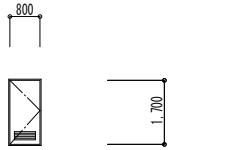
設計に緑を

図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

記事	株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17（1）第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅１号棟耐震改修等工事（建築主体工事） 図面名 撤去建具表	設計 No 縮尺 1/100	図面 No A／48

記号 種別	1 SD 鋼製片開き扉	2 SD 鋼製片開き扉	3 SD アルミ製親子開き扉				
位置 箇所	メンテナンス室 3	メンテナンス室 6	集会室 1				
姿図							
改修内容	DP	DP	DP				
	丁番、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠(ｹｰｽﾊﾝﾄﾞﾙ)、ﾄﾞｱﾁｪｯｸ(ｽﾄｯﾌﾟなし)	丁番、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠(ｹｰｽﾊﾝﾄﾞﾙ)、ﾄﾞｱﾁｪｯｸ(ｽﾄｯﾌﾟなし)	ｽﾃﾝﾚｽ丁番,ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ,ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠,ﾌﾗﾝｽ落し,戸当り,				
	ｽﾃﾝﾚｽ沓摺<枠巾>、ｻﾑﾀｰﾝ	ｽﾃﾝﾚｽ沓摺<枠巾>、ｻﾑﾀｰﾝ	ｱｰﾑｽﾄｯﾊﾟｰ,ﾄﾞｱﾁｪｯｸ,標準金物一式				
硝子							
備考	新設建具	新設建具	新設建具				

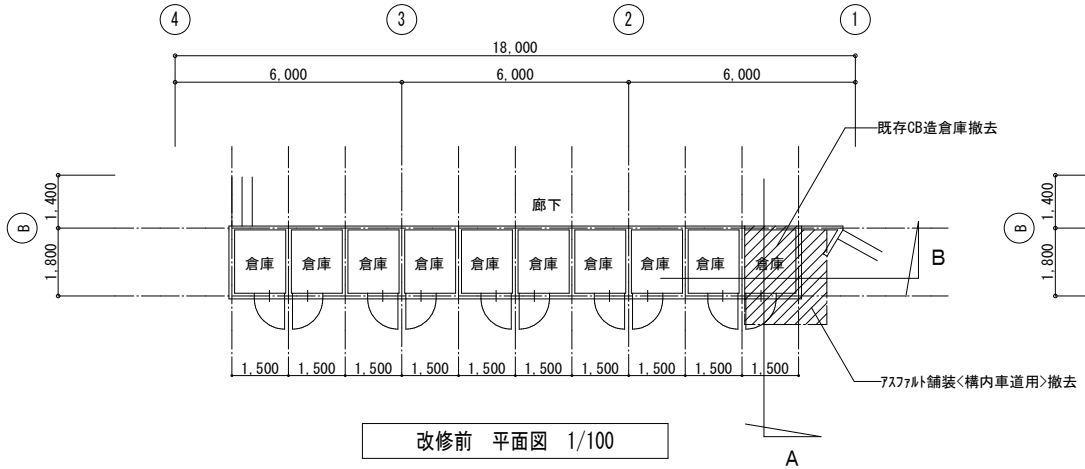
記号 種別	1 AW アルミ製片開き窓						
位置 箇所	集会室 2						
姿図							
改修内容	BB-1種						
	丁番、ｶﾑﾗｯﾁﾊﾝﾄﾞﾙ<受共>、ｱﾙﾐ水切りW=125						
	ｱﾙﾐ製額縁W=60、標準金物一式						
硝子	型板網入ｶﾞﾗｽt=6.8						
備考	新設建具						

記号 種別	51 SD 塗替 鋼製片開き扉	52 SD 塗替 鋼製片開き扉	53 SD 塗替 鋼製片開き扉				
位置 箇所	玄関 9	MB 9	倉庫 9				
姿図							
塗装 枠巾	下地調整のうえDP塗装替(錆止め塗装の上)	下地調整のうえDP塗装替(錆止め塗装の上)	下地調整のうえDP塗装替(錆止め塗装の上)				
金物							
硝子							
備考	塗装替建具	塗装替建具	塗装替建具				

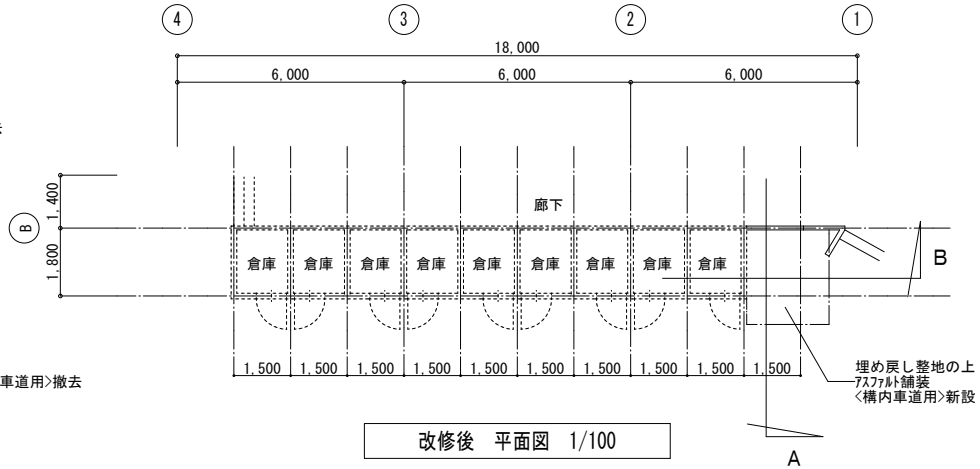
設計に緑を

図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

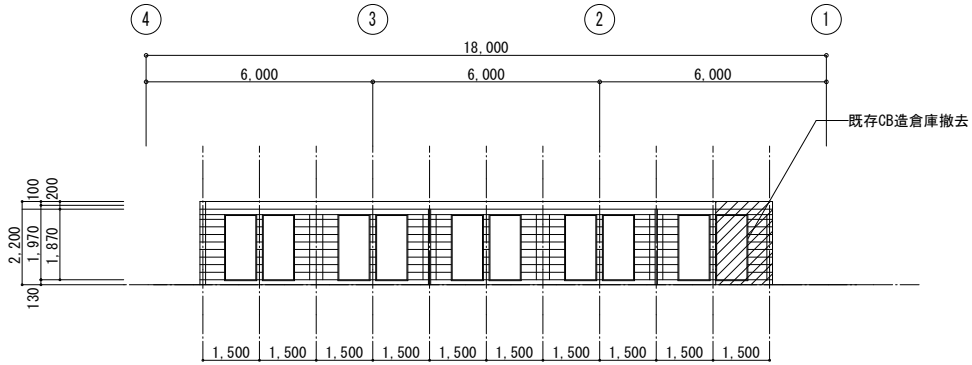
記事	株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 新設・塗装替建具表	設計 No 縮尺 1/100	図面 No A/49



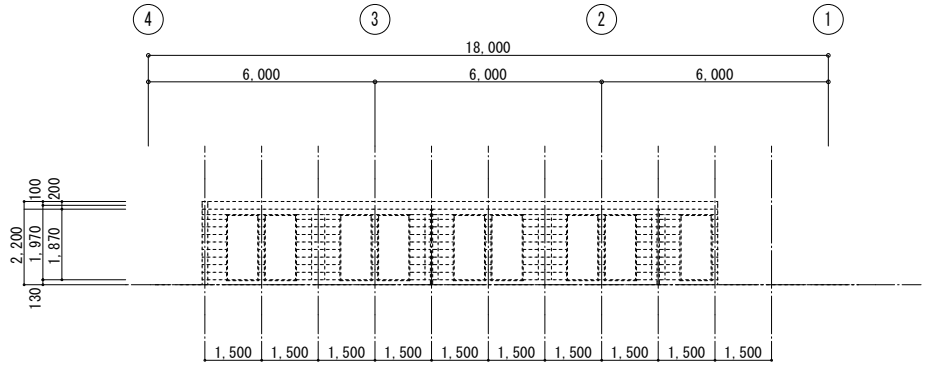
改修前　平面図　1/100



改修後　平面図　1/100



改修前　立面図　1/100

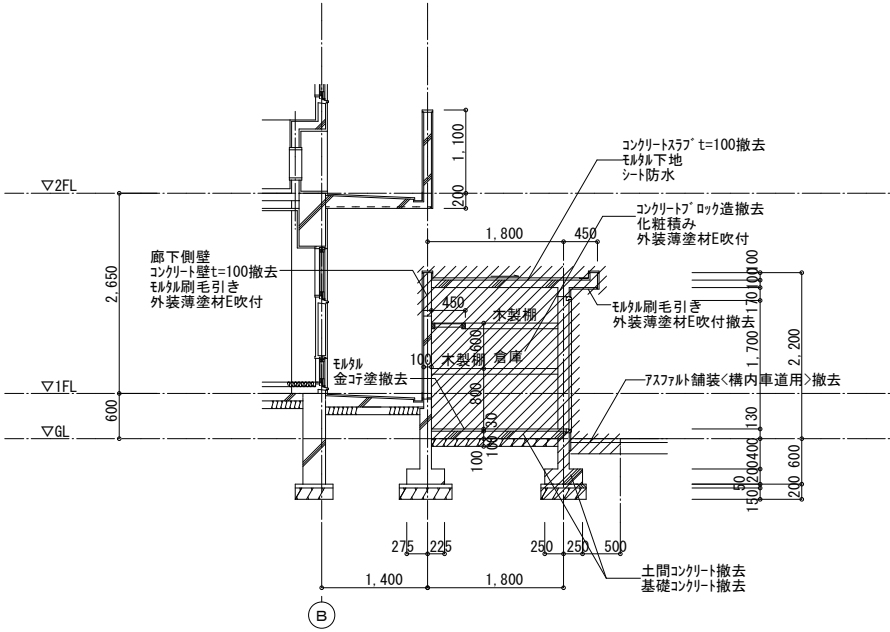


改修後　立面図　1/100

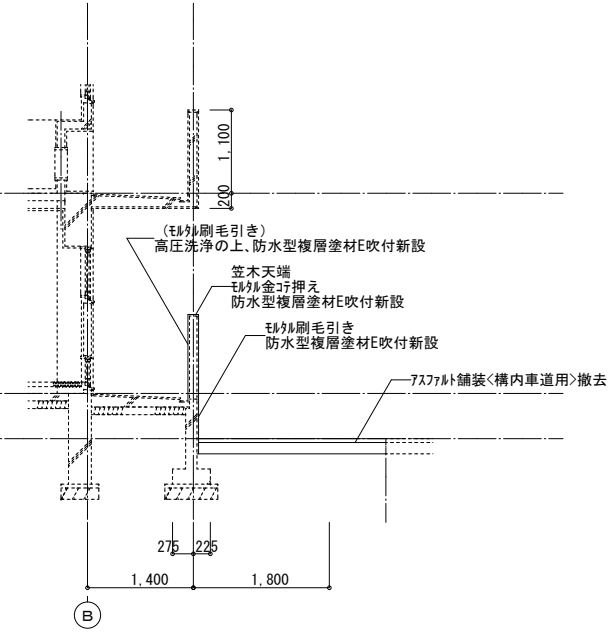
設計に緑を

図面縮小率　A2版　100%
図面縮小率　A3版　71%

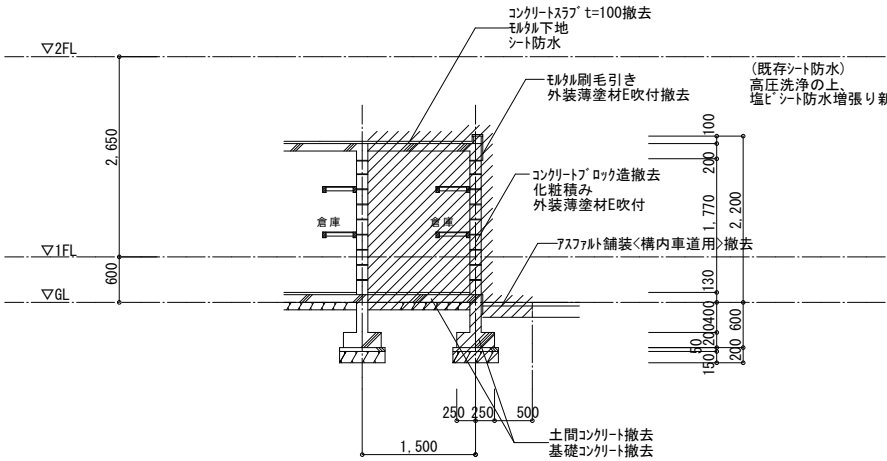
記事		株式会社　車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所　登録　17（1）第0587号 管理建築士　1級建築士　登録　第248825号 1級建築士　車田　誠	設計年月日	御承認 所長　設計　製図	工事名　旭町住宅１号棟耐震改修等工事（建築主体工事） 図面名　倉庫改修図-1	設計No 縮尺　1/100	図面No　A／50



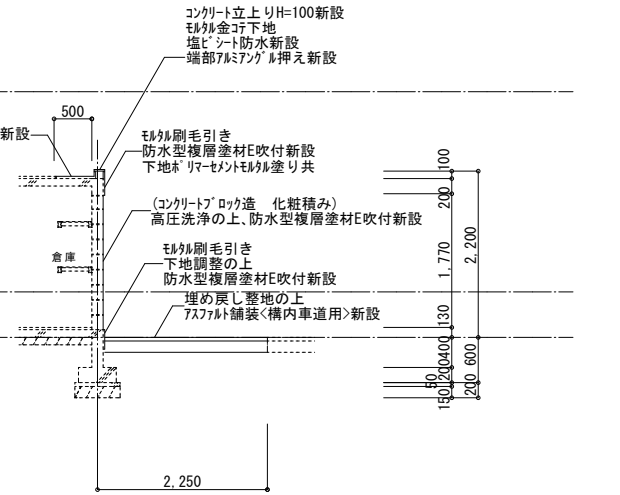
改修前　A断面詳細図　1/50



改修前　A断面詳細図　1/50



改修前　B断面詳細図　1/50



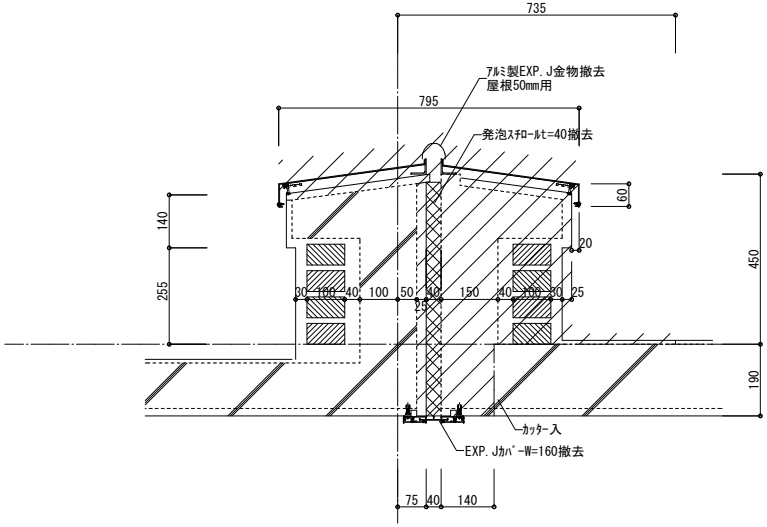
改修後　B断面詳細図　1/50

設計に緑を

図面縮小率　A2版　100%
図面縮小率　A3版　71%

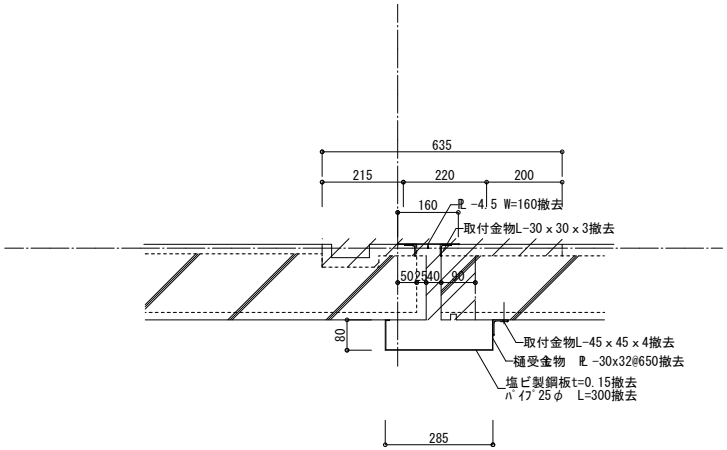
記事	株式会社　車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所　登録　17（1）第0587号 管理建築士　1級建築士　登録　第248825号 1級建築士　車　田　誠	設計年月日	御承認 所長　設計　製図	工事名　旭町住宅１号棟耐震改修等工事（建築主体工事） 図面名　倉庫改修図-2	設計No　図面No　A/51 縮尺　1/50

EXP. J撤去詳細図 1/10



R階壁(屋根)

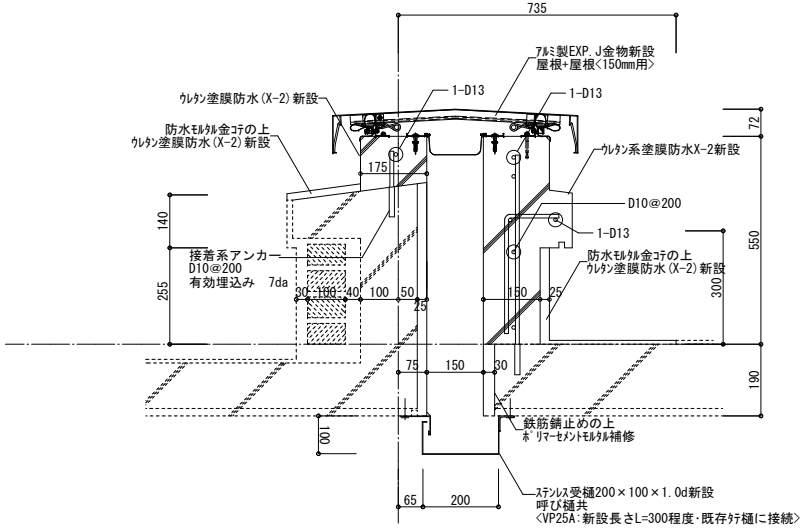
改修前部分詳細図 1/10



3、4階

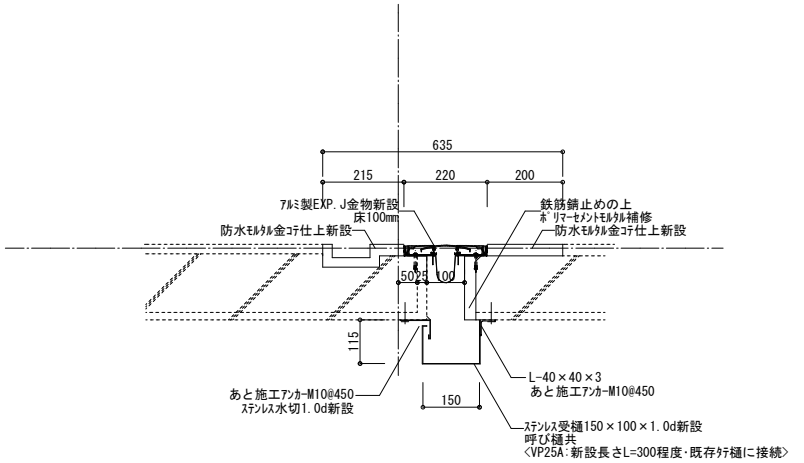
改修前部分詳細図 1/10

EXP. J新設詳細図 1/10



R階壁(屋根)

改修後部分詳細図 1/10



3、4階

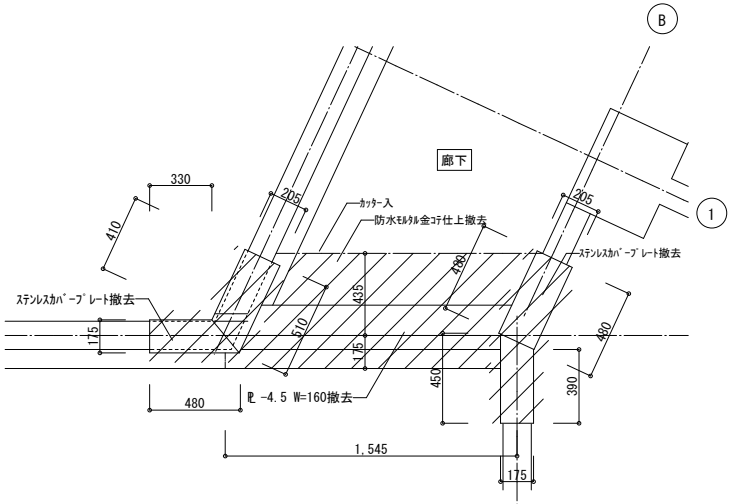
改修後部分詳細図 1/10

設計に緑を

図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

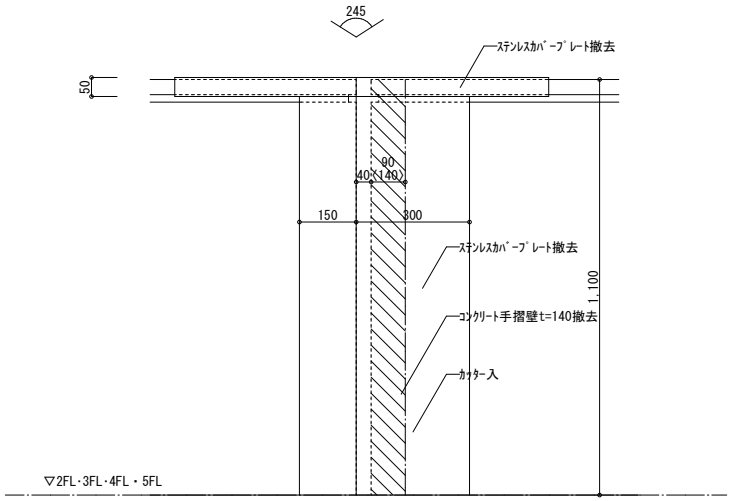
記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 部分詳細図-1(東棟)	設計No 縮尺 1/10	図面No A/52

EXP. J撤去詳細図 1/10, 1/20



2階・3階・4階壁（手摺壁）

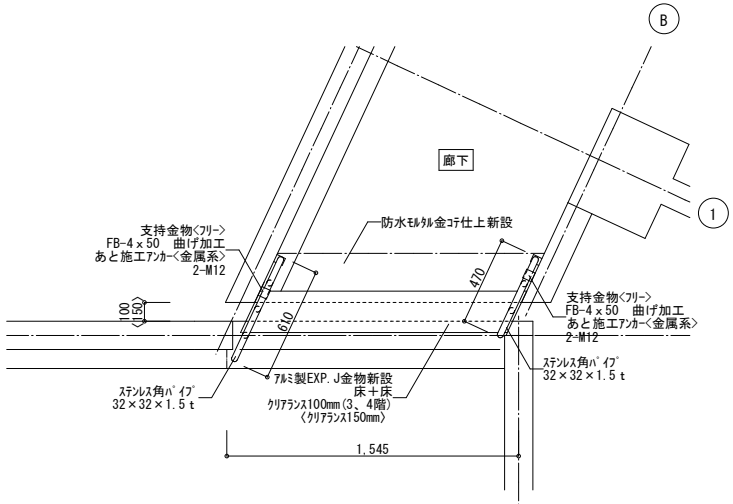
改修前　平面図　1/20



2階・3階・4階壁（手摺壁）※5階は〈〉内の数値とする。

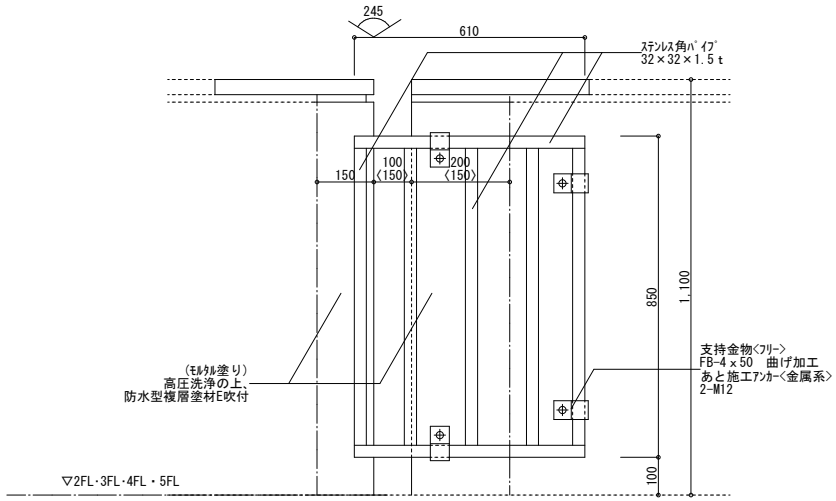
改修前　姿図　1/10

EXP. J新設詳細図 1/10, 1/20



2階・3階・4階壁（手摺壁）※5階は〈〉内の数値とする。

改修後　平面図　1/20



2階・3階・4階壁（手摺壁）※5階は〈〉内の数値とする。

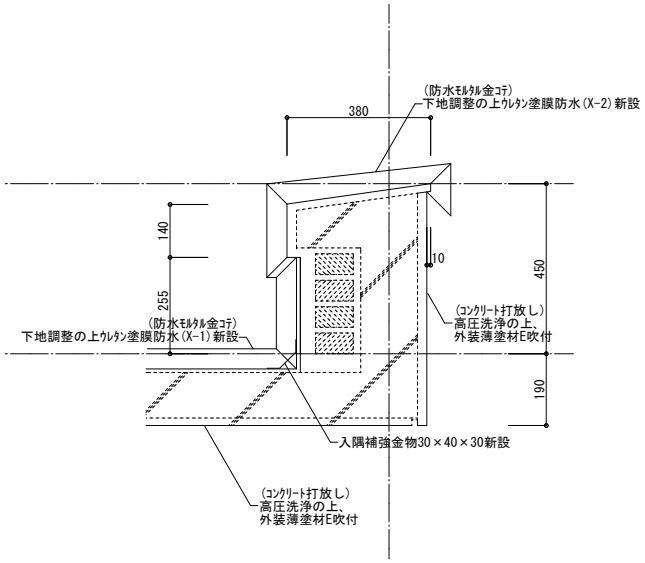
改修後　姿図　1/10

設計に緑を

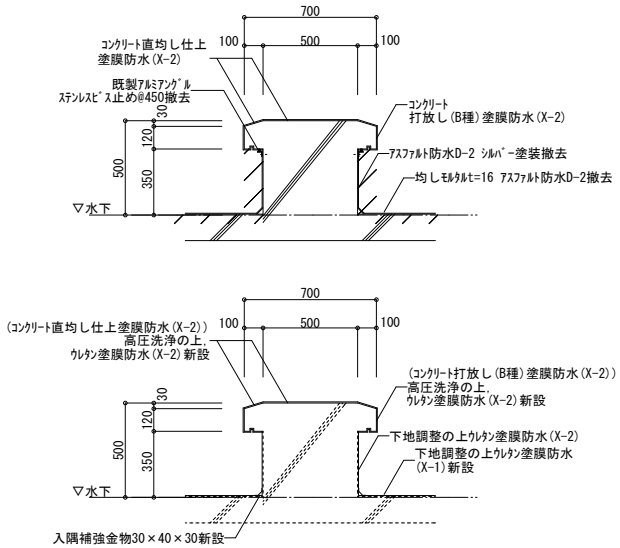
図面縮小率　A2版 100%
図面縮小率　A3版 71%

記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 部分詳細図-2(東棟)	設計No 縮尺 1/10	図面No A/53

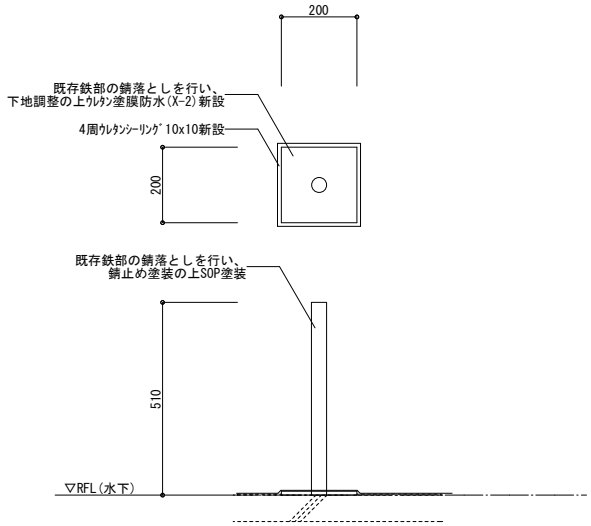
パラペット廻り詳細図 1/10



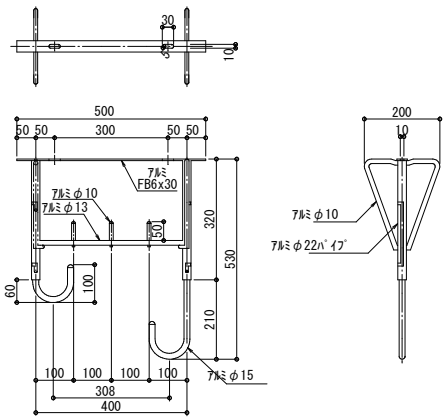
設備基礎詳細図 S=1/20



配管支持金物詳細図 1/10



物干し金物　詳細図 1/10



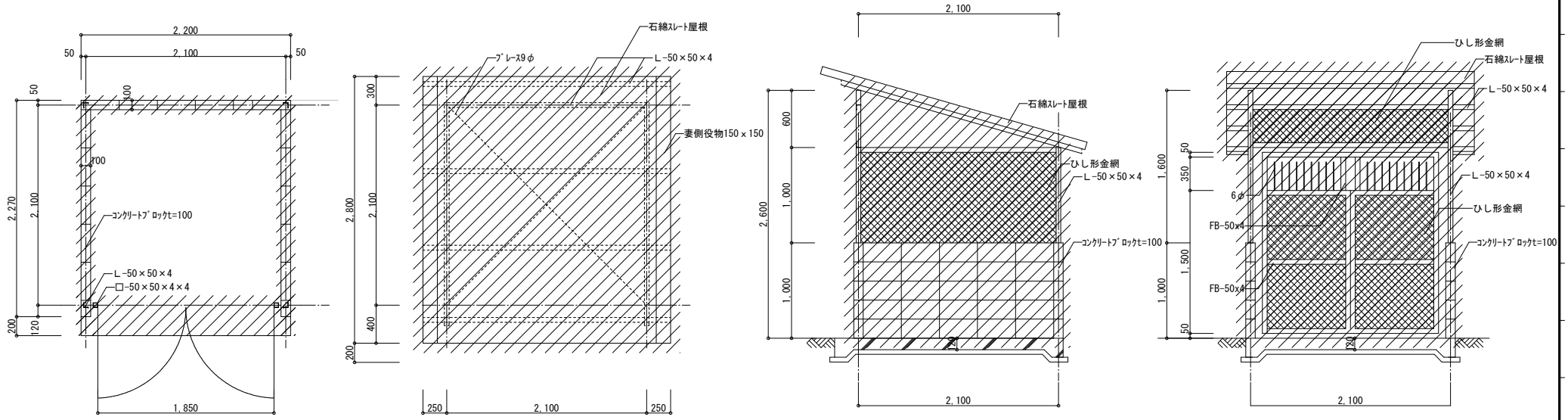
材質:アルミニウム(A6063押出型材)
仕上:アルマイト処理
色 :シルバー

設計に緑を

図面縮小率　A2版 100%
図面縮小率　A3版 71%

記事	株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 部分詳細図-3(東棟)	設計No 縮尺 1/10,20	図面No A/54

ｺﾞﾐ置場撤去 1/30

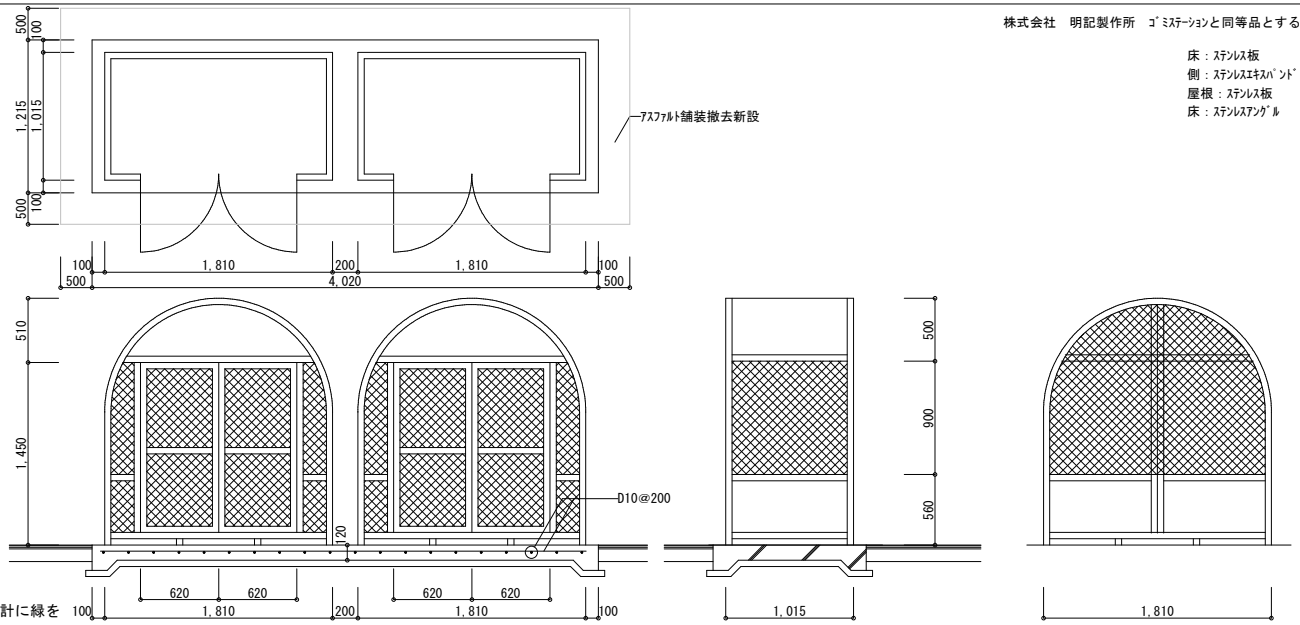


撤去後PCﾌｪﾝｽH=1200　L=2200新設　基礎180×180×450新設
朝日ｽﾁｰﾙ工業　PC-A1200同等品

ｺﾞﾐ置場新設 1/30

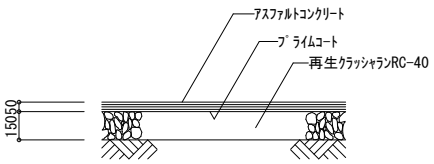
株式会社　明記製作所　ｺﾞﾐｽﾃｰｼｮﾝと同等品とする。

床：ｽﾃﾝﾚｽ板
側：ｽﾃﾝﾚｽｴｷｽﾊﾟﾝﾄﾞ
屋根：ｽﾃﾝﾚｽ板
床：ｽﾃﾝﾚｽｱﾝｸﾞﾙ



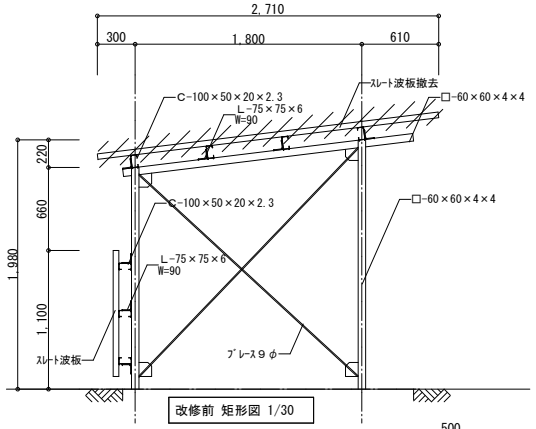
設計に緑を

ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装新設 1/20

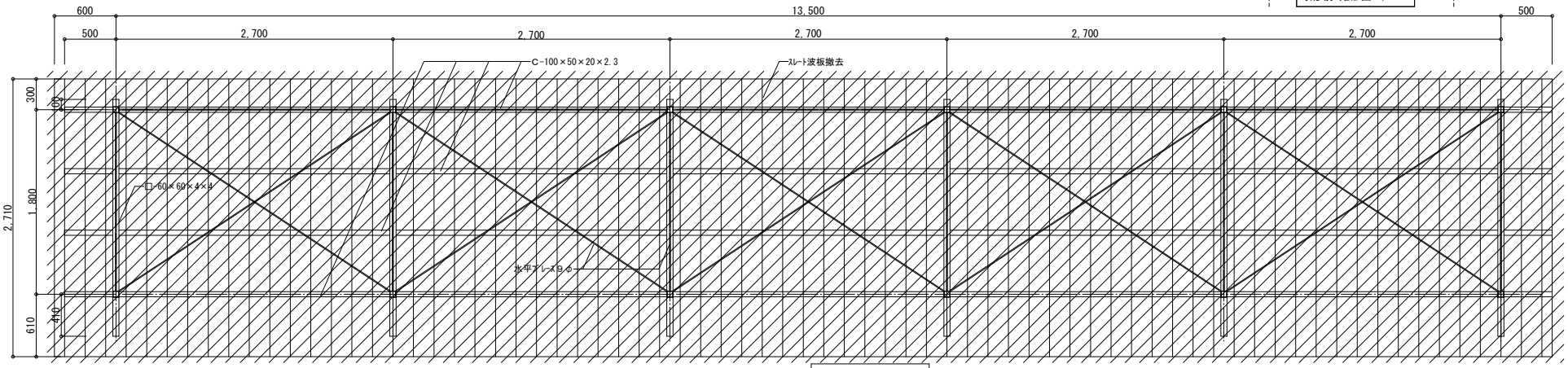


図面縮小率　A2版　100%
図面縮小率　A3版　71%

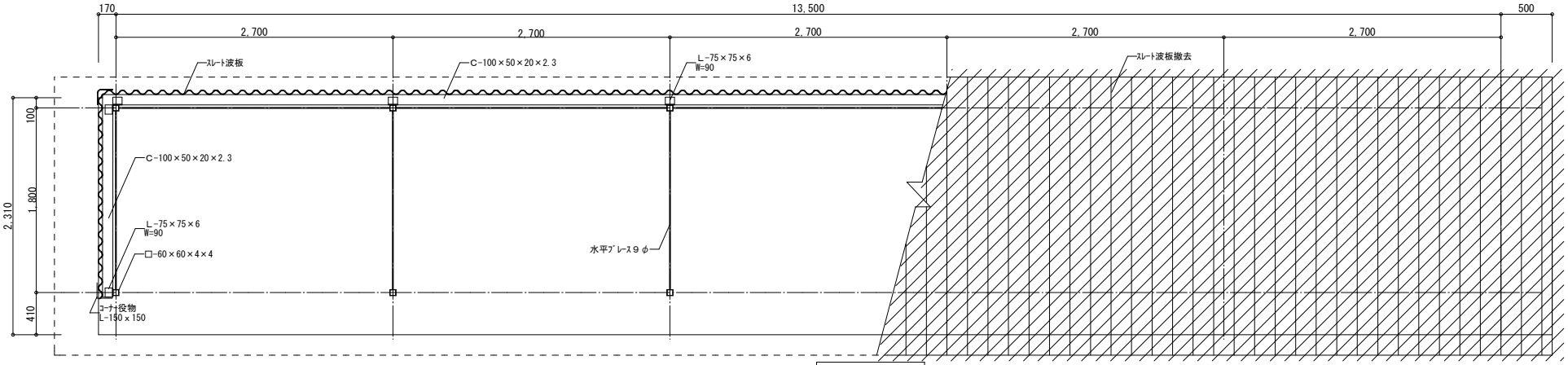
記事	株式会社　車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所　登録　17（1）第0587号 管理建築士　1級建築士　登録　第248825号 1級建築士　車　田　誠	設計年月日	御承認 所長　設計　製図	工事名 旭町住宅１号棟耐震改修等工事（建築主体工事）	設計No	図面No A／55
					図面名 部分詳細図-4（東棟）	縮尺 1/20,30	



改修前 矩形図 1/30



改修前 天井伏図 1/30

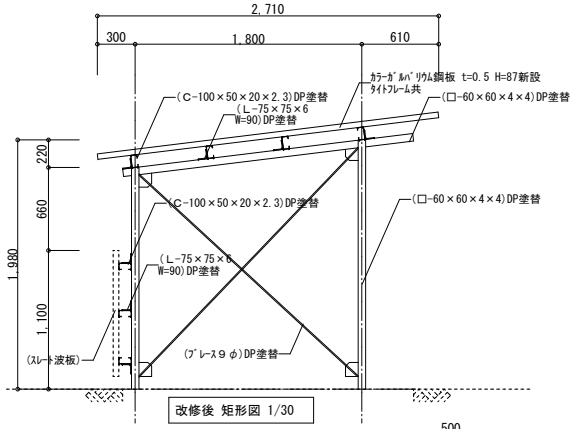


改修前 平面図 1/30

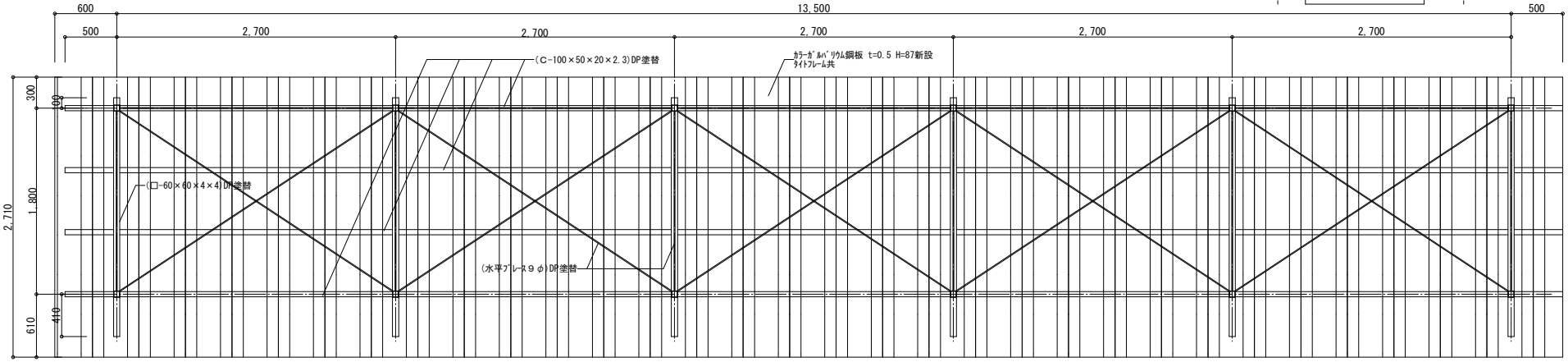
設計に緑を

図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

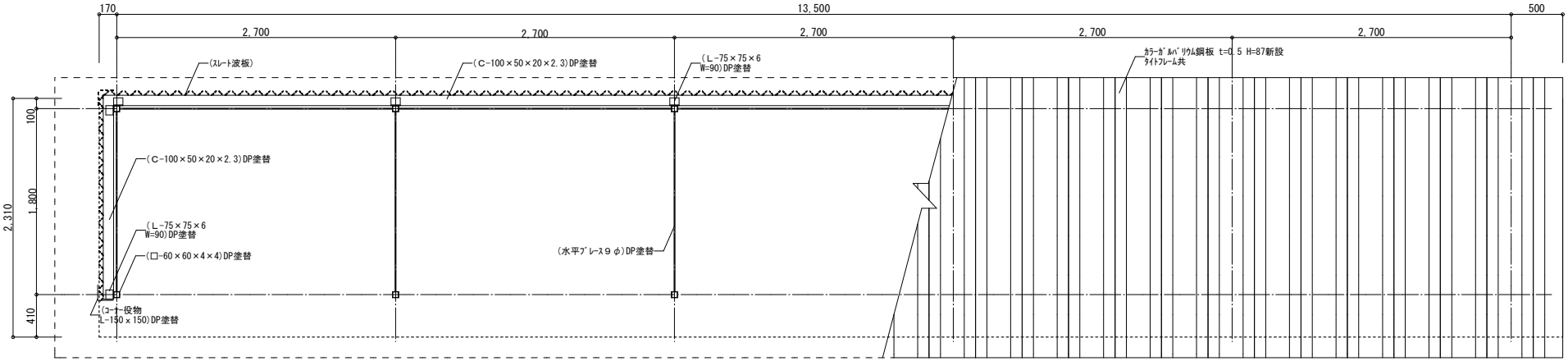
記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 部分詳細図-5(東棟)	設計No 縮尺 1/10,20	図面No A/56



改修後 矩形図 1/30



改修後 天井伏図 1/30



改修後 平面図 1/30

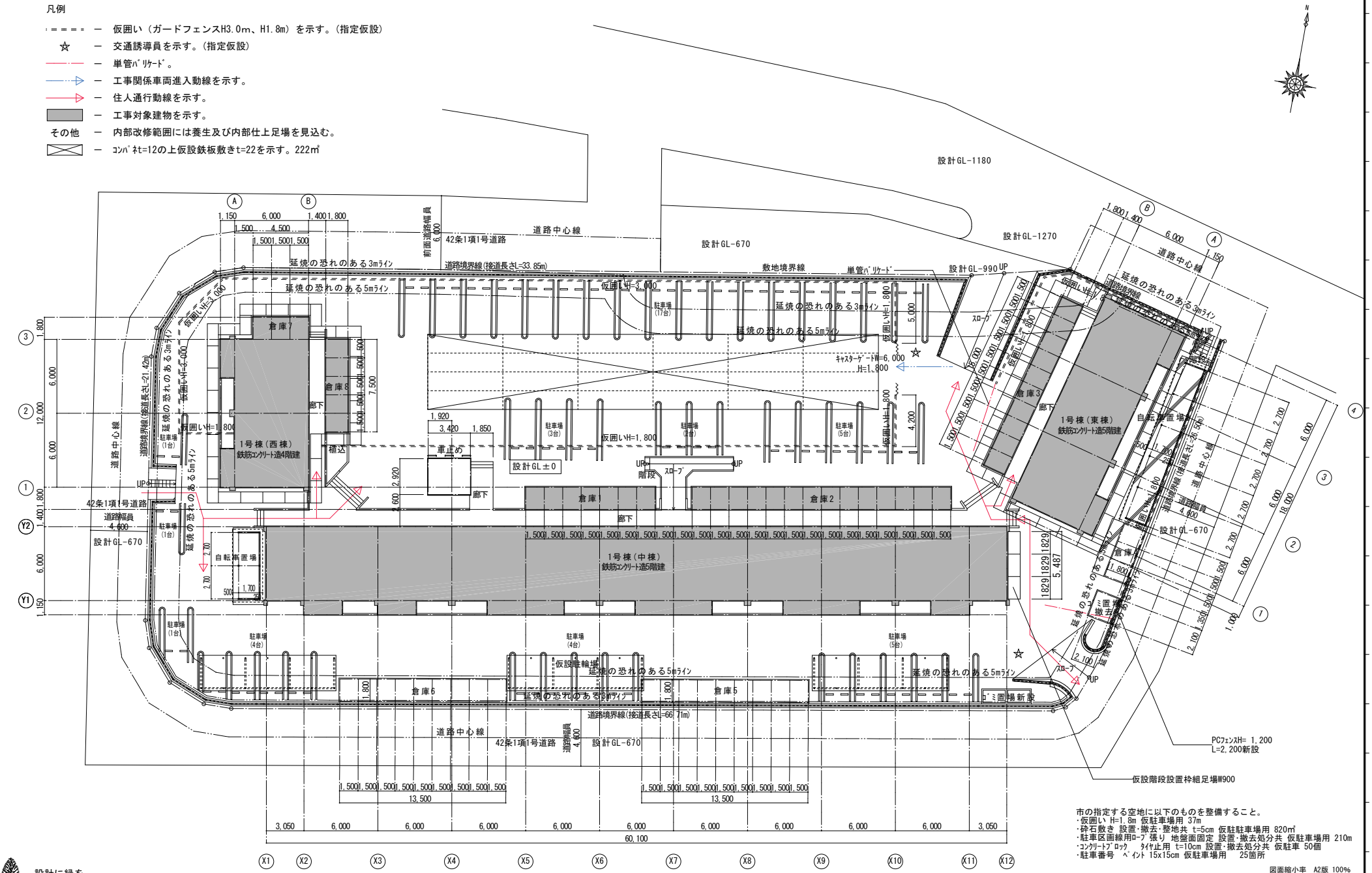
設計に緑を

図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 部分詳細図-6(東棟)	設計No 縮尺 1/10,20	図面No A/57

凡例

- 仮囲い（ガードフェンスH3.0m、H1.8m）を示す。（指定仮設）
- ☆ 交通誘導員を示す。（指定仮設）
- 単管ﾊﾞﾘｹｰﾄﾞ。
- 工事関係車両進入動線を示す。
- 住人通行動線を示す。
- 工事対象建物を示す。
- その他 内部改修範囲には養生及び内部仕上足場を見込む。
- ｺﾝﾊﾟﾈt=12の上仮設鉄板敷きt=22を示す。222㎡



市の指定する空地に以下のものを整備すること。
- ・仮囲い H=1.8m 仮駐車場用 37m
- ・砕石敷き 設置・撤去・整地共 t=5cm 仮駐駐車場用 820㎡
- ・駐車区画線用ﾛｰﾌﾟ張り 地盤面固定 設置・撤去処分共 仮駐車場用 210m
- ・ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ ﾀｲﾔ止用 t=10cm 設置・撤去処分共 仮駐車 50個
- ・駐車番号 ﾍﾟｲﾝﾄ 15x15cm 仮駐車場用 25箇所

設計に緑を

図面縮小率 A2版 100%
図面縮小率 A3版 71%

記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17（1）第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅１号棟耐震改修等工事(建築主体工事) 図面名 仮設計画図(参考図)	設計No 縮尺 1/200	図面No A/58

特記仕様書(構造関係)

8 耐震改修工事 共通事項

① 適用範囲

※改修標準仕様書　第８章　耐震改修工事
・改修標準仕様書において第８章耐震改修工事以外の改修工事で第８章を引用している部分

工事内容
⊙現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事
・鉄骨ブレースの設置工事
・柱補強工事　（溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法）
・柱補強工事　（鋼板巻き工法又は帯板巻き付け工法）
・連続繊維補強工事
⊙耐震スリット新設工事
・免震改修工事
・制振改修工事
・土工事及び地業工事
⊙EXP.J拡幅工事

② 既存部分の処理等

既存構造体の撤去　[8.21.2][8.22.2][8.23.2][8.24.4][8.25.2]
撤去範囲
※構造図による
はつり出した鉄筋及び鉄骨の処置
※露出部分は、錆止め塗料塗りを行う
既存構造体コンクリート面の目荒らしの程度及び範囲　[8.21.3][8.22.3][8.23.3]
既存柱、梁面
※打継ぎ面の15～30%程度に、平均深さ 2～5mm（最大7mm）程度の凹凸処理を施す。
・構造図による
既存壁
※打継ぎ面の10～15%程度に、平均深さ 2～5mm（最大7mm）程度の凹凸処理を施す。
・構造図による

既存杭の撤去等　[8.28.2]
・撤去範囲及び撤去方法　※構造図による
・杭頭部の処理　※構造図による
・既存杭の補強　※構造図による
・既存杭の健全性を確認する試験
※構造図による

8-1 鉄筋工事

① 鉄筋

鉄筋の種類等　[8.2.1]

種類の記号	呼び名	備考
※　SD295A	※　D16以下	
※　SD345	※　D19以上	

2 溶接金網

鉄線の形状等　[8.2.2]

種類	種類の記号	縦目寸法、鉄線の径（mm）	使用部位
※ 溶接金網			
・ 鉄筋格子			

③ 鉄筋の継手及び定着

鉄筋の継手の方法等　[8.3.4][8.4.2,3]

部位	継手方法	呼び名
柱、梁の主筋	※ ガス圧接　・機械式継手 ・ 溶接継手	
耐力壁の鉄筋	※ 重ね継手　・	
その他の鉄筋（　　）	・ 重ね継手　・	

継手位置
※構造図による
・柱及び梁の主筋の重ね継手の長さ
※構造図による

[8.3.4]

耐力壁の重ね継手の長さ
※改修標準仕様書 8.3.4(3)(ｱ)による　[8.3.4]
・改修標準仕様書 表8.3.2

鉄筋の定着長さ　[8.3.4]
※改修標準仕様書 8.3.4(5),(6)による
・構造図による

④ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網を含む）

最小かぶり厚さ　[8.3.5]
※改修標準仕様書 表8.3.6による

・軽量コンクリートを適用する場合
適用箇所（　　）
・最小かぶり厚さに加える厚さ　（　　）mm

・耐久性上不利な箇所がある場合(塩害を受けるおそれのある部分等)
適用箇所（　　）
・最小かぶり厚さに加える厚さ　（　　）mm

設計に緑を

8-2 コンクリート工事

① コンクリートの種類

コンクリートの類別　[8.1.3]
※Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート）
・Ⅱ類（JIS A 5308に適合したコンクリート）

② コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等

※普通コンクリート　[8.1.3,4][8.2.5]

設計基準強度（N/mm²）	スランプ（cm）	気乾単位容積質量（t/m³）	適用箇所
・24 ⊙21	・改修標準仕様書表8.1.2による	2.3程度	構造図による

構造体強度補正値　※改修標準仕様書表8.2.4による　・構造図による

・軽量コンクリート　[8.1.3,4][8.2.5][8.9.2]

設計基準強度（N/mm²）	スランプ（cm）	気乾単位容積質量（t/m³）	種類	適用箇所
	※21		・1種　・2種	構造図による

構造体強度補正値　※改修標準仕様書表8.2.4による　・構造図による

③ セメント

種　類　[8.2.5]
※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は
フライアッシュセメントA種
普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で
352J/g 以下、かつ28日目で 402J/g 以下のものとする
・高炉セメントB種　適用箇所（　　）
・フライアッシュセメントB種　適用箇所（　　）

④ 骨　材

アルカリシリカ反応性による区分　[8.2.5]
※A　・B

⑤ 混和材料

⊙混和剤　[8.2.5]
混和剤の種類
※改修標準仕様書 8.2.5(4)(a)による　・構造図による
・混和材　[8.2.5]
混和材の種類
※改修標準仕様書 8.2.5(4)(b)による　・構造図による

6 構造体用モルタル

圧縮強度（　　）　[8.2.6]
フロー値（　　）

7 暑中コンクリート

構造体強度補正値　※6N/mm²　・構造図による　[8.10.2]

8 マスコンクリート

適用箇所　(6.13.1)
※構造図による
セメントの種類　(6.13.2)
・普通ポルトランドセメント
・中庸熱ポルトランドセメント
・低熱ポルトランドセメント
・高炉セメントB種
・フライアッシュセメントB種
・シリカセメント
・（　　）

混和材料
・混和剤　(6.13.2)
混和剤の種類
※標準仕様書6.13.2(2)(ｱ)による
・構造図による
・混和材　(6.13.2)
混和材の種類
※標準仕様書6.13.2(2)(ｲ)による
・構造図による
スランプ　(6.13.2)
※15cm　・（　）cm

構造体強度補正値　※標準仕様書表6.13.1による　・構造図による

9 無筋コンクリート

コンクリートの種類
※普通コンクリート　・（　　）
設計基準強度　[8.11.1]
※18N/mm²　・（　）N/mm²
スランプ　[8.11.1]
※15cm又は18cm　・（　）cm
セメントの種類
※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は
フライアッシュセメントA種
・高炉セメントB種
・フライアッシュセメントB種
適用箇所
※構造図による

10 流動化コンクリート

適用箇所　(6.15.1)
※構造図による

⑪ 構造体コンクリートの仕上り

合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ　[8.1.4]
※意匠図による

コンクリートの仕上がりの平たんさ　[8.1.4]
※意匠図による

⑫ 打増し厚さ（打放し仕上げ部）

・打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る)　[8.7.8]
⊙20mm　・（　）mm
・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
⊙10mm　・20mm　・（　）mm
・外装タイル後張り面の打増し処理
・20mm
・床型枠用鋼製デッキプレート梁側面部の打増し処理
プレートが支持される梁の側面について下記の打増しを行う
・10mm　・20mm　・（　）mm

⑬ 型枠

せき板の材料及び厚さ　[8.2.7]
※合板
厚さ　※12mm　・（　）mm
・メッシュ型枠（使用部位　※構造図による）
・床型枠用鋼製デッキプレート（施工範囲　※構造図による）

・断熱材を兼用した型枠材
使用箇所　(6.8.2)
※構造図による
・ＭＣＲ工法用シート　(6.8.2)
適用箇所
※構造図による
打増し厚さ
・20mm　・（　）mm
打増し範囲
※構造図による

スリーブの材種・規格等　[8.2.7]
※構造図による

⑭ 型枠の加工及び組立

シアコネクタをセパレーターとして使用　[8.7.8]
使用箇所　※構造図による

⑮ コンクリートの打込み工法等

コンクリートの打設工法の種類　[8.21.8] [8.23.5]

補強工法	打設工法	部位
⊙現場打ちコンクリート壁の増設工事	⊙流込み工法 8.21.8(1)(ｱ),(2) ・圧入工法　8.21.8(1)(ｲ),(3)	⊙全ての増設壁　・構造図による ・全ての増設壁　・構造図による
・柱補強工事（溶接金網巻き及び溶接閉鎖フープ巻き工法）	・流込み工法 8.21.8(1)(ｱ),(2) ・圧入工法　8.21.8(1)(ｲ),(3)	・全ての柱補強部分　・構造図による ・全ての柱補強部分　・構造図による
	・流込み工法 8.21.8(1)(ｱ),(2) ・圧入工法　8.21.8(1)(ｲ),(3)	

鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法での型枠等　[8.23.6]
柱頭及び柱脚の隙間の寸法
※構造図による
柱頭及び柱脚の隙間部間の型枠
・発泡プラスチック保温材等を埋込む
・構造図による
既存柱外周部あと打ちコンクリート又は構造体用モルタルの厚さ
※構造図による
補強後の仕上げ　[8.23.7]
※構造図による

8-3 鉄骨工事

1 鉄骨製作工場

鉄骨製作工場の加工能力　[8.1.5]
※建築基準法　第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している
鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場
（　　）グレード以上
・監督職員の承諾する工場

2 鉄骨製作工場における施工管理技術者

・適用する　[8.1.6]
・適用しない

3 鋼　材

種類等　[8.2.8]

種類の記号	適用箇所（主要な部分）	規格
		※JIS規格による　・
		※JIS規格による　・
		※JIS規格による　・
		※JIS規格による　・
		※JIS規格による　・
		※JIS規格による　・

4 高力ボルト

高力ボルトの種類　[8.2.9]
※トルシア形高力ボルト　2種（S10T）
・JIS形高力ボルト　2種（F10T）

・（　　）
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等　[8.13.2]
※構造関係共通事項（鉄骨標準図）1-1 縁端距離及びボルト間隔
・構造図による

摩擦面の処理方法　[8.14.2]
※自然発錆（黒皮等を除去した後に自然放置して表面に赤さびが発生した状態）
・ブラスト処理（表面粗度50μmRz以上）
・すべり試験の種類
※すべり係数試験　・すべり耐力試験
試験方法等　※構造図による

5 溶融亜鉛めっき高力ボルト

セットの種類
※1種（F8T）相当
ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等　[8.13.2]
※構造関係共通事項（鉄骨標準図）1-1 縁端距離及びボルト間隔
・構造図による
摩擦面の処理方法等　[8.20.5]
※ブラスト処理(表面粗度50μmRz以上)又はりん酸塩処理
・構造図による

6 普通ボルト

ボルト及びナットの材料　(7.2.3)
※標準仕様書 表7.2.3(JIS附属書品)又は次による
ボルトの規格は、JIS B 1180とする。ボルトの種類を呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。ボルトの強度区分は、4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。ナットの規格は、JIS B 1181とする。ナットの種類は、六角ナット一Cとし、材料は鋼とする。

座　金　(7.2.3)
※JIS B 1256による　・構造図による

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等　[8.13.2]
※構造関係共通事項（鉄骨標準図）1-1 縁端距離及びボルト間隔
・構造図による

母屋又は胴縁の取付けに使用するボルトの孔径　(7.3.8)
※ねじの呼び径+1.0mm
・構造図による

7 アンカーボルト

・構造用アンカーボルト　(7.2.4)(7.3.2)
セットの種類（JIS B1220）
・ABR400　・ABR490　・（　　）
・建方用アンカーボルト
種類
・SS400　・（　　）
アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度
※標準仕様書　表7.2.3による
・構造図による

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等　(7.3.2)
※構造図による

8 溶接材料

溶接材料　[8.2.10]
・改修標準仕様書 8.2.10(1)(2)による
・構造図による

記事	株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所　登録　17（1）第0587号 管理建築士　1級建築士　登録　第248825号 1級建築士　車田　誠	設計年月日 R2. 9. 御承認 所長　設計　製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修工事等設計業務委託 図面名 建築改修工事特記仕様書（8）	設計No 縮尺 — 図面No S-01

8-3 鉄骨工事

1 スタッド [8.2.11]

種類等

呼び名	呼び長さ (mm)	適用箇所
・16		
・19		
・22		

JIS B1198（頭付きスタッド）

2 製作精度 鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則 6［鉄骨精度検査基準］に加えて、次による [8.13.3]
通しダイアフラムの突合せ継手の食い違いの寸法
・H12建告第1464号第二号イ(2)による
・構造図による
アンダーカットの寸法
・H12建告第1464号第二号イ(3)による
・構造図による
食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法
・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による
・構造図による

3 溶接技能者の技量付加試験 試験の要領 [8.15.3]
※構造図による

4 溶接接合 開先の形状 [8.15.4]
※構造関係共通事項（鉄骨標準図）1-2

・エンドタブの切断する部分 [8.15.7]
切断する箇所
※構造図による
切断する範囲
・構造図による
・エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジの端から5mm以下を残して直線上に切断する。
なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する
切断面の仕上げ
※改修標準仕様書8.15.7(1)(ｶ)(b)②による
・構造図による

スカラップの形状 [8.15.7]
※構造関係共通事項（鉄骨標準図）1-4

5 入熱、パス間温度の溶接条件 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件
※構造関係共通事項（鉄骨標準図）1-4
・構造図による
適用箇所
※柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部
・構造図による

6 溶接部の試験 平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等 [8.15.12]
・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による
・抜き取り検査①
※抜き取り検査②

JASS 6 付則 6［鉄骨精度検査基準］の付表3「溶接」に関する試験方法等
・JASS 6 10.4[受入検査]e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の抜取箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する
完全溶込み溶接部の超音波探傷試験
・工場溶接の場合
※全数
・工場現場溶接の場合
※全数

7 錆止め塗装 塗料の範囲 [8.17.2]
・耐火被覆材の接着する面の塗装
範囲 ※構造図による
・耐火被覆材の接着する面以外の塗装
範囲 ※標準仕様書 8.17.2 (ｱ)～(ｵ)以外
・構造図による

塗料種別 [8.17.4]
下記以外の鉄鋼面は、18章［塗装工事］による

・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種別
※A種
・B種
・耐火被覆材が接着する面の塗料の種別
・（ ）

8 耐火被覆 種類、材料、工法等 [8.18.2～8]

種類	材料・工法	性能（耐火時間）	適用箇所（部位・部分）
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール		
	・半乾式吹付けロックウール		
	・湿式ロックウール		
・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板		
・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール		
・ラス張りモルタル塗り	—		
・耐火塗料			

9 アンカーボルト等の設置等 構造用アンカーボルトの形状及び寸法 (7.10.3)
※構造図による
構造用アンカーフレームの形状及び寸法 (7.10.3)
※構造図による
建方用アンカーボルトの形状及び寸法
※構造図による
建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 (7.10.3)
種別
・A種 ・B種
柱底均しモルタル厚さ及び工法の種別 (7.10.3)
厚さ ・（ ）
種別 ※A種 ・B種

10 鉄骨ブレース設置後の仕上げ ※意匠図による [8.22.9]

8-4 あと施工アンカー工事

① あと施工アンカー 材料等 [8.2.4]
⊙接着系アンカー
アンカーの種類 ※カプセル方式回転・打撃式 ・（ ）
接着剤の品質
⊙有機系 ・無機系
アンカー筋の径及び埋込み長さ
※構造図による
アンカー筋の種類
・（ ）
アンカー筋の新設壁内への定着の長さ
※構造図による
・性能確認試験
試験方法及び試験数
※構造図による

・金属系アンカー
アンカー本体の径及び埋込み長さ
※構造図による
セット方式 ※本体打込み式改良型 ・（ ）
接合筋の種類、径、長さ
※構造図による
・性能確認試験
試験方法及び試験数
※構造図による

② 穿孔 埋込み配管等の探査方法 [8.12.4]
※鉄筋探知器（金属探知器）により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う
・はつり出しによる
・（ ）

③ 施工確認試験 試験方法 [8.12.7]
※引張試験機による引張試験
確認強度
※構造図による

④ 施工管理技術者 (社) 日本建築あと施工アンカー協会が定める「あと施工アンカー技術管理士」の資格以上の能力を有する者とする。 [8.12.1]

8-5 グラウト工事

① 柱底均しモルタル及びグラウト材 ・柱底均しモルタル [8.2.12]
※無収縮モルタル

・グラウト材 [8.2.11]
無収縮グラウト材の材質等

混和材砂	セメント系（酸化カルシウム及びカルシウム・サルフォ・アルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。
セメント	JIS R 5210「ポルトランドセメント」に適合した普通または早強ポルトランドセメントとする。
砂	土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。 ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。

無収縮グラウト材の品質及び試験方法

コンシステンシー	Ｊロートによる流下時間 練混ぜ完了から3分以内の値 ： 8±2秒
ブリージング	練り混ぜ2時間後のブリージング率 ： 2.0%以下
凝結時間	凝結開始時間 ： 1時間以上 終結時間 ： 10時間以内
無収縮性	材齢 7日 収縮しない
圧縮強度	材齢 3日 20.0 N/mm² 以上 材齢 28日 40.0 N/mm² 以上
塩化物量	0.30kg/m³ 以下
試験方法	1）NEXCO試験方法 試験法 312-1999「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合の試験はプレミックス形のみとする。 2）塩化物量の試験は、JIS A 1144「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。

8-6 連続繊維補強工事

1 連続繊維シート 連続繊維の材料 [8.2.13]
・炭素繊維
・アラミド繊維
・（ ）

引張強度（含浸硬化後） [8.2.13]
・（ ）N/mm²
ヤング係数（含浸硬化後）
・（ ）N/mm²
・下地処理 [8.24.6]
・ひび割れ部改修
範囲
※構造図による
種類
※構造図による
・柱及び梁の隅角部の面取りの大きさ [8.24.6]
※構造図による
連続繊維補強材の強度試験 [8.24.6]
・引張強度試験
※JIS A 1191（コンクリート用連続繊維シートの引張試験方法）による
・構造図による
試験数量
※構造図による

・付着強度試験 [8.24.6]
※JIS A 6909（建築用仕上塗材）による
・構造図による
試験数量
※構造図による

2 仕上げ 補強工事後の仕上げ [8.24.7]
※構造図による

8-7 耐震スリット新設工事

① スリットの方式、幅及び深さ 方式 [8.25.2]
⊙完全 ・部分
幅及び深さ
※構造図による
設置箇所
※構造図による

② スリットの施工前の埋め込み配管等の探査 既存撤去部の埋込み配管等の探査方法 [8.12.4]
※鉄筋探査機（金属探知機）により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う
・はつりだしによる

③ スリット充填材の挿入及び周囲補修等 ⊙耐火材 [8.25.2]
使用箇所及び仕様
※構造図による

・遮音材 [8.25.2]
使用箇所及び仕様
※構造図による

撤去部の補修 [8.25.2]
※撤去材と同一材で補修
・構造図による

8-8 土工事及び地業工事

1 埋戻し及び盛土 埋戻し及び盛土の材料及び工法
※改修標準仕様書 8.28.3(2)(ｳ)(b) 表8.28.1による [8.28.3]
・A種 適用場所（ ）
・B種 適用場所（ ）
・C種 適用場所（ ） 土質（ ） 受渡場所（ ）
・D種 適用場所（ ）
品質 細粒分（75μm以下）の含有率（重力百分率）の上限を50%未満とする
・材料（ ） 工法（ ）

2 山留めの撤去 鋼矢板等の抜き跡の処理 [8.28.3]
※直ちに砂で充填する ・意匠図による
山留めの存置
・行う
存置範囲 ※現場説明書の施工条件明示による

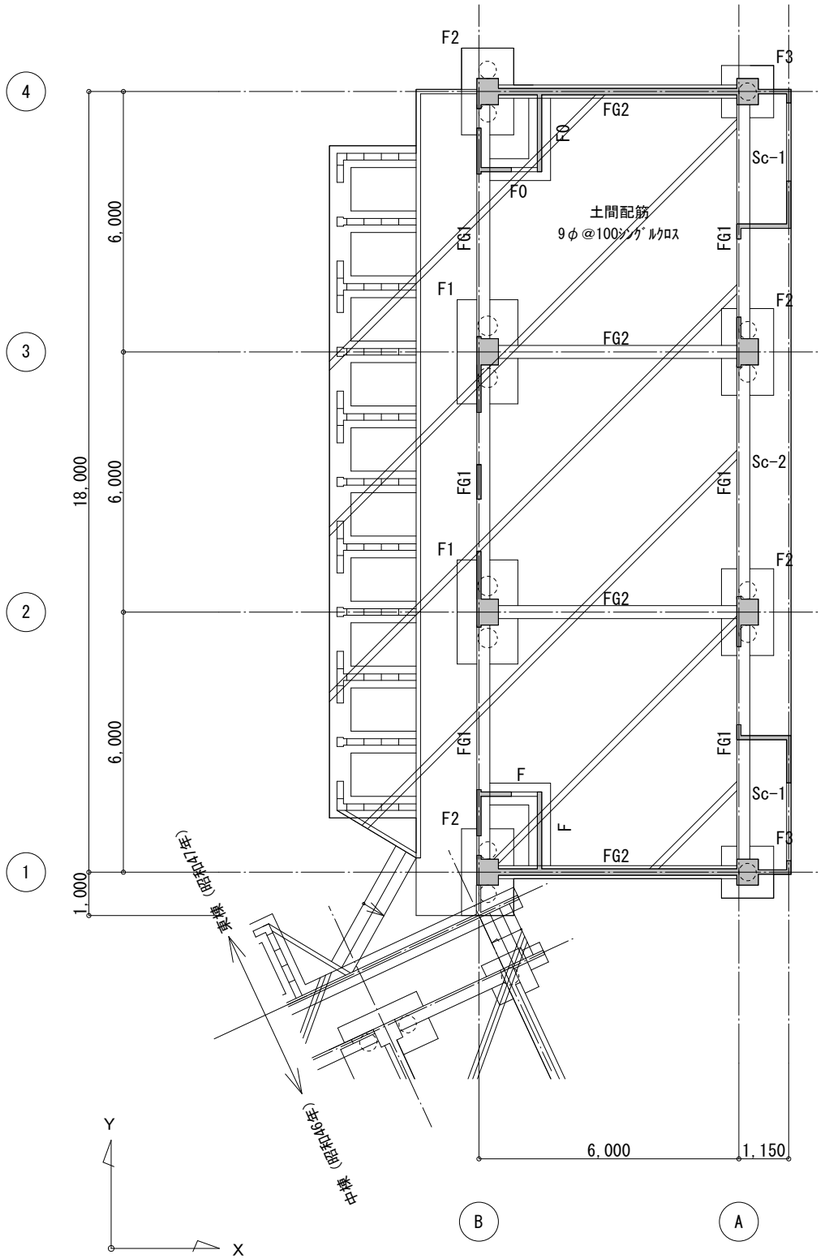
3 杭地業 支持層の位置及び土質（基礎ぐいの先端位置含む） [8.28.4]
※構造図による
杭の材料、工法、寸法、施工方法等 [8.2.14][8.28.4]
※構造図による
・試験杭の位置、本数及び寸法並びに施工方法 [8.28.4]
※構造図による
・杭の継手の箇所数、材料、工法等 [8.2.14]
※構造図による
・杭の溶接継手 [8.28.4]
技能資格者の技量 ※構造図による
溶接部の確認 ※構造図による
・杭頭を処理する [8.28.4]
処理方法（切断にともなう補強方法含む）
※構造図による
・杭頭の中詰め材料 (4.3.7)
・基礎のコンクリートと同調合のもの ・構造図による
杭の精度 [8.28.4]
水平方法の位置ずれ ・杭径の1/4かつ100mm以下 ・構造図による
杭の傾斜 ・1/100以内 ・構造図による
記録する施工状況等 [8.28.4]
※構造図による

4 砂利地業 材料 [8.2.15]
・再生クラッシャラン
・切込砂利又は切込砕石
砂利厚さ [8.28.4]
※60mm ・（ ）mm

5 捨コンクリート地業 捨コンクリートの厚さ [8.28.4]
※50mm ・（ ）mm
コンクリートの種類
※普通コンクリート ・（ ）
設計基準強度 [8.11.1]
※18N/mm² ・（ ）N/mm²
スランプ [8.11.1]
※15cm又は18cm ・（ ）cm

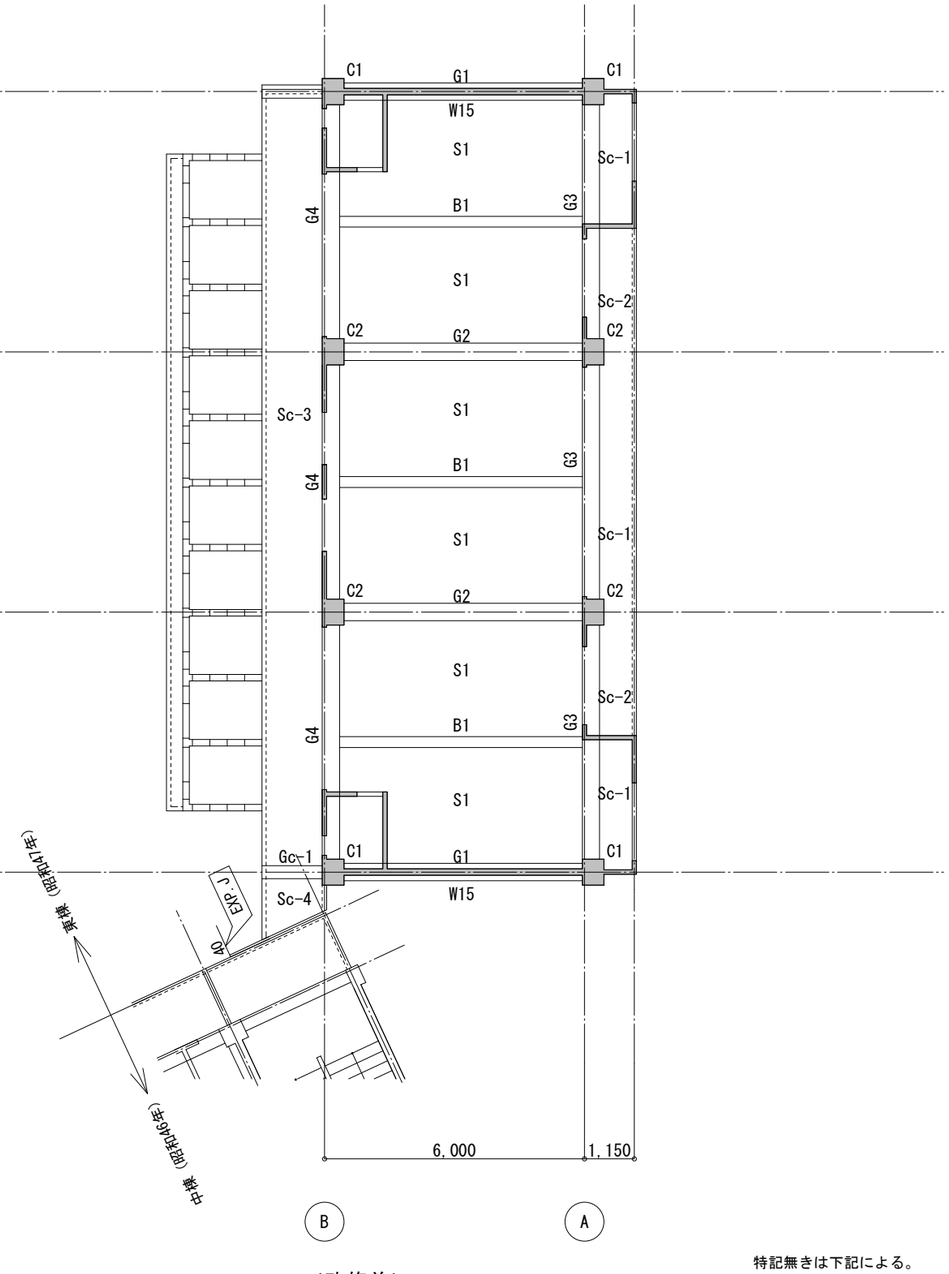
設計に緑を

記事	株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17（1）第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日 R2. 9.	御承認	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修工事等設計業務委託	設計 No	図面 No
				所長 設計 製図	図面名 建築改修工事特記仕様書（9）	縮尺 —	S-02



＜改修前＞

基礎伏図　1/100



＜改修前＞

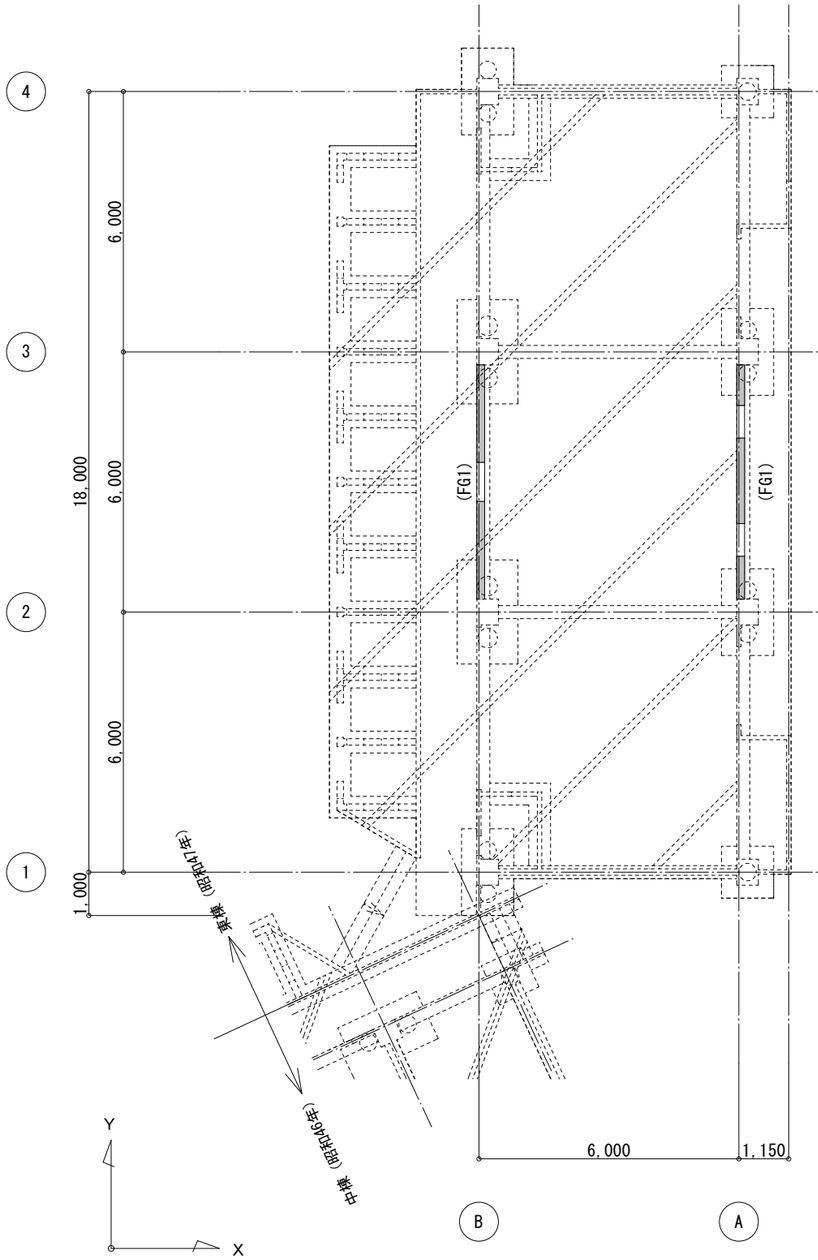
１階柱壁２階梁床伏図　1/100

特記無きは下記による。

1. 壁は、W10とする。
2. ▭ は、ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ壁を示す。

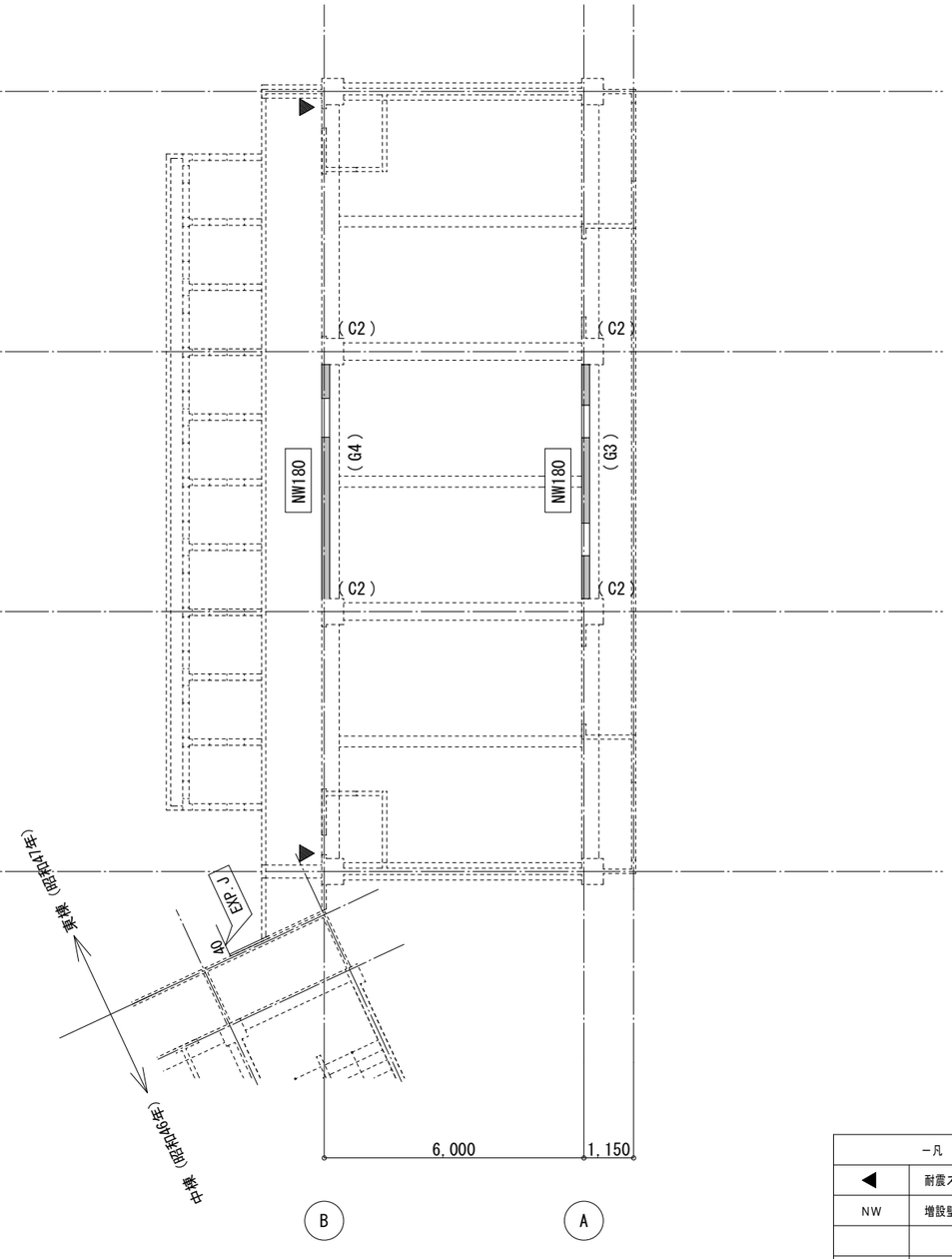
設計に緑を

記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日 R2. 9.	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修工事等設計業務委託 図面名 改修前 基礎伏図・1階柱壁２階床梁伏図	設計No 縮尺 1/100	図面No S-03



＜改修後＞

基礎伏図　1/100



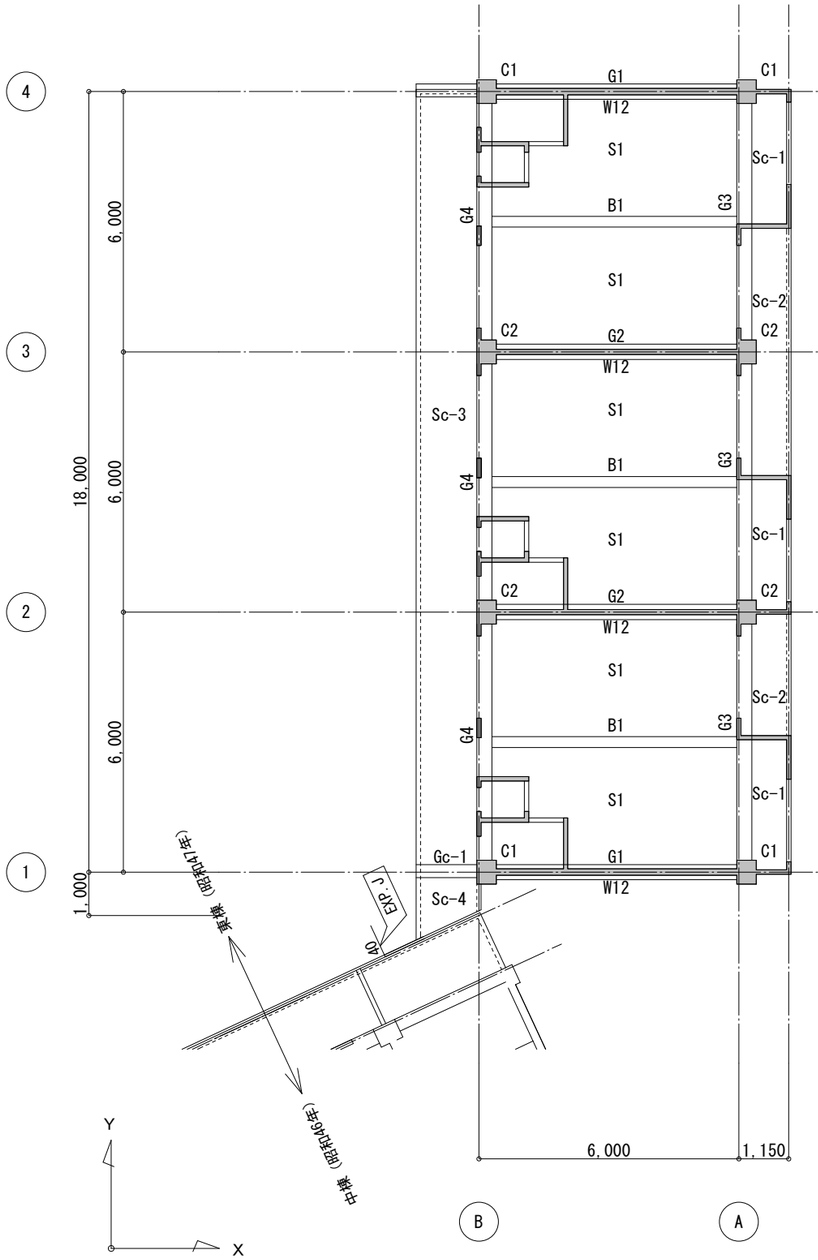
＜改修後＞

1階柱壁2階梁床伏図　1/100

ー凡　例ー	
◀	耐震スリット
NW	増設壁補強

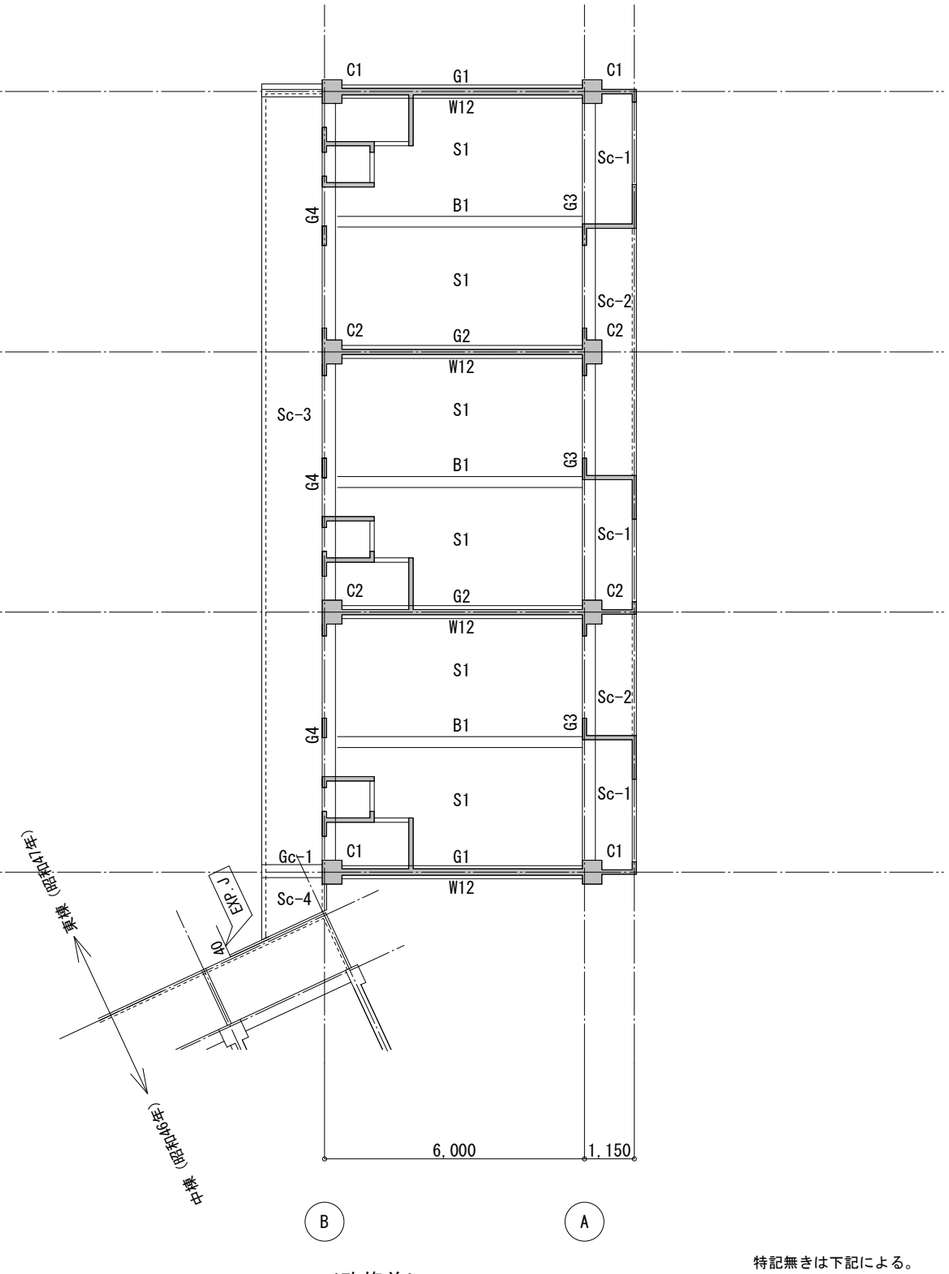
設計に緑を

記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日 R2. 9.	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修工事等設計業務委託 図面名 改修後 基礎伏図・1階柱壁2階床梁伏図	設計No 縮尺 1/100	図面No S-04



＜改修前＞

２階柱壁３階梁床伏図　1/100



＜改修前＞

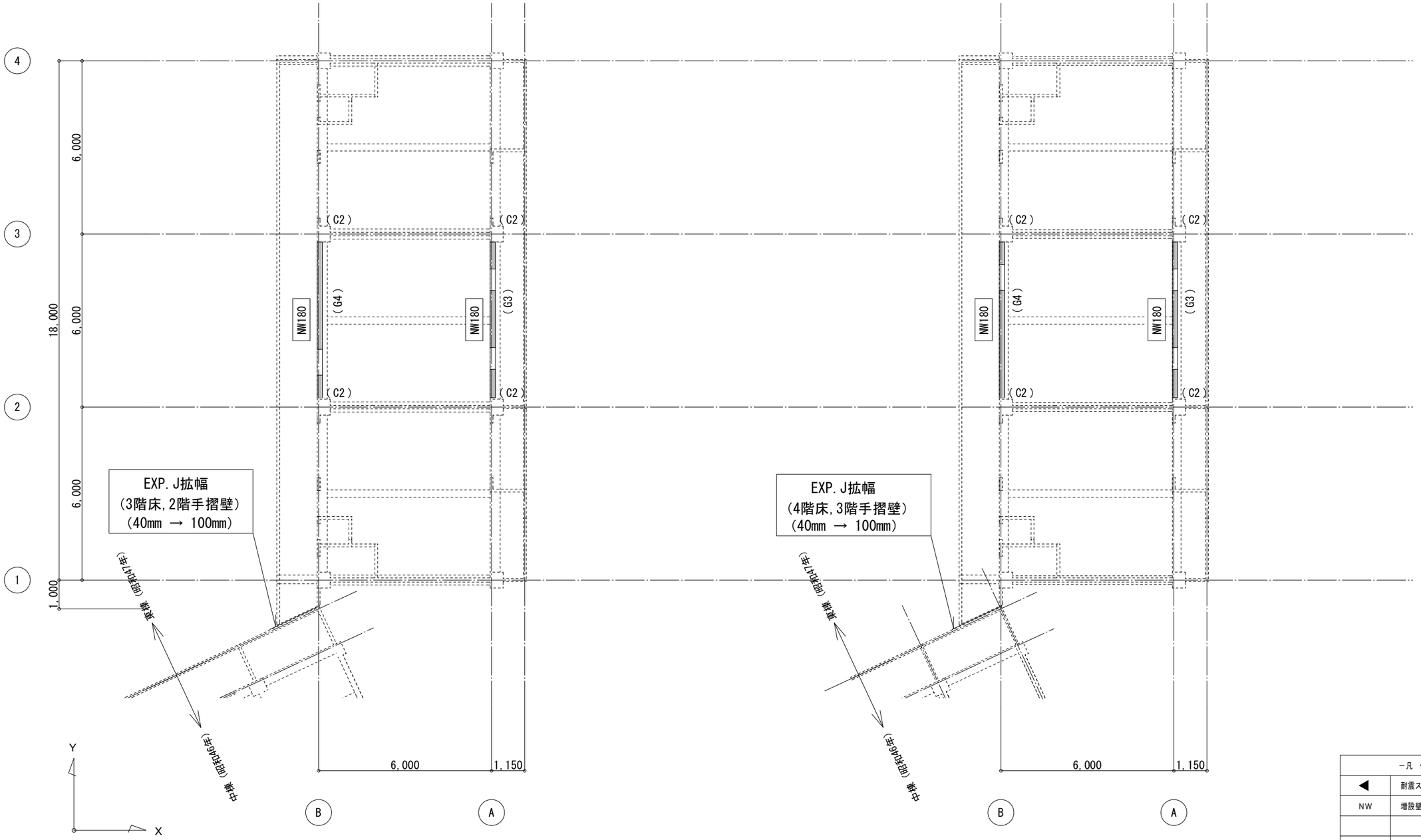
３階柱壁４階梁床伏図　1/100

特記無きは下記による。

1. 壁は、W10とする。
2. ⊥⊥⊥ は、ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ壁を示す。

設計に緑を

記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日 R2. 9.	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修工事等設計業務委託 図面名 改修前 2.3階柱壁3.4階梁床伏図	設計No 縮尺 1/100 図面No S-05



＜改修後＞

２階柱壁３階梁床伏図　1/100

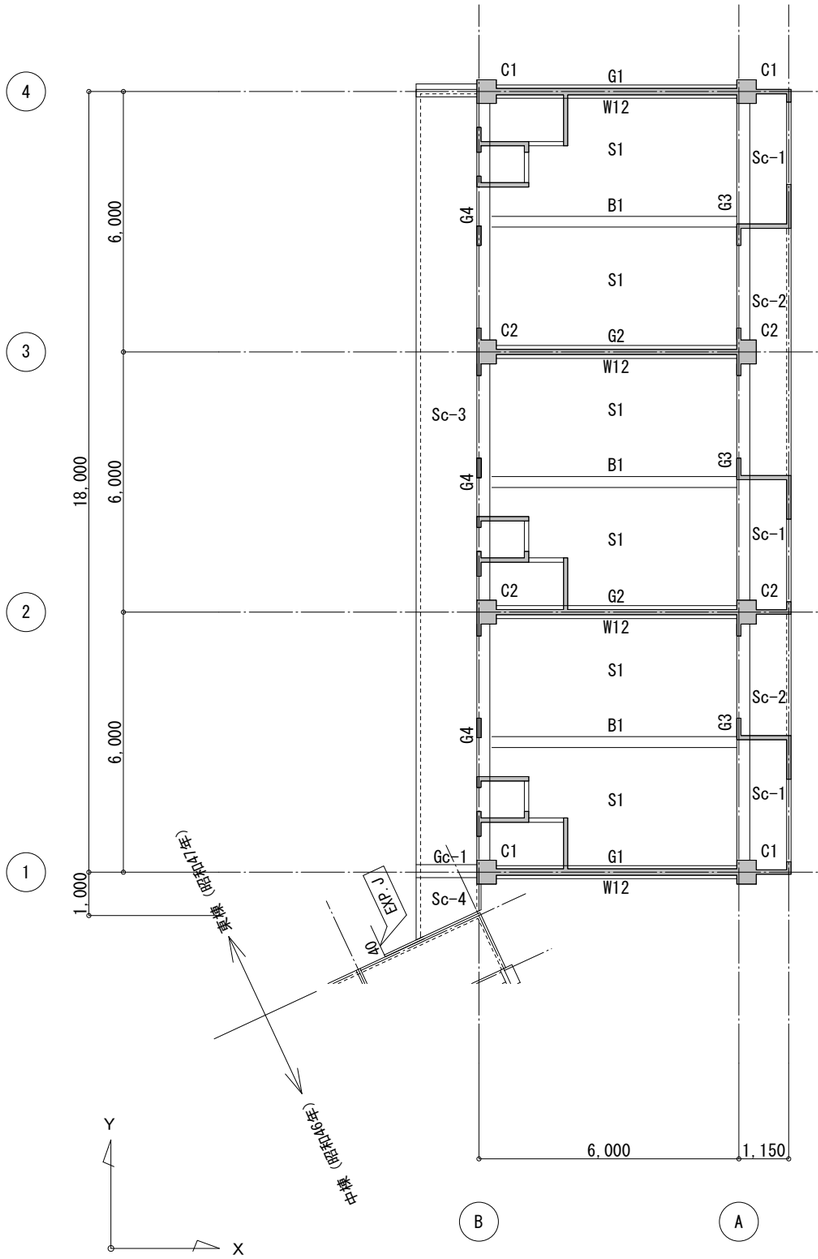
＜改修後＞

３階柱壁４階梁床伏図　1/100

ー凡　例ー	
◀	耐震スリット
NW	増設壁補強

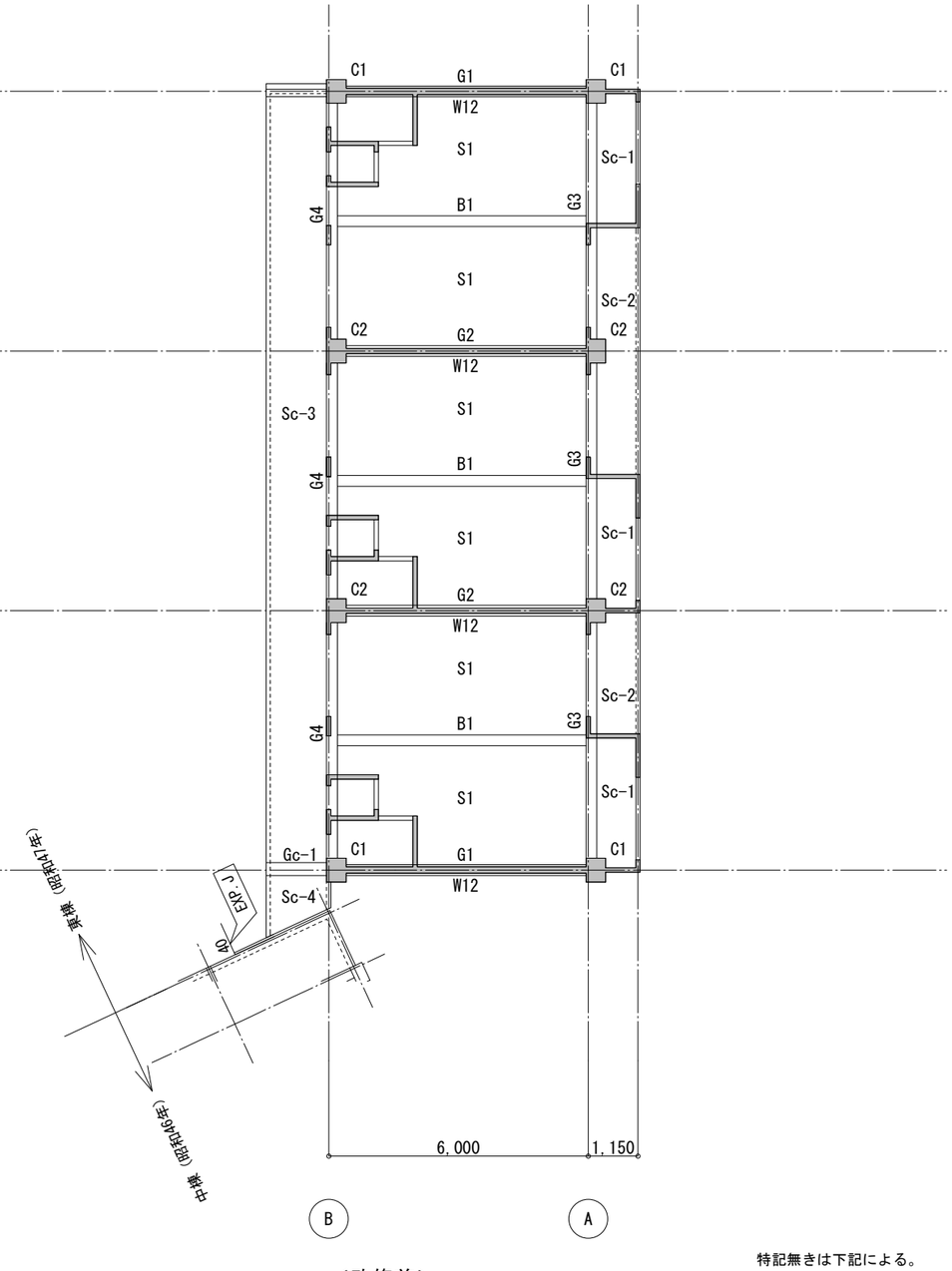
設計に緑を

記事	株式会社　車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所　登録　１７（１）第０５８７号 管理建築士　1級建築士　登録　第248825号 1級建築士　車　田　誠	設計年月日 R2. 9.	御承認 所長　設計　製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修工事等設計業務委託 図面名 改修後　2.3階柱壁3.4階梁床伏図	設　計　No 縮　尺 1/100	図　面　No S-06



＜改修前＞

４階柱壁５階梁床伏図　1/100



＜改修前＞

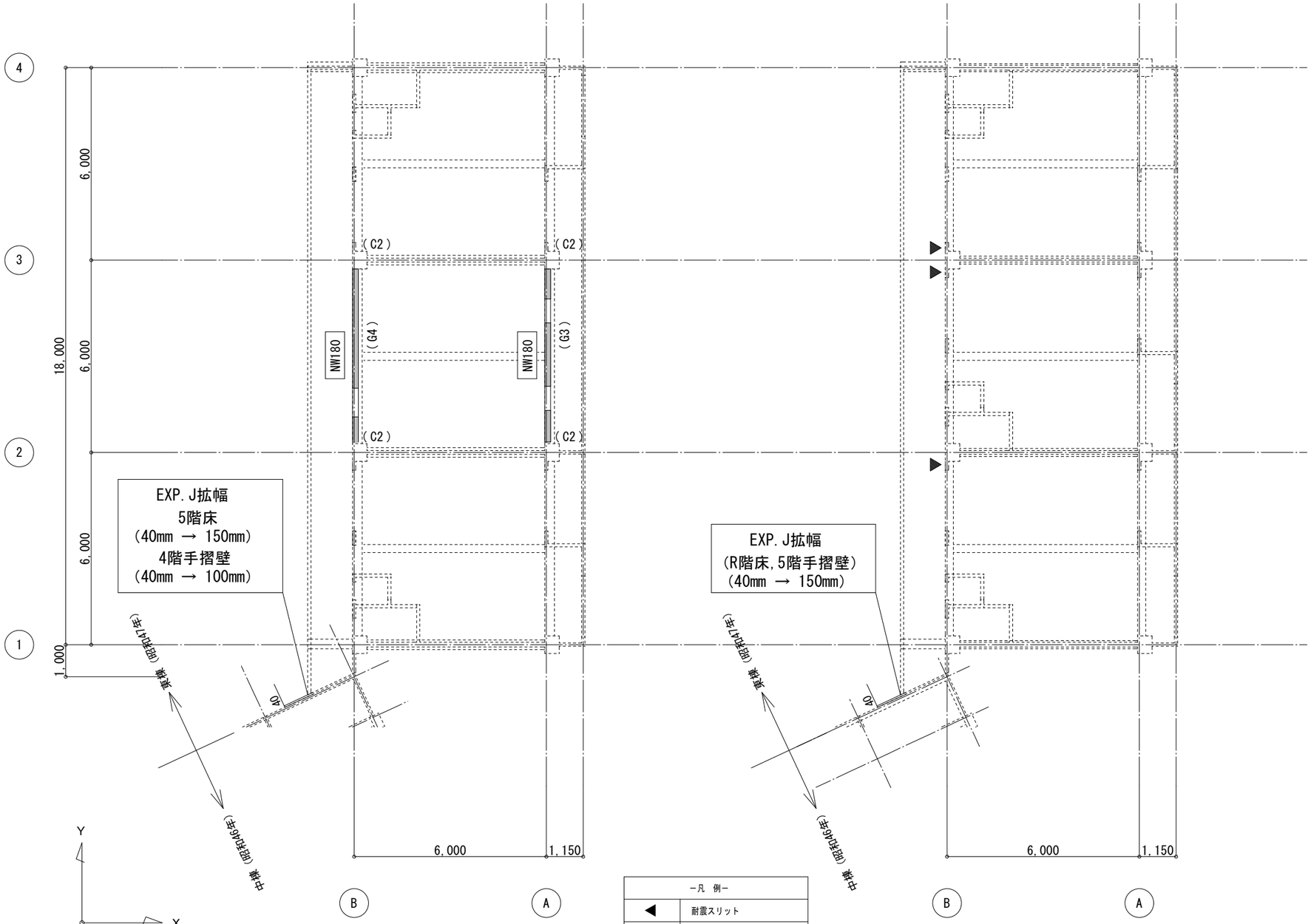
５階柱壁Ｒ階梁床伏図　1/100

特記無きは下記による。

1. 壁は、W10とする。
2. ▭▭ は、ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ壁を示す。

設計に緑を

記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17（1）第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日 R2. 9.	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修工事等設計業務委託 図面名 改修前 4.5階柱壁5.R階梁床伏図	設計 No 縮尺 1/100 図面 No S-07



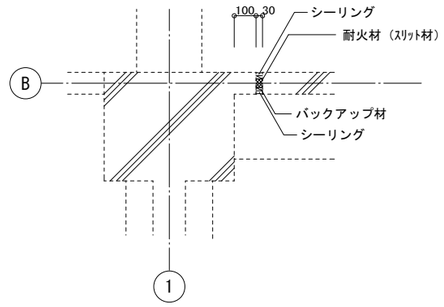
＜改修後＞

４階柱壁５階梁床伏図　1/100

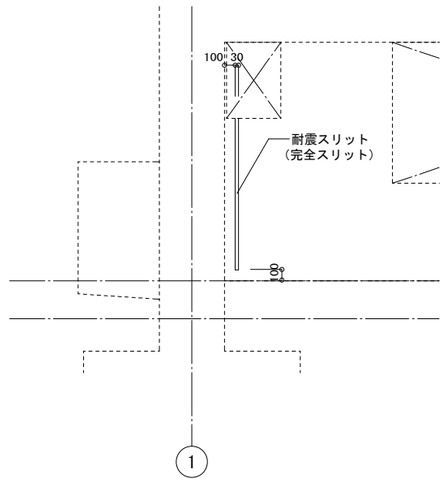
－凡　例－	
◀	耐震スリット
NW	増設壁補強

＜改修後＞

５階柱壁Ｒ階梁床伏図　1/100



完全スリット詳細図　1/20

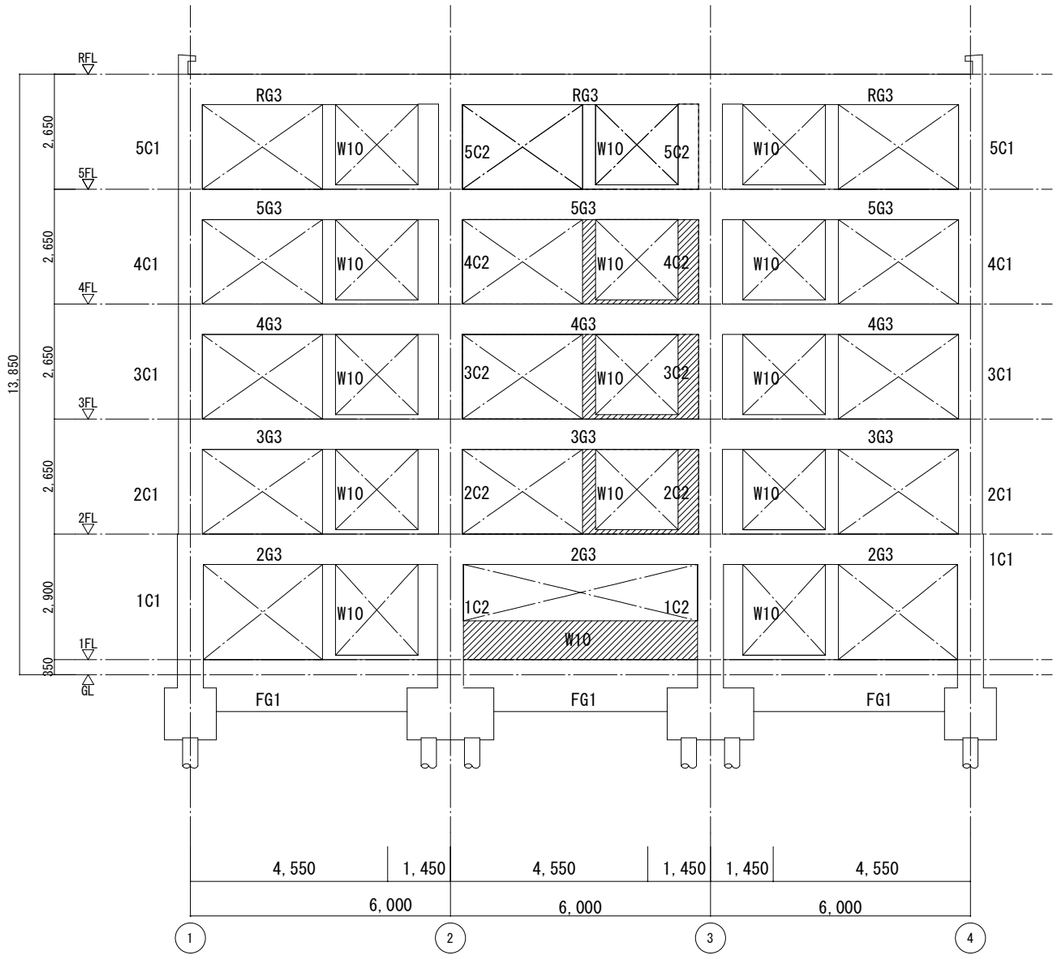


耐震スリット詳細図　S=1/40、1/20

・カッター切断後、コンクリートをはつりおとす。
・切断面に露出した鉄筋は、錆止め処理を行う。
・バックアップ材を挿入し、シーリングを行う。

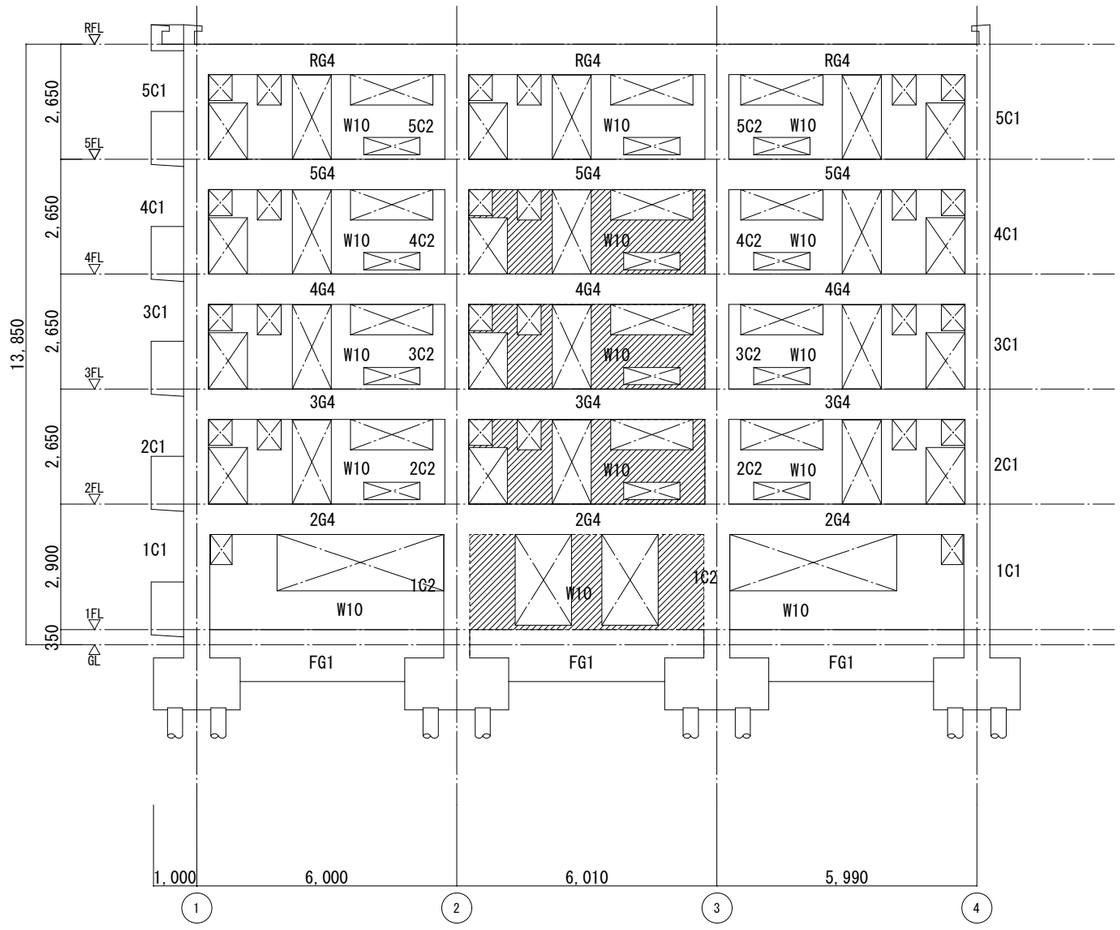
設計に緑を

記事	株式会社　車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所　登録　17（1）第0587号 管理建築士　1級建築士　登録　第248825号 1級建築士　車　田　誠	設計年月日 R2. 9.	御承認 所長　設計　製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修工事等設計業務委託 図面名 改修後　4.5階柱壁5.R階梁床伏図	設計No 縮尺 1/100	図面No S-08



＜改修前＞

Ａ通り軸組図　1/100



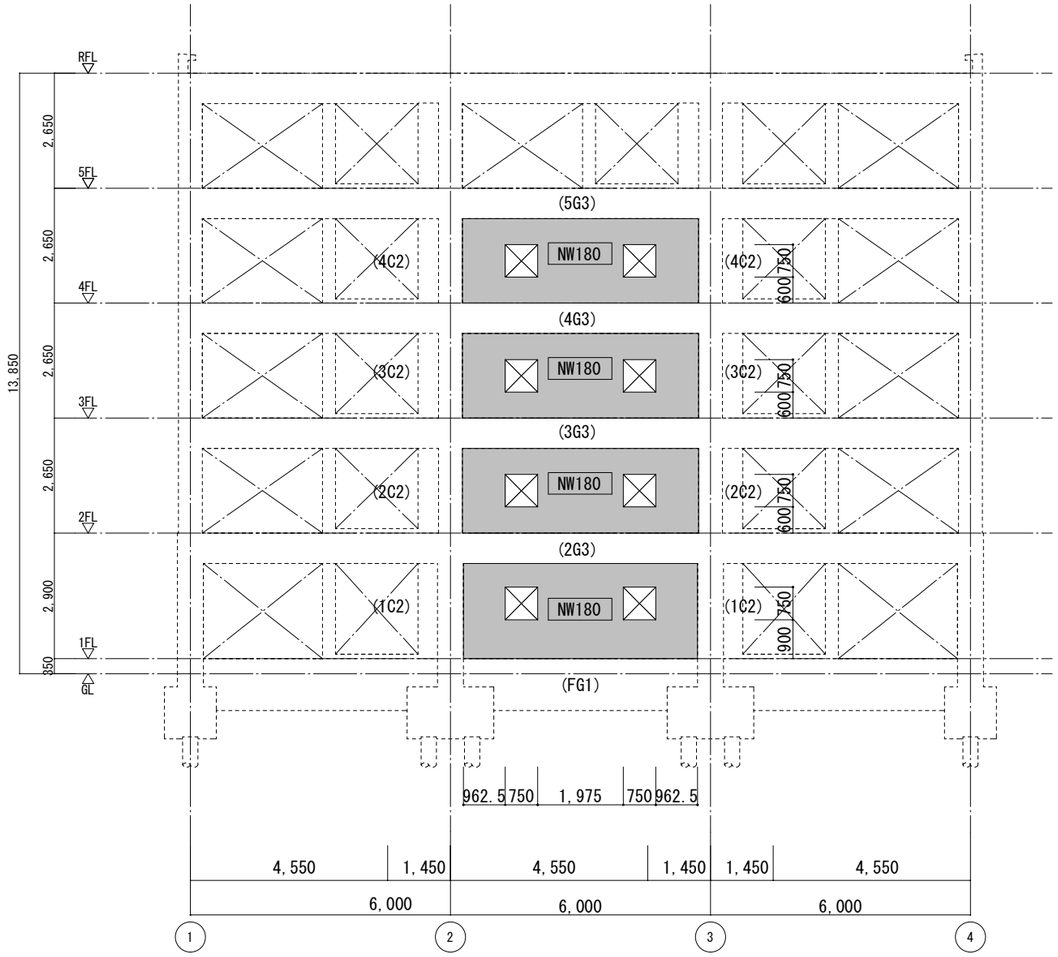
＜改修前＞

Ｂ通り軸組図　1/100

ー凡　例ー	
▨	RC壁撤去

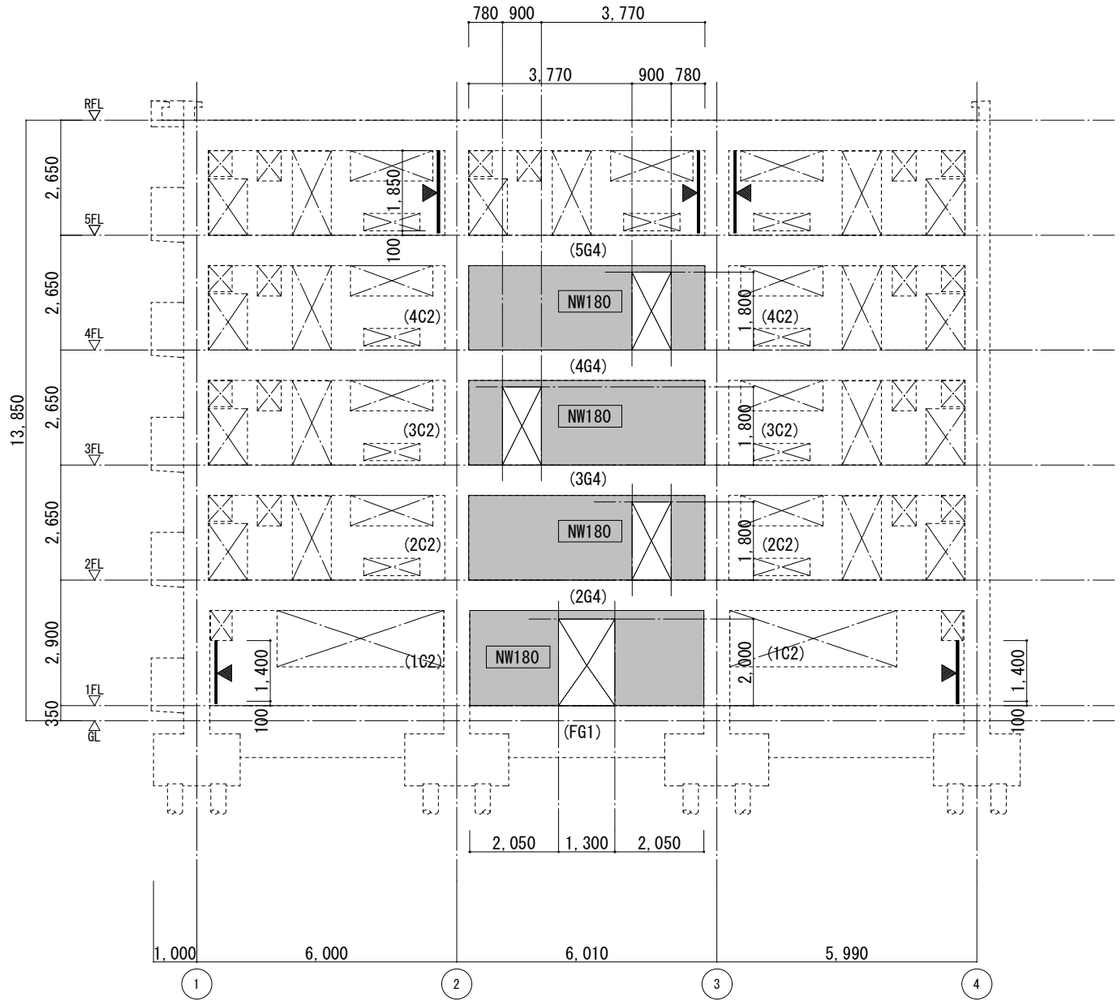
設計に緑を

記事	株式会社　車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所　登録　17（1）第0587号 管理建築士　1級建築士　登録　第248825号 1級建築士　車　田　誠	設計年月日 R2. 9.	御承認 所長　設計　製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修工事等設計業務委託 図面名 改修前　軸組図	設　計　No 縮　尺 1/100	図　面　No S-09



＜改修後＞

Ａ通り軸組図　1/100



＜改修後＞

Ｂ通り軸組図　1/100

ー凡　例ー	
◀	耐震スリット
ＮＷ	増設壁補強

設計に緑を

記事	株式会社　車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所　登録　17（1）第0587号 管理建築士　1級建築士　登録　第248825号 1級建築士　車　田　誠	設計年月日 R2. 9.	御承認 所長　設計　製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修工事等設計業務委託 図面名 改修後　軸組図	設　計　No 縮　尺 1/100	図　面　No S-10

ディスクシアキー工法特記仕様書１　（増設耐震壁補強工法）

１．一般事項

（１）適用図書

・本工法は（一社）建築研究振興協会　技術（性能）評価書　「ディスクシアキーを用いた補強接合部の設計施工指針（ＢＲＰ－Ｒ１７０３０２１－０ＳＴ）（２０１８年２月２８日）」（以下、ディスクシアキー設計施工マニュアル）による。

（２）準拠図書

・本工法は、次の優先順位によること。
　１）本特記仕様書
　２）設計図書
　３）（一財）日本建築防災協会：２００９年改訂版 既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針　同解説
　４）（一財）日本建築防災協会：２０１７年改訂版 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針　同解説
　５）（一財）建築保全センター：建築改修工事監理指針（平成２８年版）
　６）（一財）建築保全センター：建築工事監理指針（平成２８年版）

（３）施工計画

・本工事の施工計画書を作成し、監理者に提出すること。

２．使用材料

（１）増設壁用ディスクシアキー（拡張タイプ）

ａ．増設壁用ディスクシアキータイプ

タイプ	ディスク直径	アンカーボルトねじの呼び径	高ナットねじの呼び径	接続ボルト	
				ねじの呼び径	形　状
□拡張　φ90−M20	φ９０	Ｍ２０	Ｍ２０	Ｍ２０	六角ボルト
					全ねじボルト（ﾅｯﾄ付）
☑拡張　φ60−M16	φ６０	Ｍ１６	Ｍ１６	Ｍ１６	六角ボルト
					全ねじボルト（ﾅｯﾄ付）

ｂ．接着剤

☑ 有機系接着剤　・ＡＲケミカルセッターＥＸ－３５０
　　・ＡＲケミカルセッターＥＡ－３５０・ＥＡ－５００・ＥＡ５００Ｗ

□ 無機系接着剤　・セメフォースミルク５００

ｃ．ポリマーセメント

・リフレフリート（プライマー）
・リフレモルセットＳＰ（ポリマーセメントモルタル）

ｄ．圧入グラウト材

・プレミックスタイプの早強型特殊セメント系無収縮グラウト材または同等品以上とする。
　設計基準強度：３０Ｎ／mm^2

（２）引張力負担用ディスクシアキー（ボルトタイプ）

ａ．引張力負担用ディスクシアキータイプ

タイプ	ディスク直径	アンカーボルトねじの呼び径	高ナットねじの呼び径	接続ボルト	
				ねじの呼び径	形　状
□ボルトφ90−M20	φ９０	Ｍ２０	Ｍ２０	Ｍ２０	六角ボルト
					全ねじボルト（ﾅｯﾄ付）
□ボルトφ60−M16	φ６０	Ｍ１６	Ｍ１６	Ｍ１６	六角ボルト
					全ねじボルト（ﾅｯﾄ付）

ｂ．接着剤

□ 有機系接着剤　・ＡＲケミカルセッターＥＸ－３５０
　　・ＡＲケミカルセッターＥＡ－５００・ＥＡ５００Ｗ

□ 無機系接着剤　・セメフォースミルク５００

（３）引張力負担用アンカー（あと施工アンカー）

ａ．工法

□ 注入型（カートリッジ式）　　□ カプセル型

ｂ．接着剤

１）注入型

□ 有機系接着剤　・ＡＲケミカルセッターＥＸ－３５０
　　・ＡＲケミカルセッターＥＡ－５００・ＥＡ５００Ｗ

□ 無機系接着剤　・セメフォースミルク５００

２）カプセル型（ＪＣＡＡ認証製品）

□ エポキシ系
□ エポキシアクリレート系

ｃ．アンカー筋

	種類	径	使用箇所	先端形状
異形鉄筋	□ＳＤ２９５Ａ			
	□ＳＤ２９５Ｂ			
	□ＳＤ３４５			
	□ＳＤ３９０			

設計に緑を

（３）割裂防止筋

ａ．鉄筋

	種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	☑ＳＤ２９５Ａ	D10	割裂防止筋・軸筋	☑ 重ね継手 Ｄ１０～Ｄ１６ □ ガス圧接継手 Ｄ１９～ □ あと施工アンカーと鉄筋の継手は重ね継手とする。
	□ＳＤ２９５Ｂ			
	□ＳＤ３４５			
	□ＳＤ３９０			

３．保管等

（１）ディスク、アンカーボルト、高ナット、接続ボルト、引張力負担用アンカーの保管場所は、湿気の少ないところとし、直射日光の当たる場所に長時間保管しないこと。

（２）接着剤の保管場所は、高温・多湿の場所を避け、直射日光の当たらない冷暗所に保管する。

（３）接着剤の有効期限は、製造メーカーが定める有効期限以内とする。なお、使用途中のカートリッジを保管する場合は、専用キャップをして保管し、ミキシングノズルを必ず取り外すこと。

（４）リフレフリートは雨の当たらない水、湿気の少ない場所で保管する。保管時に３℃以下、４０℃以上にならないように保管する。また、開封した材料は早めに使い切る。

（５）リフレモルセットＳＰは雨の当たらない水、湿気の少ない場所で保管する。夏場は直射日光を避ける。また、開封した材料は早めに使い切る。

４．施工事前調査及び準備工事

（１）施工事前調査

ディスクシアキー工事に先立ち、施工者はディスクシアキーの施工場所における既存躯体の調査を行う。以下に主な調査項目を示す。
①モルタル等仕上げ材の有無の調査を行う。
②躯体開口部寸法の計測を行う。
③鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨かぶり深さの計測を行う。
④主筋、せん断補強筋の位置及びかぶり深さの計測を行う。
⑤豆板等躯体不具合、埋設配管・埋設物等の有無の調査を行う。

（２）準備工事の計画

施工者は事前調査の結果により、必要に応じ以下に示す準備工事の計画を行い、監理者の承認を得る。
また、調査の結果によりディスクシアキー工事ができないと判断した場合、監理者と協議の上他の工法を検討する。
①モルタル等仕上げ材がある場合、撤去の計画を行う。
②間接接合部部材寸法の計画を行う。
③鉄骨までのかぶり深さによるアンカーボルトの有効埋め込み深さの計画を行う。
④主筋及びせん断補強筋の配筋位置、かぶり深さの調査結果及び埋設物の調査結果により、ディスクシアキーの配置位置の計画を行う。
⑤ディスクシアキー工事を行う面の補修範囲、補修方法及び使用する補修材料の計画を行う。
⑥ディスクシアキー工事を行う場所の環境温度により、適切な接着剤を選定する。

(3) 準備工事

施工者は監理者の承認を受けた準備工事の計画に従い、ディスクシアキー工事の準備工事を行う。

５．ディスクシアキー工事

５－１．ディスクシアキー工事（拡張タイプ・ボルトタイプ）

（１）施工手順

墨出し・マーキング
↓
アンカーボルトの穿孔・清掃
↓
アンカーボルトの穿孔深さの確認
↓
ディスクの溝掘・清掃
↓
ディスク溝堀の穿孔深さの確認
↓
孔内・溝内への接着剤注入
↓
ディスクとアンカーボルトの組付 ※1　※1　ボルトタイプは出荷時に組付済
↓
ディスクとアンカーボルトの挿入
↓
接着剤の充填確認
↓
アンカーボルト端部拡張 ※2　※2　ボルトタイプは端部拡張なし
↓
高ナット締付け ※1　※1　ボルトタイプは出荷時に組付済
↓
硬化・養生
↓
接続ボルト取付け

ディスクシアキー工事フロー

（２）施工資格者

①ディスクシアキー工事の施工管理者は、ディスクシアキーの技術性能取得会社が実施する「施工管理者講習」を修了し、修了証を有した者とする。
②ディスクシアキー工事の施工担当者は、ディスクシアキーの技術性能取得会社が実施する「施工担当者講習」を修了し、修了証を有した者とする。

（３）アンカーボルトの穿孔作業及び清掃作業等

・穿孔工具は、湿式コアドリルを用い、穿孔深さおよび穿孔ドリルのビット径は以下による。

ディスクシアキータイプ	アンカーボルト径	穿孔深さ	ドリルビット径
拡張タイプ	Ｍ２０	有効埋込深さ+５mm以上	φ２４
	Ｍ１６		φ１８
ボルトタイプ	Ｍ２０	有効埋込深さ以上	φ２４
	Ｍ１６		φ１８

・穿孔深さが所定の深さ以上であることを全数確認する。
　穿孔深さが所定の深さ未満であった場合は、同位置に穿孔し、所定の深さ以上を確保する。
・アンカーボルト穿孔後の清掃は、集塵機及びブラシ等を用いて行う。
・アンカーボルトの穿孔中に、埋設鉄筋や埋設配管等に干渉し、所定の穿孔深さが確保できない場合は穿孔を中止し、監理者と協議のうえ穿孔位置を変更すること。

（４）ディスクの溝掘作業及び清掃作業等

・ディスクの溝掘作業は、専用工具（溝掘ドリル）を用いて行い、溝の深さは２２mm以上とする。
・ディスクの溝内の清掃は、集塵機及びブラシ等を用いて清掃を行う。
・ディスクの溝堀中に、埋設鉄筋や埋設配管等に干渉し、既定の穿孔深さが確保できない場合は穿孔を中止し、監理者と協議のうえ穿孔位置を変更すること。

（５）アンカーボルトの孔内及びディスクの溝内への接着剤注入作業等

・使用する接着剤の種類は、施工する環境温度により決定する。
　なお、施工する環境温度が－１５度を下回る場合、もしくは４０度を上回る場合は、接着剤注入作業を行わない。
・ディスク挿入後充填した接着剤がディスク部の周辺端部からあふれたことを確認する。
・あふれた接着剤は除去する。

（６）接着剤の硬化養生時間は、２４時間以上とすること。

（７）ディスクシアキー施工管理者は、アンカーボルト穿孔深さ及びディスク溝堀深さの計測記録を施工者に提出し、施工者は記録内容を確認した上で監理者に提出する。

（８）（１）～（７）に記載無き事項については、「ディスクシアキー設計施工マニュアル」を参照のこと。

５－２．引張力負担用アンカー工事

【Ⅰ】注入型（カートリッジ式）

（１）施工手順

墨出し・マーキング
↓
穿孔・清掃
↓
アンカー筋マーキング
↓
孔内への接着剤注入
↓
アンカー筋の挿入
↓
硬化・養生

引張力負担用アンカーの施工フロー（注入型）

（２）施工資格者

・引張力負担用アンカーの施工は、（社）日本建築あと施工協会（以下「ＪＣＡＡ」）が規定した有資格者が行う。

（３）品質

・引張力負担用アンカーの品質基準は、「ディスクシアキー設計施工マニュアル」が規定する品質基準とする。

（４）穿孔作業及び清掃作業等

・穿孔工具は、湿式コアドリルを用いる。
・穿孔後の清掃は、集塵機及びブラシ等を用いて行う。

（５）アンカー筋の挿入等

・アンカー筋の先端形状は、寸切りとする。

（６）接着剤の硬化養生時間は、２４時間以上とすること。

（７）（１）～（６）に記載無き事項については、「ディスクシアキー設計施工マニュアル」を参照のこと。

【Ⅱ】カプセル型

（１）施工手順

墨出し・マーキング
↓
穿孔・清掃
↓
カプセル挿入
↓
アンカー筋の打撃・回転による撹拌・固着
↓
硬化・養生

引張力負担用アンカーの施工フロー（カプセル型）

（２）施工資格者

・引張力負担用アンカーの施工は、（社）日本建築あと施工協会（以下「ＪＣＡＡ」）が規定した有資格者が行う。

（３）品質

・引張力負担用アンカーの品質基準は、「ディスクシアキー設計施工マニュアル」が規定する品質基準もしくはＪＣＡＡが規定する品質基準とする。

（４）穿孔作業及び清掃作業等

・穿孔後の清掃は、集塵機及びブラシ等を用いて行う。
・穿孔工具　☑ 湿式コアドリル　　□ ハンマードリル

（５）アンカー筋の先端の形状は、片側斜め４５°カット、Ｖ型カット、もしくはW型カットとする。

（６）接着剤の硬化養生時間は、２４時間以上とすること。

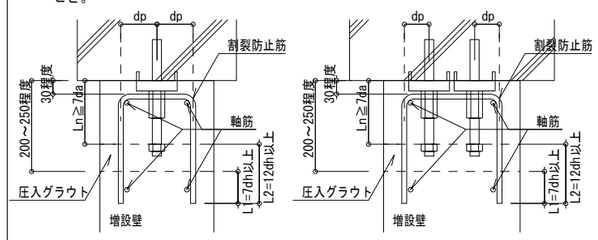
（７）（１）～（６）に記載無き事項については、「ディスクシアキー設計施工マニュアル」を参照のこと。

５－３．増設壁

下記に示す項目は、ディスクシアキーを用いた補強接合部の施工にあたり、特に留意すること。

（１）鉄筋工事

・鉄筋は、ＪＩＳ Ｇ ３１１２（鉄筋コンクリート用棒鋼）に規定する規格品とする。
・割裂防止筋の形状は、コの字型とする。
・割裂防止筋と既存躯体間の距離は、３０mm程度とする。
・圧入グラウトを用いた場合の割裂防止筋の増設壁内への定着長さ L1 は、7dh 以上とする。
・ディスクシアキーのナット下から割裂防止筋端部までの定着長さ L2 は、１２dh 以上とする。
・軸筋は、４本以上配置する。なお、圧入グラウトを用いた場合の軸筋の配置は、２本以上を圧入グラウト内に配置し、２本以上を補強壁内に配置する。
・増設壁の最外部の鉄筋は、既存躯体から壁筋のピッチの１／２以下かつ１００mm以下に配置する。
・その他記載無き事項については、「ディスクシアキー設計施工マニュアル」を参照のこと。



dp ： ディスクシアキーの中心から割裂防止筋の芯までの距離
　　割裂防止筋　D10　dp≦Ln-70
　　D13　dp≦Ln-100
dh ： 割裂防止筋の径

割裂防止筋の配筋方法

（２）コンクリート工事

・増設壁と圧入グラウトの打ち継ぎ面は、レイタンス、脆弱なコンクリート、ゴミなどを取り除き、新たに打設する無収縮グラウトと一体になるように処置する。
・その他記載無き事項については、「ディスクシアキー設計施工マニュアル」を参照のこと。

（３）その他

・増設壁が増し打ち壁の場合は、特記なき限り以下とする。
　①既存壁に目荒しを行う必要はない。
　②既存壁にシアコネクターを@５００程度に配置する。

ディスクシアキー工法特記仕様書２　（増設耐震壁補強工法）

６．試験

６－１．ディスクシアキー工事

（１）接触試験
- 養生期間が２４時間経過してから接触試験を行う。
- 試験数量は、全数とする。
- 接触試験の合否は、ディスクにがたつきが無いものを合格とする。
- 接触試験で不合格となったディスクシアキーの処置方法ならびに再施工の位置や本数などは、監理者と協議の上決定すること。

（２）打音試験
- 打音試験は、養生期間が２４時間経過し、かつ接触試験に合格したものを行う。
- 試験数量は、全数とする。
- 打音試験の合否は、ディスク部分をハンマー等でたたき、反発力や音色により判定する。
- 打音試験で不合格となったディスクシアキーの処置方法ならびに再施工の位置や本数などは、監理者と協議の上決定すること。

（３）現場引張試験
- 現場引張試験は、養生期間が２４時間経過し、かつ接触試験及び打音試験に合格したものを行う。
- 試験数量は、１日に施工された１構面毎に１本行う。
- 現場引張試験の合否は、以下の引張荷重以上であること合格とする。

場所	確認強度	
	埋込長 4.5 da	埋込長　da
6階柱～7階（Z７）梁		
5階柱～6階（Z６）梁		
4階柱～5階（Z５）梁	13.9 kN	
3階柱～4階（Z４）梁	12.6 kN	
2階柱～3階（Z３）梁	12.9 kN	
基礎梁・1階柱～2階（Z２）梁	14.0 kN	

（４）断面修復工法を適用した場合の現場引張試験
- 試験数量は、１日に施工された１構面毎に１本行う。
- 同ロット内に断面修復工法以外（通常施工）の施工箇所がある場合、現場引張試験は通常施工を行った箇所で実施する。
- 同ロット内に断面修復工法しかない場合は、断面修復工法を行った箇所で現場引張試験を実施する。
- 断面修復工法を行った場所で現場引張試験を実施する場合の現場引張試験は、有機系接着剤施工後24時間以上経過かつポリマーセメントモルタル塗布後3日（72時間）以上経過したもの、かつ接触試験及び打音試験に合格したものを行う。
- ポリマーセメントモルタルが若材令である場合は、試験機脚部の局部支圧によりめり込み等が生じる可能性があるので、脚部の下（ポリマーセメントとの間）に鋼板等で養生して引張試験を行う。
- 断面修復工法を行った場所で引張試験を行う場合の確認荷重は下記のとおりとする。

確認強度=min（T_{a1}, T_{a2}, T_{a3}）×2/3

$T_{a1}=\sigma_y \times a_e$　：アンカーボルトの降伏荷重（kN）

$T_{a2}=0.23\times\sqrt{\sigma_B}\times A_c$：コンクリート破壊による引張荷重（kN）

$T_{a3}=\tau_a\times\pi\times D_s\times l_e$　：付着破壊荷重（kN）

A_c　：コンクリートのコーン状破壊面の有効水平投影面積（mm^2）
$A_c=\pi\cdot l_e(l_e+D_s)$

τ_a　：接着系アンカーの引き抜き力に関する付着強度（N／mm^2）
$\tau_a=10\sqrt{\sigma_B/21}$

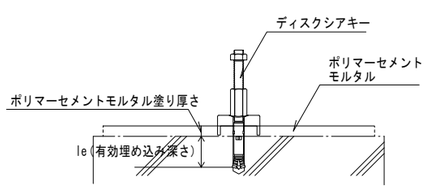
σ_B　：既存部コンクリートの圧縮強度（N／mm^2）

D_s　：アンカーボルトの外径（mm）

l_e　：アンカーボルト全体の有効埋め込み深さからPCM塗布厚さを引いた既存部コンクリートに対する有効埋込み深さ（mm）

種類	アンカーボルト径	有効断面積 a_e（mm^2）	規格降伏点		規格引張強さ	
			（N／mm^2）	（kN）	（N／mm^2）	（kN）
拡張タイプ	M２０	１９３．５	２４０	４６．４	４００	７７．４
	M１６	１１８．５		２８．４		４７．４

※　拡張タイプの有効断面積は、アンカーボルト断面積からセンター孔分を除いた値



断面修復工法施工箇所における有効埋め込み深さ le

（５）現場引張試験が不合格の場合の処置
- 不合格の場合は、不合格のディスクシアキーの再施工を行うと共に、第２回目の現場引張試験を行う。
- 第２回目の現場引張試験の試験数量は３本とする。
- 第２回目の現場引張試験の合否は、３本全てが確認強度以上であることを合格とする。
- 第２回目の現場引張試験で不合格となったディスクシアキーは、再施工を行うと共に、１構面の全数の試験を行う。
- 現場引張試験で不合格となったディスクシアキーの処置方法ならびに再施工の位置や本数などは、監理者と協議の上決定すること。

（６）試験結果の報告
- ディスクシアキー工事の施工管理者は、各試験結果記録を施工者に提出し、施工者は記録内容を確認した上で監理者に提出する。

６－２．引張力負担用アンカー工事

（１）接触試験
- 養生期間が２４時間経過してから接触試験を行う。
- 試験数量は、全数とする。
- 接触試験の合否は、緩みやがたつきが無いものを合格とする。
- 不合格の場合は、不合格品の再施工を行うと共に再試験を行う。不合格品の処理方法などは、監理者と協議の上決定する。

（２）打音試験
- 打音試験は、養生期間が２４時間経過し、かつ接触試験に合格したものを行う。
- 試験数量は、全数とする。
- 打音試験の合否は、ハンマー等でたたき、反発力や音色により判定する。
- 不合格の場合は、不合格品の再施工を行うと共に再試験を行う。不合格品の処理方法などは、監理者と協議の上決定する。

（３）現場引張試験
- 現場引張試験は、養生機関が24時間経過し、かつ接触試験及び打音試験に合格したものを行う。
- 試験数量は、１日に施工された同一径の引張力負担用アンカーを１ロットとし、１ロットに対し１本行う。
- 現場引張試験の合否は、以下の確認強度以上であることを合格とする。

場所	確認強度
6階柱～7階（Z７）梁	
5階柱～6階（Z６）梁	
4階柱～5階（Z５）梁	
3階柱～4階（Z４）梁	
2階柱～3階（Z３）梁	
基礎梁・1階柱～2階（Z２）梁	

（４）断面修復工法を適用した場合の現場引張試験
- 6-1.ディスクシアキー工事の（４）に準じて現場引張試験を行う。

（５）現場引張試験が不合格の場合の処置
- 不合格の場合は、不合格の引張力負担用アンカーの再施工を行うと共に、第２回目の現場引張試験を行う。
- 第２回目の現場引張試験の試験数量は３本とする。
- 第２回目の現場引張試験の合否は、３本全てが確認強度以上であることを合格とする。
- 第２回目の現場引張試験で不合格となった引張力負担用アンカーは、再施工を行うと共に、１構面の全数の試験を行う。
- 現場引張試験で不合格となった引張力負担用アンカーの処置方法ならびに再施工の位置や本数などは、監理者と協議の上決定すること。

（６）試験結果の報告
- 引張力負担用アンカー施工者は、各試験結果記録を施工者に提出し、施工者は記録内容を確認した上で監理者に提出する。

７．その他

７－１．ディスクシアキー工事

（１）有効埋め込み深さの確保
ディスクシアキーのアンカーボルト有効埋め込み深さが設計図書に記載されている寸法を確保できない場合は、監理者と協議の上対処方法を決定する。

（標準）増設壁用ディスクシアキー　：　４．５Ｄａ
　　引張負担力ディスクシアキー：１５．０Ｄａ
（最小）増設壁用ディスクシアキー　：６０ｍｍ以上
　　引張負担力ディスクシアキー：１２．０Ｄａ
（Ｄａ：アンカーボルト径）

（２）既存躯体面の目荒し
既存躯体面の目荒しは行わない。ただし、モルタル等の仕上げは除去する。

（３）施工面の補修
ディスクシアキーを配置する既存躯体面の表面状況が下記のような状況である場合は、監理者の承諾を得て補修方法を決定したうえで施工面の補修を行う。
①施工面の補修を行う場合は、施工する環境温度が５～４０℃の状況下で行う。
②ディスクシアキー設置場所に豆板等による骨材の露出が確認された場合は、豆板部を除去したうえで指定のポリマーセメントにて補修し、表面を平滑にする。
ただし豆板を撤去した部分の厚さが４０ｍｍを超える場合は、監理者と協議の上他の工法との併用もしくは他の工法への変更を検討する。
③ディスクシアキー設置場所に空洞が確認された場合は、空洞部分を指定のポリマーセメントにて補修を行う。ただし空洞部分の厚さが４０ｍｍを超える場合は、監理者と協議の上他の工法との併用もしくは他の工法への変更を検討する。
④ディスクシアキー設置場所に４ｍｍ以上の凸部が確認された場合は、凸部分を削り、表面を平滑にする。
⑤ディスクシアキー設置場所に４ｍｍ以上１５ｍｍ以下の凹部が確認された場合は、凹部分を指定のポリマーセメントにて補修し、表面を平滑にする。ディスクシアキー設置場所に１５ｍｍを超える凹部が確認された場合は、断面修復工法や他の工法への変更を含め、監理者と協議の上、補修方法を決定する。
⑥ディスクシアキーを配置する周辺躯体面にひび割れが多く確認される場合は、樹脂注入等による補修を行い強度発現後にディスクシアキー施工を行う。

（４）断面修復工法
ディスクシアキーを施工する際にディスクやアンカーの埋め込み深さが鉄筋等障害物により確保できない場合には、指定のポリマーセメントを用いて断面修復を行うことができる。
断面修復を行う場合の施工手順及び施工範囲等については、監理者の承諾を得て施工方法を決定したうえで断面修復を行う。（設計施工マニュアル　付録６　ポリマーセメントモルタル（ＰＣＭ）を用いた断面修復工法の施工方法　参照）
断面修復工法を行う場合の基本的な規定を下記に示す。
①断面修復を行う場合は、施工する環境温度が５～４０℃の状況下で行う。
②断面補修材料は指定のポリマーセメントを使用する。
③断面修復を行う既存躯体面は、適切に目荒し等の処理が行われていることを確認する。
目荒しを施す面積は、ポリマーセメント施工面の５０％以上とする。
④断面修復材料を施工する面には指定のプライマーを塗布する。
⑤断面修復材の塗り重ねの厚さは４０ｍｍ以下とする。
⑥断面修復材料の１回に施工する厚さは２０ｍｍ以下とする。
⑦断面修復材料施工後のディスクシアキー施工開始可能時間は、外気温が１５℃以上の場合は１日、外気温が１５℃未満の場合は２日とする。（ただし、外気温が１５℃未満の場合においても補修面の採暖を行い１５℃以上を確保した場合は１日とする。）
⑧断面修復工法はチドリ配置には適用できない。

（５）増設壁のへりあき寸法ｅ
増設壁のへりあき寸法eは、ディスクの中心から Rd （ディスクの直径）以上とする。
ただし、増設壁の厚さは以下に示す寸法以上とする。
シングル配置の場合　：　2Rd
チドリ配置もしくはダブル配置の場合　：　2Rd ＋g
（Rd　：　ディスクシアキーのディスクの直径
g　：　ゲージ寸法）

（６）既存躯体のへりあき寸法ｅ
既存躯体のへりあき寸法ｅ及び増設壁のへりあき寸法 ej は、ディスクの中心から Rd（ディスクの直径）以上とする。また、設計図書に記載されている既存躯体のへりあき寸法ｅ及び増設壁のへりあき寸法ejを下回る場合は、監理者と協議の上、必要へりあき寸法を決定する。

７－２．引張力負担用アンカー工事

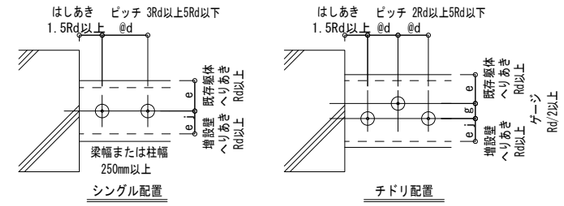
（１）引張力負担用アンカーの定着長さ
引張力負担用アンカーの定着長さは、ＳＤ２９５Ａ、ＳＤ２９５Ｂ及びＳＤ３４５の場合３５ｄ以上とし、ＳＤ３９０の場合４０ｄ以上とする。

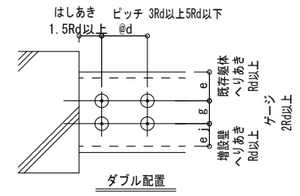
（２）有効埋め込み深さの確保
設計図書に記載されている有効埋め込み深さが確保できない場合は、監理者と協議の上、必要有効埋め込み深さを決定する。ただし、有効埋め込み深さが１２ da を確保できない場合は、監理者と協議の上、他の工法に変更する。

（３）既存躯体面の目荒し
既存躯体面の目荒しは行わない。ただし、モルタル等による仕上げは除去すること。

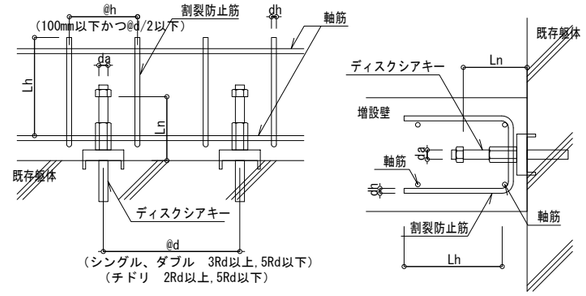
（４）施工面の補修
引張負担用アンカーを配置する既存躯体面の表面状況が下記のような状況である場合は、監理者の承諾を得て補修方法を決定したうえで施工面の補修を行う。
①施工面の補修を行う場合は、施工する環境温度が５～４０℃の状況下で行う。
②引張負担用アンカー設置場所に豆板等による骨材の露出が確認された場合は、豆板部を除去したうえで指定のポリマーセメントにて補修する。
③引張負担用アンカー設置場所に空洞が確認された場合は、空洞部分を指定のポリマーセメントにて補修を行う。
④引張負担用アンカーを配置する周辺躯体面にひび割れが多く確認される場合は、樹脂注入等による補修を行い強度発現後に引張負担用アンカー施工を行う。

（５）引張力負担用アンカーにディスクシアキーが隣接している場合
引張力負担用アンカーにディスクシアキーが隣接している場合、引張力負担用アンカーとディスクシアキーの中心間距離は、１．５Rd＋５０ｍｍ以上とする。



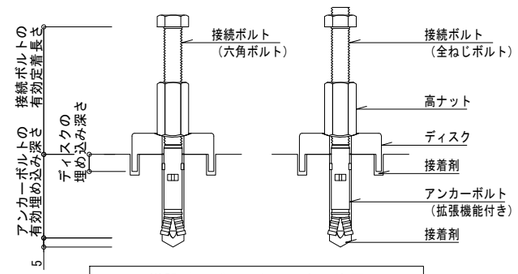


e　：　既存躯体のへりあき長さ
ej　：　増設壁のへりあき長さ
g　：　ゲージ寸法
@d　：　ディスクシアキーのピッチ
Rd　：　ディスクシアキーのディスクの直径

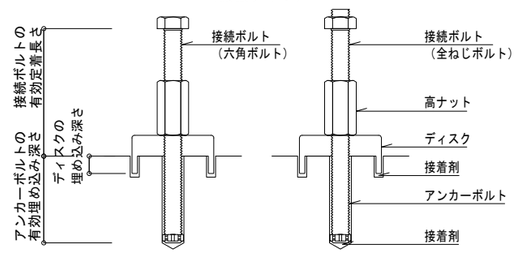


dh　：　割裂防止筋の径
da　：　接続ボルトの直径
Ln　：　ディスクシアキーの有効定着長さ（Ln≧7da）
Lh　：　割裂防止筋の有効定着長さ
@d　：　ディスクシアキーのピッチ
@h　：　割裂防止筋のピッチ

ディスクシアキーと割裂防止筋の配置



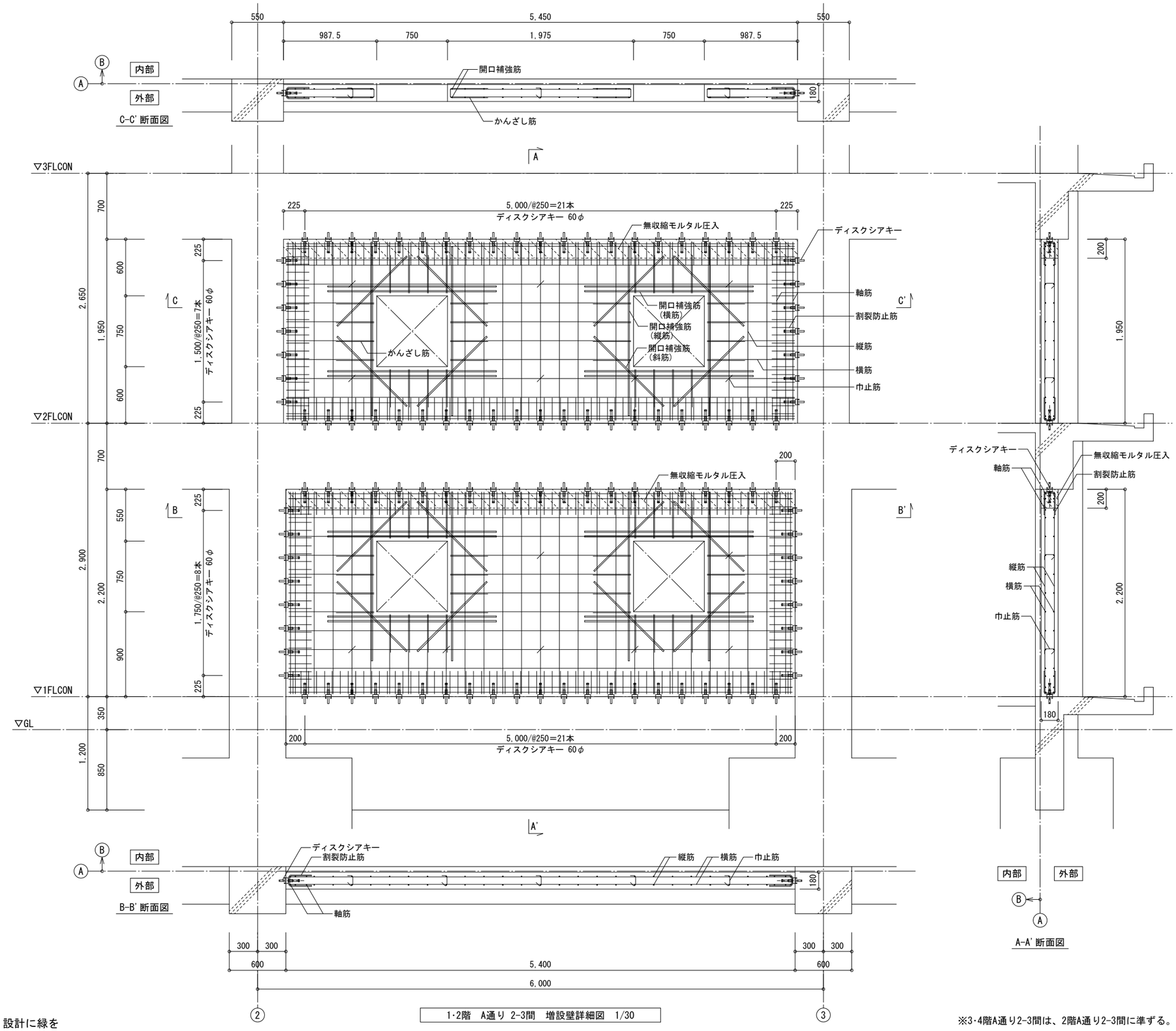
増設壁用ディスクシアキー姿図
（拡張タイプ）

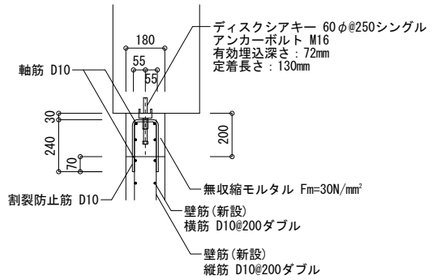


引張力負担用ディスクシアキー姿図
（ボルトタイプ）

設計に緑を

記事	株式会社　車田建築設計事務所　KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所　登録　１７（１）第０５８７号 管理建築士　1級建築士　登録　第248825号 1級建築士　車　田　誠	設計年月日　R2. 9. 御承認 所長　設計　製図	工事名　旭町住宅1号棟耐震改修工事等設計業務委託 図面名　ディスクシアキー工法特記仕様書２（増設耐震壁補強工法）	設計No 縮尺　ー	図面No　S-12





補強接合部詳細図　1/20

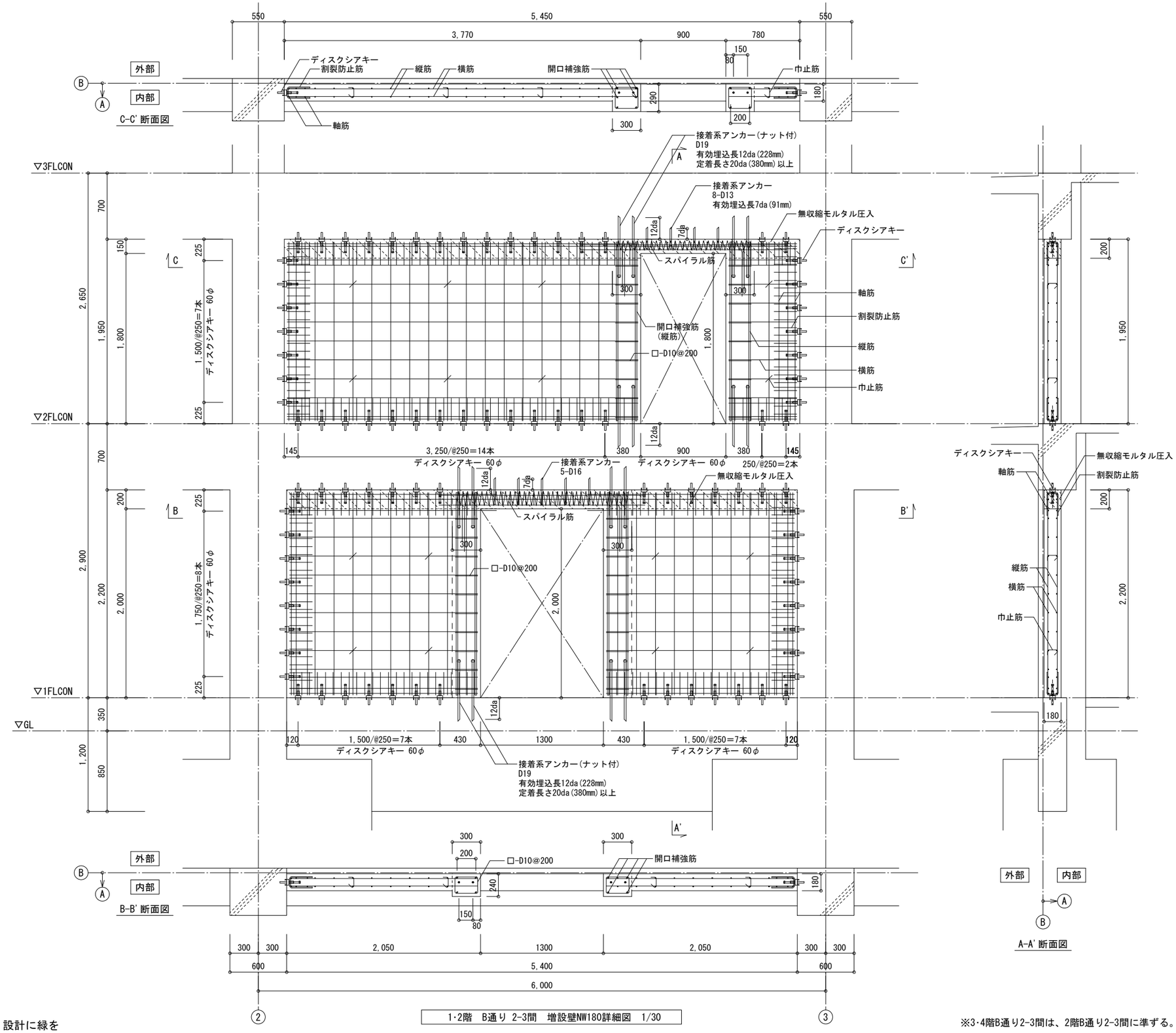
符号(増設壁)		NW180 (壁厚180mm)
壁配筋	縦筋	D10@200ダブル
	横筋	D10@200ダブル
	巾止筋	D10@1000以下(縦・横共)
開口補強筋	縦筋	2-D13　定着40d (L=1790mm)
	横筋	3-D13　定着40d (L=1790mm)
	斜筋	2-D13　定着40d (L=1040mm)
	かんざし筋	D10@200 定着40d
ディスクシアキー	径・ピッチ	拡張　φ60-M16@250シングル
	有効埋込み深さ	Le=72mm
	定着長さ	Ln=130mm
コンクリート		Fc=21N/mm²
無収縮モルタル		Fm=30N/mm²(上部200mm: ▨部分に圧入)

1･2階　A通り 2-3間　増設壁詳細図　1/30

※3･4階A通り2-3間は、2階A通り2-3間に準ずる。

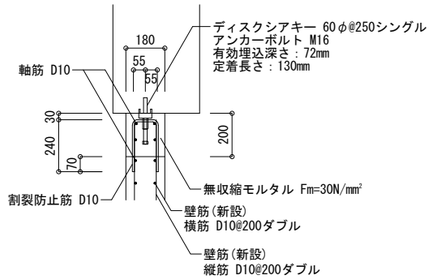
設計に緑を

記事	株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日 R2. 9.	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修工事等設計業務委託 図面名 増設壁詳細図 1	設計 No 縮尺 1/30・20	図面 No S-13

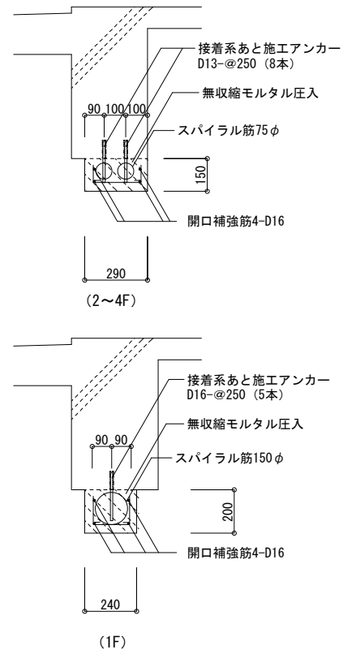


1・2階 B通り 2-3間 増設壁NW180詳細図 1/30

※3・4階B通り2-3間は、2階B通り2-3間に準ずる。



補強接合部詳細図 1/20



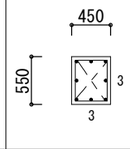
開口上部接合部詳細図 1/20

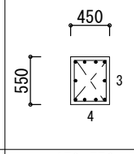
符号(増設壁)		NW180 (壁厚180mm)
壁配筋	縦筋	D10@200ダブル
	横筋	D10@200ダブル
	巾止筋	D10@1000以下(縦・横共)
開口補強筋	縦筋	4-D16
	横筋	4-D16
	斜筋	-
ディスクシアキー	径・ピッチ	拡張 φ60-M16@250シングル
	有効埋込み深さ	Le=72mm
	定着長さ	Ln=130mm
コンクリート		Fc=21N/mm²
無収縮モルタル		Fm=30N/mm²(上部200mm: 部分に圧入)

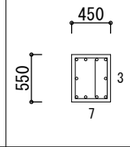
設計に緑を

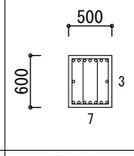
記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日 R2. 9.	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修工事等設計業務委託 図面名 増設壁詳細図2	設計No 縮尺 1/30・20	図面No S-14

既存柱リスト 1/50

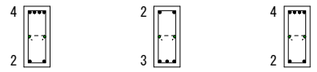
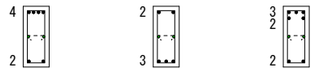
	符号	C2	
4	位置	全断面	
	断面		
	寸法	450x550	
	主筋	8-D19	
	帯筋	□ -9φ@100	
	備考	9φ@600	

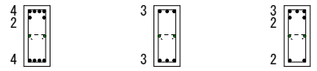
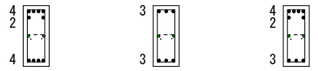
	符号	C2	
3	位置	全断面	
	断面		
	寸法	450x550	
	主筋	10-D19	
	帯筋	□ -13φ@100	
	備考	9φ@600	

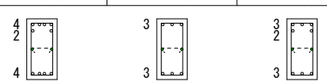
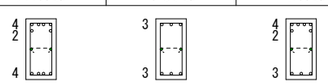
	符号	C2	
2	位置	全断面	
	断面		
	寸法	450x550	
	主筋	10-D22	
	帯筋	◫ -13φ@100	
	ダイヤ筋		

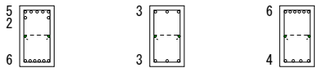
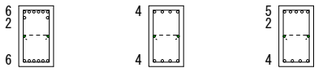
	符号	C2	
2	位置	全断面	
	断面		
	寸法	500x600	
	主筋	16-D22	
	帯筋	◫ -13φ@100	
	備考		

既存大梁リスト 1/50

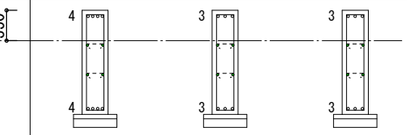
階	符号	G3			G4		
	位置	外端部	中央部	内端部	外端部	中央部	内端部
5	断面						
	B×D	300×700			300×700		
	上端筋	4-D19	2-D19	4-D19	4-D19	2-D19	5-D19
	下端筋	2-D19	3-D19	2-D19	2-D19	3-D19	2-D19
	あばら筋	□-9φ@200	□-9φ@200	□-9φ@200	□-9φ@200	□-9φ@200	□-9φ@200
	腹筋	2-9φ	2-9φ	2-9φ	2-9φ	2-9φ	2-9φ

階	符号	G3			G4		
	位置	外端部	中央部	内端部	外端部	中央部	内端部
4	断面						
	B×D	300×700			300×700		
	上端筋	6-D19	3-D19	5-D19	6-D19	3-D19	6-D19
	下端筋	4-D19	3-D19	2-D19	4-D19	3-D19	3-D19
	あばら筋	□-9φ@200	□-9φ@200	□-9φ@200	□-9φ@200	□-9φ@200	□-9φ@200
	腹筋	2-9φ	2-9φ	2-9φ	2-9φ	2-9φ	2-9φ

階	符号	G3			G4		
	位置	外端部	中央部	内端部	外端部	中央部	内端部
3	断面						
	B×D	350×700			350×700		
	上端筋	6-D22	3-D22	5-D22	6-D22	3-D22	6-D22
	下端筋	4-D22	3-D22	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22
	あばら筋	□-9φ@180	□-9φ@180	□-9φ@180	□-9φ@150	□-9φ@150	□-9φ@150
	腹筋	2-9φ	2-9φ	2-9φ	2-9φ	2-9φ	2-9φ

階	符号	G3			G4		
	位置	外端部	中央部	内端部	外端部	中央部	内端部
2	断面						
	B×D	400×700			400×700		
	上端筋	7-D22	3-D22	6-D22	8-D22	4-D22	7-D22
	下端筋	6-D22	3-D22	4-D22	6-D22	4-D22	4-D22
	あばら筋	□-9φ@150	□-9φ@150	□-9φ@150	□-9φ@100	□-9φ@150	□-9φ@100
	腹筋	2-9φ	2-9φ	2-9φ	2-9φ	2-9φ	2-9φ

既存地中梁リスト 1/50

階	符号	FG1		
	位置	外端部	中央部	内端部
1	▽GL 350 断面			
	B×D	300×1,200		
	上端筋	4-D22	3-D22	3-D22
	下端筋	4-D22	3-D22	3-D22
	あばら筋	□-9φ@200	□-9φ@200	□-9φ@200
	腹筋	4-9φ	4-9φ	4-9φ

設計に緑を

記事		株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.	1級建築士事務所 登録 17(1)第0587号 管理建築士 1級建築士 登録 第248825号 1級建築士 車田 誠	設計年月日 R2. 9.	御承認 所長 設計 製図	工事名 旭町住宅1号棟耐震改修工事等設計業務委託 図面名 既存 部材リスト	設計No 縮尺 1/50	図面No S-15

工事費内訳

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
直接工事費				
建築工事	1	式		
機械設備工事	1	式		
計				
共通費				
共通仮設費	1	式		
現場管理費	1	式		
一般管理費等	1	式		
計				
工事価格	1	式		
消費税等相当額	1	式		消費税率 10 ％
工事費	1	式		

工事種別内訳

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
(1) 西棟改修工事	1	式		
(2) 西棟／倉庫7改修工事	1	式		
(3) 西棟／倉庫8改修工事	1	式		
(4) 中棟改修工事	1	式		
(5) 中棟／倉庫1改修工事	1	式		
(6) 中棟／倉庫2改修工事	1	式		
(7) 東棟改修工事	1	式		
(8) 東棟／倉庫3改修工事	1	式		
(9) 外構改修工事	1	式		
(10) 東棟／集会室排煙建具改修工事	1	式		
(11) 機械設備工事	1	式		
計				

(1) 西棟改修工事　種目別内訳

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
1.直接仮設工事	1	式		
2.外壁･根回り･手摺壁 改修工事	1	式		
3.庇裏･廊下天井･ﾊﾞﾙｺﾆ天井 改修工事	1	式		
4.手摺笠木等 改修工事	1	式		
5.竪樋 改修工事	1	式		
6.ﾊﾞﾙｺﾆｰ隔板･他金物 改修工事	1	式		
7.建具改修工事	1	式		
8.外壁劣化改修工事	1	式		
9.屋上･廊下･ﾊﾞﾙｺﾆｰ防水改修工事	1	式		
10.発生材処理	1	式		
計				

(2) 西棟／倉庫7改修工事　種目別内訳

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
1.直接仮設工事	1	式		
2.外壁･根回り･手摺壁 改修工事	1	式		
3.建具改修工事	1	式		
4.屋上防水改修工事	1	式		
計				

(3) 西棟／倉庫8改修工事　種目別内訳

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
1.直接仮設工事	1	式		
2.外壁･根回り･手摺壁 改修工事	1	式		
3.建具改修工事	1	式		
4.屋上防水改修工事	1	式		
計				

(4) 中棟改修工事　種目別内訳

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
1.直接仮設工事	1	式		
2.ﾊﾞﾙｺﾆｰ隔板･他金物 改修工事	1	式		
3.屋上防水改修工事	1	式		
4.発生材処理	1	式		
計				

(5) 中棟／倉庫1改修工事　種目別内訳

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
1.直接仮設工事	1	式		
2.屋上防水改修工事	1	式		
計				

(6) 中棟／倉庫2改修工事　種目別内訳

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
1.直接仮設工事	1	式		
2.屋上防水改修工事	1	式		
計				

(7) 東棟改修工事　種目別内訳

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
1.直接仮設工事	1	式		
2.外壁･根回り･手摺壁 改修工事	1	式		
3.庇裏･廊下天井･ﾊﾞﾙｺﾆ天井 改修工事	1	式		
3.手摺笠木等 改修工事	1	式		
4.竪樋 改修工事	1	式		
5.ﾊﾞﾙｺﾆｰ隔板･他金物 改修工事	1	式		
6.建具改修工事	1	式		
7.外壁劣化改修工事	1	式		
8.屋上･廊下･ﾊﾞﾙｺﾆｰ防水改修工事	1	式		
9.内装改修工事	1	式		
10.躯体改修工事	1	式		
11.発生材処理	1	式		
計				

(8) 東棟／倉庫3改修工事　種目別内訳

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
1.直接仮設工事	1	式		
2.外壁･根回り･手摺壁 改修工事	1	式		
3.建具改修工事	1	式		
4.屋上防水改修工事	1	式		
5.発生材処理	1	式		
計				

(9) 外構改修工事　種目別内訳

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
1.ｺﾞﾐ置場改修	1	式		
2.自転車置場改修	1	式		
3.発生材処理	1	式		
計				

(10) 東棟／集会室排煙建具改修工　種目別内訳

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
1.直接仮設工事	1	式		
2.建具改修工事	1	式		
3.発生材処理	1	式		
計				

(11) 機械設備工事　種目別内訳

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
1.耐震改修工事(東棟)	1	式		
計				

(1) 西棟改修工事　科目別内訳

1.直接仮設工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
直接仮設	1	式		
計				

(1) 西棟改修工事　科目別内訳

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
防水	1	式		
塗装	1	式		
その他	1	式		
計				

(1) 西棟改修工事　科目別内訳

3.庇裏･廊下天井･ﾊﾞﾙｺﾆ天井改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
塗装	1	式		
その他	1	式		
計				

(1) 西棟改修工事　科目別内訳

4. 手摺笠木等改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
塗装	1	式		
その他	1	式		
計				

(1) 西棟改修工事　科目別内訳

5.竪樋改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
樋	1	式		
計				

(1) 西棟改修工事　科目別内訳

6.ﾊﾞﾙｺﾆｰ隔板･他金物改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
塗装	1	式		
その他	1	式		
計				

7.建具改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
塗装	1	式		
計				

(1) 西棟改修工事　科目別内訳

8.外壁劣化改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
劣化改修	1	式		
計				

(1) 西棟改修工事　科目別内訳

9.屋上･廊下･ﾊﾞﾙｺﾆｰ防水改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
屋上防水改修工事	1	式		
計				

10.発生材処理

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
発生材処理	1	式		
計				

(2) 西棟／倉庫7改修工事　科目別内訳

1.直接仮設工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
直接仮設	1	式		
計				

(2) 西棟／倉庫7改修工事　科目別内訳

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
塗装	1	式		
その他	1	式		
計				

(2) 西棟／倉庫7改修工事　科目別内訳

3.建具改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
建具	1	式		
塗装	1	式		
計				

(2) 西棟／倉庫7改修工事　科目別内訳

4.屋上防水改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
屋上防水改修工事	1	式		
計				

(3) 西棟／倉庫8改修工事　科目別内訳

1.直接仮設工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
直接仮設	1	式		
計				

(3) 西棟／倉庫8改修工事　科目別内訳

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
塗装	1	式		
その他	1	式		
計				

(3) 西棟／倉庫8改修工事　科目別内訳

3.建具改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
建具	1	式		
塗装	1	式		
計				

(3) 西棟／倉庫8改修工事　科目別内訳

4.屋上防水改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
屋上防水改修工事	1	式		
計				

(4) 中棟改修工事　科目別内訳

1.直接仮設工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
直接仮設	1	式		
計				

(4) 中棟改修工事　科目別内訳

2.ﾊﾞﾙｺﾆｰ隔板･他金物改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
塗装	1	式		
計				

(4) 中棟改修工事　科目別内訳

3.屋上防水改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
屋上防水改修工事	1	式		
計				

(4) 中棟改修工事　科目別内訳

4.発生材処理

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
発生材処理	1	式		
計				

(5) 中棟／倉庫1改修工事　科目別内訳

1.直接仮設工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
直接仮設	1	式		
計				

(5) 中棟／倉庫1改修工事　科目別内訳

2.屋上防水改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
屋上防水改修工事	1	式		
計				

(6) 中棟／倉庫2改修工事　科目別内訳

1.直接仮設工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
直接仮設	1	式		
計				

(6) 中棟／倉庫2改修工事　科目別内訳

2.屋上防水改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
屋上防水改修工事	1	式		
計				

(7) 東棟改修工事　科目別内訳

1.直接仮設工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
直接仮設	1	式		
計				

(7) 東棟改修工事　科目別内訳

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
防水	1	式		
左官	1	式		
塗装	1	式		
撤去	1	式		
計				

(7) 東棟改修工事　科目別内訳

3.庇裏･廊下天井･ﾊﾞﾙｺﾆ天井改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
塗装	1	式		
その他	1	式		
計				

(7) 東棟改修工事　科目別内訳

3.手摺笠木等改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
塗装	1	式		
その他	1	式		
計				

(7) 東棟改修工事　科目別内訳

4.竪樋改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
樋	1	式		
計				

(7) 東棟改修工事　科目別内訳

5.ﾊﾞﾙｺﾆｰ隔板･他金物改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
金属	1	式		
左官	1	式		
塗装	1	式		
その他	1	式		
撤去	1	式		
計				

(7) 東棟改修工事　科目別内訳

6.建具改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
防水	1	式		
左官	1	式		
建具	1	式		
ｶﾞﾗｽ	1	式		
塗装	1	式		
撤去	1	式		
計				

(7) 東棟改修工事　科目別内訳

7.外壁劣化改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
劣化改修	1	式		
計				

(7) 東棟改修工事　科目別内訳

8.屋上･廊下･ﾊﾞﾙｺﾆｰ防水改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
屋上防水改修工事	1	式		
計				

（7）東棟改修工事　科目別内訳

9.内装改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
撤去	1	式		
改修	1	式		
計				

(7) 東棟改修工事　科目別内訳

10.躯体改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
鉄筋	1	式		
コンクリート	1	式		
型枠	1	式		
その他	1	式		
計				

(7) 東棟改修工事　科目別内訳

11.発生材処理

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
発生材処理	1	式		
計				

(8) 東棟／倉庫3改修工事　科目別内訳

1.直接仮設工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
直接仮設	1	式		
計				

(8) 東棟／倉庫3改修工事　科目別内訳

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
躯体	1	式		
塗装	1	式		
左官	1	式		
その他	1	式		
計				

(8) 東棟／倉庫3改修工事　科目別内訳

3.建具改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
塗装	1	式		
撤去	1	式		
計				

(8) 東棟／倉庫3改修工事　科目別内訳

4.屋上防水改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
屋上防水改修工事	1	式		
撤去	1	式		
計				

5.発生材処理

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
発生材処理	1	式		
計				

(9) 外構改修工事　科目別内訳

1.ｺﾞﾐ置場改修

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
撤去	1	式		
改修	1	式		
計				

(9) 外構改修工事　科目別内訳

2.自転車置場改修

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
撤去	1	式		
改修	1	式		
計				

(9) 外構改修工事　科目別内訳

3.発生材処理

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
発生材処理	1	式		
計				

(10) 東棟／集会室排煙建具改修工　科目別内訳

1.直接仮設工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
直接仮設	1	式		
計				

(10) 東棟／集会室排煙建具改修工　科目別内訳

2.建具改修工事

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
防水	1	式		
金属	1	式		
左官	1	式		
建具	1	式		
ｶﾞﾗｽ	1	式		
塗装	1	式		
撤去	1	式		
計				

3.発生材処理

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
発生材処理	1	式		
計				

(11) 機械設備工事　科目別内訳

1.耐震改修工事(東棟)

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
空気調和設備	1	式		
換気設備	1	式		
給水設備	1	式		
排水設備	1	式		
給湯設備	1	式		
ガス設備	1	式		
発生材処理	1	式		
計				

(1) 西棟改修工事　中科目別内訳

1.直接仮設工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
直接仮設		1	式		
計					

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
防水	外部	1	式		
計					
塗装	外部	1	式		
計					
その他	外部	1	式		
計					

3.庇裏･廊下天井･ﾊﾞﾙｺﾆ天井改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
塗装	外部	1	式		
計					
その他	外部	1	式		
計					

4.手摺笠木等改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
塗装	外部	1	式		
計					
その他	外部	1	式		
計					

(1) 西棟改修工事　中科目別内訳

5.竪樋改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
樋	外部	1	式		
計					

(1) 西棟改修工事　中科目別内訳

6.ﾊﾞﾙｺﾆｰ隔板･他金物改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
塗装	外部	1	式		
計					
その他	外部	1	式		
計					

(1) 西棟改修工事　中科目別内訳

7.建具改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
塗装	外部	1	式		
計					

(1) 西棟改修工事　中科目別内訳

8.外壁劣化改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
劣化改修		1	式		
計					

(1) 西棟改修工事　中科目別内訳

9.屋上･廊下･ﾊﾞﾙｺﾆｰ防水改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
屋上防水改修工事	外部	1	式		
計					

10.発生材処理

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
発生材処理	運搬・積込み	1	式		
発生材処理	処分	1	式		
計					

(2) 西棟／倉庫7改修工事　中科目別内訳

1.直接仮設工事

科　目　名　称	中　科　目　名　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
直接仮設		1	式		
計					

(2) 西棟／倉庫7改修工事　中科目別内訳

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
塗装	外部	1	式		
計					
その他	外部	1	式		
計					

3.建具改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
建具	外部	1	式		
計					
塗装	外部	1	式		
計					

(2) 西棟／倉庫7改修工事　中科目別内訳

4.屋上防水改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
屋上防水改修工事	外部	1	式		
計					

(3) 西棟／倉庫8改修工事　中科目別内訳

1.直接仮設工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
直接仮設		1	式		
計					

(3) 西棟／倉庫8改修工事　中科目別内訳

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
塗装	外部	1	式		
計					
その他	外部	1	式		
計					

(3) 西棟／倉庫8改修工事　中科目別内訳

3.建具改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
建具	外部	1	式		
計					
塗装	外部	1	式		
計					

(3) 西棟／倉庫8改修工事　中科目別内訳

4.屋上防水改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
屋上防水改修工事	外部	1	式		
計					

(4) 中棟改修工事　中科目別内訳

1.直接仮設工事

科　目　名　称	中　科　目　名　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
直接仮設		1	式		
計					

(4) 中棟改修工事　中科目別内訳

2.ﾊﾞﾙｺﾆｰ隔板･他金物改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
塗装	外部	1	式		
計					

(4) 中棟改修工事　中科目別内訳

3.屋上防水改修工事

科　目　名　称	中　科　目　名　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
屋上防水改修工事	外部	1	式		
計					

(4) 中棟改修工事　中科目別内訳

4.発生材処理

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
発生材処理	運搬・積込み	1	式		
発生材処理	処分	1	式		
計					

(5) 中棟／倉庫1改修工事　中科目別内訳

1.直接仮設工事

科　目　名　称	中　科　目　名　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
直接仮設		1	式		
計					

(5) 中棟／倉庫1改修工事　中科目別内訳

2.屋上防水改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
屋上防水改修工事	外部	1	式		
計					

(6) 中棟／倉庫2改修工事　中科目別内訳

1.直接仮設工事

科　目　名　称	中　科　目　名　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
直接仮設		1	式		
計					

2.屋上防水改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
屋上防水改修工事	外部	1	式		
計					

(7) 東棟改修工事　中科目別内訳

1.直接仮設工事

科　目　名　称	中　科　目　名　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
直接仮設		1	式		
計					

(7) 東棟改修工事　中科目別内訳

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
防水	外部	1	式		
計					
左官	外部	1	式		
計					
塗装	外部	1	式		
計					
撤去	撤去	1	式		
計					

3.庇裏･廊下天井･ﾊﾞﾙｺﾆ天井改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
塗装	外部	1	式		
計					
その他	外部	1	式		
計					

(7) 東棟改修工事　中科目別内訳

3.手摺笠木等改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
塗装	外部	1	式		
計					
その他	外部	1	式		
計					

(7) 東棟改修工事　中科目別内訳

4.竪樋改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
樋	外部	1	式		
計					

5.ﾊﾞﾙｺﾆｰ隔板･他金物改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
金属	外部	1	式		
計					
左官	外部	1	式		
計					
塗装	外部	1	式		
計					
その他	外部	1	式		
計					
撤去	外部	1	式		
計					

6.建具改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
防水	外部	1	式		
計					
左官	外部	1	式		
計					
建具	外部	1	式		
計					
ｶﾞﾗｽ	外部	1	式		
計					
塗装	外部	1	式		
計					
撤去		1	式		
計					

(7) 東棟改修工事　中科目別内訳

7.外壁劣化改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
劣化改修		1	式		
計					

(7) 東棟改修工事　中科目別内訳

8.屋上･廊下･ﾊﾞﾙｺﾆｰ防水改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
屋上防水改修工事	外部	1	式		
計					

(7) 東棟改修工事　中科目別内訳

9. 内装改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
撤去	内部	1	式		
計					
改修	内部	1	式		
計					

10.躯体改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
鉄筋	躯体	1	式		
計					
コンクリート	躯体	1	式		
計					
型枠	躯体	1	式		
計					
その他	躯体	1	式		
計					

(7) 東棟改修工事　中科目別内訳

11. 発生材処理

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
発生材処理	運搬・積込み	1	式		
発生材処理	処分	1	式		
計					

(8) 東棟／倉庫3改修工事　中科目別内訳

1.直接仮設工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
直接仮設		1	式		
計					

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
躯体	外部	1	式		
計					
塗装	外部	1	式		
計					
左官	外部	1	式		
計					
その他	外部	1	式		
計					

3.建具改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
塗装	外部	1	式		
計					
撤去		1	式		
計					

4.屋上防水改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
屋上防水改修工事	外部	1	式		
計					
撤去		1	式		
計					

5.発生材処理

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
発生材処理	運搬・積込み	1	式		
発生材処理	処分	1	式		
計					

(9) 外構改修工事　中科目別内訳

1.ｺﾞﾐ置場改修

科　目　名　称	中　科　目　名　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
撤去		1	式		
計					
改修		1	式		
計					

(9) 外構改修工事　中科目別内訳

2.自転車置場改修

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
撤去		1	式		
計					
改修		1	式		
計					

3.発生材処理

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
発生材処理	運搬・積込み	1	式		
発生材処理	処分	1	式		
計					

（10）東棟／集会室排煙建具改修工　中科目別内訳

1.直接仮設工事

科　目　名　称	中　科　目　名　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
直接仮設		1	式		
計					

2.建具改修工事

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
防水	外部	1	式		
計					
金属	外部	1	式		
計					
左官	外部	1	式		
左官	内部	1	式		
計					
建具	アルミニウム製建具	1	式		
計					
ｶﾞﾗｽ		1	式		
計					
塗装	内部	1	式		
計					
撤去		1	式		
計					

3.発生材処理

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
発生材処理	運搬・積込み	1	式		
発生材処理	処分	1	式		
計					

(11) 機械設備工事　中科目別内訳

1.耐震改修工事(東棟)

科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
空気調和設備	機器設備	1	式		
空気調和設備	配管設備	1	式		
空気調和設備	撤去工事	1	式		
計					
換気設備	撤去工事	1	式		
計					
給水設備	給水設備	1	式		
給水設備	撤去工事	1	式		
計					
排水設備	排水設備	1	式		
排水設備	撤去工事	1	式		
計					
給湯設備	撤去工事	1	式		
計					
ガス設備	都市ガス設備	1	式		

(11) 機械設備工事　中科目別内訳

1.耐震改修工事(東棟)

科　目　名　称	中　科　目　名　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
計					
発生材処理		1	式		
計					

(1) 西棟改修工事　細目別内訳

1.直接仮設工事　　直接仮設

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
枠組本足場 (手すり先行方式) 西棟	建枠 900×1700　　布枠500+240 掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む　22m未満	527	㎡			
安全手すり (手すり先行方式) 西棟	枠組本足場用 掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む	47.3	m			
防音ｼｰﾄ張り 西棟	掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む	527	㎡			
墨出し (屋上防水改修)		195	㎡			
養生 (屋上防水改修)	露出防水･簡易防水(塗膜･ｼｰﾄ)	195	㎡			
養生(外壁改修)		83.4	㎡			
整理清掃後片付け (屋上防水改修)	露出防水･簡易防水(塗膜･ｼｰﾄ)	195	㎡			
整理清掃後片付け (外壁改修)		83.4	㎡			
仮設材運搬費		1	式			
計						

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事　防水　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
建具枠廻り ｼｰﾘﾝｸﾞ打替	変成ｼﾘｺｰﾝ系　20×20 既存ｼｰﾘﾝｸﾞ撤去共	199	m			
計						

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事　塗装　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
防水形 複層塗材 E	既存ﾓﾙﾀﾙ面　凹凸状　吹付け ｱｸﾘﾙ系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費（ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ）共　高圧 洗浄共	563	㎡			
計						

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事　その他　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
吹付材除去	集じん装置付ﾃﾞｨｽｸｸﾞﾗｲﾝﾀﾞｰｹﾚﾝ工法 下地調整塗材除去･処分共　高圧洗浄共	563	㎡			
計						

3.庇裏･廊下天井･ﾊﾞﾙｺﾆ天井改修工事　塗装　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
外装薄塗材 E	ｺﾝｸﾘｰﾄ面　砂壁状 吹付け 下地調整費（ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ）共	119	㎡			
計						

3.庇裏･廊下天井･ﾊﾞﾙｺﾆ天井改修工事　その他　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
吹付材除去	集じん装置付ﾃﾞｨｽｸｸﾞﾗｲﾝﾀﾞｰｹﾚﾝ工法 下地調整塗材除去･処分共　高圧洗浄共	119	㎡			
計						

4.手摺笠木等改修工事　塗装　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
防水形 複層塗材 E	既存ﾓﾙﾀﾙ面　凹凸状　吹付け ｱｸﾘﾙ系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費（ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ）共　高圧 洗浄共	4.9	㎡			
計						

4.手摺笠木等改修工事　その他　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
吹付材除去	集じん装置付ﾃﾞｨｽｸｸﾞﾗｲﾝﾀﾞｰｹﾚﾝ工法 下地調整塗材除去･処分共　高圧洗浄共	4.9	㎡			
計						

5.竪樋改修工事　樋　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管とい(ｶﾗｰ)	径75　SUS製掴み金物共	53.4	m			
たてどい撤去	VP管 集積共　掴み金物共	53.4	m			
計						

6.ﾊﾞﾙｺﾆｰ隔板･他金物改修工事　塗装　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
ＤＰ塗り 改修仕様	既存ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ面 工程B種 下地調整RB種(塗替え面)	28	㎡			
ＤＰ塗り 改修仕様	鉄鋼面　工程B種 塗料1種 錆止工程C塗料A 下地RB種(塗替え面)	60.1	㎡			
計						

6.ﾊﾞﾙｺﾆｰ隔板･他金物改修工事　その他　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
既存鉄部 錆落とし		60.1	㎡			
ﾊﾞﾙｺﾆｰ手摺腰ﾊﾟﾈﾙ 清掃	既存ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ面	28	㎡			
計						

7.建具改修工事　塗装　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
ＤＰ塗り 改修仕様	鋼製建具面　工程B種 塗料1種 錆止工程C 下地RB種(塗替え面)	55.4	㎡			
計						

8.外壁劣化改修工事　劣化改修

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
施工数量調査 (外壁改修)	ﾀｲﾙ･ﾓﾙﾀﾙ塗替改修	682	㎡			
Ｂ－４ ﾓﾙﾀﾙ面ｴﾎﾟｷｼ樹脂 注入工法	0.2～0.5㎜ 自動　挙動　無し	12	m			
Ｂ－４ ﾓﾙﾀﾙ面ｴﾎﾟｷｼ樹脂 注入工法	0.5～1.0㎜ 手動　挙動　無し	11.9	m			
Ｄ－５　ﾓﾙﾀﾙ面注 入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸ ﾞ部分注入ｴﾎﾟｷｼ樹	0.25㎡以下 一般部(9カ所/㎡)	0.7	㎡			
Ｅ－３ ﾓﾙﾀﾙ面欠損部処理	ポリマーセメント	7.1	㎡			
計						

9.屋上･廊下･ﾊﾞﾙｺﾆｰ防水改修工事　屋上防水改修工事　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
高圧水洗浄	150～200kg/cm2	112	㎡			
ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水	X-1 平場 下地調整共	99.2	㎡			
ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水	X-2 平場 下地調整共	125	㎡			
ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水	X-2 立上 下地調整共	29.2	㎡			
ｼｰﾘﾝｸﾞ	一般部 ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系(PU-2) 10×10	2.4	m			
ｱﾙﾐ製脱気装置筒	(1か所/100㎡)	1	か所			
改修用ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ	75φ　横引き 塗膜防水用	4	か所			
改修用ﾊﾞﾙｺﾆｰﾄﾞﾚｲﾝ	75φ　縦引き 塗膜防水用	6	か所			
配管用基礎一時撤去再取付	110×150×80	9	か所			
ｱﾙﾐ製笠木	W420(西棟)	35.1	m			
ｱﾙﾐ製笠木 柱上部役物	550*650(西棟)	3	か所			
ｱﾙﾐ製笠木 柱上部役物	800*650(西棟)	1	か所			
ｱﾙﾐ製笠木 (ｺｰﾅｰ役物)	W420(西棟)	3	か所			
ｱｽﾌｧﾙﾄ防水撤去		119	㎡			
鋼板笠木撤去	W=400	42.3	m			

9.屋上･廊下･ﾊﾞﾙｺﾆｰ防水改修工事　屋上防水改修工事　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
脱気筒撤去		3	か所			
ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ撤去	75φ用 ｽﾄﾚｰﾅｰのみ 集積共	4	か所			
ﾊﾞﾙｺﾆｰﾄﾞﾚｲﾝ撤去	75φ用 ｽﾄﾚｰﾅｰのみ 集積共	6	か所			
計						

10.発生材処理　　発生材処理　　運搬・積込み

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
(積込み)						
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	1.5	m3			
発生材積込み	ﾎﾞｰﾄﾞ・木材類 人力	0.2	m3			
(運搬)						
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　10t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間有り 60.0km以下	1.5	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　10t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3　木材類 DID区間有り 60.0km以下	0.2	m3			
計						

10.発生材処理　　発生材処理　　処分

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
とりこわし 発生材処分	ｺﾝｸﾘｰﾄ類	1.5	m3			
とりこわし 発生材処分	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	0.2	m3			
ｽｸﾗｯﾌﾟ	ｽﾁｰﾙ H3	▲0.3	t			
計						

(2) 西棟／倉庫7改修工事　細目別内訳

1.直接仮設工事　　直接仮設

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
枠組本足場 (手すり先行方式) 西倉庫7	建枠 600×1700　　布枠500×1枚 掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む　12m未満	24.4	㎡			
安全手すり (手すり先行方式) 西倉庫7	枠組本足場用 掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む	11.1	m			
防音ｼｰﾄ張り 西倉庫7	掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む	24.4	㎡			
墨出し (屋上防水改修)		9.5	㎡			
養生 (屋上防水改修)	露出防水･簡易防水(塗膜･ｼｰﾄ)	9.5	㎡			
養生(外壁改修)		16.8	㎡			
整理清掃後片付け (屋上防水改修)	露出防水･簡易防水(塗膜･ｼｰﾄ)	9.5	㎡			
整理清掃後片付け (外壁改修)		16.8	㎡			
仮設材運搬費		1	式			
計						

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事　塗装　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
防水形 複層塗材 E	既存ﾓﾙﾀﾙ面　凹凸状　吹付け ｱｸﾘﾙ系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費（ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ）共　高圧 洗浄共	16.2	㎡			
計						

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事　その他　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
高圧水洗浄	150～200kg/cm2	16.2	㎡			
計						

3.建具改修工事　建具　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
SD-2 建具調整	800×1700	3				
計						

3.建具改修工事　塗装　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
ＤＰ塗り 改修仕様	鋼製建具面　工程B種 塗料1種 錆止工程C 下地RB種(塗替え面)	13.5	㎡			
計						

4.屋上防水改修工事　屋上防水改修工事　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
高圧水洗浄	150～200kg/cm2	11.2	㎡			
ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水	X-1 平場 下地調整共	9.5	㎡			
ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水	X-2 平場 下地調整共	0.9	㎡			
ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水	X-2 立上 下地調整共	0.9	㎡			
計						

(3) 西棟／倉庫8改修工事　細目別内訳

1.直接仮設工事　　直接仮設

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
枠組本足場 (手すり先行方式) 西倉庫8	建枠 600×1700　　布枠500×1枚 掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む　12m未満	31	㎡			
安全手すり (手すり先行方式) 西倉庫8	枠組本足場用 掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む	14.1	m			
防音ｼｰﾄ張り 西倉庫8	掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む	31	㎡			
墨出し (屋上防水改修)		15.5	㎡			
養生 (屋上防水改修)	露出防水･簡易防水(塗膜･ｼｰﾄ)	15.5	㎡			
養生(外壁改修)		22.8	㎡			
整理清掃後片付け (屋上防水改修)	露出防水･簡易防水(塗膜･ｼｰﾄ)	15.5	㎡			
整理清掃後片付け (外壁改修)		22.8	㎡			
仮設材運搬費		1	式			
計						

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事　塗装　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
防水形 複層塗材 E	既存ﾓﾙﾀﾙ面　凹凸状　吹付け ｱｸﾘﾙ系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費（ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ）共　高圧 洗浄共	33.1	㎡			
計						

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事　その他　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
高圧水洗浄	150～200kg/cm2	33.1	㎡			
計						

3.建具改修工事　建具　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
SD-2 建具調整	800×1700	5				
計						

3.建具改修工事　塗装　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
ＤＰ塗り 改修仕様	鋼製建具面　工程B種 塗料1種 錆止工程C 下地RB種(塗替え面)	22.4	㎡			
計						

4.屋上防水改修工事　屋上防水改修工事　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
高圧水洗浄	150～200kg/cm2	19.4	㎡			
ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水	X-1 平場 下地調整共	15.5	㎡			
ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水	X-2 平場 下地調整共	1.9	㎡			
ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水	X-2 立上 下地調整共	1.9	㎡			
計						

(4) 中棟改修工事　細目別内訳

1.直接仮設工事　　直接仮設

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
枠組本足場 (手すり先行方式) 中棟	建枠 900×1700　　布枠500+240 掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む　22m未満	78.5	㎡			
安全手すり (手すり先行方式) 中棟	枠組本足場用 掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む	5.5	m			
防音ｼｰﾄ張り 中棟	掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む	78.5	㎡			
墨出し (屋上防水改修)		481	㎡			
養生 (屋上防水改修)	露出防水･簡易防水(塗膜･ｼｰﾄ)	481	㎡			
整理清掃後片付け (屋上防水改修)	露出防水･簡易防水(塗膜･ｼｰﾄ)	481	㎡			
仮設材運搬費		1	式			
計						

2.ﾊﾞﾙｺﾆｰ隔板･他金物改修工事　塗装　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
ＤＰ塗り	鋼製建具面 下塗・下地RB種(塗替え面)共	1.6	㎡			
計						

3.屋上防水改修工事　　屋上防水改修工事　　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
高圧水洗浄	150～200kg/cm2	53.1	㎡			
ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水	X-1 平場 下地調整共	364	㎡			
ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水	X-2 平場 下地調整共	172	㎡			
ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水	X-2 立上 下地調整共	98.6	㎡			
ｱﾙﾐ製脱気装置筒	(1か所/100㎡)	5	か所			
改修用ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ	75φ　横引き 塗膜防水用	5	か所			
改修用ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ	75φ　縦引き 塗膜防水用	5	か所			
設備基礎一時撤去再取付	200×300×H150	30	か所			
ｱﾙﾐ製笠木	W420(中棟)	129	m			
ｱﾙﾐ製笠木 柱上部役物	550*650(中棟)	4	か所			
ｱﾙﾐ製笠木 (ｺｰﾅｰ役物)	W420(中棟)	4	か所			
既存防水層撤去	屋上防水層 ｱｽﾌｧﾙﾄ防水層 集積共	562	㎡			
鋼板笠木撤去	W=400	50.4	m			
ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ撤去	ｽﾄﾚｰﾅｰのみ 集積共	10	か所			
計						

4.発生材処理　　発生材処理　　運搬・積込み

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
(積込み)						
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	1.5	m3			
発生材積込み	ﾎﾞｰﾄﾞ・木材類 人力	0.7	m3			
(運搬)						
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　10t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間有り 60.0km以下	1.5	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　10t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3　木材類 DID区間有り 60.0km以下	0.7	m3			
計						

4.発生材処理　　発生材処理　　処分

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
とりこわし 発生材処分	ｺﾝｸﾘｰﾄ類	1.5	m3			
とりこわし 発生材処分	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	0.7	m3			
ｽｸﾗｯﾌﾟ	ｽﾁｰﾙ H3	▲0.3	t			
計						

(5) 中棟／倉庫1改修工事　細目別内訳

1.直接仮設工事　　直接仮設

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
枠組本足場 (手すり先行方式) 中倉庫1	建枠 600×1700　　布枠500×1枚 掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む　12m未満	22.8	㎡			
安全手すり (手すり先行方式) 中倉庫1	枠組本足場用 掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む	10.4	m			
防音ｼｰﾄ張り 中倉庫1	掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む	22.8	㎡			
墨出し (屋上防水改修)		21.8	㎡			
養生 (屋上防水改修)	露出防水･簡易防水(塗膜･ｼｰﾄ)	21.8	㎡			
整理清掃後片付け (屋上防水改修)	露出防水･簡易防水(塗膜･ｼｰﾄ)	21.8	㎡			
仮設材運搬費		1	式			
計						

2.屋上防水改修工事　屋上防水改修工事　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
高圧水洗浄	150～200kg/cm2	26.9	㎡			
ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水	X-1 平場 下地調整共	21.8	㎡			
ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水	X-2 平場 下地調整共	2.5	㎡			
ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水	X-2 立上 下地調整共	2.5	㎡			
改修用ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ	50φ　縦引き 塗膜防水用	2	か所			
ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ撤去	ｽﾄﾚｰﾅｰのみ 集積共	2	か所			
計						

1.直接仮設工事　　直接仮設

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
枠組本足場 (手すり先行方式) 中倉庫2	建枠 600×1700　　布枠500×1枚 掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む　12m未満	46	㎡			
安全手すり (手すり先行方式) 中倉庫2	枠組本足場用 掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む	20.9	m			
防音ｼｰﾄ張り 中倉庫2	掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む	46	㎡			
墨出し (屋上防水改修)		43.9	㎡			
養生 (屋上防水改修)	露出防水･簡易防水(塗膜･ｼｰﾄ)	43.9	㎡			
整理清掃後片付け (屋上防水改修)	露出防水･簡易防水(塗膜･ｼｰﾄ)	43.9	㎡			
仮設材運搬費		1	式			
計						

2.屋上防水改修工事　屋上防水改修工事　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
高圧水洗浄	150～200kg/cm2	53.1	㎡			
ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水	X-1 平場 下地調整共	43.9	㎡			
ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水	X-2 平場 下地調整共	4.6	㎡			
ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水	X-2 立上 下地調整共	4.6	㎡			
改修用ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ	50φ　縦引き 塗膜防水用	3	か所			
ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ撤去	ｽﾄﾚｰﾅｰのみ 集積共	3	か所			
計						

1.直接仮設工事　　直接仮設

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
枠組本足場 (手すり先行方式) 東棟	建枠 900×1700　布枠500+240 掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む　22m未満	647	㎡			
安全手すり (手すり先行方式) 東棟	枠組本足場用 掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む	57.9	m			
単管本足場	掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む　20m未満	152	㎡			
安全手すり	単管本足場用 掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む	10.7	m			
内部仕上足場	脚立足場　階高4.0m以下 掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む	124	㎡			
防音ｼｰﾄ張り 東棟	掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む	799	㎡			
墨出し (屋上防水改修)		317	㎡			
墨出し(外壁改修)	ﾀｲﾙ･ﾓﾙﾀﾙ塗替等　一般	70.9	㎡			
墨出し(内部改修)	複合改修	184	㎡			
養生 (屋上防水改修)	露出防水･簡易防水(塗膜･ｼｰﾄ)	317	㎡			
養生(外壁改修)		103	㎡			
養生(内部改修)	複合改修	184	㎡			
整理清掃後片付け (屋上防水改修)	露出防水･簡易防水(塗膜･ｼｰﾄ)	317	㎡			
整理清掃後片付け (外壁改修)		103	㎡			
整理清掃後片付け (内部改修)	複合改修	184	㎡			

(7) 東棟改修工事　細目別内訳

1.直接仮設工事　　直接仮設

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
仮設材運搬費		1	式			
計						

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事　防水　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
耐火ｽﾘｯﾄｼｰﾘﾝｸﾞ	一般部 ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系(PU-2) 30×30 両面数量	16.7	m			
建具枠廻り ｼｰﾘﾝｸﾞ打替	変成ｼﾘｺｰﾝ系　20×20 既存ｼｰﾘﾝｸﾞ撤去共	219	m			
計						

(7) 東棟改修工事　細目別内訳

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事　　左官　　外部

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
床防水ﾓﾙﾀﾙ		1.5	㎡			
計						

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事　塗装　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
防水形 複層塗材 E	ｺﾝｸﾘｰﾄ面　凹凸状　吹付け ｱｸﾘﾙ系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費（ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ）共　高圧 洗浄共	65.3	㎡			
防水形 複層塗材 E	既存ﾓﾙﾀﾙ面　凹凸状　吹付け ｱｸﾘﾙ系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費（ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ）共　高圧 洗浄共	841	㎡			
計						

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事　撤去　撤去

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
ｶｯﾀｰ入れ	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 厚さ20～30㎜	112	m			
ｶｯﾀｰ入れ	ﾓﾙﾀﾙ面　厚さ20～30㎜	6.6	m			
ｺﾝｸﾘｰﾄ撤去	鉄筋切断共 ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾚｰｶ 集積共	5.3	m3			
壁ﾓﾙﾀﾙ･ﾌﾟﾗｽﾀｰ撤去	集積共	2	㎡			
計						

3.庇裏･廊下天井･ﾊﾞﾙｺﾆ天井改修工事　塗装　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
外装薄塗材 E	ｺﾝｸﾘｰﾄ面　砂壁状 吹付け 下地調整費（ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ）共	136	㎡			
計						

3.庇裏･廊下天井･ﾊﾞﾙｺﾆ天井改修工事　その他　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
高圧水洗浄	150～200kg/cm2	136	㎡			
計						

3.手摺笠木等改修工事　塗装　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
防水形 複層塗材 E	既存ﾓﾙﾀﾙ面　凹凸状　吹付け ｱｸﾘﾙ系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費（ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ）共　高圧 洗浄共	9	㎡			
計						

3.手摺笠木等改修工事　その他　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
高圧水洗浄	150～200kg/cm2	9	㎡			
計						

4.竪樋改修工事　樋　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管とい(ｶﾗｰ)	径50　SUS製掴み金物共	91.7	m			
呼び樋	VP25A L=300 既存ﾀﾃ樋に接続	1	か所			
たてどい撤去	VP管 集積共　SUS製掴み金物共	91.7	m			
計						

5.ﾊﾞﾙｺﾆｰ隔板･他金物改修工事　金属　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
ｽﾃﾝﾚｽ受樋	150×100×1.0d ｽﾃﾝﾚｽ水切 1.0d 受け金物L-40×40×3 あと施工ｱﾝｶｰM10@450共 呼び樋VP25A L=300既存ﾀﾃ樋接続共	3.3	m			
ｱﾙﾐ製物干金物		24	か所			
床EXP.J金物	100mm ｱﾙﾐ製	3.3	m			
手摺EXP.J金物	W470×850 ｽﾃﾝﾚｽ角ﾊﾟｲﾌﾟ 支持金物、あと施工ｱﾝｶｰ共	4	か所			
手摺EXP.J金物	W610×850 ｽﾃﾝﾚｽ角ﾊﾟｲﾌﾟ 支持金物、あと施工ｱﾝｶｰ共	4	か所			
ｱﾙﾐ製EXP.J金物	屋根+屋根 150mm	1.7	m			
計						

5.ﾊﾞﾙｺﾆｰ隔板･他金物改修工事　左官　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
床防水ﾓﾙﾀﾙ		1.5	㎡			
計						

5.ﾊﾞﾙｺﾆｰ隔板･他金物改修工事　塗装　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
ＤＰ塗り 改修仕様	既存ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ面 工程B種 下地調整RB種(塗替え面)	50.6	㎡			
ＤＰ塗り	鋼製建具面 下塗・下地RB種(塗替え面)共	97.6	㎡			
計						

5.ﾊﾞﾙｺﾆｰ隔板･他金物改修工事　その他　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
既存鉄部 錆落とし		84	㎡			
ﾊﾞﾙｺﾆｰ手摺腰ﾊﾟﾈﾙ 清掃	既存ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞ面	50.6	㎡			
計						

5.ﾊﾞﾙｺﾆｰ隔板･他金物改修工事　撤去　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
EXP.J床 塩ﾋﾞ製鋼板撤去	t=0.15 樋受金物 PL-30×32 @650 取付金物L-45×45×4共 ﾊﾟｲﾌﾟ25φ L=300共	3.3	m			
物干金物撤去		24	か所			
EXP.J撤去	PL-4.5 W=160 取付金物L-30×30×3共	3.3	m			
EXP.J手摺 笠木ｽﾃﾝﾚｽｶﾊﾞｰﾌﾟﾚｰﾄ撤去	W175×L450+W205+L480	4	か所			
EXP.J手摺 笠木ｽﾃﾝﾚｽｶﾊﾞｰﾌﾟﾚｰﾄ撤去	W175×L480+W205+L510	4	か所			
EXP.J手摺 壁ｽﾃﾝﾚｽｶﾊﾞｰﾌﾟﾚｰﾄ撤去	L(150+300)+H1050	8	か所			
ｱﾙﾐ製EXP.J金物撤去	屋根W50mm用	1.7	m			
EXP.Jｶﾊﾞｰ撤去	W160	1.7	m			
発泡ｽﾁﾛｰﾙ撤去	t=40	1.1	m^2			
計						

6.建具改修工事　防水　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
ｼｰﾘﾝｸﾞ	一般部 変成ｼﾘｺｰﾝ系(MS-2) 20×10	41.3	m			
計						

(7) 東棟改修工事　細目別内訳

6.建具改修工事　　左官　　外部

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
建具周囲防水 ﾓﾙﾀﾙ充填	外部建具	41.3	m			
計						

6.建具改修工事　建具　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
SD-1 片開き戸	790×1665	3	か所			
SD-2 片開き戸	640×640	6	か所			
SD-3 親子開き戸	1200×1895	1	か所			
運搬費		1	式			
取付調整費		1	式			
AW-1 片開き窓	650×585	2	か所			
運搬費		1	式			
取付調整費		1	式			
計						

6.建具改修工事　ｶﾞﾗｽ　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
網入型板ｶﾞﾗｽ	厚さ6.8 特寸 2.18㎡以下 ひし ｼｰﾘﾝｸﾞ 清掃共	0.8	㎡			
計						

(7) 東棟改修工事　細目別内訳

6.建具改修工事　　塗装　　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
ＤＰ塗り	鋼製建具面　1級 素地ごしらえ及び下塗り別途	24.8	㎡			
ＤＰ塗り	鋼製建具面 下塗・下地RB種(塗替え面)共	62.3	㎡			
計						

(7) 東棟改修工事　細目別内訳

6.建具改修工事　　撤去

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ｱﾙﾐ製建具撤去		32.3	㎡			
鋼製建具撤去		7.2	㎡			
ｶﾞﾗｽ撤去	集積共	29.1	㎡			
計						

7.外壁劣化改修工事　　劣化改修

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
施工数量調査 (外壁改修)	ﾀｲﾙ･ﾓﾙﾀﾙ塗替改修	977	㎡			
Ｂ－４ ﾓﾙﾀﾙ面ｴﾎﾟｷｼ樹脂 注入工法	0.2～0.5㎜ 自動　挙動　無し	285	m			
Ｂ－４ ﾓﾙﾀﾙ面ｴﾎﾟｷｼ樹脂 注入工法	0.5～1.0㎜ 手動　挙動　無し	407	m			
Ｄ－５　ﾓﾙﾀﾙ面注 入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸ ﾞ部分注入ｴﾎﾟｷｼ樹	0.25㎡以下 一般部(9カ所/㎡)	32.1	㎡			
Ｅ－３ ﾓﾙﾀﾙ面欠損部処理	ポリマーセメント	8.2	㎡			
計						

8.屋上･廊下･ﾊﾞﾙｺﾆｰ防水改修工事　屋上防水改修工事　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
高圧水洗浄	150～200kg/cm2	192	㎡			
ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水	X-1 平場 下地調整ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾓﾙﾀﾙ塗布	108	㎡			
ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水	X-2 平場 下地調整ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾓﾙﾀﾙ塗布	238	㎡			
ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水	X-2 立上 下地調整ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾓﾙﾀﾙ塗布	39.7	㎡			
塗膜防水	X-2 密着工法 ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系　平面 表面塗装ｼﾙﾊﾞｰ	0.4	㎡			
塗膜防水	X-2 密着工法 ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系　立上り 表面塗装ｼﾙﾊﾞｰ	1	㎡			
ｼｰﾘﾝｸﾞ	一般部 ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系(PU-2) 10×10	4	m			
ｽﾃﾝﾚｽ受樋	200×100×1.0d	1.7	m			
改修用ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ	50φ　横引き　塗膜防水用	2	か所			
改修用ﾊﾞﾙｺﾆｰﾄﾞﾚｲﾝ	50φ　横引き　塗膜防水用	8	か所			
改修用ﾊﾞﾙｺﾆｰﾄﾞﾚｲﾝ	50φ　縦引き　塗膜防水用	15	か所			
ｱﾙﾐ製笠木	W420(東棟)	46.2	m			
ｱﾙﾐ製笠木 柱上部役物	550*650(東棟)	3	か所			
ｱﾙﾐ製笠木 柱上部役物	800*650(東棟)	1	か所			
ｱﾙﾐ製笠木 (ｺｰﾅｰ役物)	W420(東棟)	3	か所			

8.屋上･廊下･ﾊﾞﾙｺﾆｰ防水改修工事　屋上防水改修工事　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
床･笠木 防水ﾓﾙﾀﾙ		0.6	㎡			
立上 防水ﾓﾙﾀﾙ		0.4	㎡			
防水ﾓﾙﾀﾙ補修		6	㎡			
ｶｯﾀｰ入れ	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 厚さ20～30㎜	5.2	m			
ｶｯﾀｰ入れ	ﾓﾙﾀﾙ面　厚さ20～30㎜	46.8	m			
ｺﾝｸﾘｰﾄ撤去	鉄筋切断共 ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾚｰｶ 集積共	0.3	m3			
床ﾓﾙﾀﾙ･床人研ぎ 撤去	集積共	9.2	㎡			
既存防水層撤去	屋上防水層 ｱｽﾌｧﾙﾄ防水層 集積共	173	㎡			
鋼板笠木撤去	W=400	54.1	m			
ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ撤去	50φ用 ｽﾄﾚｰﾅｰのみ 集積共	2	か所			
ﾊﾞﾙｺﾆｰﾄﾞﾚｲﾝ撤去	50φ用 ｽﾄﾚｰﾅｰのみ 集積共	8	か所			
ﾊﾞﾙｺﾆｰﾄﾞﾚｲﾝ撤去	50φ用 ｽﾄﾚｰﾅｰのみ 集積共	15	か所			
計						

9.内装改修工事　撤去　内部

名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
ｶｯﾀｰ入れ	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 厚さ20～30㎜	171	m			
ｺﾝｸﾘｰﾄ撤去	鉄筋切断共 ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾚｰｶ 集積共	3.1	m3			
床ﾀｲﾙ撤去	下地ﾓﾙﾀﾙ共 集積共	7.2	㎡			
床ﾓﾙﾀﾙ･床人研ぎ撤去	集積共	9.3	㎡			
床合板撤去		6.5	㎡			
床・縁甲板ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ撤去	集積共	4	㎡			
床組撤去	ころばし 集積共	10.6	㎡			
ﾈﾀﾞﾌｫｰﾑ撤去		54.4	㎡			
畳撤去	一畳 集積共	76	枚			
畳撤去	1690×350程度	2	枚			
畳撤去	890×1340程度	3	枚			
畳撤去	890×1920程度	3	枚			
畳撤去	630×1340程度	1	枚			
畳撤去	630×1920程度	1	枚			
畳撤去	680×790程度	6	枚			

9.内装改修工事　撤去　内部

名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
壁ﾍﾞﾆｱ撤去		139	㎡			
壁ﾀｲﾙ撤去	下地ﾓﾙﾀﾙ共 集積共	15.6	㎡			
壁ﾓﾙﾀﾙ･ﾌﾟﾗｽﾀｰ撤去	集積共	43	㎡			
壁ｸﾛｽ撤去	集積共	20.4	㎡			
壁合板･ﾎﾞｰﾄﾞ撤去	一重張り 一般 集積共	88.8	㎡			
木胴縁撤去		23.9	㎡			
天井合板･ﾎﾞｰﾄﾞ撤去	一重張り 一般 集積共	111	㎡			
天井合板･ﾎﾞｰﾄﾞ撤去	一重張り ｱｽﾍﾞｽﾄ含有 集積共	8.8	㎡			
天井下地撤去	集積共	120	㎡			
木製柱撤去	85×85程度	30	m			
木軸組撤去		55.3	㎡			
流し台撤去	L=1800	3	か所			
ﾗﾝﾏｽｸﾘｰﾝ撤去	W1800×H485	3	か所			
ﾗﾝﾏｽｸﾘｰﾝ ｶﾞﾗｽ撤去	W1800×H485	0.9	㎡			
襖撤去		61.6	㎡			

9.内装改修工事　撤去　内部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
木製框撤去	60×100	2.6	m			
木製戸撤去	両開き戸 枠共　集積共	8.1	㎡			
浴槽撤去	W800×H650	3	か所			
計						

9.内装改修工事　改修　内部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
ﾓﾙﾀﾙ補修		5.1	㎡			
ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	t=15	42.6	㎡			
床組		42.6	㎡			
畳	1帖	45	枚			
木製框	60×100	2.3	m			
木製床見切り	W=25	2.7	m			
ＥＰ塗り 改修仕様	ﾓﾙﾀﾙ面　工程B種(一般) 下地調整RB種(新規面)	20.9	㎡			
木製保護塗料	既存ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ面	8.9	㎡			
壁ﾓﾙﾀﾙ塗り	金ごて 内壁　厚20	20.9	㎡			
計						

10.躯体改修工事　鉄筋　躯体

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
異形鉄筋	SD295A D10	1.6	t			
異形鉄筋	SD295A D13	0.2	t			
異形鉄筋	SD295A D16	0.2	t			
鉄筋ｽｸﾗｯﾌﾟ		▲0.05	t			
鉄筋加工組立	耐震改修用 -　-	1.9	t			
鉄筋運搬費	4ｔ車　30km程度	1.9	t			
鉄筋溶接	ﾌﾚｱ溶接 D10	57	か所			
割裂補強ｽﾊﾟｲﾗﾙ筋	外径75　φ6-@50 材工共	9	m			
割裂補強ｽﾊﾟｲﾗﾙ筋	外径150　φ6-@50 材工共	1.9	m			
計						

10.躯体改修工事　コンクリート　躯体

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	Fc=21 S=18 躯体ｺﾝｸﾘｰﾄ	14.6	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	流込み工法　ﾎﾟﾝﾌﾟ打設 50m3/回未満	14.6	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ 圧送	30m3以上 50m3/回未満 基本料金別途加算	14.6	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ圧送 基本料金	30m3以上 50m3/回未満	5	回			
構造体強度補正	⊿3N Fc=21 S=18	14.6	m3			
無収縮ﾓﾙﾀﾙ充填	設計基準強度=30N/mm2以上 材工 試験費共	1.7	m3			
計						

10.躯体改修工事　型枠　躯体

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
型枠	普通合板型枠 耐震改修用　地上軸部 -	8.3	㎡			
型枠	打放合板型枠B種 耐震改修用　地上軸部 -	162	㎡			
型枠運搬費	4ｔ車　30km程度 往復	170	㎡			
打放し面補修	B種 ｺｰﾝ処理 部分目違いばらい	162	㎡			
無収縮ﾓﾙﾀﾙ圧入用 型枠	両面　H200 材工共	44.7	m			
計						

10.躯体改修工事　その他　躯体

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
目あらし	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 床	7.5	㎡			
目あらし	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 壁	6.3	㎡			
目あらし	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 天井	8	㎡			
ﾃﾞｨｽｸｼｱｷｰ	拡張ﾀｲﾌﾟ φ60-M16 下向打ち 材工共	146	本			
ﾃﾞｨｽｸｼｱｷｰ	拡張ﾀｲﾌﾟ φ60-M16 横向打ち 材工共	116	本			
ﾃﾞｨｽｸｼｱｷｰ	拡張ﾀｲﾌﾟ φ60-M16 上向打ち 材工共	146	本			
ﾃﾞｨｽｸｼｱｷｰ確認試験	1本/1日施工1枠毎、且つ確認強度毎 打音検査・固着力試験	2	回			
あと施工ｱﾝｶｰ	接着系(有機系) D19 下向打ち L=380+埋込12da ﾅｯﾄ付 材工共	16	本			
あと施工ｱﾝｶｰ	接着系(有機系) D19 上向打ち L=380+埋込12da ﾅｯﾄ付 材工共	16	本			
あと施工ｱﾝｶｰ	接着系(有機系) D16 上向打ち L=320+埋込7da ﾅｯﾄ付 材工共	5	本			
あと施工ｱﾝｶｰ	接着系(有機系) D13 上向打ち L=260+埋込7da ﾅｯﾄ付 材工共	24	本			
あと施工ｱﾝｶｰ	金属系 D10 下向打ち 材工共	16	本			
あと施工ｱﾝｶｰ 引抜試験		1	式			
耐震ｽﾘｯﾄ ｶｯﾀｰ入れ	厚100 W30 完全 垂直 ｺﾝｸﾘｰﾄはつり 切断面錆止め共	8.4	m			
耐震ｽﾘｯﾄ	垂直 壁厚100 t=30 完全ｽﾘｯﾄ 防水･耐火	8.4	m			

(7) 東棟改修工事　細目別内訳

10.躯体改修工事　その他　躯体

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
鉄筋探査費		1	式			
計						

11.発生材処理	発生材処理			運搬・積込み		
名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
(積込み)						
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	12.2	m3			
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	0.4	m3			
発生材積込み	ﾎﾞｰﾄﾞ・木材類 人力	5.7	m3			
発生材積込み	ﾎﾞｰﾄﾞ・木材類 人力	12.4	m3			
発生材積込み	ﾎﾞｰﾄﾞ・木材類 人力	2	m3			
発生材積込み	ﾎﾞｰﾄﾞ・木材類 人力	0.04	m3			
(運搬)						
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　10t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間有り 60.0km以下	12.2	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　10t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間有り 60.0km以下	0.4	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　10t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3　木材類 DID区間有り 60.0km以下	5.7	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　10t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3　木材類 DID区間有り 60.0km以下	12.4	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　10t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3　石こうﾎﾞｰﾄﾞ類 DID区間有り 60.0km以下	2	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　10t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3　木材類 DID区間有り 60.0km以下	0.04	m3			
計						

11.発生材処理　　発生材処理　　処分

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
とりこわし 発生材処分	ｺﾝｸﾘｰﾄ類	12.2	m3			
とりこわし 発生材処分	ｶﾞﾗｽ･陶磁器類	0.4	m3			
とりこわし 発生材処分	廃ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ類	5.7	m3			
とりこわし 発生材処分	木くず	12.4	m3			
とりこわし 発生材処分	ﾎﾞｰﾄﾞ類	2	m3			
とりこわし 発生材処分	ｱｽﾍﾞｽﾄ類 ﾚﾍﾞﾙ3	0.04	m3			
ｽｸﾗｯﾌﾟ	ｽﾁｰﾙ H2	▲0.9	t			
ｽｸﾗｯﾌﾟ	ｽﾁｰﾙ H3	▲1.2	t			
ｽｸﾗｯﾌﾟ	ｱﾙﾐ	▲0.3	t			
ｽｸﾗｯﾌﾟ	ｽﾃﾝﾚｽ	▲0.2	t			
計						

1.直接仮設工事　　直接仮設

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
枠組本足場 (手すり先行方式) 東倉庫3	建枠 600×1700　布枠500×1枚 掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む　12m未満	44.2	㎡			
安全手すり (手すり先行方式) 東倉庫3	枠組本足場用 掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む	20.1	m			
防音ｼｰﾄ張り 東倉庫3	掛払い手間、供用1日損料、基本料 修理費含む	44.2	㎡			
墨出し (屋上防水改修)		28.1	㎡			
養生 (屋上防水改修)	露出防水･簡易防水(塗膜･ｼｰﾄ)	28.1	㎡			
養生(外壁改修)		34.8	㎡			
整理清掃後片付け (屋上防水改修)	露出防水･簡易防水(塗膜･ｼｰﾄ)	28.1	㎡			
整理清掃後片付け (外壁改修)		103	㎡			
仮設材運搬費		1	式			
計						

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事　躯体　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	Fc=21 S=18 躯体ｺﾝｸﾘｰﾄ	0.02	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	小型構造物　人力打設 擁壁、囲障の基礎程度 S15～S18	0.02	m3			
普通型枠	小型構造物	0.4	㎡			
型枠運搬費	4ｔ車　30km程度 往復	0.4	㎡			
異形鉄筋	SD295A D13	2.2	kg			
鉄筋加工組立	小型構造物 -　-	1	式			
鉄筋運搬費	4ｔ車　30km程度	1	式			
あと施工ｱﾝｶｰ	金属系 D10 下向打ち 材工共	12	本			
計						

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事　塗装　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
防水形 複層塗材 E	既存ﾓﾙﾀﾙ面　凹凸状　吹付け ｱｸﾘﾙ系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費 (ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ) 共　高圧 洗浄共	48.7	㎡			
防水形 複層塗材 E	ﾓﾙﾀﾙ面　凹凸状　吹付け ｱｸﾘﾙ系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費(C-1)共	25.6	㎡			
計						

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事　左官　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
壁ﾓﾙﾀﾙ塗り	はけ引き 外壁　厚25	2.1	㎡			
壁ﾓﾙﾀﾙ補修	既存RC･CB面	25.6	㎡			
計						

2.外壁･根回り･手摺壁改修工事　その他　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
高圧水洗浄	150～200kg/cm2	48.7	㎡			
ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装	A-5-15 再生密粒 再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ 特に狭い場所 人力	2.8	㎡			
計						

(8) 東棟／倉庫3改修工事　細目別内訳

3.建具改修工事　　塗装　　外部

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ＤＰ塗り	鋼製建具面 下塗・下地RB種(塗替え面)共	1.4	㎡			
計						

3.建具改修工事　撤去

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
鋼製建具撤去		1.4	㎡			
計						

4.屋上防水改修工事　屋上防水改修工事　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
高圧水洗浄	150～200kg/cm2	34.4	㎡			
ｱｸﾘﾙｳﾚﾀﾝ系 ﾄｯﾌﾟｺｰﾄ	平場 層間ﾌﾟﾗｲﾏｰ共 既存塩ﾋﾞｼｰﾄ防水面	31.3	㎡			
ｱｸﾘﾙｳﾚﾀﾝ系 ﾄｯﾌﾟｺｰﾄ	立上 層間ﾌﾟﾗｲﾏｰ共 既存塩ﾋﾞｼｰﾄ防水面	3.1	㎡			
塩ﾋﾞｼｰﾄ防水 増張り	平場	1.4	㎡			
塩ﾋﾞｼｰﾄ防水 増張り	立上	0.3	㎡			
ｳﾚﾀﾝ系塗膜防水	X-2 立上 新設RC面	1	㎡			
端部ｱﾙﾐｱﾝｸﾞﾙ押え		3.2	m			
ﾓﾙﾀﾙ塗	立上 防水下	0.3	m			
計						

4.屋上防水改修工事　撤去

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
ｶｯﾀｰ入れ	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 厚さ20～30㎜	13.8	m			
ｱｽﾌｧﾙﾄｶｯﾀｰ		5.4	m			
ｺﾝｸﾘｰﾄ撤去	鉄筋切断共 ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾚｰｶ 集積共	1	m3			
ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装撤去		2.8	㎡			
CB撤去	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾚｰｶ 集積共	0.4	m3			
棚撤去	450×1700程度 2段	1	か所			
計						

5.発生材処理　　発生材処理　　運搬・積込み

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
(積込み)						
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	1.2	m3			
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	0.1	m3			
発生材積込み	ﾎﾞｰﾄﾞ・木材類 人力	0.01	m3			
(運搬)						
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　10t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間有り 60.0km以下	1.2	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　10t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間有り 60.0km以下	0.1	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　10t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3　木材類 DID区間有り 60.0km以下	0.01	m3			
計						

5.発生材処理　　発生材処理　　処分

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
とりこわし 発生材処分	ｺﾝｸﾘｰﾄ類	1.2	m3			
とりこわし 発生材処分	ｱｽﾌｧﾙﾄ類	0.1	m3			
とりこわし 発生材処分	木くず	0.01	m3			
ｽｸﾗｯﾌﾟ	ｽﾁｰﾙ H2	▲0.1	t			
ｽｸﾗｯﾌﾟ	ｽﾁｰﾙ H3	▲0.05	t			
計						

1.ｺﾞﾐ置場改修　撤去

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
石綿ｽﾄｰﾚ屋根撤去		7.5	㎡			
ひし形金網撤去	ｱﾝｸﾞﾙ共	9.3	㎡			
ｺﾝｸﾘｰﾄ撤去	鉄筋切断共 ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾚｰｶ 集積共	0.7	m3			
CB撤去	ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾚｰｶ 集積共	0.7	m3			
ｱｽﾌｧﾙﾄｶｯﾀｰ		14.5	m			
ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装撤去		11.1	㎡			
計						

(9) 外構改修工事　細目別内訳

1.ｺﾞﾐ置場改修　　改修

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
根切り	小規模土工 -	1.6	m3			
埋戻し(B種)	小規模土工 発生土	0.5	m3			
敷きならし	締め固め共	1.1	m3			
土工機械運搬	根切り、埋戻し(小規模土工) -	2	往復			
砂利地業	再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	0.4	m3			
普通ｺﾝｸﾘｰﾄ	Fc=18 S=15 土間ｺﾝｸﾘｰﾄ	0.7	m3			
ｺﾝｸﾘｰﾄ打設手間	小型構造物　　人力打設 工作物の基礎等　　S15～S18 -　　-	0.7	m3			
型枠	小型構造物用型枠 擁壁、囲障の基礎等 - -	2.1	㎡			
型枠運搬費	4ｔ車　30km程度 往復	2.1	㎡			
異形鉄筋	SD295A D10	0.03	t			
鉄筋加工組立	小型構造物 -　　-	0.03	t			
鉄筋運搬費	4ｔ車　30km程度	0.03	t			
床ｺﾝｸﾘｰﾄ直均し 仕上げ	金ごて 薄張物下地	11.1	㎡			
ｺﾞﾐｽﾃｰｼｮﾝ	1810×1150×H1960 明記製作所:ｺﾞﾐｽﾃｰｼｮﾝ同等	2	か所			
PCﾌｪﾝｽ	H=1200	2.2	m			

(9) 外構改修工事　細目別内訳

1.ｺﾞﾐ置場改修　　改修

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
計						

2.自転車置場改修　撤去

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
ｽﾄｰﾚ波板屋根撤去		39.6	㎡			
計						

2.自転車置場改修　改修

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板	ﾀｲﾄﾌﾚｰﾑ共	39.6	㎡			
ＤＰ塗り	鋼製建具面 下塗・下地RB種(塗替え面)共	1.4	㎡			
ＤＰ塗り	鉄鋼面 下塗・下地RB種(塗替え面)共	58.3	㎡			
計						

3.発生材処理　　発生材処理　　運搬・積込み

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
(積込み)						
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	0.7	m3			
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	0.6	m3			
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	0.3	m3			
(運搬)						
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　10t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間有り　60.0km以下	0.7	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　10t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間有り　60.0km以下	0.6	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　10t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間有り　60.0km以下	0.3	m3			
計						

3.発生材処理　発生材処理　処分

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
とりこわし 発生材処分	ｺﾝｸﾘｰﾄ類	0.7	m3			
とりこわし 発生材処分	ｱｽﾌｧﾙﾄ類	0.6	m3			
とりこわし 発生材処分	ｶﾞﾗｽ･陶磁器類	0.3	m3			
ｽｸﾗｯﾌﾟ	ｽﾁｰﾙ H2	▲0.2	t			
ｽｸﾗｯﾌﾟ	ｽﾁｰﾙ H3	▲0.01	t			
計						

(10) 東棟／集会室排煙建具改修工　細目別内訳

1.直接仮設工事　　直接仮設

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
墨出し(外壁改修)	ﾀｲﾙ･ﾓﾙﾀﾙ塗替等 一般	1.2	㎡			
墨出し(内部改修)	複合改修	4	㎡			
養生(外壁改修)		8	㎡			
養生(内部改修)	複合改修	4	㎡			
整理清掃後片付け (外壁改修)		8	㎡			
整理清掃後片付け (内部改修)	複合改修	4	㎡			
外部仕上足場 (改修)	階高4.0m以下 脚立足場　一般 -	8	㎡			
内部仕上足場 (改修)	階高4.0m以下 脚立足場　一般 -	4	㎡			
仮設材運搬 (外部仕上足場 脚立足場)	平家建	8	㎡			
仮設材運搬 (内部仕上足場 脚立足場)	平家建	4	㎡			
計						

2.建具改修工事　防水　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
ｼｰﾘﾝｸﾞ	一般部 変成ｼﾘｺｰﾝ系(MS-2) 15×10	29.6	m			
計						

(10) 東棟／集会室排煙建具改修工　細目別内訳

2.建具改修工事　　金属　　外部

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ｱﾙﾐ製窓手摺	2000*800H 既存鋼製手摺撤去共	2	か所			
計						

2.建具改修工事　左官　外部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
壁ﾓﾙﾀﾙ塗り	金ごて 外壁　厚25	1.2	m²			
建具周囲防水 ﾓﾙﾀﾙ充填	外部建具	11.2	m			
複層塗材 E	ﾓﾙﾀﾙ面　凹凸状　吹付け ｱｸﾘﾙ系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費(C-1)共	1.2	m2			
計						

2.建具改修工事　左官　内部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
壁ﾓﾙﾀﾙ塗り	金ごて 内壁　厚20	1.2	㎡			
計						

(10) 東棟／集会室排煙建具改修工　細目別内訳

2.建具改修工事　建具　アルミニウム製建具

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
AW-2	引違い窓(ﾗﾝﾏ外倒し窓付) 1800*1000 ｱﾙﾐ製水切W=125､ｱﾙﾐ製額縁60*25	2	か所			
取付調整費		1	式			
運搬費		1	式			
計						

2.建具改修工事　　ｶﾞﾗｽ

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
型板ｶﾞﾗｽ	厚さ4　特寸 2.18㎡以下 ｼｰﾘﾝｸﾞ　清掃共	3.6	㎡			
計						

2.建具改修工事　塗装　内部

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
ＥＰ塗り 改修仕様	ﾓﾙﾀﾙ面　工程B種(一般) 下地調整RB種(新規面)	1.2	㎡			
計						

2.建具改修工事　撤去

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
ｶｯﾀｰ入れ	ﾓﾙﾀﾙ面　厚さ20～30㎜	25.6	m			
壁ﾓﾙﾀﾙ･ﾌﾟﾗｽﾀｰ撤去	集積共	2.4	㎡			
ｱﾙﾐ製建具撤去	引違い窓 枠共 集積共	3.6	㎡			
建具周囲はつり	RC 15cm 集積共	11.2	m			
ｶﾞﾗｽ撤去	集積共	3.6	㎡			
計						

3.発生材処理　　発生材処理　　運搬・積込み

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
(積込み)						
発生材積込み	ｺﾝｸﾘｰﾄ類　人力	0.1	m3			
(運搬)						
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　10t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間有り　60.0km以下	0.1	m3			
とりこわし 発生材運搬	ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ　10t積級 ﾊﾞｯｸﾎｳ0.8m3　無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ類 DID区間有り　60.0km以下	0.01	m3			
ｽｸﾗｯﾌﾟ運搬	ｱﾙﾐ製建具	47.7	kg			
計						

3.発生材処理　　発生材処理　　処分

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
とりこわし 発生材処分	ﾓﾙﾀﾙ	0.1	m3			
とりこわし 発生材処分	ｶﾞﾗｽ･陶磁器類	0.01	m3			
ｽｸﾗｯﾌﾟ控除	ｱﾙﾐ製建具	▲47.7	kg			
計						

1.耐震改修工事(東棟)　空気調和設備　機器設備

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
RA-1 ﾙｰﾑｴｱｺﾝ 取外し・再取付	壁掛 C:5.0kw　H:6.7kw	1	組			
RA-2 ﾙｰﾑｴｱｺﾝ 取外し・再取付	壁掛 C:4.0kw　H:5.0kw	1	組			
冷媒ﾎﾟﾝﾌﾟﾀﾞｳﾝ・ 再充填	RA-1 R-22　1.3kg	1	式			
冷媒ﾎﾟﾝﾌﾟﾀﾞｳﾝ・ 再充填	RA-2 R-32　0.9kg	1	式			
計						

1.耐震改修工事(東棟)　空気調和設備　配管設備

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
冷媒用 断熱材被覆銅管	6.35外径(1/4B) 液管 厚8mm	7	m			
冷媒用 断熱材被覆銅管	12.7 外径(1/2B) ｶﾞｽ管 厚20mm以上	7	m			
排水・硬質ﾎﾟﾘ 塩化ﾋﾞﾆﾙ管 (VP)	屋内一般　20A	6	m			
EM-CEEｹｰﾌﾞﾙ	2mm2- 3C 管内	7	m			
保温化粧ｹｰｽ (樹脂製)	100 × 70	7	m			
計						

1.耐震改修工事(東棟)　空気調和設備　撤去工事

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
断熱材被覆銅管 (冷媒用)撤去	6.35外径(1/4B) 液管 厚8mm	7	m			
断熱材被覆銅管 (冷媒用)撤去	12.7 外径(1/2B) ｶﾞｽ管 厚20mm以上	7	m			
排水・硬質ﾎﾟﾘ 塩化ﾋﾞﾆﾙ管 (VP)撤去	屋内一般　20A	6	m			
保温化粧ｹｰｽ (樹脂製)撤去	100 × 70	7	m			
計						

1.耐震改修工事(東棟)　換気設備　撤去工事

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
換気扇撤去	200φ	3	組			
ｽﾊﾟｲﾗﾙﾀﾞｸﾄ(低圧、高圧1､2ﾀﾞｸﾄ)撤去	150mm　再使用しない	7	m			
計						

1.耐震改修工事(東棟)　給水設備　給水設備

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
給水・塩ﾋﾞﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管(SGP-VB)改修	ねじ接合　屋内一般 20A	2	m			
給水栓	T130AUN13：TOTO	1	組			
既設管接続		1	式			
保温		1	式			
計						

1.耐震改修工事(東棟)　給水設備　撤去工事

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
給水・塩ﾋﾞ ﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管 (SGP-VB)撤去	ねじ接合　屋内一般 20A	51	m			
給水・塩ﾋﾞ ﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管 (SGP-VB)撤去	ねじ接合　屋内一般 25A	22	m			
給水・塩ﾋﾞ ﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管 (SGP-VB)撤去	ねじ接合　便所 40A	5	m			
給水栓撤去		10	組			
量水器撤去	25A	3	組			
ﾓﾙﾀﾙ	普 通	0.21	m^2			
流し台 取外し・再取付		1	組			
保温		1	式			
計						

1.耐震改修工事(東棟)　排水設備　排水設備

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
配管支持金物	0.5W×1.0H (L-65×65×6t)	3	個			
計						

1.耐震改修工事(東棟)　排水設備　撤去工事

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
排水・塩ﾋﾞ ﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管 撤去	屋内一般 40A	3	m			
排水・塩ﾋﾞ ﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管 撤去	屋内一般 50A	22	m			
排水・塩ﾋﾞ ﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管 撤去	屋内一般 75A	1	m			
ﾓﾙﾀﾙ	普 通	0.18	m^2			
洗濯機ﾊﾟﾝ撤去	ﾄﾗｯﾌﾟ付 再使用しない	3	組			
大便器撤去	ﾀﾝｸ式　再使用しない	3	組			
既設管切断		1	式			
計						

1.耐震改修工事(東棟)　給湯設備　撤去工事

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
ﾊﾞﾗﾝｽ釜		3	組			
ｽﾊﾟｲﾗﾙﾀﾞｸﾄ(低圧、高圧1､2ﾀﾞｸﾄ)撤去	100㎜　再使用しない	6	m			
計						

(11) 機械設備工事　細目別内訳

1.耐震改修工事(東棟)　　ガス設備　　都市ガス設備

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
都市ガス工事		1	式			
計						

(11) 機械設備工事　細目別内訳

1.耐震改修工事(東棟)　　発生材処理

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
発生材処理		1	式			
発生材運搬費		1	式			
計						

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
仮囲い	成形鋼板 H=3000	110	m			
ｶﾞｰﾄﾞﾌｪﾝｽ	H=1800	110	m			
ｷｬｽﾀｰｹﾞｰﾄ	W=6000×H=1800	1	か所			
単管ﾊﾞﾘｹｰﾄﾞ	H=1800	11.4	m			
ｺﾝﾊﾟﾈ敷き	厚12	222	m2			
仮設鉄板敷養生	22mm	222	m²			
交通誘導員	B	550	人			
ﾃﾞｼﾞﾀﾙ粉塵計	10ヵ月	2	台			
騒音振動計	ﾚﾍﾞﾙﾚｺｰﾀﾞ　10ヵ月	2	台			
[仮設駐車場]						
ｶﾞｰﾄﾞﾌｪﾝｽ	H=1800	37	m			
砕石敷き	設置･撤去･整地共 t=5cm 仮駐車場用	820	m²			
駐車区画線用 ﾛｰﾌﾟ張り	地盤面固定 設置･撤去処分共 仮駐車場用	210	m			
ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ	ﾀｲﾔ止用 t=10cm 設置･撤去処分共 仮駐車場用	50	個			

共通仮設費(積上)　明細

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
駐車番号	ﾍﾟｲﾝﾄ 15*15cm 仮駐車場用	25	か所			
計						